

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第316集

上尾市

諏訪坂貝塚

栄北高等学校上尾総合グラウンド建設事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

2005

学校法人 佐藤栄学園

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県の中央部に位置する上尾市は、江戸時代に中山道の宿駅が置かれた地として知られております。市の東部に位置する原市は、かつて大宮宿や平方宿への脇往還があり、文字通り市が開かれ、繁栄してまいりました。昭和40年代には、高度経済成長に伴う人口の急増により、市内には大規模な住宅団地が建設され、また、上尾運動公園や水上公園、武道館などの公共施設も整備されるなど、首都圏のベッドタウンとして発展しております。

このたび学校法人佐藤栄学園が、上尾市原市に野球場やテニスコートなどを備えた総合グラウンドを建設することとなりました。事業地内には旧石器時代をはじめとする先人の生活跡が多く残されており、これらの埋蔵文化財の取り扱いについては、埼玉県教育委員会と各関係諸機関が慎重に協議を進めてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなりました。発掘調査は、学校法人佐藤栄学園の委託を受けて、第1次調査を上尾市教育委員会が、第2次調査を当事業団が実施いたしました。

今回の発掘調査では、旧石器時代の石器集中地点をはじめとして、縄文時代や平安時代の竪穴住居跡、江戸時代の区画溝などを発見し、この地の歴史に新たな資料を加えることができました。

本書はこれらの成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、普及・啓発の資料として広く御活用いただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育委員会をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました学校法人佐藤栄学園、上尾市教育委員会、並びに地元関係者各位に対し深く感謝申し上げます。

平成17年9月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 福田 陽 充

例言

1. 本書は、埼玉県上尾市原市に所在する諏訪坂貝塚の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番、および発掘調査届けに対する指示通知は、以下のとおりである。
諏訪坂貝塚（SWSK）
埼玉県上尾市大字原市字十三番耕地2572他
第1次調査
平成15年10月31日付け 教文第3-654号
第2次調査
平成16年4月7日付け 教文第2-1号
3. 発掘調査は、栄北高等学校上尾総合グラウンド建設事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育庁生涯学習部生涯学習文化財課が調整し、学校法人佐藤栄学園の委託を受け、第1次調査を上尾市教育委員会が、第2次調査を財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 本事業は、第1章の組織により実施した。
5. 発掘調査は、第1次調査を赤石光資と小宮山克己が担当し、平成16年1月26日から2月25日まで、第2次調査を中村倉司、細田 勝、菊地 真、村端和樹が担当し、平成16年4月8日から10月29日まで実施した。
6. 整理・報告書作成作業は、第1次調査、第2次調査分を併せ、平成17年4月8日から12月28日まで実施した。
7. 遺跡の基準点測量は、株式会社大成ロテックに委託した。
8. 発掘調査における写真撮影は、赤石、小宮山、中村、細田、菊地、村端が、遺物の写真撮影は大屋道則が行った。
9. 出土品の管理および図版の作成は、細田 勝が主に行い、石器の実測・トレースは、村端和樹、亀田直美が行った。
10. 本書の執筆は細田が行い、I-1を埼玉県教育庁生涯学習部生涯学習文化財課が、IV-1、V-1を村端が行った。
11. 本書の編集は細田が行い、亀田直美・成田友紀子の協力があつた。
12. 本書にかかる資料は、平成17年度以降、第1次調査資料を上尾市教育委員会が、第2次調査資料を埼玉県埋蔵文化財センターが管理・保管する。
13. 本書の作成に当たり、以下の機関・諸氏からご教示・ご協力を賜った。記して謝意を表します。
学校法人 佐藤栄学園 赤石光資 山崎広幸 小宮山克己 田中和之 奥野麦生 株式会社大成ロテック

凡 例

1. 本書挿図中におけるX・Yの座標数値は、世界測地系（GRS80）に基づいた平面直角座標第Ⅱ系（原点北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒）に基づく各座標値（m）を示す。

また、各挿図における方位は、すべて座標北を表す。

2. 遺跡におけるグリッドの設定は、国家標準直角座標に基づいて設定しており、10m×10mの方眼である。

3. グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向西からA～、南北方向北から1～と番号を付けた。

4. 挿図の縮尺は、各図版中に指示した。

遺構図	1/60	1/30
遺物	縄文土器実測図	1/4
	土師器 須恵器実測図	1/4
	縄文土器拓本	1/3
	石器	1/2 1/3 2/3 4/5
	近世遺物	1/3

5. 遺構の表記記号は、以下のとおりである。

SJ	住居跡
SK	土城
SC	集石土城
SD	溝跡・堀跡
SB	掘立柱建物跡
SE	井戸

6. 測量区内の網掛け部表示は以下のとおりである。

地山 

焼土 

7. 遺構断面図に表記した水準の数値は、海拔高度であり、単位はmである。

8. 本書に使用した地形図等は以下のとおりである。

第2図 建設省国土地理院発行 1/25,000

第3図 上尾市都市計画図 1/2,500

9. 表4の覆土の項の記号は以下のとおりである。

A	近世	B	古墳
C	縄文	D	不明

10. 第1～3表および、第6・7図に使用した略号は以下のとおりである。

器種：C O	石核	M B	細石刃
S C	スクレイパー	P I	楔形石器
R F (Rフレ)	二次加工を有する剥片		
U F (Uフレ)	微細な剥離痕を有する剥片		
F	剥片	C	砕片
H A	叩石		
石材：O b	黒曜石	C h	チャート
G A n	ガラス質黒色安山岩		
B S h	黒色頁岩	T u	凝灰岩
A g	瑪瑙	Q u	玉髓
S a	砂岩	M u	泥岩
A n	安山岩	C A n	粗粒安山岩
S c h	片岩	G S c h	緑色片岩
D i o	閃緑岩	G r	緑色岩

欠損：* 欠損有

目 次

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	3. 遺物集中区と出土遺物	101
1. 発掘調査にいたる経過	1	(1) 土器集中区と出土遺物	101
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	(2) 石器集中区と出土遺物	102
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	4. 炉穴	105
II 遺跡の立地と環境	4	5. 土壌と出土遺物	107
III 遺跡の概要	7	(1) 縄文時代の土壌	107
IV 第1次調査	11	(2) 古代の土壌	114
1. 旧石器時代の遺物	11	(3) 近世の土壌	122
2. 遺構と遺物	24	6. 掘立柱建物跡	138
(1) 土壌	24	7. 井戸跡	141
(2) ビット	27	8. 溝跡と出土遺物	145
(3) 溝跡・堀跡	27	9. 遺構外出土遺物	148
(4) 遺構外出土遺物	27	(1) 縄文時代	148
土器	27	(2) 近世	154
石器	27	VI 調査のまとめ	172
V 第2次調査	31	1. 旧石器時代	172
1. 旧石器時代の遺物	31	2. 縄文時代	174
2. 住居跡と出土遺物	32		

挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形図・周辺の遺跡……………	5	第36図	第5号住居跡出土遺物(1)……………	48
第2図	基本土層……………	7	第37図	第5号住居跡出土遺物(2)……………	49
第3図	調査範囲と周辺の地形図……………	8	第38図	第6号住居跡……………	50
第4図	遺構全体図……………	9	第39図	第6号住居跡出土遺物……………	51
第5図	第1次調査区土層断面……………	10	第40図	第7号住居跡……………	53
第6図	器種別分布図……………	12	第41図	第7号住居跡遺物出土状況……………	54
第7図	母岩別分布図……………	13	第42図	第7号住居跡出土遺物(1)……………	55
第8図	第1次調査旧石器出土遺物(1)……………	15	第43図	第7号住居跡出土遺物(2)……………	56
第9図	第1次調査旧石器出土遺物(2)……………	16	第44図	第7号住居跡出土遺物(3)……………	57
第10図	第1次調査旧石器出土遺物(3)……………	17	第45図	第7号住居跡出土遺物(4)……………	58
第11図	第1次調査旧石器出土遺物(4)……………	18	第46図	第8号住居跡……………	60
第12図	第1次調査旧石器出土遺物(5)……………	19	第47図	第8号住居跡遺物出土状況……………	61
第13図	第1次調査区遺構全体図……………	23	第48図	第8号住居跡出土遺物(1)……………	62
第14図	土層(1)……………	25	第49図	第8号住居跡出土遺物(2)……………	63
第15図	土層(2)……………	26	第50図	第8号住居跡出土遺物(3)……………	64
第16図	ピット……………	26	第51図	第9号住居跡(1)……………	66
第17図	堀跡・溝跡……………	26	第52図	第9号住居跡(2)……………	67
第18図	グリッド出土石器……………	28	第53図	第10号住居跡……………	69
第19図	グリッド出土石器……………	29	第54図	第10号住居跡出土遺物……………	70
第20図	第2次調査旧石器出土遺物……………	31	第55図	第11号住居跡……………	71
第21図	第1号住居跡(1)……………	33	第56図	第12号住居跡……………	72
第22図	第1号住居跡(2)……………	34	第57図	第11・12号住居跡出土遺物……………	73
第23図	第1号住居跡遺物出土状況……………	35	第58図	第13号住居跡……………	74
第24図	第1号住居跡出土遺物(1)……………	36	第59図	第14号住居跡……………	75
第25図	第1号住居跡出土遺物(2)……………	37	第60図	第15号住居跡……………	76
第26図	第1号住居跡出土遺物(3)……………	38	第61図	第13・14・15号住居跡出土遺物……………	76
第27図	第2号住居跡……………	39	第62図	第16号住居跡……………	78
第28図	第2号住居跡出土遺物……………	40	第63図	第16号住居跡出土遺物……………	79
第29図	第3号住居跡……………	41	第64図	第17号住居跡……………	80
第30図	第3号住居跡出土遺物……………	42	第65図	第17号住居跡遺物出土状況……………	81
第31図	第4号住居跡・遺物出土状況……………	43	第66図	第17号住居跡出土遺物(1)……………	82
第32図	第4号住居跡出土遺物……………	44	第67図	第17号住居跡出土遺物(2)……………	83
第33図	第5号住居跡(1)……………	45	第68図	第18号住居跡……………	84
第34図	第5号住居跡(2)……………	46	第69図	第18号住居跡出土遺物(1)……………	85
第35図	第5号住居跡遺物出土状況……………	47	第70図	第18号住居跡出土遺物(2)……………	86

第71図	第19号住居跡・遺物出土状況	87	第103図	第2次調査区全体図(1)	124
第72図	第19号住居跡出土遺物	88	第104図	第2次調査区全体図(2)	125
第73図	第20号住居跡	88	第105図	第2次調査区全体図(3)	126
第74図	第20号住居跡遺物出土状況	89	第106図	第2次調査区全体図(4)	127
第75図	第20号住居跡出土遺物	90	第107図	第2次調査区全体図(5)	128
第76図	第22号住居跡	91	第108図	第2次調査区全体図(6)	129
第77図	第22号住居跡出土遺物	92	第109図	第2次調査区全体図(7)	130
第78図	第24号住居跡	93	第110図	第2次調査区全体図(8)	131
第79図	第24号住居跡遺物出土状況	94	第111図	第2次調査区全体図(9)	132
第80図	第24号住居跡出土遺物	95	第112図	第2次調査区全体図(10)	133
第81図	第25号住居跡	96	第113図	第2次調査区全体図(11)	134
第82図	第25号住居跡遺物出土状況	97	第114図	第2次調査区全体図(12)	135
第83図	第25号住居跡出土遺物	98	第115図	第2次調査区全体図(13)	136
第84図	土器集中区出土状況	99	第116図	第2次調査区全体図(14)	137
第85図	土器集中区出土遺物	100	第117図	第1号掘立柱建物跡	138
第86図	石器集中区出土状況	103	第118図	第2号掘立柱建物跡	139
第87図	石器集中区出土遺物	104	第119図	第3号掘立柱建物跡	140
第88図	炉穴	106	第120図	井戸跡(1)	142
第89図	縄文土壇(1)	109	第121図	井戸跡(2)	143
第90図	縄文土壇(2)	110	第122図	井戸跡(3)	144
第91図	縄文土壇(3)	111	第123図	溝跡	147
第92図	縄文土壇出土遺物(1)	112	第124図	溝跡・井戸跡出土遺物(古代・近世)	148
第93図	縄文土壇出土遺物(2)	113	第125図	グリッド出土土器(1)	149
第94図	古代土壇(1)	115	第126図	グリッド出土土器(2)	150
第95図	古代土壇(2)	116	第127図	グリッド出土土器(3)	151
第96図	古代土壇(3)	117	第128図	グリッド出土石器(1)	155
第97図	古代土壇出土遺物	118	第129図	グリッド出土石器(2)	156
第98図	近世土壇(1)	119	第130図	グリッド出土石器(3)	157
第99図	近世土壇(2)	120	第131図	グリッド出土遺物(古代・近世)	158
第100図	近世土壇(3)	121	第132図	縄文前期土器と周辺の資料	175
第101図	近世土壇(4)	122	第133図	縄文中期未集の土器群	177
第102図	近世土壇出土遺物	123	第134図	柄鏡型住居跡と空間利用	179

表 目 次

第1表	第1次調査区日石器組成表	第3表	第2次調査出土石器属性表
第2表	第1次調査出土石器属性表	第4表	第2次調査土壌一覧表

写 真 図 版 目 次

図版1	第1次調査区全景（北向き） 第1次調査区全景（南向き）	図版14	第10号住居跡全景 第10号住居跡 ガイ体完掘状況
図版2	第1次調査区遺構抽出状況 第1次調査区深堀	図版15	第14A号住居跡 第14B号住居跡
図版3	第1次調査区遺物出土状況 第1次調査区第1号堀跡	図版16	第15号住居跡 第16号住居跡
図版4	第1次調査区第1号土壌 ピット2 第1次調査区第3号土壌 第1次調査区第4号土壌 第1次調査区第10号土壌 第1次調査区第9・11号土壌 第1次調査区第12号土壌	図版17	第17号住居跡 第17号住居跡出土状況
図版5	諏訪坂貝塚全景（北を望む） 諏訪坂貝塚全景	図版18	第18号住居跡埋喪出土状況 第18号住居跡全景
図版6	第1号住居跡出土状況 第1号住居跡出土状況	図版19	第19号住居跡 第20号住居跡
図版7	第1号住居跡全景 第2号住居跡全景	図版20	第22号住居跡 第24号住居跡出土状況
図版8	第3号住居跡全景 第4B号住居跡全景	図版21	第25号住居跡出土状況 第25号住居跡
図版9	第4A号住居跡カマド 第4B号住居跡カマド	図版22	石器集中区 石器集中区
図版10	第5A号住居跡全景 第6号住居跡全景	図版23	第1号掘立柱建物跡 第2・3号掘立柱建物跡
図版11	第7号住居跡出土状況 第7号住居跡全景	図版24	第2号溝跡 第1号溝跡（北西から）
図版12	第8号住居跡出土状況 第8号住居跡全景	図版25	遺跡全景（北東から） 第8・9号溝跡
図版13	第8号住居跡埋喪 第9号住居跡全景	図版26	第539号土壌（S J 8内）出土状況 第539号土壌（S J 8内）全景 第1503号土壌 第639号土壌全景 第2号ガサ穴 第3号ガサ穴（南）

図版27	第5号炉穴	第25号住居跡 (第83図3)
	西から第10・11・13号炉穴	第25号住居跡 (第83図5)
	第12号炉穴	第25号住居跡 (第83図4)
	第3号溝跡	第4号住居跡 (第32図7)
	第14号炉穴	第4号住居跡 (第32図8)
	第1485号土壌出土状況	図版34
図版28	第2次調査石器出土状況	第3号住居跡 (第30図1)
	第907号土壌	第4号住居跡 (第32図1)
	第1547号土壌 (F4グリッド)	第4号住居跡 (第32図4)
	第890号土壌	第4号住居跡 (第32図5)
	第940号土壌	第4号住居跡 (第32図2)
	第132号土壌	第14号住居跡 (第61図2)
図版29	第749号土壌	第202号土壌 (第97図4)
	第12号井戸跡 (SK903)	第1547号土壌 (第97図5)
	第1号井戸跡 (完掘)	第623号土壌 (第97図1)
	第13号井戸跡	第906号土壌 (第102図5)
	第10号井戸跡 (SK1414)	図版35
	第5号溝跡・第112号土壌	第1次調査グリッド出土石器
図版30	第1号住居跡 (第26図40)	第1次調査グリッド出土石器
	第5号住居跡 (第36図1)	図版36
	第5号住居跡 (第36図3)	第1号住居跡出土遺物
	第5号住居跡 (第36図2)	図版37
	第5号住居跡 (第36図4)	第1号住居跡出土遺物
	第6号住居跡 (第39図1)	図版38
図版31	第7号住居跡 (第42図1)	第5号住居跡出土遺物
	第7号住居跡 (第42図2)	図版39
	第7号住居跡 (第42図3)	第5号住居跡出土遺物
	第8号住居跡 (第48図1)	図版40
	第8号住居跡 (第48図2)	第7号住居跡出土遺物
	第10号住居跡 (第54図1)	図版41
図版32	第10号住居跡 (第54図2)	第7号住居跡出土遺物
	第10号住居跡 (第54図3)	図版42
	第17号住居跡 (第66図1)	第8号住居跡出土遺物
	第17号住居跡 (第66図3)	図版43
	第17号住居跡 (第66図2)	第8号住居跡出土遺物
	第18号住居跡 (第69図1)	図版44
図版33	第24号住居跡 (第80図1)	第10号住居跡出土遺物
		第11・12号住居跡出土遺物
		図版45
		第16号住居跡出土遺物
		第17号住居跡出土遺物
		第18号住居跡出土遺物
		第19号住居跡出土遺物

図版46	第20号住居跡出土遺物		第2次調査旧石器時代出土石器
	第24号住居跡出土遺物	図版54	第1次調査旧石器時代出土石器 (1)
図版47	第25号住居跡出土遺物		第1次調査旧石器時代出土石器 (2)
	第25号住居跡出土遺物	図版55	第1次調査旧石器時代出土石器 (3)
図版48	土器集中区出土遺物		第1次調査旧石器時代出土石器 (4)
	土器集中区出土遺物	図版56	第1次調査出土石器
図版49	第41・204号土壌 (縄文)		第2次調査出土石器 (1)
	第539号土壌 (縄文)	図版57	第2次調査出土石器 (2)
図版50	第907号土壌 (縄文)		第2次調査出土石器 (3)
	グリッド出土遺物	図版58	第2次調査出土石器 (4)
図版51	グリッド出土遺物		第2次調査出土石器 (5)
	グリッド出土遺物	図版59	第2次調査出土石器 (6)
図版52	グリッド出土遺物		第2次調査出土石器 (7)
	グリッド出土遺物	図版60	第2次調査出土石器 (8)
図版53	グリッド出土遺物		第2次調査出土遺物 (古代～近世)

付 図 目 次

諏訪坂貝塚全体図 (1/400)

I 発掘調査の概要

1. 調査に至る経過

埼玉県教育庁生涯学習部生涯学習文化財課は、開発事業に伴う埋蔵文化財の保護を行うため、市町村教育委員会における専門職員の配置など、埋蔵文化財保護行政の体制整備を推進してきた。ただし、大規模開発事業や突発的の事業に伴う埋蔵文化財の保護について、当該教育委員会のみでは対応が困難であると認められる場合は、県教委が協力、支援等を行っている。

平成13年10月4日、上尾市において同市大字原市を予定地とした栄北高等学校グラウンド建設に係る調整会議が開催され、当該予定地の大部分が周知の埋蔵文化財包蔵地であることが市教委から学校法人佐藤栄学園に説明された。

平成14年11月20日、佐藤栄学園から市教委に埋蔵文化財の範囲確認調査依頼が提出され、平成15年9月に市教委が調査を実施した。その結果、縄文、平安時代等の遺構、遺物が検出された。範囲確認調査の結果をうけて、開発事業計画と埋蔵文化財の取扱いについて精査され、盛土保存等の措置が講じられない箇所について、記録保存のための発掘調査が必要と判断された。

平成15年12月16日付け佐学本第03140号で佐藤栄学園理事長から上尾市教育委員会教育長あてに埋蔵文化財発掘調査の依頼が提出されたが、調査面積が大規模であり、工事着工予定日も迫っていたため、上尾市教委は平成16年1月22日付上教生第1109号で県教委へ発掘調査の依頼を行い、調査主体について

協議を行った結果、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団を実施機関とすることとなった。

事業団、佐藤栄学園、市教委、県教委の四者により調査方法、期間、経費などについて協議が行われ、平成16年2月27日付けで、「栄北高等学校上尾総合グラウンド建設に係る埋蔵文化財の取扱いに関する協定」が締結され、平成16年4月8日から平成16年10月29日までの期間、発掘調査が実施された。

なお、本報告に所収されている本事業予定地の搬出入路部分に関しては、上尾市教育委員会が平成16年1月26日から2月27日までの期間、発掘調査を実施した。本箇所についての文化財保護法第99条の2に係る発掘調査通知は上尾市教育委員会教育長から平成16年1月16日付け上教生第1100号で提出された。

文化財保護法第93条の2の規定による埋蔵文化財発掘の届出は学校法人佐藤栄学園理事長から平成15年7月8日付けで提出され、それに対する保護上必要な指示は平成15年10月31日付け教文第3-654号で行った。また、第92条1項の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査の届出に対する指示通知番号は次のとおりである。

平成16年4月7日付 教文第2-1号

(生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の過程

(1) 発掘調査

諏訪坂貝塚の発掘調査は、上尾市教育委員会が実施した進入路部分の第1次調査と、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施したグラウンド本体部分の第2次調査に分けられる。第1次調査は平成16年1月26日から2月25日にかけて実施された。面積は550㎡である。

調査区は北に開く小支谷の基部に当たり、調査区北側で緩やかに傾斜している。調査区外に排土が掘出できなかったために、調査区を2分し、南半部から調査に着手した。重機と人力による表土掘削の後に、人力による遺構検出作業を行ったところ、旧石器時代と思われる石核や剥片が検出されたために、慎重に作業を進めた。

遺跡の基準点測量を行った後に、補助員による遺構掘削作業に着手し、進行に合わせて写真撮影、実測作業を行った。検出作業で存在が予測された旧石器時代の集中区については、2×2mのグリッドを設定しローム層を掘りさげた結果、調査区南西端部で旧石器時代の石器集中部を検出した。

写真撮影、土層図の作成と遺物の取り上げを行った後に、重機により排土を移動し、北側の調査に着手した。重機による表土掘削後に遺構検出作業を行った。調査区北端で調査区を東西に走る大溝が検出されたが、遺構・遺物ともに南半に比較して少なかった。遺構覆土を掘り下げるとともに写真撮影・測量作業を行い、発掘調査を終了した。

第2次調査は平成16年4月8日から平成16年10月29日にかけて、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。今回の調査はグラウンド本体部分に当たり、調査面積は12,650㎡である。地形は調査区の西から東に向かって傾斜した台地の先端部で、過去に削平された形跡や、堀や土塁の存在が予測され

ていた。重機による表土掘削、人力による遺構検出作業の結果、縄文時代の遺構とともに、近世の溝や夥しい数の土壌が検出された。

調査は南側からグリッド列に沿って進め、進捗に応じて順次写真撮影と測量作業を行った。近世期の土壌については、覆土の状況をみて類型化しつつ作業を進めた。調査中にメノウ製のスクレイパーが検出されたことから、グリッドを設定し深堀を行ったが、旧石器時代の石器集中部などは検出できなかった。

遺構の調査終了にあわせて航空写真撮影を行い、第2次調査を終了した。

(2) 整理・報告書作成作業

整理・報告書作成作業は、平成17年4月8日から平成17年12月28日まで行った。4月に遺物の水洗・注記を開始し、遺構ごとの接合・復元作業を6月中旬まで実施した。この作業と並行して遺構出土の拓本の土器や石器を抽出し、続いてグリッド出土遺物についても同様の作業を実施した。

7月からは採拓作業を開始するとともに、順次土器片の断面図を作成した。8月中旬から拓本と断面図を合成し、版下作成に備えた。

石器については、第1次調査で出土した旧石器の接合作業をおこなった後に、実測を開始した。第1次・第2次調査の縄文時代の石器については、7月下旬から実測を開始した。8月下旬からトレースを開始し、9月中旬に終了した。

遺構図面は4月から第二原因を作成した。作成した図面は順次パソコン上でトレースを行い、デジタルデータとして保管した。8月中旬からは遺物の図版組を開始し、割付作業を行った。その後、校正作業を行い、12月に印刷を終了して本書を刊行した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

(1) 発掘調査

第1次調査(平成15年度)

主体者 上尾市遺跡調査会

教 育 長 浅 見 勲
教 育 総 務 部 長 島 田 弘 治
教 育 総 務 部 次 長 稲 和 男
生 涯 学 習 課 長 坂 間 武
生 涯 学 習 課 副 主 幹 赤 石 光 資
生 涯 学 習 課 主 席 主 査 山 崎 広 幸
生 涯 学 習 課 主 査 蟻 川 芳 明
生 涯 学 習 課 主 査 尾 形 京 子
生 涯 学 習 課 主 任 皆 川 裕 子
生 涯 学 習 課 主 任 小 宮 山 克 己

第2次調査(平成16年度)

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 福 田 陽 充
副 理 事 長 飯 塚 誠 一 郎
常 務 理 事 兼 管 理 部 長 中 村 英 樹

(管理部)

副 部 長 村 田 健 二
主 席 田 中 由 夫
主 任 江 田 和 美
主 任 長 滝 美 智 子
主 任 福 田 昭 美
主 任 菊 池 久

(調査部)

調 査 部 長 宮 崎 朝 雄
調 査 部 副 部 長 坂 野 和 信
主 席 調 査 員 (調 査 第 一 担 当) 昼 間 孝 志
統 括 調 査 員 中 村 倉 司
統 括 調 査 員 細 田 勝
調 査 員 菊 池 真
(平成16年4月8日～5月31日)
調 査 員 村 端 和 樹

(2) 整理・報告書刊行(平成17年度)

理 事 長 福 田 陽 充
副 理 事 長 飯 塚 誠 一 郎
常 務 理 事 兼 管 理 部 長 保 永 清 光

(管理部)

副 部 長 村 田 健 二
主 席 高 橋 義 和
主 席 宮 井 英 一
主 任 福 田 昭 美
主 事 菊 池 久
主 事 海 老 名 健
主 事 岩 上 浩 子

(調査部)

調 査 部 長 今 泉 泰 之
調 査 部 副 部 長 坂 野 和 信
主 席 調 査 員 (資 料 整 理 担 当) 金 子 直 行
統 括 調 査 員 細 田 勝

II 遺跡の立地と環境

上尾市は埼玉県の東部域にあたり、北は桶川市、南はさいたま市、西は川島町、東は伊奈町と接している。市内中央をJR高崎線・国道17号線・旧中仙道が、南東を東北・上越新幹線が通過している。

諏訪坂貝塚は、上尾市大字原市字十三番耕地に所在し、新幹線に沿って走る埼玉新都市交通沼南駅から約0.4km東の大宮台地上に位置する。

大宮台地は、西の荒川と東の中川によって大きく分断されており、北は鴻巣市から南は川口市に及ぶ南北に細長い台地である。かつては、利根川が現在の荒川筋を流れており、東を流れる渡良瀬川とによって浸食され、北は館林辺りから古東京湾に向かって舌状に伸びる台地を形成しており、館林大宮台地とも呼称されている。しかし、関東造盆地運動による地盤沈下や利根川の流路変更や、河川の度重なる氾濫によって台地が侵食されるとともに沖積層の堆積が進んだことから、鴻巣市以北については、台地と低地の境界が不明瞭となっている。

諏訪坂貝塚は大宮台地のほぼ中央部に位置している。遺跡は綾瀬川に注ぎ、伊奈町との境界でもある原市沼川を東に臨み、標高13mの台地上に位置している。周辺の台地も西から東側に向かって緩やかに傾斜する大宮台地に特徴的な地形を示しており、微視的には小支谷によって樹枝状に開析された複雑な地形となっている。

諏訪坂貝塚では、旧石器時代の石器集中箇所をはじめ、縄文時代早期から晩期、平安時代の遺構・遺物が発見された。また近世の所産と推定される大溝や井戸跡、おびたさい教の土壇も発見されており、往時の土地利用のあり方をよく示しているといえよう。

旧石器時代では麁山遺跡が著名である。国府型ナイフ形石器が出土し、旧石器時代における西日本との関係を探る上で欠くことのできない資料を提供している。横長剥片剥離工程を示す資料からは、国府

型ナイフ形石器の素材を作る技法として、西日本の瀬戸内技法に対し麁山技法が提唱されている。出土石器は埼玉県指定有形文化財になっており、保存・活用を踏まえた整理作業が実施され、黒曜石の産地分析も行われるなど、大きな成果を挙げている。

冷涼な気候から一転して温暖化が始まったころ、土器の使用や定住化に代表されるように新たな生活様式が模索された。縄文時代の始まりである。このころの生活の様子が窺える遺跡は全国的に見ても非常に少ないが、やや遅れて土器の使用が本格的に普及したころに、十二番耕地遺跡が営まれた。この遺跡からは、わずかではあるが押圧縄文や表裏縄文といわれる、縄文時代草創期の土器が発見されている。

気候の更なる温暖化は、周辺の植生を大きく変えるとともに、縄文海進とよばれる海水面の大幅な上昇をもたらした。現在の荒川や綾瀬川流域にも海が侵入し、古東京湾と呼ばれる内湾が形成された。大宮台地はあたかも半島のような景観であったと思われる。縄文時代早期に始まる海進に伴い、早くも荒川流域では貝塚が形成され始める。平方貝塚や富士見市打越貝塚などがこの時期の代表的な貝塚である。

縄文時代前期中頃、海進にとまなう海域の拡大は、必然的に生活を海に依存したムラを形成するところとなった。荒川流域はもとより、綾瀬川、元荒川、中川流域にも数多くの貝塚が形成された。近在では元荒川左岸の炭窯屋敷貝塚、綾瀬川左岸の関山貝塚、坂堂貝塚、綾瀬川右岸の大針貝塚、小貝戸貝塚など、数多くの貝塚が形成された。ただし諏訪坂貝塚は綾瀬川の谷からやや奥まった位置にあるためか、調査した範囲では貝塚を伴う住居は発見されなかった。

やがて海が退き始めるとともに、ムラの形成も海を追いかけるように次第に下流に移り、やがて定住的なムラがほとんど見られなくなる。諏訪坂貝塚で発見された前期後半の住居跡はこの頃のものであり、きわめて小規模なムラの姿を想定できるだろう。



第1図 埼玉県の地形図・周辺の遺跡

縄文時代のイメージとなっている大規模なムラの姿は、縄文時代中期に代表される環状集落の存在によってであろう。一例を挙げれば、上尾市秩父山遺跡と伊奈町原遺跡・北遺跡、蓮田市宿下遺跡がこの時期、この地域を代表する大規模なムラといえよう。これらのムラは直線で約5km前後の距離を持っており、これが平均的な距離でもあるらしい。どうやらこの範囲にそれぞれのムラの領域が存在していた可能性があるようである。従って、当時のムラは家の配置などかなり計画的になされていた可能性が高いようである。尤もすべてのムラがこのような大規模であるわけではなく、大山遺跡のように数件単位の小規模なムラも存在することから、ムラの機能・役割が異なっていた可能性も考えられるのである。

諏訪坂貝塚では、縄文時代後期の柄鏡型住居跡が見つかっている。大宮台地でも南西部にあたる上尾市やさいたま市にこの時期のムラが比較的多いことが指摘できる。細長く突出した柄にあたる部分が入り口と推定されるこのような住居は、全体に掘り込みが浅く、中期中頃の竪穴住居と比較すると貧弱な感否めない。出土土器の分析からもわかるように、継続期間も短く、住居の件数も少ないことから、極めて長期の定住を意図したムラの姿を想起することはできないであろう。縄文時代においても、定住のサイクルは一定でなかったことの証拠であろうか。

伊奈氏屋敷跡遺跡の調査では、二艘の丸木船が発

見された。晩期の低湿地から見つかった船は、保存状態もよく、当時の原市沼周辺から綾瀬川沼沢地を經由して、周辺のムラとの交通の在り方を想起させるものである。

縄文時代晩期後半から弥生時代初頭にかけては、遺跡数が極めて少ない。調査の手が届かない低地帯に遺跡が存在する可能性も考えられるが、弥生化が進行するに際しての社会的変動も考えねばならないであろう。この地域に遺跡の姿が見られるのは、弥生時代から古墳時代にかけてである。学史上著名な尾山台遺跡が営まれたのもこの頃である。

諏訪坂貝塚の対岸にあたり、原市沼川の左岸には平安時代のムラとして知られる大山遺跡がある。38軒の住居跡が調査され、台地斜面部からは堅が精練路や炭焼き釜が見つかっており、製鉄から鍛冶を担ったムラであったことが明らかとなった。

上尾市域は歴史的には武蔵野国足立郡に属していた。江戸時代には天領・旗本領・藩領・寺社領からなっていた。遺跡の位置する原市は、かつては原宿と称され、大宮宿や平方宿への脇住道があり、市も開かれて繁栄していた。

上尾市は明治4年以降埼玉県に属し、昭和30年に6町村の合併によって上尾町に、昭和33年に上尾市となり、東京のベッドタウンとして今日に至っている。

1 大針貝塚	2 小貝戸貝塚	3 平塚・平川遺跡	4 志久遺跡	5 関山貝塚
6 坂堂貝塚	7 平塚前遺跡	8 平塚下遺跡	9 伊奈氏屋敷跡	10 八番耕地遺跡
11 九番耕地Ⅰ遺跡	12 十番耕地遺跡	13 榎戸遺跡	14 九番耕地遺跡	15 七番耕地
16 陣屋遺跡	17 十二番耕地Ⅲ遺跡	18 十二番耕地Ⅱ遺跡	19 十二番耕地Ⅰ遺跡	20 六番耕地遺跡
21 十八番耕地遺跡	22 五番町遺跡	23 愛宕山遺跡	24 十九番耕地Ⅲ遺跡	25 秩父山遺跡
26 十九番耕地Ⅱ遺跡	27 宿前Ⅰ遺跡	28 尾山台遺跡	29 古野原遺跡	30 二番耕地Ⅱ遺跡
31 二十番耕地遺跡	32 荒神前Ⅰ遺跡	33 二十一番耕地Ⅰ遺跡	34 二十一番耕地Ⅱ遺跡	

III 遺跡の概要

諏訪坂貝塚は、埼玉県上尾市原市に位置し、伊奈町との境界である原市沼川とその支流に開析され、舌状に北に張り出した台地上に立地している。遺跡が所在する台地は北から西側で急激に立ち上がり、標高は最も高い部分が13mで、低地との比高差は6.4mである。台地は東に向かって緩やかな傾斜を示しており、低地との境界が明瞭ではない。

発掘調査は、上尾市教育委員会が行った進入路部分の第1次調査と、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した、グラウンド本体部分の第2次調査がある。

第1次調査では旧石器時代の石器集中部1箇所、縄文時代から近世期にかけての土壇13基、ピット7基、溝2条が検出された。出土土器は早期から後期に及ぶがまとまりにかける。

第2次調査では、メノウ製のスクレイパーが出土したことから、周辺部の綿密な調査を行ったが、旧石器時代の遺物集中箇所は見えなかった。

第2次調査で発見された縄文時代の遺構は、前期の住居跡6軒、中期後半の住居跡1軒、中期後半の住居跡1軒、後期の住居跡7軒、早期のガケ15基、土壇26基である。また、製品を含む石器の集中1箇所、土器集中1箇所が発見された。

早期のガケは調査区北西部に集中し、単独のもの、焚口を共有し煙道が放射状に重複したものが

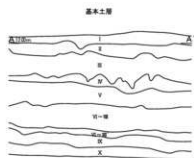
ある。斜面部で検出されたガケは焼土面のみが残存したものも多い。

縄文時代の住居跡は岡山期のものが調査区南端部に位置し、黒浜期の住居は調査区北西半に分布している。いずれも遺跡の範囲が延びることから、調査区域外に存在する可能性が高い。

中期中葉から後期にかけての住居跡は調査区中央から南側にかけて分布しており、前期の住居分布とは占地在対象関係になっており、全体に馬蹄形の遺構位置になっているといえる。近世以降の溝や夥しい数の土壇、あるいは地山の削平により縄文時代の遺構が消失している可能性も高いと考えられる。

平安時代の遺構は、竪穴住居跡3軒、大型竪穴遺構2軒、掘立柱建物跡1棟、土壇1基である。大型竪穴遺構は、規模が大きくカマドを持たないこと、床面に硬化が認められなかったこと、遺物はほとんど出土しなかったことから、居住を目的とした建物跡とは性格が異なる遺構と判断した。平安期のカマドを有する竪穴住居跡に対峙するような位置関係とも見られる。

調査区を巡る大溝からは、天明期と考えられる粗い粒径の火山灰が堆積していた。溝・土壇からは遺物がほとんど出土しなかったために、正確な時期決定は成しがたい。当初予測された館跡や寺跡ともしき遺構は検出できなかった。



基本土層	説明
I	埴間色土 赤土を凝結した含む しまり溝 粘性强
II	埴間色土 しまり溝 粘性强
III	埴間色土 ズツアローム層 しまり溝 粘性强や中り 白色砂子 (0.5mm以下) 少量
IV	埴間色土 ハードローム、白色砂子 (0.5mm以下) 多量 赤色砂 (0.5mm以下)・赤色砂 (1mm以下) 少量 しまり溝 粘性强
V	埴間色土 黒い埴間色土 白色砂 (0.5mm以下) 多量 赤色砂 (0.5mm以下)・赤色砂 (1mm以下) 少量 しまり溝 粘性强
VI~VII	埴間色土 黒い埴間色土 白色砂 (0.5mm以下) 少量 赤色砂 (0.5mm以下)・赤色砂 (1mm以下) をV層より多く含む しまり溝 粘性强
VI~VIII	埴間色土 VI~VIII層からIV層への漸移層 赤色砂 (0.5mm以下) 赤色砂 (1mm以下) や中量 しまり溝 粘性强
IX	埴間色土 しまり溝 粘性强 黒色粘泥層 赤色砂 (0.5mm以下) 多量 黒土 0.07 5/6
X	埴間色土 しまり溝 粘性强 黒色粘泥層 赤色砂 (0.5mm以下) 少量 黒土 0.07 5/6

※ ズツアロームは此遺跡台地のものよりも粘性が高い。
ハードローム層は粘り強いハードローム化していると考えられる。
笠原期の赤層はズツアロームから黒い色の赤土層としてとらえられた。また、その下には、黒い色の赤層・V層には白色砂子が多量にみられ、1/4寸の丸形アロームと呼ばれる浅黒色の火山灰を多く含む。

第2図 基本土層



第3図 調査範囲と周辺の地形図



第4図 遺構全体図

Ⅳ 第1次調査

1. 旧石器時代の遺物

諏訪坂貝塚では、漸移層（Ⅱ層）からソフトローム層（Ⅲ層）上部にかけて、旧石器時代に帰属すると考えられる遺物群が出土している。ただし、平面分布をほぼ同じくして、石蔵などの縄文時代に帰属する遺物も出土しており、一部混在の可能性は否めない。

旧石器時代の調査は、発掘区南寄りの台地部を中心に2m×2mの深掘りトレンチを設定し（第5図）、遺物の出土が確認された場合には、その周囲を拡張するといった方法をとった。その結果、遺物の出土層位について台地部分をほぼ完掘し、それ以外の部分では一部黒色帯（V層）下位まで調査を行ったが、Ⅳ下層以下での遺物の出土は確認できなかった。また、発掘区は緩やかに北西に向かって傾斜し、北西寄りでは低地部に移行している。低地部に関しても、ローム層の調査用のトレンチを設定し調査を行っているが、ローム層は全体的に帯水傾向にあり、遺物は確認できなかった。

遺物の分布は、調査区の南端に比較的にまとまっている。B-2、B-3、C-2、C-3に跨る東西6.5m×南北9.0mの範囲に分布しており、B-2の西半部に中心がある。発掘区の南壁ぎりぎりまで分布は広がっているが、中心部はややずれるため、一部未掘部分はある可能性もあるものの、分布の中心は大方調査できたものと考えられよう（第6・7図）。

垂直分布は、標高12.9mをほぼ中心とし、12.425m～13.201mの範囲に大きなレベル差はなくまとまる。砂岩製の小礫が5点出土しているが、散漫に分布するそれらも、石器と同レベルから出土している。遺物の出土層位は先に述べたように漸移層からソフトローム層上部にあたる。

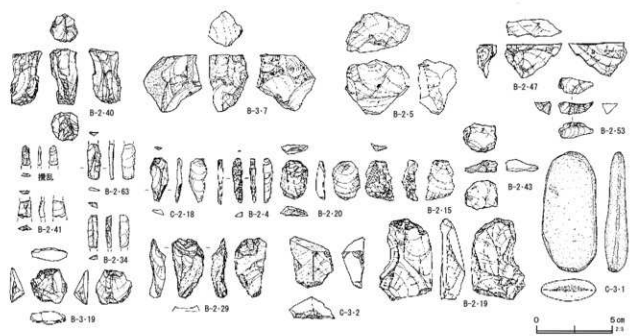
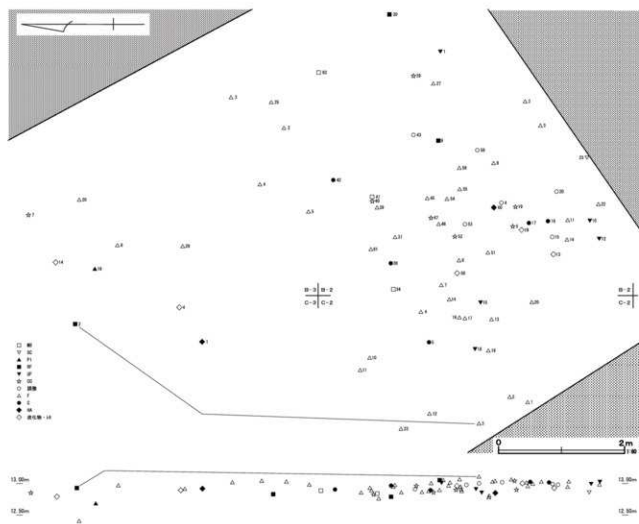
形態、石材などの観点から旧石器時代に帰属すると考えた遺物は石器81点、礫5点の総数86点にのぼるが、細石刃核のほか、石核の各種調整剥片、細石

刃と考えられる小型の石刃が出土しており全体として細石刃期の遺物群と考えられる（第1・2表）。

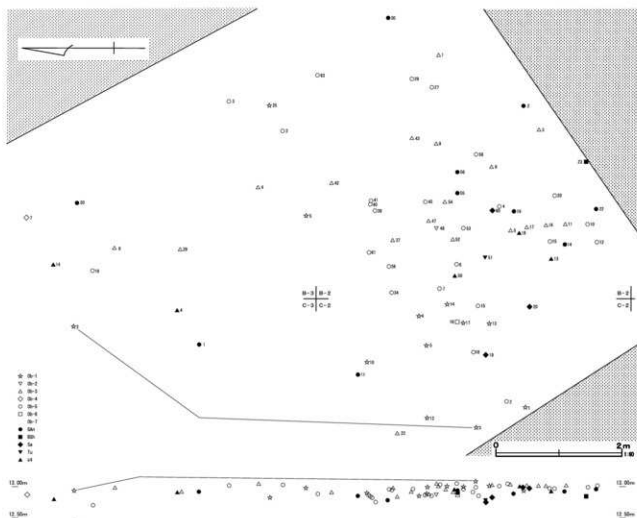
器種組成を詳しく見ると、細石刃核、細石刃、細石刃核の各種調整剥片のほか、小型の石核、スクレイパー、楔形石器、大型の削器、小型の叩石などが出土している。定型的な利器の比率は低い。接合率も低く1例が確認できたのみで、細石刃核あるいは小型の石核を用いた剥片剥離作業の一部分、臨機的な利器を用いた加工などの簡単な作業の痕跡が残されているものと考えられる。

石材組成をみると、使用石材の数量では81%、重量では61%を黒曜石に依存している。それ以外の石材としてはガラス質黒色安山岩、黒色頁岩、凝灰岩、砂岩などが使われているが、その中ではガラス質黒色安山岩の使用が目立ち、剥片素材の石核も出土している。

黒曜石は母岩分類の結果7母岩を認定したが、見かけの特徴からは大きく2種類に分離ができ、複数の異なる産地の黒曜石が使用されている可能性も想定できる。一つは透明感の強い、夾雑物をあまり含まない黒曜石で、細石刃核や細石刃などに関する石器に使用されている。母岩としてはOb-4、Ob-5、Ob-6があたる。2つめは漆黒あるいはやや茶色がかった、夾雑物を多く含む黒曜石で、小型の石核と不定形な剥片を用いた臨機的な石器に用いられている。母岩としてはOb-1、Ob-2、Ob-3があたる。それぞれの母岩に関して、以下その特徴を記載しておく。Ob-1～3は漆黒だが、Ob-1はOb-3に比して茶色味が強くやや透明感がある。Ob-2は透明感が比較的強く黒い縞が入る。Ob-3は黒いもや状の模様が入り、茶色い小さな夾雑物が多く入る。Ob-4は黒味が強く赤い斑が入る。Ob-5～7は透明感が強いが、特にOb-5はほとんどくすみがない。Ob-6にはもや状の模様が入



第6図 器種別分布図



第7図 母岩別分布図

第1表 第1次調査旧石器組表

	CO	調整剥片	MB	SC	PI	RF	UF	F	C	HA	雑	合計
Ob-1						1(9.5)		10(55.3)	1(0.1)			12(64.9)
Ob-2								4(2.2)				4(2.2)
Ob-3	3(59.7)	1(2.4)				1(6.1)	1(18.9)	9(30.5)	3(0.2)			18(117.8)
Ob-4	1(33.0)											1(33)
Ob-5	2(20.5)	5(13.9)	4(1.5)		1(3.9)		4(4.3)	11(7.2)	1(0+)			28(51.3)
Ob-6								1(0.8)				1(0.8)
Ob-7								2(1.8)				2(1.8)
GAn	1(28.7)					1(3.1)		7(76.0)				9(107.8)
BSh				1(84.4)								1(84.4)
Tu								1(0.4)				1(0.4)
Sa								2(1.5)		1(116.6)	5(130.7)	92(48.8)-118.1-
合計	7(141.9)	6(16.3)	4(1.5)	1(84.4)	1(3.9)	3(18.7)	5(23.2)	47(175.7)	5(0.3+)	1(116.6)	5(130.7)	86(713.2)-582.5-

*個数と()内は重量g、< >内は確を除いた重量g。

0+10.1g未満。

る。Ob-7は水の影響を受けているか風化が強く、出土位置が不明なため分布図にドットは図示されていない。

器種、石材別に分布の傾向を見ると、器種別では、細石刃核を含む石核は分布の中央に位置しており、その比較的近辺に細石刃核の各種調整剥片が見られ、叩石も1点出土している。石材別ではあまり大きな偏向は見られないものの、Ob-1は分布の西にややまとまる傾向が認められる。

出土遺物（第8～12図1～46）

第8図1～6は、石核である。そのうち1～3は細石刃核と考えている。1は、一部に節理面と考えられる平坦面を残す円柱状の細石刃核である。打面は上下に準備されている。上設打面からは、左側面から正面にかけて細石刃の剥離が行われている。下設打面からは右側面で細石刃剥離が行われている。上設打面には大きな剥離痕が残り、打面の更新が、打面再生剥片の剥離によって行われたことがわかるが、下設打面は細かな調整を繰り返すことによって、打面と作業面の角度を調節している。下設打面の調整から続き、作業面には稜形成のためあるいは、末端部にできる突出部の除去も考えられる細かい調整も認められる。2は剥片を素材としている。平坦な剥離面を打面とした数条の剥離痕が認められたため、細石刃核として認定したが、1や3に比べ剥離は連続してはいない。3は裏面に礫面を大きく残しており小型礫を素材としている。細石刃剥離は上下から行われており、上設打面からは数回の細石刃剥離が試みられているが力が抜け切れずにすぐに放棄されている。下設打面からの細石刃剥離は1回にとどまる。

4～6は小型の石核である。4は上下両端からの剥離痕が観察できる石核。表裏面には風化度の異なる先行剥離が認められ、板状の剥片を素材として、両極剥離により小型剥片を剥離した可能性が高い。5は剥片素材石核で、裏面には礫面が残り、右側面は折れている。剥片剥離は上端から行われ、2枚の

縦長剥片が剥離されている。左側縁面に見られる連続した剥離痕の意図は不明である。6も裏面には大きく礫面を残している。小型の円礫が素材か。打面は上端に準備され、作業面には数回の小型縦長剥片を剥離した痕跡がとどめられている。1と2の細石刃核と、4の両極剥離による石核はOb-5の透明感の高い黒曜石を、3の細石刃核は赤い斑模様に入るOb-4を使用しており、5・6はOb-3の漆黒の黒曜石を使用している。

第9図7～11は細石刃核の各種調整剥片である。7は作業面調整、9・10は打面再生、8・11は稜形成のための剥片である。7・9・10には細石刃を剥離した痕跡と考えられる細長い剥離痕が、背面に認められる。7・8・11には礫面が残っており、礫を素材とし、片側に剥離を施すことによって稜を形成し、連続する細石刃の剥離を行うことが想定できる。9・10は正面に細石刃を剥離した作業面が残り、作業面の再生は、細石刃核の左側側面から行われている。打面は点状に近く、作業面側が厚く、その反対側は厚くなるように打面再生が行われている。10の右側面にみられる折れ面は打面再生後のものである。これらは形状や大きさから1や3のような円筒状の細石刃核の石核調整剥片と考えられる。10はOb-3の漆黒な黒曜石を使用しているが、それ以外はすべて透明感の高いOb-5の黒曜石を使用している。

12～15は細石刃と考えられる。いずれも一部を欠損するものの、平行する両側縁とそれに平行する稜を持ち、幅が6～11mmと細石刃として認定できる属性を有している。すべてOb-5の母岩に帰属する。

16は楔形石器か。小型の矩形の剥片の表裏上端に剥離痕が観察できる。

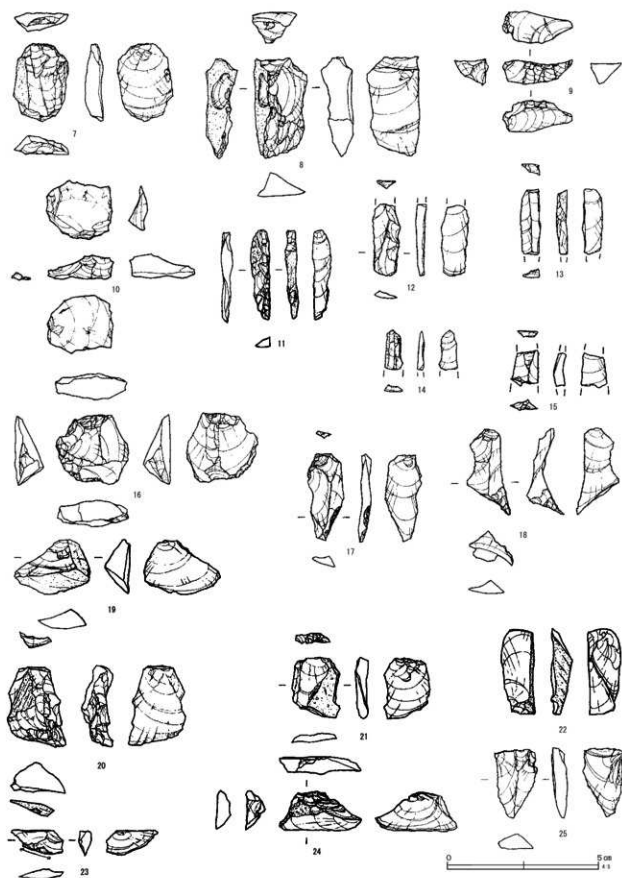
17～19・23は小剥片の縁辺に微細な剥離痕が観察できる。20～22、24・25は小剥片で、20は石核の作業面調整剥片の可能性もある。

16～25もすべてOb-5の母岩に帰属する。

それに対し、第10図26～第11図37は漆黒の黒曜石



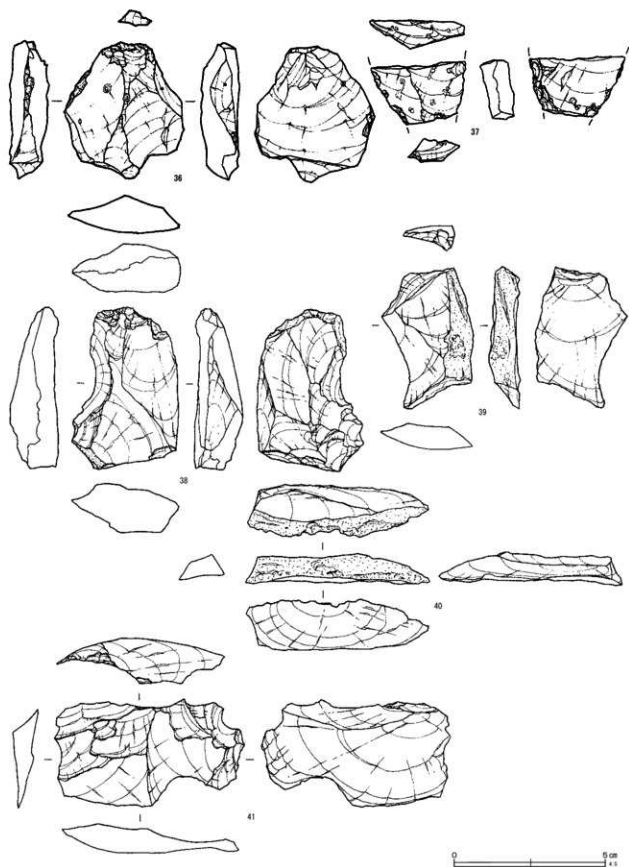
第 8 図 第 1 次調査旧石器出土遺物 (1)



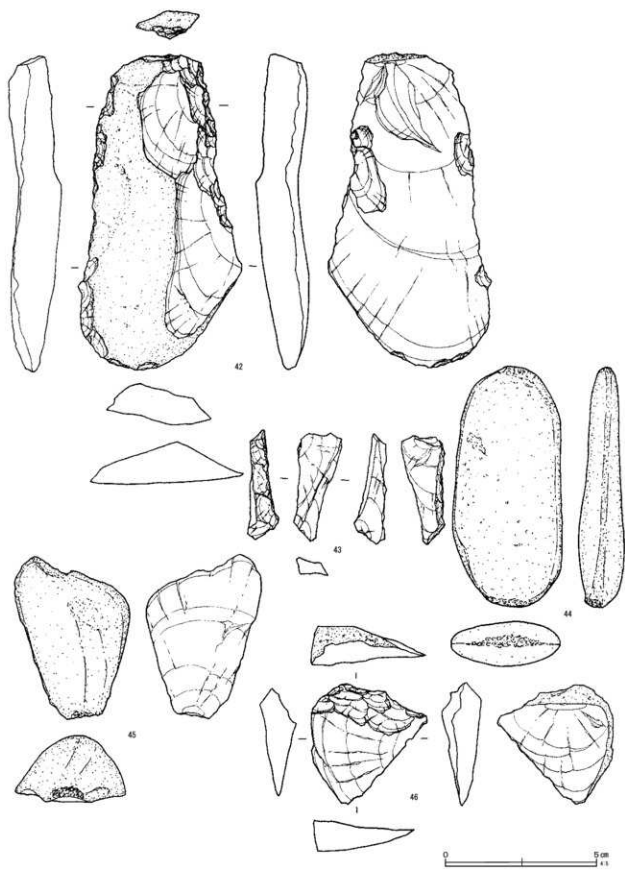
第9図 第1次調査旧石器出土遺物(2)



第10图 第1次調査旧石器出土遺物 (3)



第11图 第1次調査旧石器出土遺物(4)



第12図 第1次調査旧石器出土遺物 (5)

Ob-1、Ob-3を使用した石器である。

26は接合資料で、27の剥片と28のスクレイパーが折れ面で接合している。28のスクレイパーは28を上半部とする縦長の剥片が折れた後に二次加工を施し機能部をつくりだしたものである。剥片の末端にあたるスクレイパーの右側縁に連続する不規則で微細な剥離痕は意図的なものではない可能性が高い。下端部背面側にも折れ面が存在し、それを利用するようにスクレイパーの刃部を形成している。27・28両者の出土位置は約5.5m離れている。

29~35は剥片で、29・30・35のように板状を呈するものが多く認められる。31は円礫を素材とした剥片を大きく取り込んでしまったものと考えられるが、背面は礫面に覆われている。

36は単剥離面打面を有する縦長剥片の左側縁の背腹両面と右側縁の折れ面に不規則な微細な剥離痕の観察できる石器である。

37は上下端を欠損しており素材原形は不明であるが、中央に稜の通る、おそらく縦長の剥片の右側縁の腹面側に連続する二次加工と、加えて両側縁に微細な剥離痕の観察できる石器である。

第11区38以降は黒曜石以外の石材を使用した石器を図示している。38~41・43・46はガラス質黒色安山岩を、42は黒色頁岩を、44・45は砂岩を使用している。

38は板状の剥片を素材とした石核で、背腹両面に多方向から剥離痕が残されている。剥離された剥片に統一性は認められない。

39~41・46は剥片の一部に礫面を残すものが多い。

42は大型の割器である。打面から背面の左半分に礫面を残した縦長剥片の右側縁上半部に連続する二次加工が施されている。左側縁から下端部にかけても、二次加工が認められるが、右側縁に比較して不連続で、中央部は刃こぼれ状の微細な剥離である。腹面にも剥離痕が認められるが、これらは使用により残されたものと考えられる。

43は小型の縦長剥片の左側縁に背面側から角度の

高い連続する剥離が施された二次加工を有する剥片である。

44・45は小型の叩石で砂岩を使用している。44は扁平な礫を素材としており、表裏には磨研などの加工、使用の痕跡は認められない。上下の端部、特に下端部には明確な、敲打によると考えられる潰れが観察できる。45はやはり礫を素材としており、細くやや尖った端部に敲打によると考えられる潰れが観察できる。使用時に破損し、全体の約半分を欠損したものと考えられる。

これらの2点は大きさも小型で軽量であるが、当遺跡で出土している細石刃を含む小型の石核からの剥片の作出や、比較的簡単な二次加工には十分に対応できる叩石と考えられる。

以上、主な遺物を図示し、説明を加えたが、当遺物集中部からは出土地点は不明であるが、石鏃も数点出土しており（第19区）、上部には縄文時代の遺物出土地点が重なっていたものと考えられる。第19区3の粗粒の安山岩製の磨石も集中部のあるB-2グリッドの表採遺物であり、旧石器時代に帰属する可能性は残されている。

いずれにせよ、これらの出土遺物からは、細石刃核の石核調整と細石刃、小型剥片の剥離、および剥片への簡単な二次加工、使用といった行動が読み取れる。石核の調整剥片が各種出土しているながらも接合資料が、折れ面での接合を示す1例のみしか検出できなかったことは、石核を当遺跡に搬入し、石核調整を行った後、細石刃の作出をし、遺跡をあとにしたことが想定できようか。また、残された石核が小型で、作業面は大きく取り込まれるなど、続く使用の困難なものが多いことから、これらの石核は当遺跡に遺棄されたものと考えられる。2種類の特徴の異なる黒曜石、およびその他の石材を目的に応じて使い分け、遺跡から遺跡へと遊動生活を行っていく細石刃期の人々の生活の一端を読み取ることができよう。

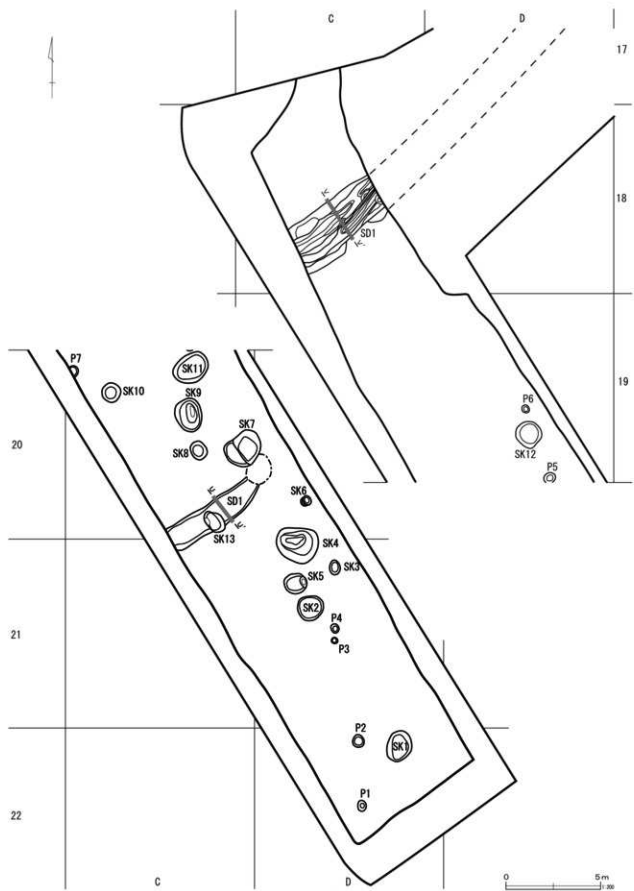
第2表 第1次調査出土石器属性表
旧石器時代

遺構	No.	器種	備考	石材・母岩	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	欠損	標高(m)	図版番号
B-2	1	UF		Ob-3	45.5	40.0	13.0	18.9	*	13.013	11図-36
B-2	2	F		GAn	45.0	45.0	7.0	10.6		12.990	
B-2	3	F		Ob-3	24.2	31.3	5.5	4.5		13.001	
B-2	4	F	稜付剥片	Ob-5	30.0	6.5	4.0	0.7		13.007	9図-11
B-2	5	CO		Ob-3	37.0	43.5	26.0	32.4		13.039	8図-6
B-2	6	F		Ob-5	17.0	9.5	2.2	0.3		13.057	
B-2	7	F		Ob-5	5.0	9.0	1.0	0-		13.042	
B-2	8	F		Ob-3	31.5	19.0	9.0	3.5		13.028	10図-33
B-2	9	RF(SC)	削器状	Ob-3	20.0	31.0	10.5	6.1	*	13.043	11図-37
B-2	10	UF		Ob-5	18.0	25.0	8.0	2.0		12.995	9図-19
B-2	11	F		Ob-3	6.3	10.4	1.5	0.1	*	13.013	
B-2	12	UF		Ob-5	28.0	14.0	11.5	1.1		13.008	9図-18
B-2	13	礫片		Sa	-	-	-	12.7		12.918	
B-2	14	F		GAn	26.0	70.0	6.0	5.3		12.929	
B-2	15	F	作業面調整剥片	Ob-5	27.0	19.0	10.0	3.8		12.974	9図-20
B-2	16	C		Ob-3	4.0	6.0	1.0	0-		13.009	
B-2	17	C		Ob-3	10.8	6.8	0.7	0-		13.018	
B-2	18	炭化物		-	-	-	-	-		12.994	
B-2	19	CO		GAn	53.0	35.5	16.0	28.7		12.889	11図-38
B-2	20	F	作業面調整剥片	Ob-5	25.5	18.0	6.0	2.8		12.978	9図-7
B-2	22	F		GAn	36.0	62.0	15.0	22.5		12.968	11図-41
B-2	23	SC		BSh	105.0	54.0	17.0	84.4		12.841	12図-42
B-2	27	F		Ob-5	17.0	25.0	4.0	0.9		12.856	
B-2	29	CO		Ob-5	39.0	21.0	10.0	6.6		12.974	8図-4
B-2	30	RF		GAn	37.0	15.0	10.0	3.1		12.798	12図-43
B-2	34	MB		Ob-5	21.0	6.5	3.5	0.5	*	12.996	9図-13
B-2	36	C		Ob-5	19.0	8.0	0.2	0-	*	12.977	
B-2	37	F		Ob-3	17.2	14.0	5.8	1.5		12.992	
B-2	39	F		Ob-5	23.0	14.0	5.0	1.1		12.758	9図-25
B-2	40	CO		Ob-5	37.0	17.5	21.0	13.9		12.836	8図-1
B-2	41	MB		Ob-5	11.5	9.0	4.0	0.3	*	12.831	9図-15
B-2	41b	F		Ob-5	10.0	8.0	1.5	0.1		12.831	
B-2	42	C		Ob-3	8.0	6.6	4.3	0.2	*	12.919	
B-2	43	F	打面再生剥片	Ob-3	8.5	21.5	19.5	2.4	*	12.916	9図-10
B-2	45	F		Ob-5	13.0	19.0	2.0	0.2		12.872	
B-2	47	CO		Ob-3	22.0	37.5	13.0	7.2		12.877	8図-2
B-2	48	F		Ob-2	15.6	11.1	2.4	0.5	*	12.886	
B-2	50	礫片		Sa	-	-	-	27.0		12.964	
B-2	51	F		Tu	-	-	-	0.4		12.788	
B-2	52	CO		Ob-3	34.5	41.0	19.0	20.1		12.912	8図-5
B-2	53	F	打面再生剥片	Ob-5	8.0	23.0	11.0	1.4		12.976	9図-9
B-2	54	F		Ob-3	32.0	39.0	11.0	10.7		12.951	10図-35
B-2	55	F		GAn	40.0	38.0	13.0	14.2		12.881	12図-46
B-2	56	F		GAn	10.0	60.0	17.5	9.4		12.932	11図-40
B-2	58	F	稜付剥片	Ob-5	33.0	17.5	10.5	5.2	*	12.992	9図-8
B-2	60	HA		Sa	54.0	38.0	22.0	46.4		12.836	12図-45
B-2	61	F	不明	Ob-5	-	-	-	-		12.857	
B-2	63	MB(UF)		Ob-5	23.5	9.0	3.0	0.5	*	12.897	9図-12
B-2	表採1	MB(UF)		Ob-5	13.0	6.0	2.0	0.2		0.000	9図-14
B-2	表採2	F		Ob-5	20.0	16.0	4.0	1.1		0.000	9図-21
B-3	2	F		Ob-5	28.0	11.0	7.0	1.6		13.042	9図-22
B-3	3	F		Ob-5	11.0	16.0	2.5	0.5		13.032	
B-3	4	F		Ob-3	13.4	16.1	11.7	2.0	*	13.048	
B-3	5	F		Ob-1	30.0	23.0	10.0	7.0	*	12.994	10図-29
B-3	6	F		Ob-3	35.0	26.5	10.0	5.8	*	12.997	10図-34
B-3	7	CO		Ob-4	32.0	44.0	24.0	33.0		12.897	8図-3

遺構	No.	器種	備考	石材・母岩	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	欠損	標高(m)	図版番号
B-3	14	礎片		Sa	-	-	-	53.4		12.813	
B-3	19	PI		Ob-5	23.0	23.5	9.0	3.9		12.722	9図-16
B-3	20	F		GAn	46.5	31.0	10.0	11.9		12.425	11図-39
B-3	25	F		Ob-1	17.0	21.0	6.0	1.3		12.831	10図-32
B-3	29	F		Ob-3	23.5	11.7	10.9	1.8		12.921	
C-2	1	F		Ob-1	31.0	30.0	10.5	8.8		13.201	10図-30
C-2	2	F		Ob-5	13.0	27.0	6.5	1.4		13.080	9図-24
C-2	3	F		Ob-1	27.0	31.5	11.5	7.5	*	13.098	10図-27
接合(C-23+C-3-2)		接合			48.0	35.5	17.0	17.0			10図-26
C-2	4	F		Ob-1	38.0	38.5	26.0	23.9		12.857	10図-31
C-2	5	C		Ob-1	11.2	8.2	1.5	0.1	*	12.871	
C-2	8	礎片		Sa	-	-	-	19.5		12.899	
C-2	10	F		Ob-1	14.1	10.7	12.4	1.1		12.900	
C-2	11	F		GAn	16.0	26.0	5.5	2.1		12.858	
C-2	12	F		Ob-1	23.1	21.6	8.7	3.3		12.919	
C-2	13	F		Ob-1	13.1	22.9	3.6	0.9	*	13.013	
C-2	14	F		Ob-1	18.5	14.1	5.5	1.0		13.001	
C-2	15	UF		Ob-5	8.0	17.5	4.5	0.4		12.852	9図-23
C-2	16	F		Ob-6	14.1	14.6	4.1	0.8		12.882	
C-2	17	F		Ob-1	14.5	9.6	5.6	0.5	*	12.891	
C-2	18	UF		Ob-5	29.0	11.5	4.0	0.8		12.911	9図-17
C-2	19	F		Sa	13.5	20.5	3.5	0.6		12.776	
C-2	20	F		Sa	24.0	14.0	3.5	0.9		12.977	
C-2	23	F		Ob-3	14.7	16.7	2.9	0.6		12.848	
C-3	1	HA		Sa	79.0	36.5	15.0	70.2		12.928	12図-44
C-3	2	RF(SC)	搔器状	Ob-1	34.5	29.0	15.0	9.5	*	12.963	10図-28
C-3	4	礎片		Sa	-	-	-	18.1		12.918	
D-6	表探1	F		Ob-7	20.0	23.8	5.0	1.6		0.000	
D-7	表探1	F		Ob-2	12.0	8.0	2.0	0.2	*	0.000	
E-6	表探1	F		Ob-7	12.0	11.2	2.0	0.2	*	0.000	
E-6	表探2	F		Ob-2	13.5	7.5	2.5	0.2	*	0.000	
E-8	表探1	F		Ob-2	20.3	15.0	4.5	1.3		0.000	

縄文時代

遺構	No.	器種	備考	石材・母岩	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	完・欠	標高(m)	図版番号
E-7	表探1	石鏡		Ob	16.5	19.0	4.9	1.1	*	0.000	19図-1
E-8	表探2	石鏡		Ob	16.0	17.0	4.0	0.8	*	0.000	19図-2
B-2	表探3	磨石		Dio	38.5	50.0	28.5	74.3		0.000	
B-2	表探4	磨石		CAn	102.0	61.5	41.0	338.3		0.000	19図-3
C-4	表探1	RF		Tu	45.0	22.0	7.0	6.7		0.000	
C-4	01	礎片		Sa	29.5	22.0	6.5	3.4		14.590	
C-4	08	F		Gsch	38.0	25.0	6.0	9.9		12.901	
1号土壙	1	RF		Sa	48.0	58.0	27.5	52.2		12.880	
1号溝	3	F		GAn	25.0	12.0	4.0	0.9		12.572	
2号土壙	1	F		GAn	24.5	30.0	18.0	4.0		12.832	



第13図 第1次調査区遺構全体図

2. 遺構と遺物

(1) 土壌

第1次調査で検出された土壌は総数13基である。グラウンド本体への進入路であるため、幅10m×長さ57mの細長い調査区域である。調査区が位置する台地の西端部であるとともに、北から進入した小支谷の最奥部に当たるために、土壌の密度そのものも、第2次調査と比較するとかなり薄い状態といえる。

第1号土壌 (第14図)

D-22グリッドに位置する。長径1.57m×短径1.30m、深さ0.30mの不整楕円形である。覆土の堆積状況から、近世以降の所産と考えられる。

第2号土壌 (第14図)

D-21グリッドに位置する。長径1.36m×短径1.30m、深さ0.27mの不整楕円形である。覆土はロームブロックを多く含む、堆積状況から近世以降の所産と考えられる。

第3号土壌 (第14図)

D-21グリッドに位置する。長径0.76m×短径0.55m、深さ0.27mの楕円形である。覆土1層にロームブロックを多く含むことから、近世以降の所産と考えられる。

第4号土壌 (第14図)

D-20・21グリッドに位置する。長径2.2m×短径1.86m、深さは最深部で0.76mである。不整楕円形で、覆土からは2基の重複も考えられる。本土壌からは縄文時代の遺物も出土しているが、覆土の状況から近世以降の所産と考えた。

第5号土壌 (第14図)

D-21グリッドに位置する。直径1.1m前後の円形で、小ピット底面までの深さは0.5mである。覆土の状況から近世以降の所産と考えられる。深さは0.41mである。

第6号土壌 (第14図)

D-20グリッドに位置する。直径0.5m前後で、深さは0.54mである。覆土の状況から近世以降の所産と考えられる。

第7号土壌 (第14図)

C・D-21グリッドに位置する。方形ないしは隅丸長方形の土壌2基の重複である。覆土の状況から、何れも近世以降の所産と考えられる。

第8号土壌 (第14図)

C-20グリッドに位置する。長径0.97m×短径0.85mの楕円形で、深さ0.37mである。小ピット底面までの深さは0.5mである。覆土の状況から近世以降の所産と考えられる。

第9号土壌 (第14図)

C-20グリッドに位置する。長径1.77m×短径1.30mの楕円形で、底面が一段掘り込まれている。深さ0.35m。覆土から近世以前の可能性がある。

第10号土壌 (第14図)

C-20グリッドに位置する。直径1m前後の円形で、深さは0.22mと極めて浅い。

第11号土壌 (第15図)

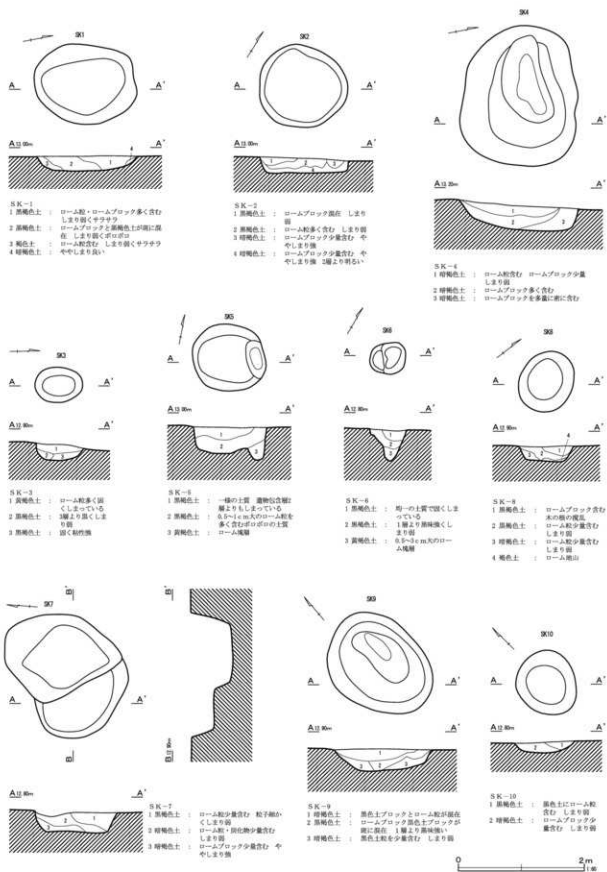
C-20グリッドに位置する。長径1.96m×短径1.48mの楕円形で、深さが0.35mである。覆土の状況から近世以前の所産と考えられる。

第12号土壌 (第15図)

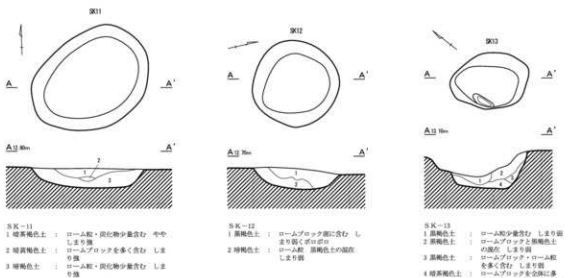
C-20グリッドに位置する。直径1.3m前後で、深さ0.32mである。壁の立ち上がりは緩やかである。覆土の状況から近世以降の所産と考えられる。

第13号土壌 (第15図)

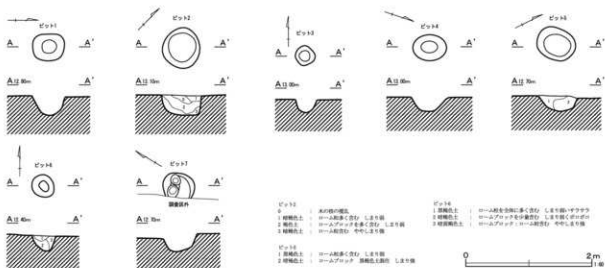
C-20グリッドに位置し、第1号を壊している。長径1.19m×短径0.87m、深さ0.55mである。覆土の状況から近世以降の所産と考えられる。



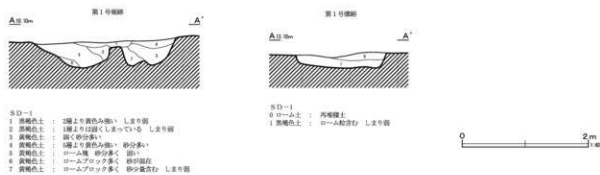
第14図 土壌 (1)



第15図 土壌 (2)



第16図 ビット



第17図 掘跡・溝跡

(2) ビット (第16図)

第1次調査で検出されたビットは総計7基である。覆土の状態は基本的に土壌と同様である。調査区全体にまばらに分布しており、連続性にも乏しいことから、住居あるいは掘立柱建物の柱穴と考えるには難しい。覆土の堆積状態はローム粒子やロームブロックが多く含まれており、近世期以降の特徴と考えられる。各柱穴の法量は以下のとおりである。

$P1=0.5 \times 0.4 \times \text{深さ} 0.3\text{m}$ 、 $P2=0.64 \times 0.6 \times \text{深さ} 0.3\text{m}$ 、 $P3=0.3 \times \text{深さ} 0.2\text{m}$ 、 $P4=0.53 \times 0.41 \times \text{深さ} 0.22\text{m}$ 、 $P5=0.6 \times 0.5 \times \text{深さ} 0.2\text{m}$ 、 $P6=0.38 \times 0.34 \times \text{深さ} 0.23\text{m}$ 、 $P7=0.5 \times \text{深さ} 0.22\text{m}$ である。遺物も出土していないことから時期決定できないが、近世期のものが含まれている可能性が高い。

(3) 溝跡・堀跡

第1次調査では1条の溝跡と1条の堀跡が発見された。調査区中央部で東西に走る第1号溝跡と、調査区北端部で同様に東西に走る第1号堀跡である。いずれの溝も走方向を同じくする。

第1号溝跡 (第17図)

C・D-20・21グリッドに位置する。第1号溝は第7号土壌に接し、調査区内で東取し、東に伸びている形跡が窺えなかった。幅が約4mで深さが0.25mである。

第1号堀跡 (第17図)

第1号堀跡はC-18グリッドに位置する。葉研堀状の2条の溝が重複したもので、前後関係は明らかではない。この溝は第2次調査においても東に伸びていることが確認されており、恐らく第2次調査の第3号溝に連なっている可能性が高いようである。このことから、北から侵入する小支谷に沿って台地の西斜面部を区画する溝の存在が予想される。しかしながら遺物も出土していないために、時期決定は下しがたい。

(4) 遺構外出土遺物 土器

第1次調査では、縄文時代早期前半から後期後半までの資料が出土した。このなかには土壌の調査中に出土したのも含まれているが、第2次調査においてもしばしば認められたように、ローム粒子やロームブロック等を多量に含み、しまりに欠ける覆土が近世期以降の所産であると考えられたことから、遺構出土のほとんどが、グリッドに編入される結果となった。グリッド出土土器の詳細は以下のとおりである。

第I群土器 (第18図1~4)

早期前半の燃系土器を本群とした。1は外反する無文の口唇直下から縦走燃系文が施文されている。口唇内には指頭にナデ整形され、やや窪んだような

断面形になっている。3~4も同様に燃系が縦走する胴下部の破片である。2は斜行する燃系が施文された胴部破片である。いずれも砂粒が多く、2~4は内面がざらついた感触をもっている。

第II群土器 (第18図5・6)

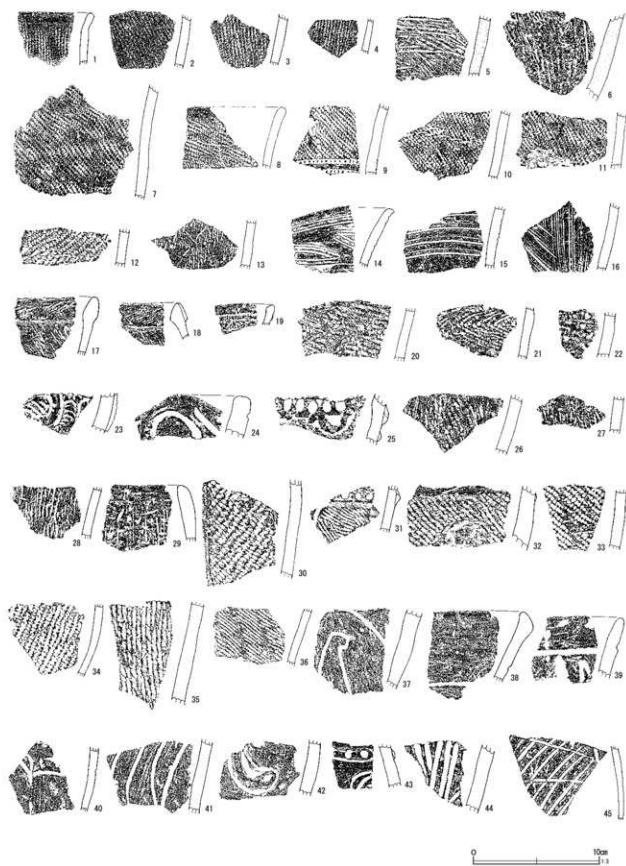
早期後半の条痕文系土器を本群とした。何れも繊維を含んでいるが、5はより硬質である。6は繊維が多く含まれる。

第IV群土器 (第18図7~15)

前期後半の土器群を本群とし、文様などの特徴から以下のごとく区分される。

1類 (7~13)

縄文地文の土器群である。施文原体は恐らく1段



第184図 グリッド出土土器

3条とみられ、撚りの密な原体を横あるいは斜位に施文している。太さを異にする原体を用いることで、附加条に近い効果を持つものもある。原体末端の結束部位を残す破片があり、諸磯a式の特徴をよく示している。9は半截竹管文間の地文が磨り消されていることから、ネガ・ポジの単位文が発達する、諸磯a式でもやや新しい段階の資料と考えられる。細砂粒を多く含むが、素地は精選された粘土であろう。

2類 (14・15)

緩い波状口縁の土器で、口縁部には半截竹管による木の葉状の単位文が施文された破片である。恐らく諸磯b式の古い様相を示していると思われる。15は横位の平行沈線が施文され、同時期の胴部破片と考えられる。

第V群土器 (第18図16~21)

縄文前期終末の土器群を本群とした。

1類 (16)

諸磯c式土器である。胴部の縦区画沈線を扶んで斜行あるいは弧状の沈線文が描かれる土器である。出土は本例のみ。

3類 (19)

結節浮線文の土器で、16例よりも時期的に新しく十三普提式前半期に属する土器である。

4類 (17・18、20・21)

縄文施文の破片を一括した。17・18は恐らく同一個体であろう。口唇が肥厚し、内面に稜をもつ。地文は無節Iで、胴部は縦回転である。

20は胎上の類似性から本群とした。21は結束横羽状縄文である。

第VI群土器 (第18図22~24)

勝坂式に含まれる土器を本群に一括した。22は輪積み痕に鬘状圧痕を持つ破片で、雲母が特徴的である。猪沢式あるいは阿玉台Ib式であろう。23は勝坂式の胴部、24は終末期の沈線文系土器であろう。

第VII群土器 (第18図25~36)

中期後半から後期初頭の土器群である。

1類 (25)

曾利系土器である。恐らく口頸部が強く開く深鉢であろう。

2類 (26~36)

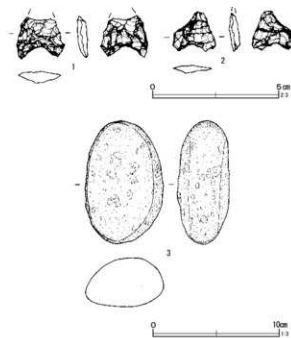
加曾利E式系土器を一括した。26、30は磨り消し懸垂文の胴部破片である。27・28よりも新しい土器であろう。29は鉢形土器で、胴部に串歯文が施文されている。31・32は微隆起線により文様帯が区画された破片である。31は微隆起線に沿って円形刺突が施され、広義加曾利E4式土器であろう。36は撚りの細かな縄がスリットのように間隔をあけて縦施文されており、恐らく後期段階と考えてよいであろう。

第VIII群土器 (第18図37~44)

後期初頭から前葉の土器群を一括した。

1類 (37~42)

称名寺系の土器群である。蕨手状の沈線文、大き



第19図 グリッド出土土器

く外反し、口唇無文部をもつ深鉢などから、称名寺式末から堀ノ内段階にいたる資料と考えられる。42は垂下するJ字条隆帯を特徴とする銅取系の土器群であろう。

2類 (43・44)

堀ノ内式沈線文系を一括した。いずれもI式後半期に措定される土器であろう。

第Ⅷ群土器 (第18図45)

加曾利B式土器の胴部破片である。この時期の資料は、第2次調査で少量の出土があった。

石器 (第19図1～3)

石器の形態、出土層位などから、縄文時代に帰属

すると考えられる石器も数点ではあるが出土している。

第19図1は黒曜石製の石鏃で上半部を欠損している。右脚部は欠損後に再加工がなされている。2も黒曜石製の石鏃で、上半部を欠損後に再加工が加えられている。ともに使用している黒曜石は透明感の高いものである。出土位置はE-7・E-8と旧石器時代の遺物が集中して出土したグリッドからはやや離れている。

3は粗粒安山岩製の磨石である。研磨の状態はあまり明瞭ではない。表採ではあるが出土グリッドがB-2と旧石器時代の遺物分布範囲に重なることから、旧石器時代に帰属する可能性も否めない。

V 第2次調査

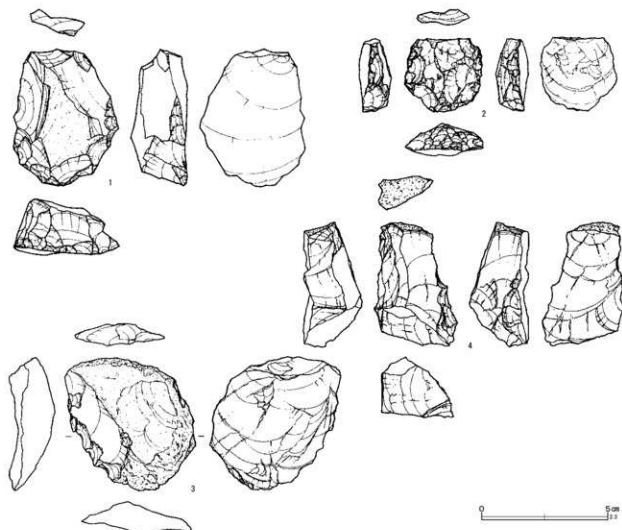
1. 旧石器時代の遺物

第2次調査では、旧石器時代に帰属すると考えられる遺物が数点出土している（第20図1～4・第3表）。

第20図1は瑪瑙製の搔器で、厚手の縦長剥片の末端部に角度の高い剥離を施し、円弧状の刃部を作出している。2は搔器で、漆黒の夾雑物が多く混ざる黒曜石を使用し、矩形の剥片の打面部を除く縁辺に刃部を作出している。剥片の末端から右側縁にかけては角度の高い二次加工を施し、円弧状の搔器刃部を作出しているが、左側縁に施された剥離は浅くや

や体部奥まで入っている。3は1と類似した黄味がかったベージュを呈する瑪瑙製で、単剥離面打面を有する剥片の左側縁に、不連続な二次加工が施されている。4はガラス質黒色安山岩製の二次加工を有する剥片で、厚手の縦長剥片の右側縁に粗い鋸歯状の剥離が施されている。

いずれもローム層外からの単独出土ではあるが、器種、形態などから4点とも「V～IV下層段階」と称される時期の遺物群に相当すると考えられる。



第20図 第2次調査旧石器出土遺物

2. 住居跡と出土遺物

第1号住居跡 (第21-23図)

J・K-12・13グリッドに位置する。調査区の南端部に当たり、台地を全周する第1号溝に近接しており、溝の調査中にも第1号住居跡に関連する遺物が出土している。

住居は近世の土壌によって壁や床面が破壊されていたほか、林であったことから樹木による攪乱も受けており、壁の遺存状態も良好とはいえなかった。

諏訪坂貝塚の調査区内には堀の存在が予想され、かつ土塁が併走している可能性があった。このために遺存状態が良好と思われた箇所を残しながら、表土掘削作業を行った。第1号住居跡が検出された箇所は、土塁の構築状況を面的に観察するために残した部分であった。土層観察を行ったところ、当初土塁と考えられた高まりは、溝の改修等にとまぬ、掘りあげられた土が残存したものと判明した。またこの部分に縄文時代後期の住居跡が存在することや、住居跡周囲に土手状の高まりが認められた。このため、周堤の存在を予測し人力によって表土掘削を行ったところ、縄文時代後期の柄鏡型住居と主体部周囲の周堤と考えられる高まりが面的に検出できた。

第1号住居跡は張り出し部から主体部奥までの長径が7.21m、主体部は長径5.3m×短径4.9mで楕円形に近い。張り出し部は、主体部との接続部で幅1.04m、長さは約1.7mである。

主体部の床面は平坦で、検出面からの深さは最深部で約0.2mである。主軸方位はN-12°-Wである。

主体部床面からは、壁面から0.3m-0.5m内側に柱穴が巡り、柱穴間が周溝で連結されている。

柱穴は計22個が検出された。床面からの深さは、0.4m前後のものが多く、最も深い柱穴は0.64mである。柱穴のなかには明らかに柱痕を有するものも存在する。

P7・P8とP9・P10は張り出し部と主体部接続部で「ハ」の字状に開く対ピットである。重複関係が認められ、旧ピットを埋めてP7・P10が構築されている。

近接して位置する柱穴も存在することから、住居が補修ないしは建替えされた可能性がある。

地床炉は主体部のほぼ中央部にある。P13とP4を結んだラインが住居跡の中軸線となり、炉もこのライン上にある。

土層は単純な堆積を示しているが、壁の立ち上がりから約0.2m程度内側までの間はロームを主体とした層が確認されていることから、恐らく人為的に埋め戻され、内周する壁を作り出していた可能性が考えられる。第21図で示したように、この範囲は土質が異なり、遺構検出時に明瞭に把握された。このことからすると、出土状態から判るように、遺物No1-7などをはじめ、内周する壁際で出土した遺物は、柄鏡形住居跡にしばしば見られるような壁に貼り付けた状態と推定できよう。

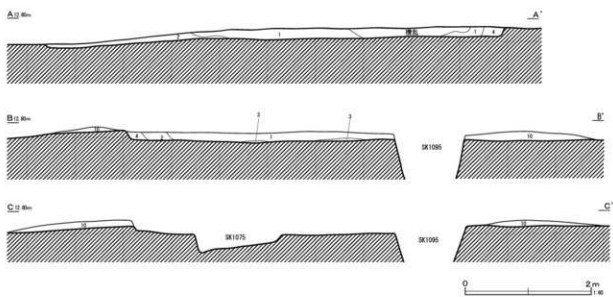
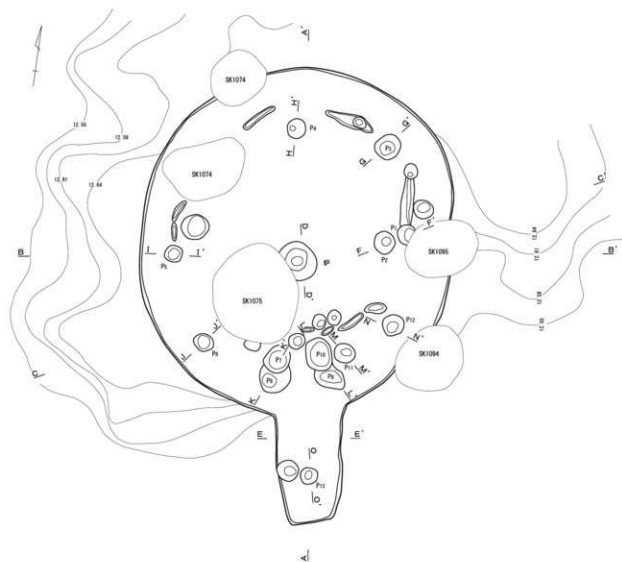
住居跡本体の調査が終了した後に、周辺部の地形測量と周堤の確認作業を行った。黄褐色土を追いかけたため、その上部に盛り上げられた土層に関しては確認が難しかったことから、周堤の最下部のみを検出したこととなる。住居主体部から放射状にトレンチを設定し、土層堆積を確認したが、周辺の平坦面と比較し、最大で0.15m程度の炭化物を含むローム土の高まりが認められた。

遺物は炉の周辺部から対ピット周辺部にまとまっていたが、それ以外からの出土が極めて希薄であった。この範囲では覆土下に密集したような状況で、極めて短期間に廃棄されたものと考えられる。主体部奥壁寄りでは、埋められた内周する壁に接するように遺物が出土しており、このような出土状況は、後述する第7号、第8号住居跡に共通するあり方である。

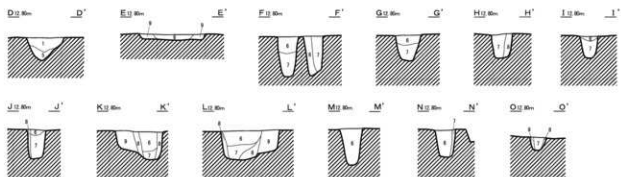
第1号住居跡出土遺物

土器 (第24-26図1-41)

1は胴上半部から口唇部にかけて湾曲気味に開く深鉢形土器である。口唇下が沈線によって区画され、無文部を形成している。



第21图 第1号住居跡(1)



- | | |
|---|---|
| <p>5 J-1 : 屈曲部・ローム取巻・粘土配・ロームブロッツ少量
 6 黒褐色土 : ローム主体・つくで色で、しまりや中硬 腐葉の黒褐色土少
 7 黒褐色土 : ロームブロッツ主体、1層と表土。床面上に部分的に深く堆積 磨り剥
 土と相対的な心
 8 黒褐色土 : ローム主体に褐色土と混入。人為的堆積土と思われる。やや褐色帯びる
 9 暗黒褐色土 : 粘土配・粘土ブロッツ多量 磨り剥がれ使用層を占拠しての暗黒土層分
 と区別される</p> | <p>4 黒褐色土 : ロームブロッツ・ローム取巻を含み、しまりあり
 5 黒褐色土 : ローム取巻少量のみ、しまりあり
 6 黒褐色土 : ロームブロッツ・ローム取巻のみ、しまり強
 7 褐色土 : ロームブロッツ主体や褐色土との混入量 腐葉のロームで、土層には
 粘土取巻のみ、軟質なことから、堆積したと判断
 10 褐色土 : ローム配 ロームブロッツ多量 腐葉堆積層、しまり強 粘性あり</p> |
|---|---|

第22図 第1号住居跡(2)

胴部に文様は施文されず、地文のLR縄文が縦位施文され、部分的に縦位にナゾリが施されており、典型的な後期の粗製土器と言える。二次的な被熱によって器面の一部が剥落している。推定口径27cm、現存高16.8cmである。

2~24、26~28は称名寺式土器である。3は頂部が尖る4単位波状口縁である。口唇上は平坦に面取りされ、内面が突出する。他の資料と異なり、口縁部が二帯構成で、上部の文様は、波頂部直下がスベード状、波状間は長方形の区画文となっている。下部の文様構成は恐らく二段のJ字文であろう。この類の土器は図示した1例のみである。

2は口唇下から曲線的な沈線文が描かれることから、磨り消し縄文によるネガ・ポジの上下に接続した2段J字文と考えられ、3とは基本的な文様構造を異にする土器であろう。

4は屈曲した直線の沈線文が描かれるが、残存部位が少なく、胴下半の文様構成が定かでない。

5~7は称名寺式の口縁部破片である。いずれも口唇内面が突出傾向にあることから、やや新しい段階であることは明らかである。

8以下には胴部破片を一括した。8~10、12~20は、平行沈線文が屈曲することや、曲線的なモチーフ構成であることから、2のような文様の胴下部に

相当する破片と考えられる。

11は平行沈線下端からJ字文が垂下することから、3と同種の土器が想定される。

21~23は胴下部の破片で、沈線が開放されている。22・23は同一個体であろう。

27は沈線間に列点が施文されたもので、時期的に新しい破片である。

25、29~36には、微隆起線によって文様図形が描かれた土器を掲載した。

25は残存部位からみて、かなり大型の深鉢形土器と思われる。口唇部には沈線文が施文されるが、詳細は定かでない。二条の微隆起線によって胴部文様帯が区画されている。胴部には微隆起線により抱球状の文様が描かれるものと想定される。微隆起線にはナゾリが加えられた後に、区画内に縄文が充填施文されている。微隆起線による主文様間には沈線による対弧線が描かれ、微隆起線および沈線間には刺突が施されている。34も同様の資料で、いずれも加曽利E式系の土器である。

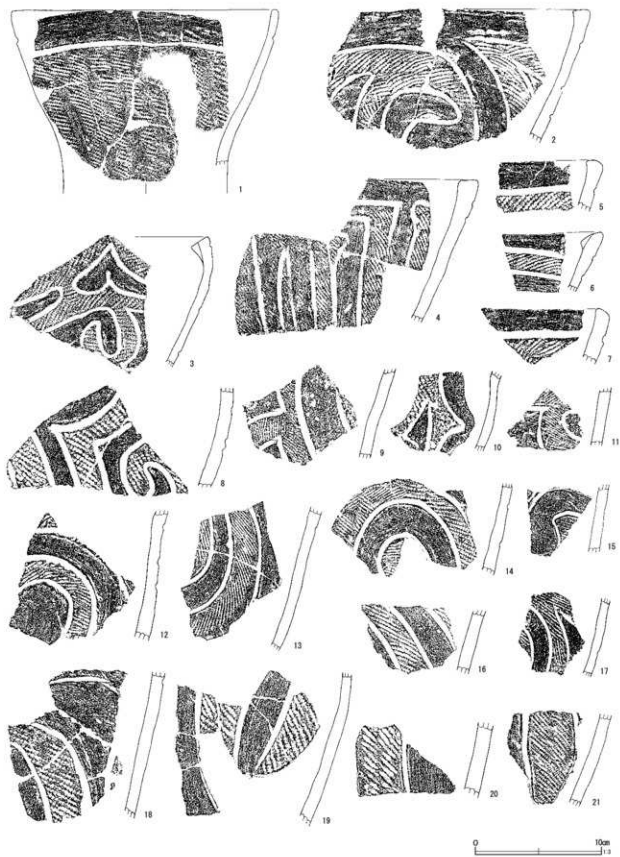
32・33も同様の文様構成を持つ土器と考えられるが、刺突はなく、微隆起線に沿ってナゾリが加えられている。抱球土器であろう。

29、31は4単位波状口縁の波頂部破片である。29には対弧状の隆帯上に円形を沈線が連結した細取風

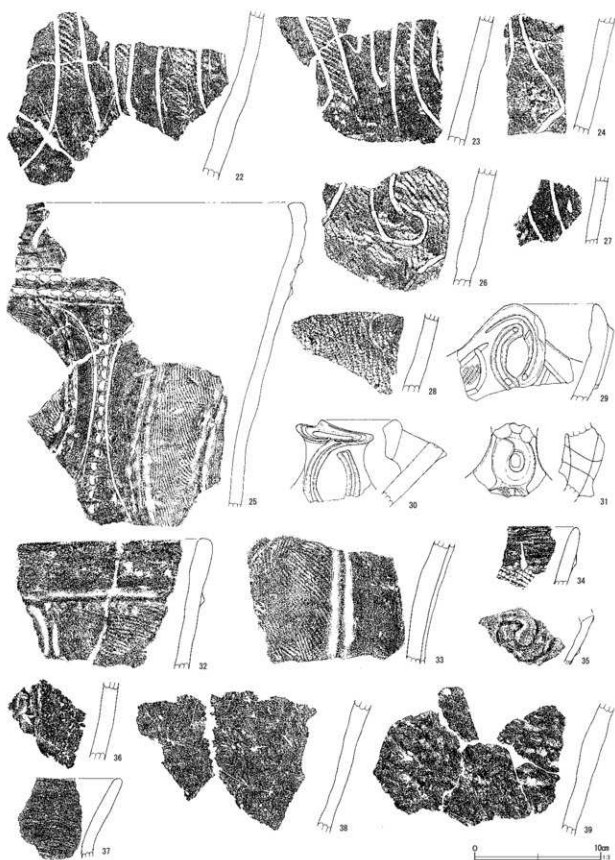




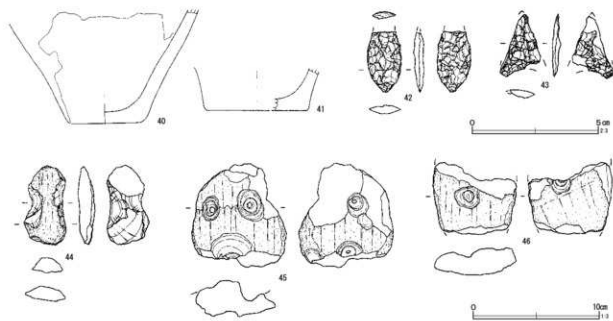
第23図 第1号住居跡遺物出土状況



第24图 第1号住居跡出土遺物(1)



第25图 第1号住居跡出土遺物(2)



第26図 第1号住居跡出土遺物(3)

な隆帯をもつ。31は、波頂部の貫通孔を挟んで、扁平な隆帯が廻る。文様は29が沈線文、31が微隆起線文で、円沢型としてされる土器である。

35は平行する微隆起線でJ字状の文様が描かれる土器で、残存部位等から瓢形土器と考えられる。

36は隆帯が垂下する小破片であるが、隆帯上の刺突から見て、細取系の破片と思われる。

37・38は無文の土器で、39には粗くヘラナデされている。

40・41は底部破片である。小振りの底部から外反

気味に開く深鉢形土器と思われる。無文である。

石器 (第26図42~46)

42は、チャート製の小型の木の葉形の石鏃である。43は黒曜石製の凹基の石鏃で欠損度が高い。

44は分銅形の小型打製石斧で、裏面は頭部を欠損する。肉厚な礫表を残す剥片を素材としており、粗雑なつくりである。

45・46は凹石の欠損品で、板状の緑色片岩の両面に窪みをもつ。ともに上下を欠損しており、全体形状は不明である。

第2号住居跡 (第27図)

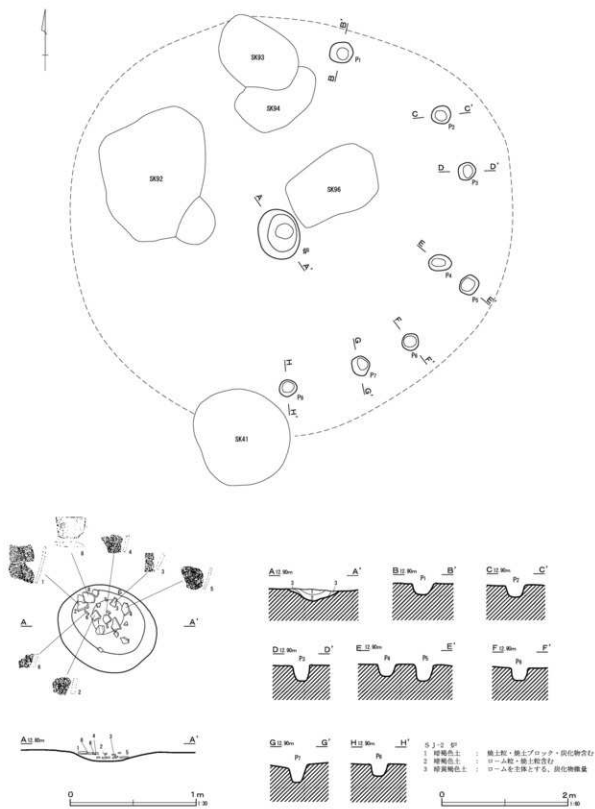
第2次調査区の西端に近いF・G-14・15グリッドに位置する。北向きに近く小支谷の谷頭に近く、住居の西側では台地が緩く傾斜する。

住居跡は地床炉を中心にして、柱穴が環状に廻るもので、掘り込みは確認できなかった。現地表面からも浅いことや、近世の土壌が数多く存在したことから、遺存状況が悪く、住居の西半分については柱穴を検出することはできなかった。遺構検出時の出土土器から柄鏡形住居の存在が想定されたが、張り出し部は検出できなかった。

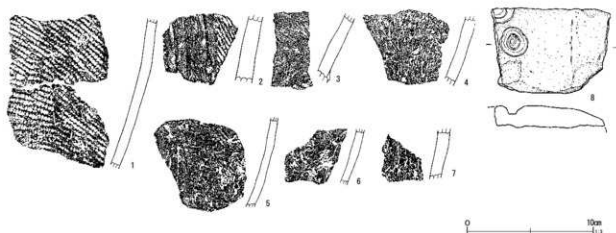
検出できた柱穴は住居の東半分に限られる。炉を中心に8基の柱穴が検出されたが、径が0.2~0.3m前後で、深さが0.2m程度と極めて小型である。

炉から柱穴にかけては、周辺部に比較してロームが硬化した範囲が認められたため、住居の規模についてはある程度の推測が可能であった。以上の観察によれば、住居は推定径が6~7mの楕円形あるいは隅丸長方形で、北東方向に主軸をもつものと推定される。

検出された地床炉は、長径0.9m×短径0.64mの楕円形で、検出面からの深さが0.08mと極めて浅いこ



第27図 第2号住居跡



第28図 第2号住居跡出土遺物

とから、床面は既に消失しているものと考えられた。炉には焼土や炭化物の堆積が認められるとともに、僅かながら出土した土器片から、中期最終末～後期の住居跡と判断した。

第2号住居跡出土遺物

土器 (第28図1～7)

掲載した土器は、すべて炉内から出土したものである。

1は縦回転の縄文のみの破片である。

2は微隆起線文の土器で、曲線的なことから、抱球文あるいは吉井城山タイプと思われる。

3は恐らく口縁部破片で、僅かに微隆起線が残存している。4～7は無文の小破片である。

石器 (第28図8)

石器は炉から出土した1点のみである。8は片岩製の扁平な凹石で、残存する片面に窪みを有する。

第3号住居跡 (第29図)

H-14グリッドで検出された平安時代の住居跡である。この住居跡は後述する縄文時代後期の第17号住居跡の張り出し部と、内黒の椀が出土した第176号土壇を壊して構築されている。

住居跡の西側は、近世の第239号土壇によって床面と西壁が破壊されていたため、全景は確認できなかったが、平面形は長径3.9m前後、短径3.3mの長方形と推定される。住居北壁の中央部にカマドが検出された。主軸方位はN-16°-Wである。

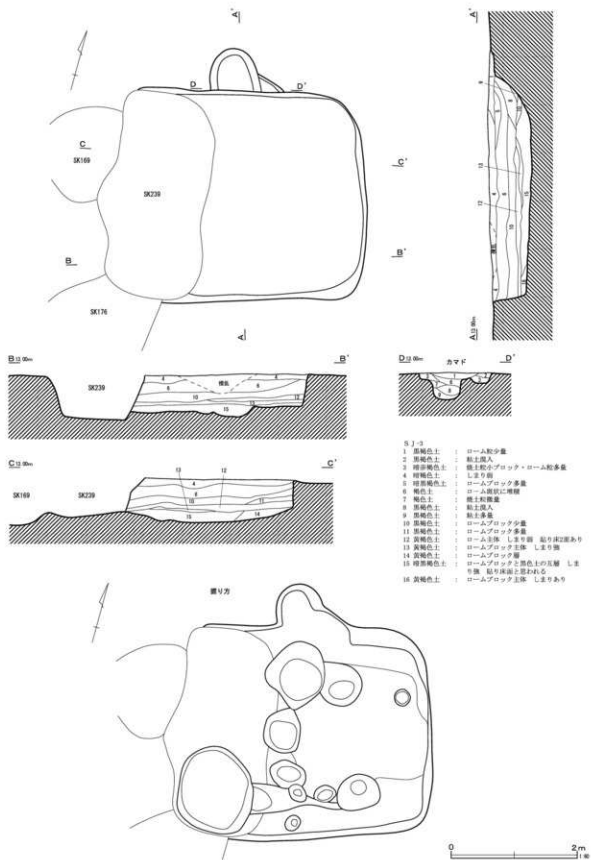
土層図で示したように、住居跡からは4面の貼り床が検出された。第14・15層は住居の掘り方に填圧された貼り床である。その後には12層の第二次貼り床、10・11層の第三次貼り床が施された。12層には間層を挟んで2面の貼り床が存在した可能性があること

から、第一次床面の形成以降、最大で3回の床面再成型が行われたことがわかる。各貼り床面は、ロームブロックを主体としている。各床面では柱穴は検出できなかった。

住居跡のカマドは、煙道部が短く、調査中にソデ芯と思われるロームブロックが壁際で検出されたが、焚き口・煙道天井部は既に崩壊しており、覆土中に痕跡を留めていたに過ぎない。カマドの東側に浅い掘りこみが認められ、調査の結果、造り替えられたことが判明した。

住居跡の第一次貼り床面までの深さは、検出面から約0.4mである。貼り床面は0.1m前後の厚さをもち、最終床面までの深さは0.3mである。

覆土第6層には黒色土を基本としてロームブロックが多量に含まれていたことから、人為的に埋め戻



- 凡例
- | | |
|----------|---------------------------------|
| 1 黒褐色土 | ： 石→土灰少量 |
| 2 赤褐色土 | ： 粘土灰入 |
| 3 赤黄褐色土 | ： 粘土灰入り石→土灰多量 |
| 4 暗褐色土 | ： しまり強 |
| 5 赤黄褐色土 | ： 石→土灰少量 |
| 6 褐色土 | ： 石→土灰中に埋埋 |
| 7 褐色土 | ： 粘土灰少量 |
| 8 赤褐色土 | ： 粘土灰入 |
| 9 赤褐色土 | ： 粘土灰量 |
| 10 赤褐色土 | ： 石→土灰少量 |
| 11 赤褐色土 | ： 石→土灰少量 |
| 12 赤褐色土 | ： 石→土灰少量、しまり強、磁石球2個あり |
| 13 黄褐色土 | ： 石→土灰少量、しまり強 |
| 14 黄褐色土 | ： 石→土灰少量 |
| 15 赤黄褐色土 | ： 石→土灰少量と赤土との互層、しまり強、磁石球2個と混雑する |
| 16 黄褐色土 | ： 石→土灰少量、しまりあり |

第29図 第3号住居跡



第30図 第3号住居跡出土遺物

され、その後自然埋没していった可能性が考えられる。

覆土の調査を終了した後に、掘り方面を検出した。中央部が皿状に掘り込まれ、大小の不整形の掘り込みや柱穴が検出された。

第4号住居跡 (第31図)

1-13グリッドで検出された住居跡で、主軸方位を異にする2軒の重複かなる。

第4A号住居跡は長径4.3m×短径3.6mで、北カマドの住居跡である。主軸方位はN-2°-Wで、第3号住居跡に比べやや大型であるが、平面形を一にする。第4B号住居跡の構築によって床面が破壊され、詳細が明らかでないが、検出面からの深さは0.1m～0.15mと極めて浅い。この住居跡から遺物は出土しなかった。

第4B号住居跡は第4A号住居跡が埋没後に構築された住居と考えられる。長方形の主体部で東カマドの住居跡で、後述する第22号住居と規模・形態が近い。長径3.3m×短径2.7m、検出面からの深さは0.47mである。貼り床面は認められなかった。壁はやや傾斜をもって掘り込まれているが、壁際にロームブロック層が堆積していることから、埋没過程で崩落したものと考えられる。

第3号住居跡出土遺物 (第30図1～4)

住居跡からの出土遺物は少ない。1～3はいずれも南比企産で、1・2は底部回転糸切り後無調整である。4はロクロ成型の土師器である。

カマドは垂直に掘り込まれ、天井部崩落土の痕跡は認められなかった。カマド内からは土師器甕と土製支脚が出土した。

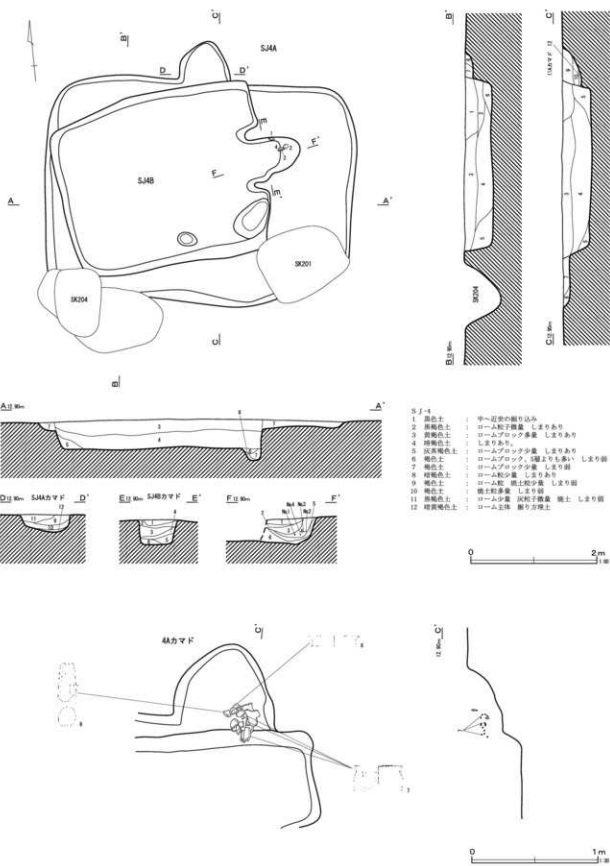
住居南東壁コーナー際には貯蔵穴が検出された。長径0.63m×短径0.43mの長方形で、床面からの深さは0.18mである。遺物は出土しなかった。

第4号住居跡出土遺物 (第32図1～8)

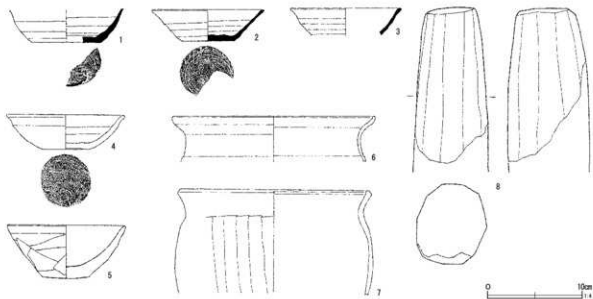
1・2は底部回転糸切り後無調整である。4は酸化焙焼成で、底部は回転糸切り後無調整である。白針状物質を含む。5は底部と体下部にヘラケズリが施される。

6はコの字甕、7は体部がヘラケズリされた厚手の甕である。いずれも4B号住居跡カマド内から出土した。

8は土製支脚で、カマドから土師器甕とともに出土した。胎土に籐状の植物質を含み、棒状に成型後ヘラケズリされて形状を整えている。



第31図 第4号住居跡・遺物出土状況



第32図 第4号住居跡出土遺物

第5号住居跡（第33～35図）

F・G-13・14グリッドに位置する縄文時代前期中葉から後葉の住居跡である。主軸方位を異にする2～3軒の重複で、第5A・5B・5C号に区分される。

第5A号住居跡は床面中央部から北西壁が、近世の第5号溝によって破壊されている。また、床面も近世期の土壌が掘られていることから、良好な遺存状況とはいえない。現存部位から判断すると、住居跡は北東壁が緩やかな弧状を描き、長径5.0m前後で短径4.6mの隅丸長方形と推定される。床面は平坦で、検出面からの深さは0.37mである。壁に沿って部分的に壁溝が廻る。幅は0.15～0.2mで、床面からの深さは0.1m前後である。周溝と重複したP11・P12は径が0.3m～0.4mの楕円形で、床面からの深さは約0.6mである。位置的に第5A号住居跡の入り口ピットとしてよいであろう。主軸方位はN-45°-Wである。

第5A号住居跡に伴う柱穴はP1・P3で、深さは各々0.2m・0.13mである。対応する柱穴は近世期の溝や土壌によっては解されたと考えられる。P5はいわゆるCピットであろう。床面からの深さが0.37mである。

第5A号住居跡から炉は検出できなかった。恐らく奥壁寄りに位置していたものと考えられる。

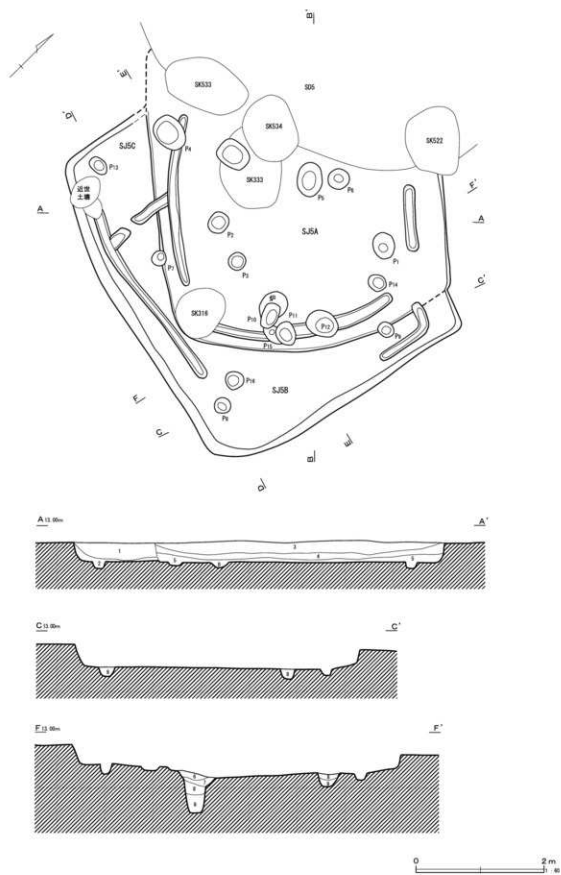
遺物は散漫な出土であった。南東壁寄りに諸磯a式期の器形復元可能な土器が出土している。なお第36図4に図示した浮島式土器は、出土状況から、住居埋没後に掘られた土壌に伴うものと考えられる。

第5B号住居跡は第5A号住居の構築によって大半が破壊されていた。残存部位から推定すると、長径5.7×短径4.6m前後の隅丸長方形と考えられる。検出面からの深さは0.34mである。南壁と東壁隅で検出された周溝は、幅0.2m×深さ0.15m前後である。南壁沿いの周溝からは北方向に周溝が分岐しており、5B号住居跡が拡張された可能性が考えられることから、第5C号住居跡とした。

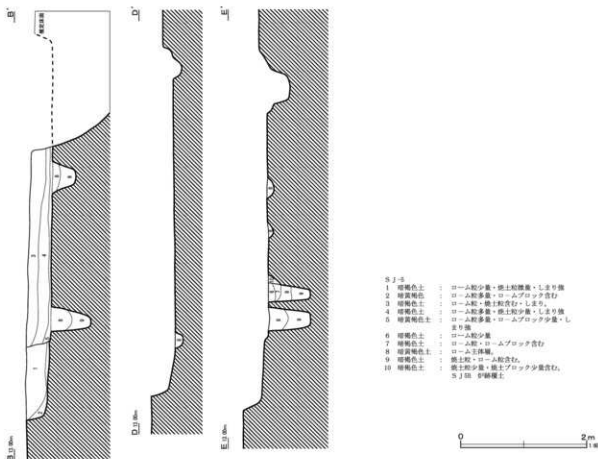
第5B号住居跡の柱穴はP13、P14、P16の3基で、他1基は近世期の溝によって破壊されていた。柱穴は径が0.2m～0.3m前後、深さがP13=0.1m、P14=0.3m、P16=0.14mである。

この住居に伴う炉は、P14とP16の中間で検出された。P10に切られており形状は不明であるが、径が0.4m～0.6mの楕円形で、深さが0.2m程度と思われる。主軸方位はN-79°-Wである。

第5C号住居跡は柱穴と周溝の重複状況から推定



第33图 第5号住居跡(1)



第34図 第5号住居跡(2)

したもので、最も古い住居跡である。この住居に伴う柱穴は、P6、P7、P8、P9である。径は0.2～0.3mの円形ないしは楕円形で、深さはP6＝0.38m、P7＝0.23m、P8＝0.14m、P9＝0.17mである。東西方向に主軸を持つ小型の住居跡が想定される。

第5B号、第5C号住居跡からは遺物がほとんど出土しなかったため、時期不詳だが、黒浜式終末期の可能性がある。

第5号住居跡出土遺物

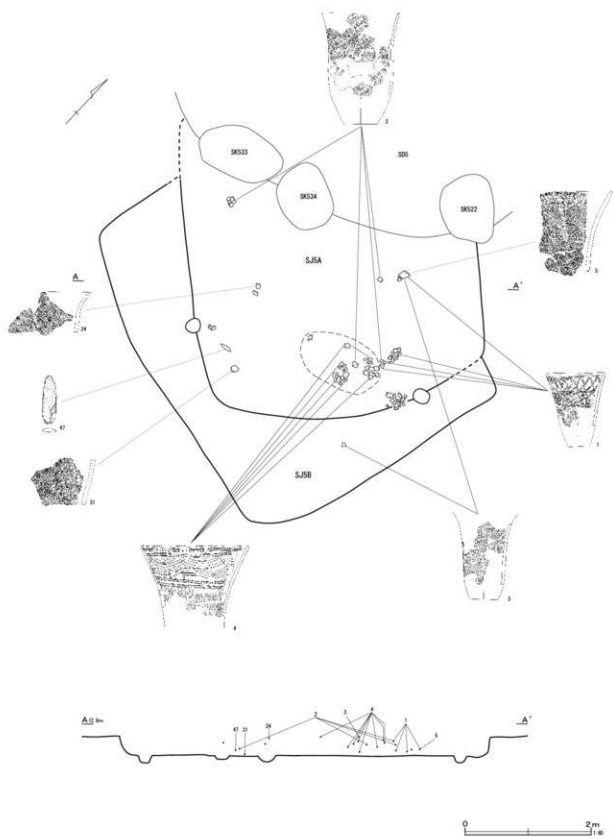
土器 (第36・37図1～46)

掲載した遺物は第5A号住居跡と土壌から出土したものと判断した。1は体上半に2段の文様帯をもち、各々に2～3列の鋸歯状沈線文を施文し、部分的に格子目状のモチーフとなっている。地文は多条のRLで、沈線文施文以前に胴上半部が磨り消されている。口径15.4cm、現存高15.6cm。砂粒多く色調は暗褐色である。

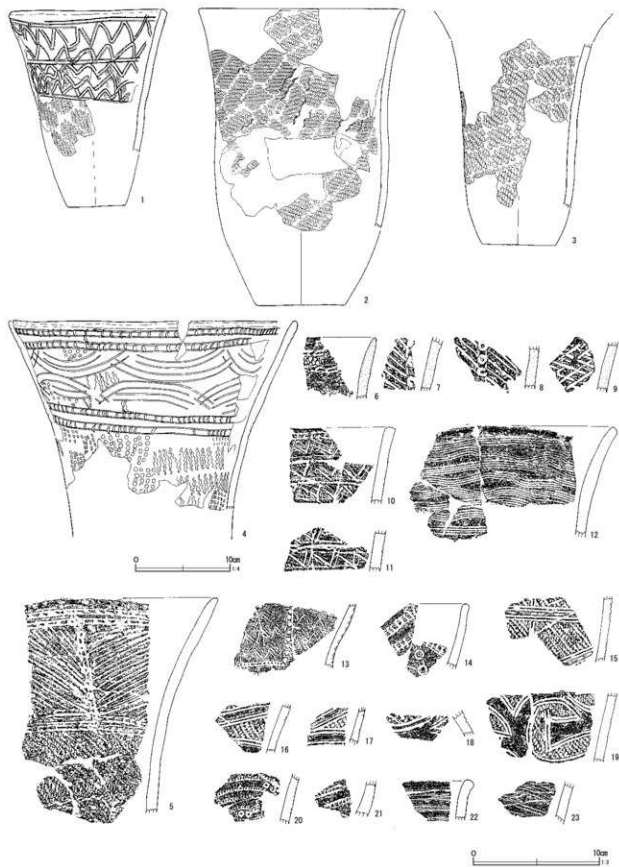
2は縄文のみの土器で胴下部を欠く。地文は多条のRLで斜め回転施文である。部分的に結束が認められる他、被熱により、器面の一部が剥落している。推定口径22cm、現存高23.7cm。砂粒多く、色調は明褐色である。

3も縄文施文のみの土器で、体上半と下部を欠損する。地文は多条のRLで横施文されている。現存高18cm、砂粒多く、色調は灰褐色あるいは灰黄褐色である。

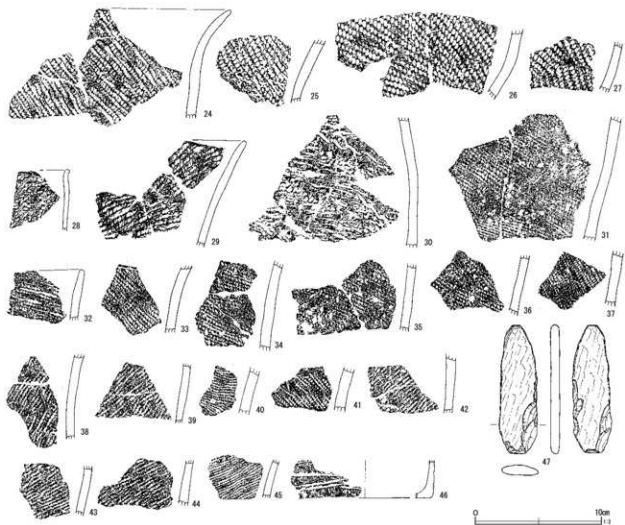
4は浮島式土器で、明らかに諸磯b式中華に伴う土器である。まとめて出土し復元率も高かったことから、第5A号住居跡が埋没後に掘り込まれた土壌に伴っていた可能性が高い。器面にはアナガラ属の貝殻によって鋸歯状の貝殻腹縁文が施文されている。沈線文の下地に施文されていることから、地文として施文されたものであろう。竹筒内面の平行沈線によって体上半の文様帯が区画され、爪形文の施



第35图 第5号住居跡遺物出土状況



第36图 第5号住居跡出土遺物(1)



第37図 第5号住居跡出土遺物(2)

文はこの部分に限られる。文様は竹管による上下対の連続弧線文で、諸磯b式の基本文様のひとつである。口径30cm、現存高20cm。細砂粒を含み灰褐色で、諸磯式とは胎土・色調を異にする。

5～46に破片を一括した。6～9は繊維を含む土器である。6は口径直下に2条の竹管文が廻る。7・8は助骨文の土器で、同一個体である。縦沈線施文後に斜線沈線が施文され、円形竹管は最後の施文工程となる。縦区画線は多単位であろう。9は格子目状に沈線文が施文される。5に先行し、黒沢式終末期であろう。

10以下は無繊維土器である。10・11は同一個体で幅広い横帯区画内に鋸歯状沈線が施文されている。12は前者と構成を同じくし、櫛歯状工具による施文

例である。

5・13・14は縦区画を持つ無繊維土器である。5は文様帯を区画する上下2条の竹管文と縦区画の1条の竹管文、区画内の方向を異にする平行沈線により助骨文が描かれた土器である。東関東的色彩をもつ。13は1に近似した施文で、恐らく文様帯は幅広い1帯であろう。14は波状口縁で、波頂部から円形刺突をもつ沈線が垂下する。

15～19は磨り消し文が施文された土器である。15～17は米字文の胴部破片で、沈線間に磨り消しが施される。18・19は木の葉状の磨り消し単位文である。

19～21は密な爪形文の土器で、明らかに前者の破片類に後続する。

22・23は沈線文の土器で、胎土・整形等は4に近

い。

24~45には縄文のみの破片を一括した。24~27は無織維で、条が太く節が大振りな土器である。24は口唇が強く外反する。黒浜式終末に特徴的な器形と施文原体である。28・29は無節縄文、30は付加条縄文で、原体末端の結束部の回転圧痕が認められる。

第6号住居跡 (第38図)

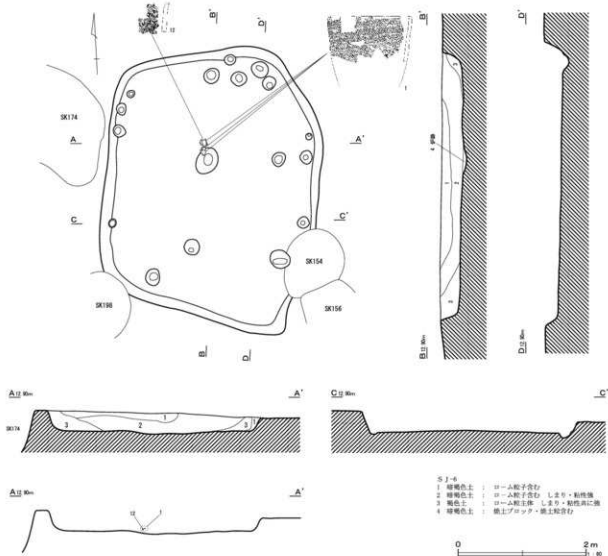
J-13グリッドで検出された関山式期の住居跡である。樹木の根による擾乱が著しく、近世期の土壌によって壁が破壊されていたことなどから住居の遺存状況が悪く、平面形が把握できなかつた。

31~45は諸磯a式に特徴的な、1段3条の単節縄文が施文された破片である。

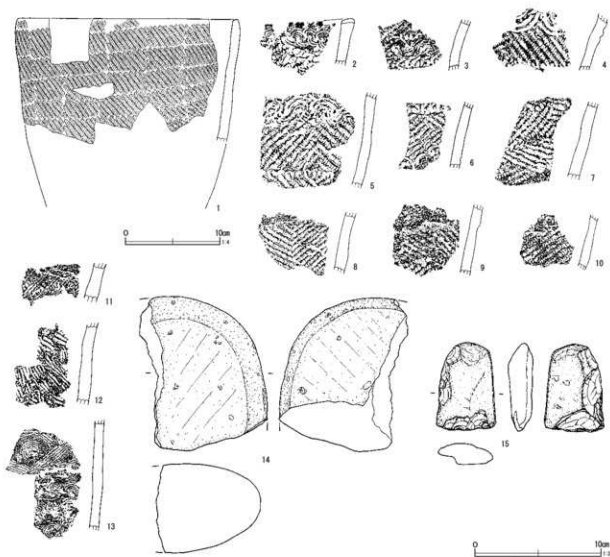
石器 (第37図47)

47は打製石斧である。緑色片岩の板状礫を素材とし、側縁下半から端部に粗い剥離を施し、刃部を作り出している。

住居は長径4.5m×短径3.4mで、恐らく隅丸長方形のプランであったと考えられる。検出面からの深さは0.3mである。床面は葦の周辺部が堅くしまっていたが、他の部分に硬化面は認められなかつた。床面中央部から北壁寄りで地床葦が検出された。葦



第38図 第6号住居跡



第39図 第6号住居跡出土遺物

は長径0.45m×短径0.3mの楕円形で、床面からの深さは0.06mである。炉内には焼土ブロックや焼土粒子が堆積し、壁面は被熱・変色していた。

壁に沿って柱穴が廻っているが、周溝は検出できなかった。柱穴は径が0.2～0.3m前後で、床面からの深さは0.1m程度の浅いものが多い。住居内からは貝などの自然遺物は出土しなかった。

第6号住居跡出土遺物

土器 (第39図1～13)

住居から出土した遺物は極めて少ない。1は炉に接して出土した深鉢形土器で、地文は0段多条のRL縄文による単方向施文である。繊維を含み黄橙色の色調である。口径23cm、現存高13.3cm。

2は臼歯状突起をもつ口縁部破片で、口唇下にコンパス文が施文されている。3～6はコンパス文が施文された胴部破片で帯間羽状縄文の施文例である。7～9も帯間羽状縄文の施文例である。9は接合部が顕著で、追加整形施文が認められる。

11は付加条縄文、12は貝殻背任痕文が施文されている。

13は楕円状工具により鋸歯文が交差施文された破片である。

石器 (第39図14・15)

14は磨石の欠損品で表裏とも良く研磨されている。15は棒状礫を素材とした打製石斧で、下半部は欠損後に刃部を再生し再利用している。

第7号住居跡 (第40・41図)

G・H-13・14グリッドに位置する後期称名寺式期の柄鏡形住居跡である。住居跡は樹木の根による擾乱が顕著で、主体部の北東壁の立ち上がりが不明瞭であったが、また、主体部床面も一部が近世期の土壌によって破壊されていた。

主体部は長径6m×短径5.45mの隅丸長方形と考えられる。張り出し部先端は近世期の土壌によって破壊されていたが、幅が1.5mで長さが2m前後と推定される。検出面からの深さは0.25mで、主体部及び張り出し部の床面はほぼ平坦で、堅化面は検出されなかった。

張り出し部で検出されたピットは、径が0.45m、床面からの深さは0.15m程度である。主体部中央で検出された地床炉は、径が0.9m前後の不整楕円形で、皿状に掘り込まれ、検出面からの深さが0.14mである。底面付近に浅い焼土層が認められた。

炉の前方で検出された埋嚢は径が36cmで、埋設土器よりも一回り大きく、土器を設置した後にローム土が充填され、固定された様子が窺える。

遺物分布図(第41図)に示すように、遺物は炉の周辺から出土していた。炉の南西側が近世期の土壌によって破壊されたことを差し引いても、全面に遺物が分布していた状況は考えにくい。垂直分布からは、住居跡覆土第1層と概ね対応関係にあると見られ、住居跡廃絶後の埋没過程において、短期間に廃棄された可能性が高いと考える。

出土状態では、住居跡主体部奥壁内側に、壁に沿って土器片や石器等が重なった状態で出土した状況が窺える。既に第1号住居跡でも触れたように、この部分から壁にかけては遺物が全く出土していない。遺構検出時にローム質土の堆積が確認され、この部分を住居の内帯とみれば、壁際の第3層の成因を含めて、住居構築に伴う人為的な形成を探る必要があるのではなかろうか。

第7号住居跡出土遺物 土器 (第42～45図1～63)

後期の住居としては最もまとまった資料である。1は内帯部分から出土した鉢形土器で、口唇下に隆起線が全周する。隆起線は断面三角形に整形され、体部には縄文Lが隆起線にかかって縦位施文されている。砂粒を多く含んだ肉厚な造りである。口径41cm、現存高18.7cmである。

2は炉の前方で検出された埋嚢である。小振りの底部から直線的に開く典型的な後期の深鉢である。体上部が欠損しているが、恐らく地文のみの可能性がある。地文は縄文Lの縦位施文で、体下部から底部にかけてはヘラミガキが施されている。砂粒を多く含み、色調は暗褐色である。底径9cm、現存高30.6cm。

3は覆土内から出土した大型破片で、体上部で括れる深鉢形土器である。文様は無く、器面に縄文RLが粗く施文されている。きめの細かな胎土で、色調は黄褐色、現存高17.5cmである。

4～16には隆起線の加曽利E式土器を一括した。4、8は体上部の鋸歯文間に、逆U字状のモチーフが貫入する吉井城山型で、4は波頂部直下に鯉状の突起を持つ。6は4と同様の体部文様が沈線に描かれた一例である。

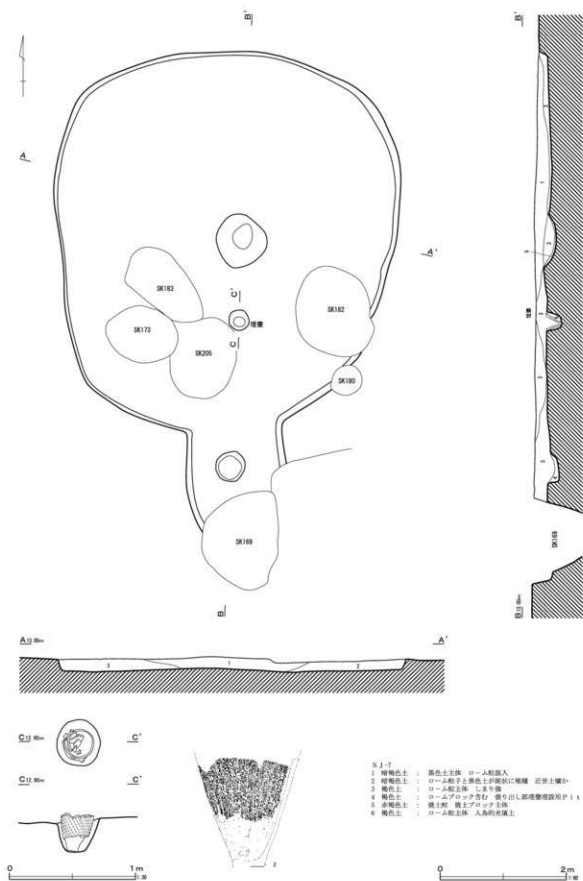
5、7は関沢型と考えられる破片で、口唇部に複数の円形刺突文が施文される。何れも波状口縁で、5は波頂部に対弧上の隆帯文を持つ。

10～13は大型の深鉢ないしは鉢形土器で、10は1と同一個体であろう。12は微隆起線に接して沈線による懸垂文が垂下する。13は微隆起線による懸垂文である。58・59も同種の口唇部破片であろうか。

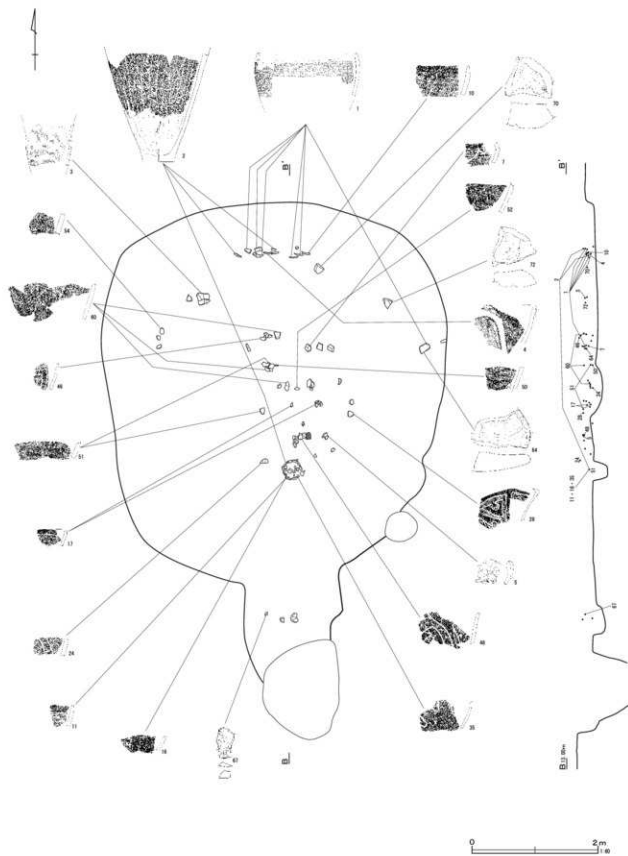
15・16は瓢形土器で、J字状の微隆起線文を持つ。精選された胎土で、丁寧なミガキが施されている。

17～19は沈線文の加曽利E式土器と思われるが、体部文様の詳細は不明である。23～25は加曽利E式系の胴部破片である。

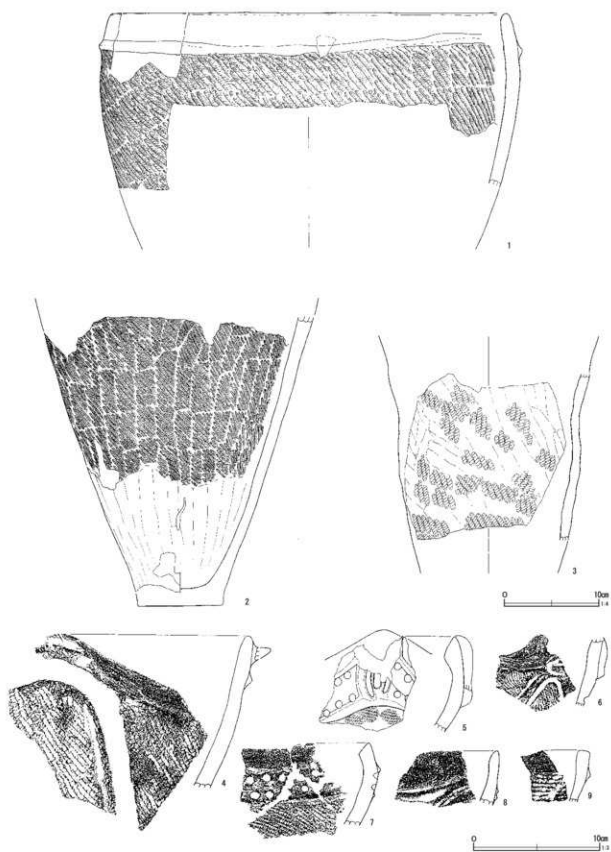
21・22、26以下には称名寺式土器を一括した。29は枠上区西文を持つことから、32、34は紡錘文もつ中津系土器であろう。



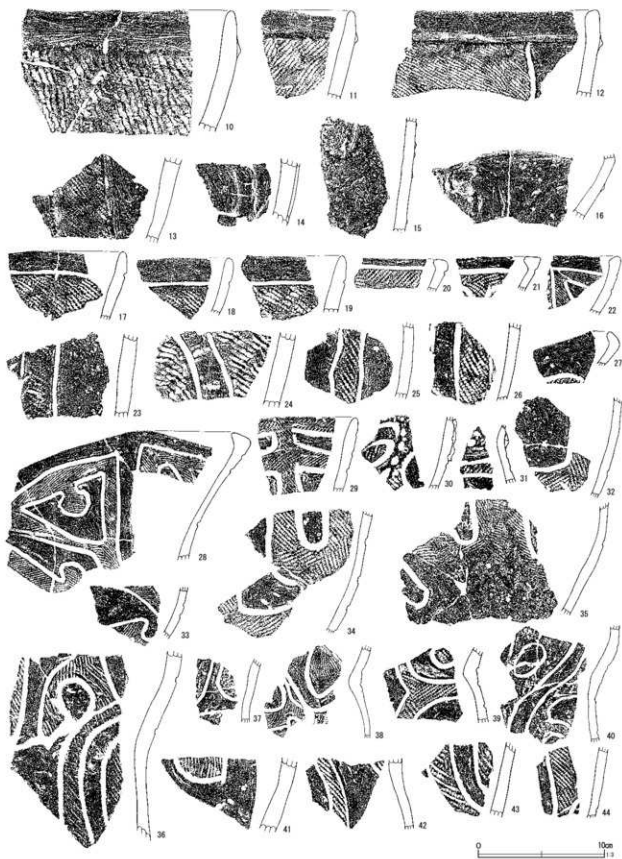
第40図 第7号住居跡



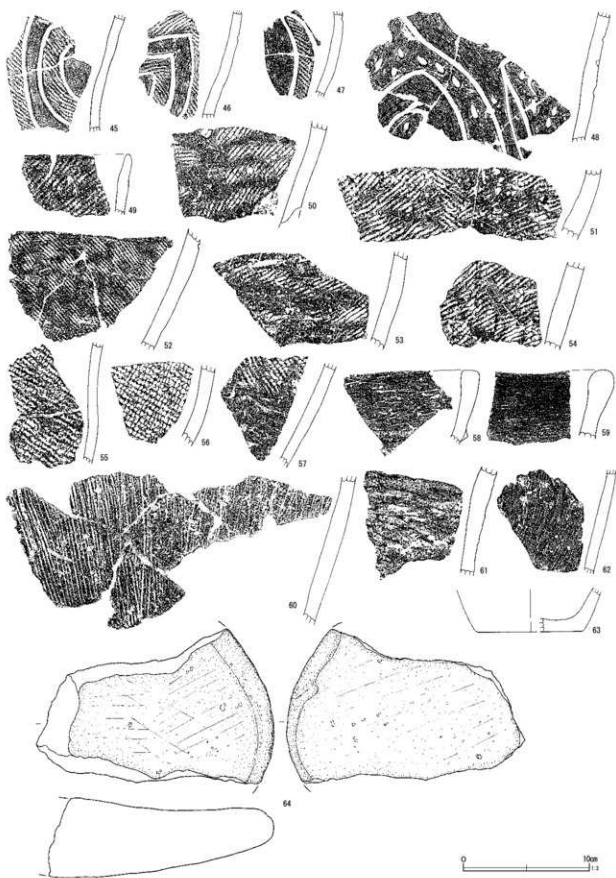
第41图 第7号住居跡遺物出土状況



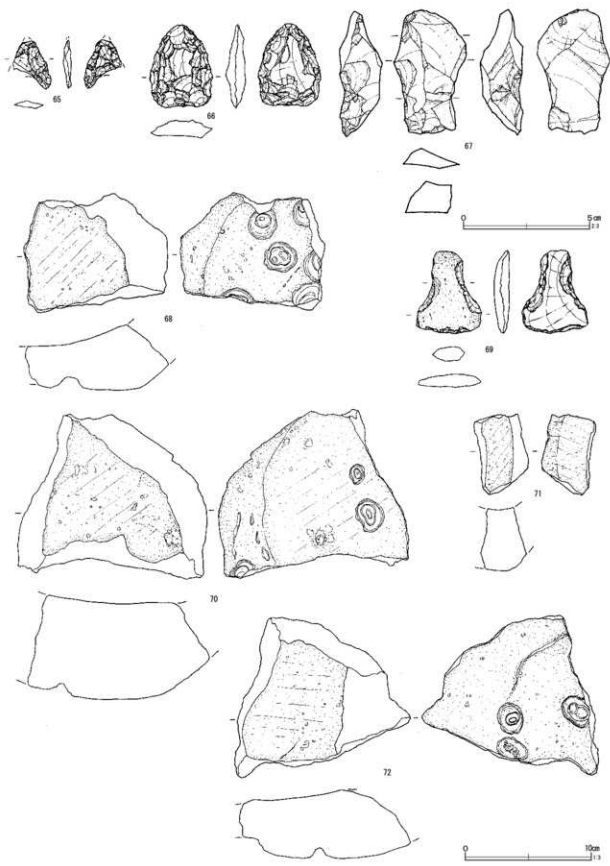
第42图 第7号住居跡出土遺物(1)



第43图 第7号住居跡出土遺物(2)



第44图 第7号住居跡出土遺物 (3)



第45图 第7号住居跡出土遺物(4)

28は波頂部を境に、スベード文やJ字文が描かれる土器で、口唇上面が平坦に面取りされ、内面はく字状に突出する。33は同一個体の可能性がある。

30・31は器面が刺突をもつ隆帯によって区画された土器で、クランク状に屈曲する可能性がある。

36～47には、曲線的な沈線文が描かれる胴部破片を一括した。胴中位が括れる深鉢形土器を主とし、向きの異なる上下2段J字文を基本としたモチーフ構成の土器であろう。

48は沈線間に列点が充填された土器である。この住居を壊して構築された第539号土壇に平行し、時期的に下降する破片であろう。

49～57には縄文のみの破片を一括した。50、53は横位方向に施文されており、縄によるモチーフ表現を意図したものと考えられる。

60は縦位の欄間文が施文された大型破片で、両耳葺の可能性がある。

第8号住居跡（第46・47図）

G・H—14グリッドで検出された縄文時代後期の柄鏡形住居跡である。第7号住居跡に近接しており、出土土器からみて、第7号住居跡に後続する住居と考えられる。住居の主体部は、径が6.5m前後の円形で、張り出し部の長さは1.6m、主体部との接続部の幅が1.6mで、先端部に向かってすぼまっている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦であるが、堅化面は検出できなかった。主体部中央に地床が検出された。炉は径が0.25m～0.3mの楕円形で、一部がピットと第539号土壇に破壊されていた。壁面に被熱した痕跡がわずかに認められた程度である。

炉から張り出し部方向の2m南側に埋蔵が検出された。埋蔵されていた土器は、称名寺深鉢形土器の胴部（第48図1）である。埋蔵の南側、張り出し部との接続部で検出されたピットは、長径0.5m×短径0.36mの楕円形で、垂直に掘り込まれていた。土層観察からみて、何らかを埋設した後に貼り床されたものと判断した。

61・62は無文の胴部破片で、61には粗いナデが施されている。62は胴下部の無文部であろうか。

石器（第44・45図64～72）

65は長脚無茎、66は両側が緩やかな弧を描く大型肉厚の石鏃で、基部が平坦なつくりである。65は先端部と左脚部を欠損している。

67は青緑色を呈するチャート製の二次加工を有する剥片である。厚剥片を素材とするが、主要剥離面は節理により不規則な剥離面を呈す。二次加工は両側緑下半に施される。上緑部裏面には使用による考えられる微細な剥離痕が観察できる。

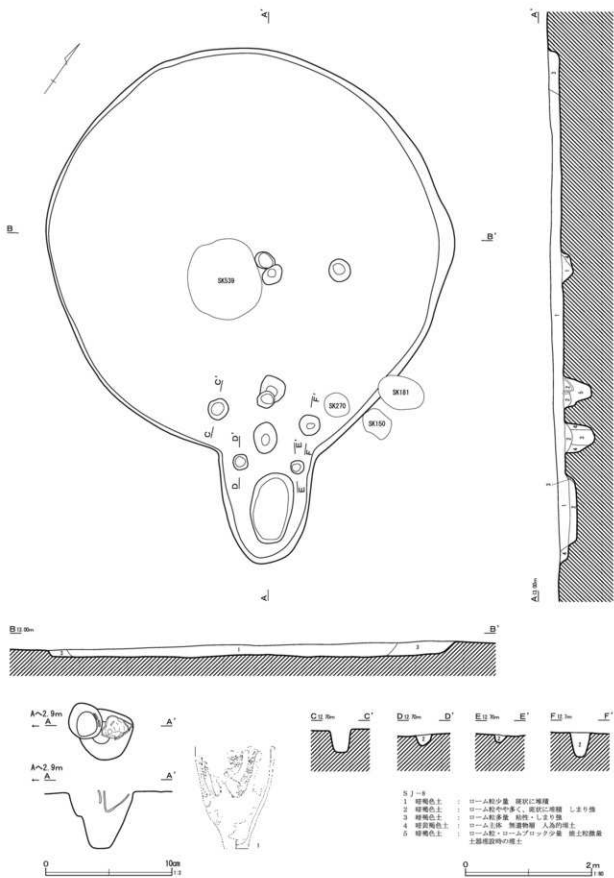
69は、撚形の打製石斧で、片面に自然面を残し両面に粗い剥離が施されている。

64・68・70～72は石皿の破片で、裏面に複数の窪みを有するものが多い。64・68～69は内帯から出土したものである。

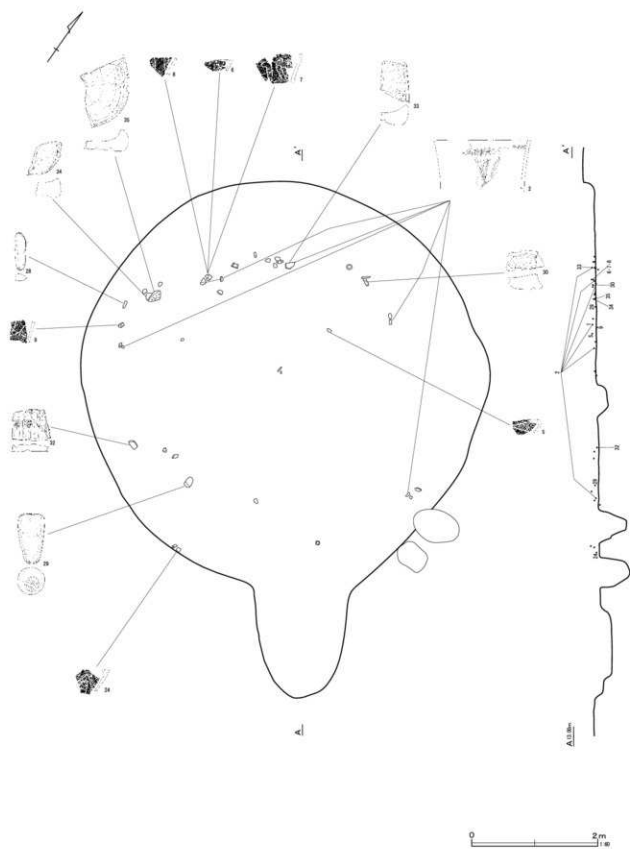
柱穴と考えられる小ピットは、埋蔵両側から接続部にかけて計4基が検出された。径は0.2m～0.35mで、埋蔵寄りが深く掘り込まれていた。土層観察では、壁寄りの第3層がこれらの柱穴周辺で認められなかったことから、内帯の端部と柱穴が一致しており、張り出し部が入り口と考えてよいであろう。

張り出し部には、長径1.14m×短径0.67mの隅丸長方形の掘り込みが検出された。覆土はローム粒の多い土層で、人為的に埋められた可能性がある。

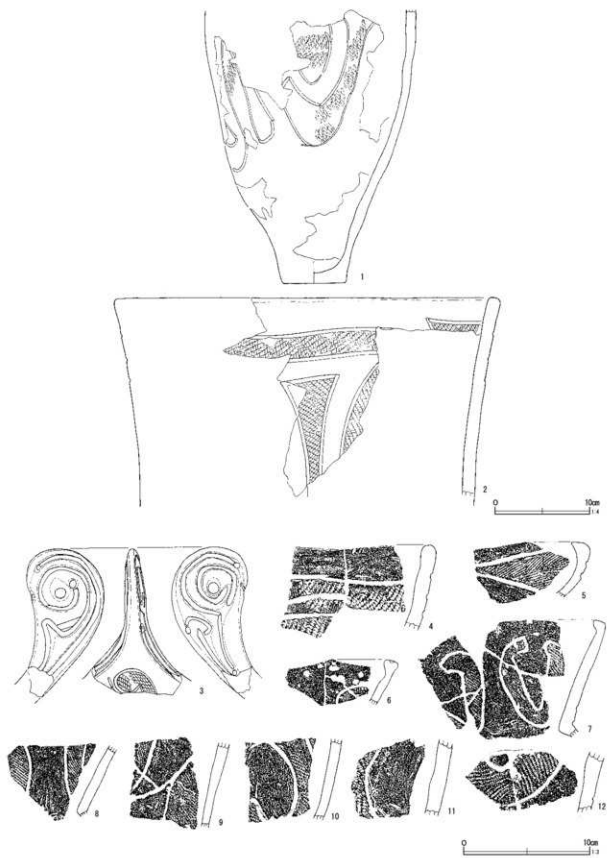
遺物の出土状況は示唆的であった。即ち、住居跡の壁よりに認められた第3層はほぼ垂直に立ち上がり、土質とともに、第1層とは不整合面を形成していた。第47図に示した遺物の出土状況は、第3層と第1層の境界にあたり、壁に沿うように分布していたことや、第3層中では遺物が出土しなかったことから、第3層が人為的に形成された内帯で、これに沿って出土した遺物群は、内帯の壁面に貼り付けられたような状況であったと考えられる。



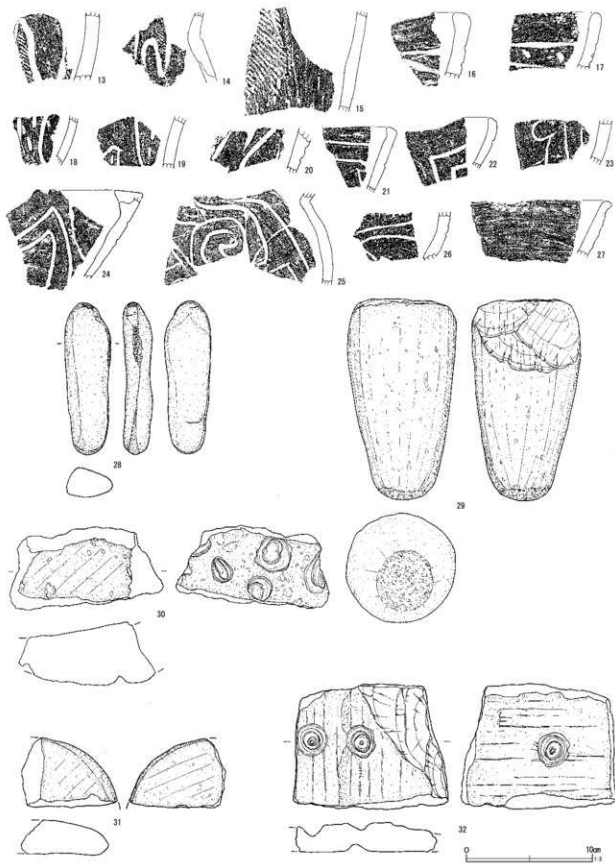
第46図 第8号住居跡



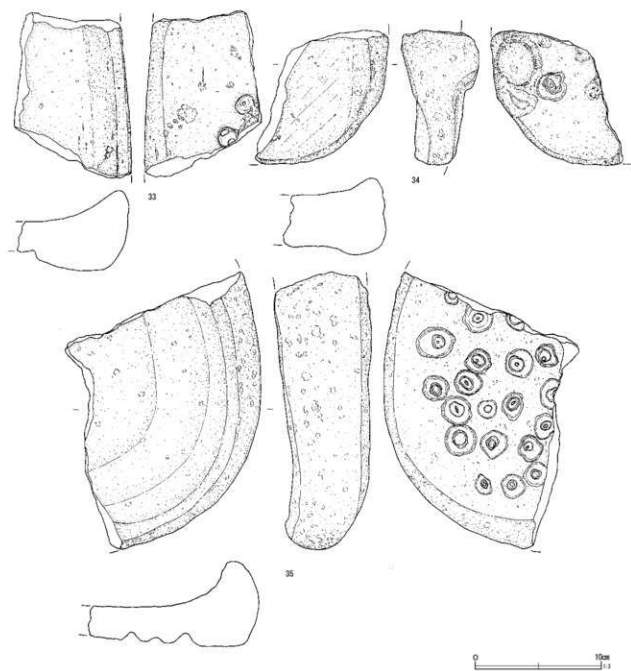
第47图 第8号住居跡遺物出土状況



第48図 第8号住居跡出土遺物 (1)



第49图 第8号住居跡出土遺物(2)



第50図 第8号住居跡出土遺物(3)

第8号住居跡出土遺物

土器 (第48・49図1～27)

1は炉の前方で検出された埋篋である。体上半部が欠損し文様構成の詳細が不明瞭だが、2段のJ字文が崩れた文様と考えられる。全体に風化が著しく、部分的に器面が剥落している。砂粒を多く含み、色調は暗褐色である。底径6.4cm、現存高29cm。

2は大型の深鉢で、他に同一個体の口唇部破片がある。1とはネガ・ポジが逆転した土器であろう。口径39cm、現存高21cm。

3以下に破片を一括した。3は波状部両側に、孔を中心に刺突と沈線文が施文される。残存部位から、体部文様は7と同種と考えられる。

6・7は屈曲部を挟んで、体上半が強く外反する深鉢形土器で、4単位波状口縁であろう。閉塞した沈線文より、地がスベード文となるモチーフである。

7～14は胴部破片で、詳細不明。15は微隆起線が

垂下する加曾利E式である。

16～20は沈線文間に列点が充填された土器である。全体に沈線が細く列点も疎らである。21～26は沈線のみで文様構成された土器である。モチーフは縄文を伴う6・7に近似し、縄文が欠落した土器であろう。25は24の体下部に相当すると思われる。

石器 (第49・50図28～35)

28は砂岩の叩石で、右側縁部から上端にかけて敲打による潰れが顕著に認められる。29は敲打により整形された石棒の基部で、欠損後、欠損面を中心に全面が研磨されている。

31は磨石、32は凹石、30、33～35は石皿で、全て欠損品である。これらの多くの多くは内帯の壁面から出土したもので、あたかも敷石住居の壁のような再利用のされ方である。33～35は本来は縁辺部が縁取り状に高く、長方形に整えられ後期に特徴的な形態であったと思われる。34は脚付である。

第9号住居跡 (第51・52図)

L・M-12グリッドで検出された住居跡である。南西から北東壁にかけてが第1号溝の掘削によって失われている。また中央部分が樹木の根による擾乱を受けていたため、床面の遺存状況が良くなかった。

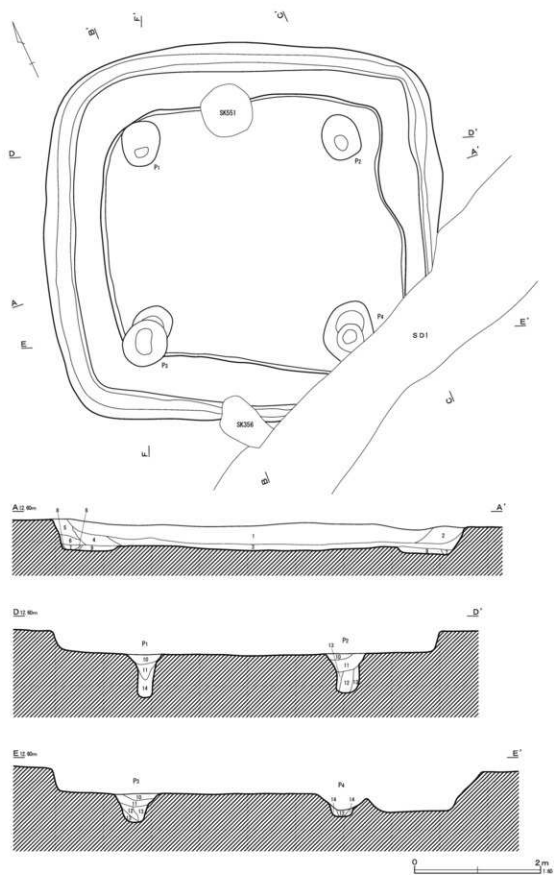
径が6.0m～6.24m、4本の支柱穴を持つ隅丸方形の住居跡である。P3の柱穴には新旧が確認されたことから、修復が行われたものと考えられる。柱穴の径は、P1=0.7m×0.6m、P2=0.7m×0.6m、P3=0.7m、P4=1.2m×1.0m前後で、深さはそれぞれ0.68m、0.62m、0.44m、0.32mである。このうちP2とP4には柱痕が確認できた。

住居の壁はほぼ垂直に掘り込まれ、検出面からの深さは0.5mである。覆土は上層が有機物成因と考えられる黒色土が主体で、床面近くではロームブロックを多量に含んだ土質となる。実際ではローム主

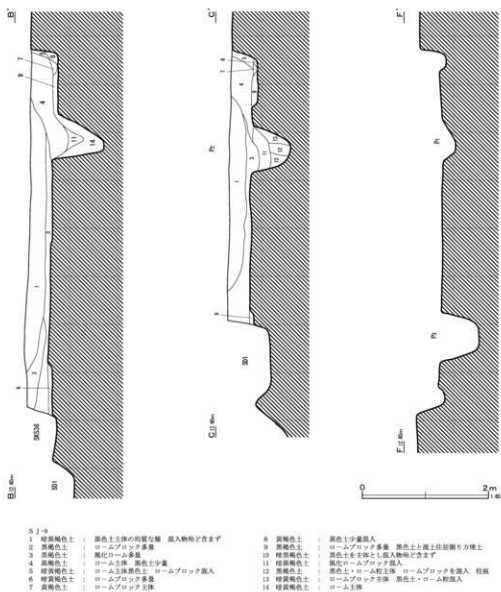
体の土層が検出されたが、壁の崩落土と考えられる。

床面は平坦で、壁際から柱穴にいたる間が溝状に掘り込まれており、ロームブロックを含む黒色土やロームブロック層で充填されていたことから、住居の掘り方と判断した。

住居の調査開始当初は、周辺部から後期安行式土器が出土していたこともあり、該期の住居跡と考えていた。しかし、覆土内からは縄文時代後期初期を主体に後期後半の土器片が出土し、時間的な纏まりが見られなかったことや、炉が検出されなかったこと、覆土の堆積状況と土質、掘り方の形状などから平安時代の所産と判断した。同じ形態の第13号住居跡が、この住居跡の北側で検出された。カマドをもつ通常の竪穴住居とは使用目的や機能を異にした遺構と考えられる。



第51图 第9号住居迹(1)



第52図 第9号住居跡 (2)

第10号住居跡 (第53図)

I・J-12グリッドで検出された加曾利EⅢ式古段階と考えられる住居跡である。この住居跡は、遺構検出作業において埋甕が検出されたことから、周辺部を精査したところ、埋甕の北西側でさらに小型の埋甕が検出された。また後者の埋甕をばさんで対ビットが検出されたことから、住居跡の存在を想定して調査を進めた。

2 基の埋甕にベルトを設定し調査を進めた結果、当初に検出された埋甕は炉であること、後者が入口

部の埋甕であることが判明した。このことから、第10号住居跡は、当初から掘り込みが極めて浅いために壁が流出した住居跡と推定した。

さらに地山面を観察すると、周辺部とは異なり色調が灰白色気味で硬化した範囲が認められたことから、住居の主体部と判断した。主体部の周囲には地山面が弧状に高まっている範囲が検出できたことから、かつて住居の壁に沿って周境が存在した可能性を考え、慎重に作業を進めるとともに、壁や周境の存在を前提に等高線を作成した。

等高線でみると、住居跡の壁際を廻る高まりは、周辺部の地山面から4cm程度の比高差しかなく、周堤の存在を積極的に主張する根拠とはなり得ず、等高線からみた住居周辺の検出状況は、必ずしも満足のいくものではなかった。住居の壁に沿って広がる高まりは人為的な盛土の可能性が考えられるが、居住当時にどの位の高さであったかは推定できない。上層の褐色土中に掘り込み面があったとしても、住居本来の掘り込みは極めて浅く、盛土によって壁を作り出していた可能性も考えられる。

住居跡は堅化範囲をもとに推定すると、径が4.9m～5.2mの楕円形ないしは隅丸方形に近い平面形態で、埋甕炉は住居の中心部から埋甕寄りに位置しているものと考えられる。埋甕炉は径が0.5m前後で深さが0.3mの比較的浅い掘り込みで、有文の大型深鉢形土器（第54図1）と浅鉢形土器（第54図2）を組み合わせて埋設していた。

炉の北西側で検出された埋甕周辺は、近世期の土壌が多数掘られていたが、かろうじて破壊を免れていた。掘り込みは径が0.3m前後で、深さは0.14mである。口唇部と体下半を欠損した小型深鉢形土器（第54図3）が埋設されていた。

埋甕の両側で検出された柱穴は、径が0.4m前後で、深さはP1が0.5m、P2が0.4mである。位置的には入り口部の対ピットと考えられる。

周辺部も含めて綿密に遺構検出作業を行ったが、柱穴を検出することはできなかった。既に第7号住居跡や第8号住居跡でも触れたように、柄鏡形住居跡は柱穴を伴わないのが殆どであることから柱穴が堅く周囲の周堤か、或いは住居の壁際を廻る内帯に立てられていた可能性が高い。

埋甕の周辺を精査したが、近世期の土壌が掘り込まれていたこともあり、張り出し部は検出できな

かった。出土土器から見ても、柄鏡形住居の出現直前期と考えられることから、柄鏡形住居の構築手法が、前段階に遡る可能性も考えておくべきであろう。以上のことから、今後調査方法も含めて参考とすべき遺存状況といえよう。

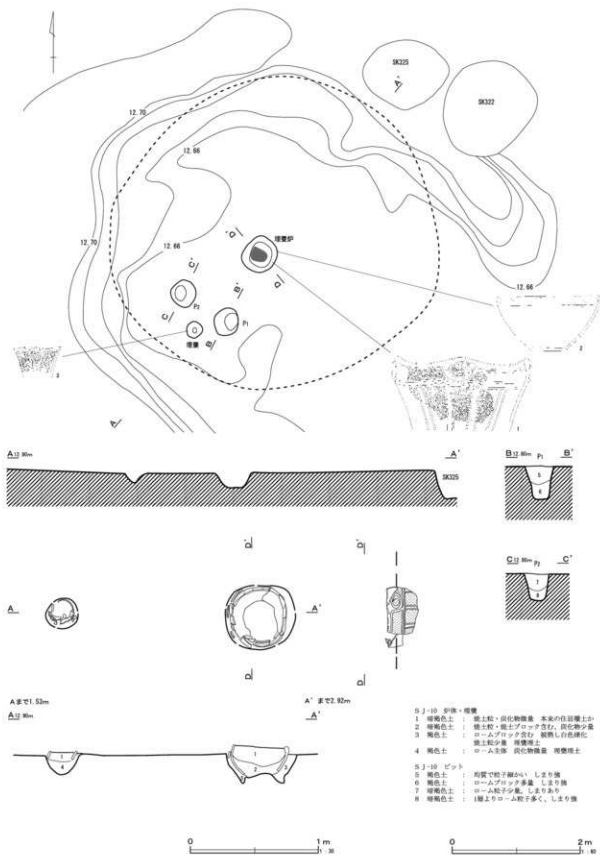
第10号住居跡出土遺物（第54図1～11）

1は炉に用いられた土器で、半周分が埋設されていた。4単位小波状口縁の深鉢形土器で、口縁部には波頂部直下の渦巻き文と、渦巻き文間の長方形区画文とで構成される土器である。口縁部の幅が比較的狭く、文様帯を区画する隆帯は断面カマボコ形で、両側に沈線が併走する。体部には幅がやや狭い磨り消し懸垂文が垂下する。胎土は砂粒が多く色調は橙色、口径52cmの大型土器で、現存高は27cmである。

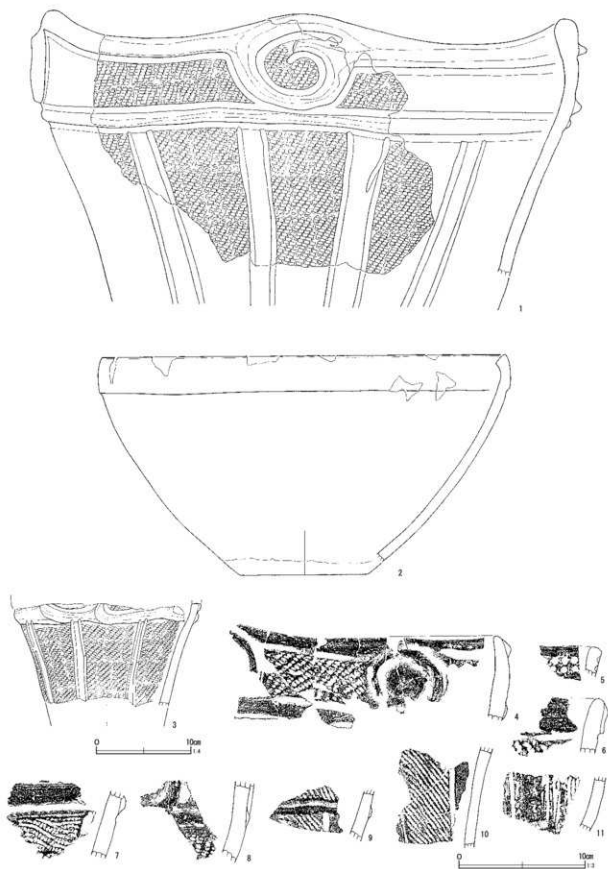
2も炉に埋設されていた土器で、1と同様に半周分が埋設されていた。無文の鉢形土器で、底部を欠いている。口唇外面が肥厚し、下端に沈線を引くことで鋭利な屈曲部を作出している。小礫を含むが精選された胎土で、色調は褐色、口径41cm、現存高21.8cmである。

3は炉の西側で検出された埋甕である。口縁部上半と体下部を欠損する。4に類似の口縁部文様の土器と思われ、文様帯区画や口縁部文様描出の隆帯も、断面カマボコ形である。胴部は幅広い磨り消し懸垂文で、1よりも古相である。硬質な印象を受ける土器で、色調は暗褐色。最大径20cm、現存高11cmである。

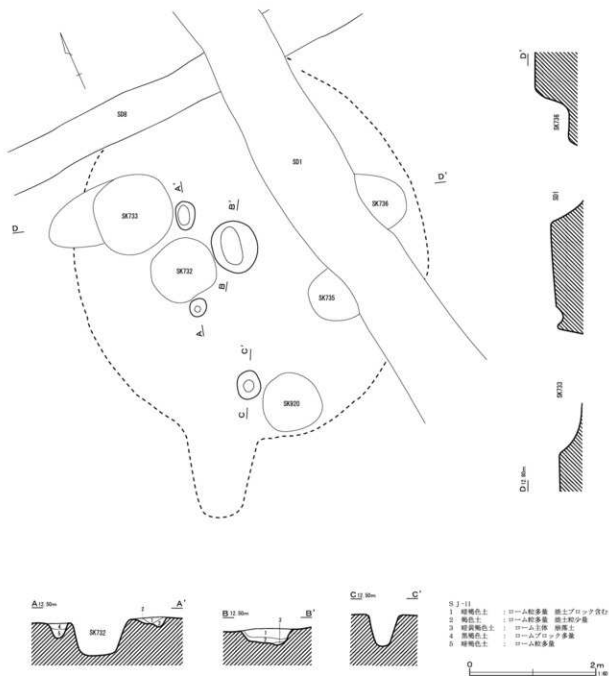
4以下に破片を一括した。4、6～10はキャリバー形深鉢の口縁と体部破片で、体部には磨り消し懸垂文が施文されている。11は懸垂文間に沈線が施文された曾利的な土器であろう。5は口唇部に円形刺突が施された破片で、やや時期が下る可能性がある。4、7～10は埋甕周辺から出土した。



第53図 第10号住居跡



第54图 第10号住居跡出土遺物



第55図 第11号住居跡

第11号住居跡（第55図）

D・E-10・11グリッドで検出された縄文時代後期の柄鏡形住居跡と推定される。住居跡は掘り込みがなく、遺構検出時において床面の堅化範囲とイ・ビットから住居の範囲を推定した。住居主体部は調査区を廻る第1号溝と、これに直行する第8号溝に切られており、床面には近世期の土壌が数多く掘ら

れていたことから、遺存状況は芳しくない。

住居は、北に開く小支谷に面して急激に立ち上がる台地の肩部から平坦部に位置し、検出された後期の住居では西端部に位置している。

推定した範囲では、主体部中央に地床炉をもち、前方に小ビットが検出された。小ビット前方の張り出し部は、地山面堅化と色調の変化から推定したが、

暫定的である。

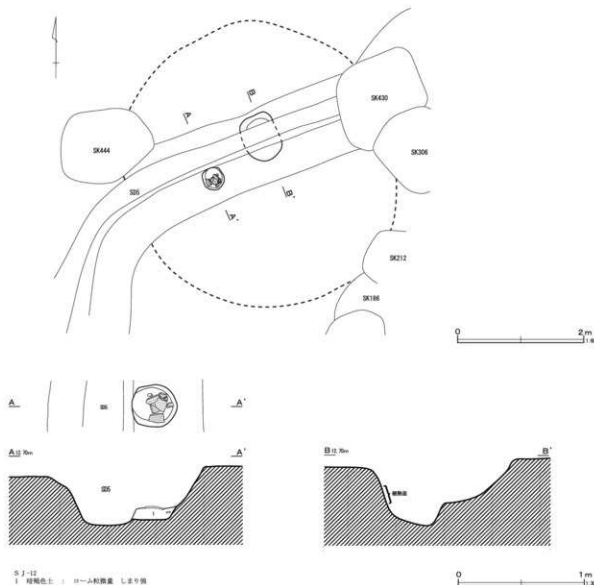
以上の検討から、この住居跡は、主体部が長径6m×短径5.5m前後、張り出し部が長さ約1.3m前後と推定された。

地床がは、長径0.85m×短径0.7mの楕円形で、深さは0.26mである。覆土には焼土粒や焼土ブロック

が堆積し、壁面も被熱赤変していたことから、炉と判断した。遺物は炉の覆土から、称名寺式土器を含む小破片が出土したに過ぎない。

第11号住居跡出土遺物 (第57図1～4)

1～3は無文で、2は深鉢、3は鉢形土器と思われる。4は称名寺式の胴部破片である。

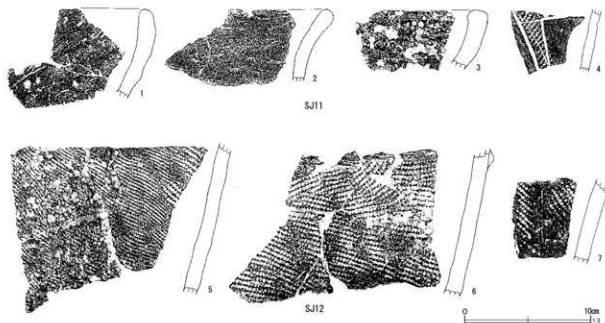


第56図 第12号住居跡

第12号住居跡 (第56図)

G-13グリッドに位置する。この住居跡は、第5号溝の調査中に溝の壁面から炉壁と考えられる被熱赤変箇所と、ピット状の掘り込み内から土器が検出されたことから、住居跡と判断した。

炉は第5号溝の北壁で検出された。被熱部分が少なく、形状を把握することができなかった。土器は溝南側のテラス状の平坦面で検出され、埋設に伴う掘り込みも検出できた。溝の検出面から土器までは、深さが0.5mと深いことから、埋設ではなくピット



第57図 第11・12号住居跡出土遺物

に伴ったものとも考えられる。

このため、溝の壁面をから住居の規模を推定するとともに、周辺部にトレンチを設定して精査したが、掘り込みや柱穴などは検出できなかった。

第13号住居跡（第58図）

I・J-10・11グリッドに位置する。住居跡は第8号溝と第9号溝によって壁と床面が破壊されているほか、壁や床面には、近世期の土層が多数重複しており、遺存状況が良好とはいえなかったが、形状は把握することができた。南北壁が6.5m、東西壁が6.8mで、平面形態は概ね隅丸方形といえる。第9号住居跡よりもやや大型といえる。検出面からの深さは0.4mで、床面は平坦である。2条の溝に破壊されていたが、床面では4基の柱穴が確認できた。径はP1=0.45m、P2=0.6m前後、P3=0.6m×0.7m、P4=0.65mで、方形ないしは長方形に掘り込まれていた。床面からの深さは、各々0.4m、0.47m、0.63m、0.5mである。第9号住居跡と同様に、住居の

第12号住居跡出土遺物（第57図5～7）

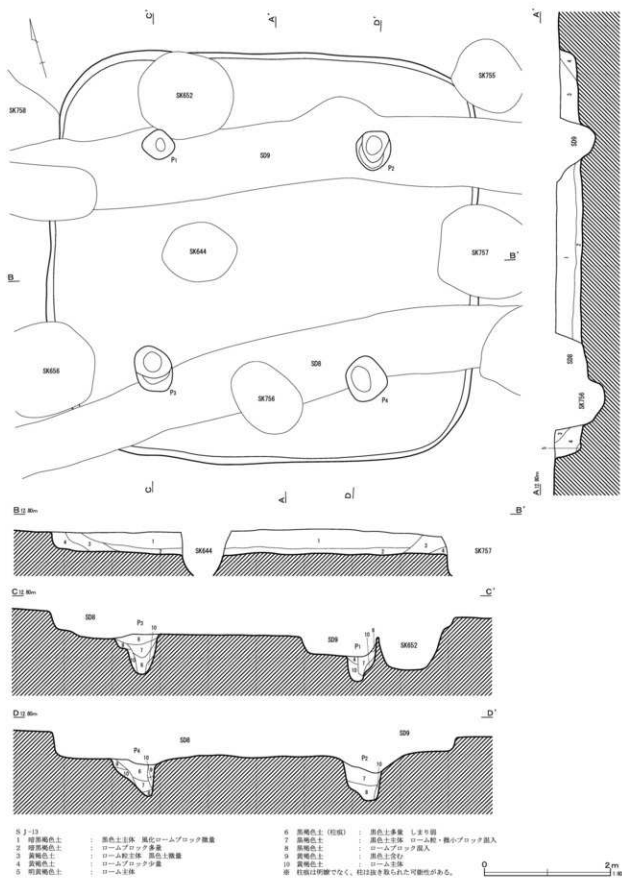
掲載した資料はいずれもピット状の掘り込み内から出土した破片である。何れも縄文施文された破片である。7は施文間隔が開くもので、後期の施文である。

床面ではがが検出されず、カマドも存在しない。

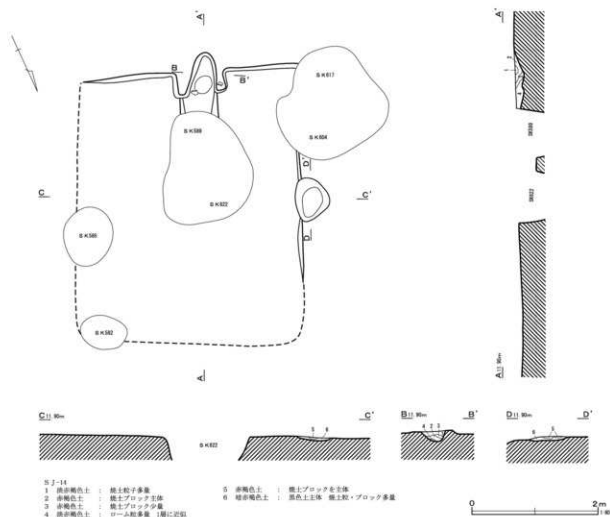
この住居も第9号住居跡と同様に、覆土は有機物由来と考えられる黒色土が堆積し、壁寄りではロームを主体とする堆積が認められた。住居跡からは遺物が殆ど出土せず、僅かに土師器甕（第61図1）が出土したに過ぎない。この住居の出土遺物によって、第9号住居跡も含め、平安時代に帰属するものと判断した。

第13号住居跡出土遺物（第61図1）

この住居跡に伴うと考えられる遺物は、図示した1点のみである。1は土師器甕で、口縁が外反し、口唇部に沈線が廻る。体部はヘラケズリされている。砂粒を多く含み、色調は淡褐色。口径27.4cm、現存高7.7cmである。



第58図 第13号住居跡



第59図 第14号住居跡

第14号住居跡 (第59図)

N-10グリッドで検出された。住居跡は掘り込みが浅く、北から東壁の一部が残存していたが、西から南壁にかけては壁が失われていた。また、近世期の土壌によって壁や床面が破壊されていたため、詳細が把握し難かった。

住居跡は長径4.3m×短径3.6m前後の長方形と推定される。北壁にカマドを持ち、ソデ芯は地山の削り出しである。煙道から焚口天井部は既に破壊され、

覆土からも痕跡を見出すことはできなかった。焚口部は床面を浅く掘り込んで形成されていたが、近世期の土壌によって破壊され、詳細は確認できなかった。遺物はカマド内から環(第61図2)や土師器甕の破片が出土した。

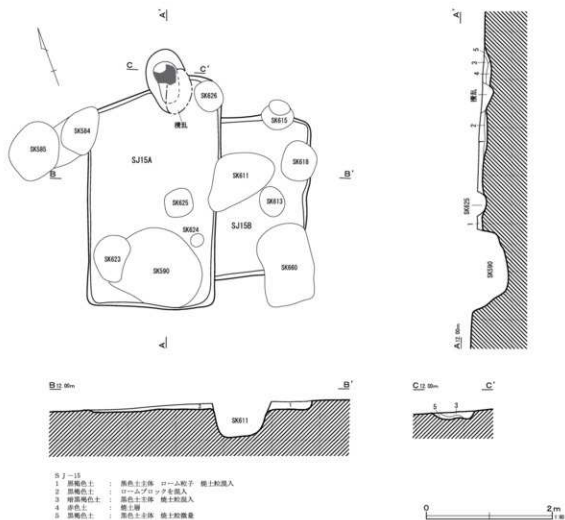
第14号住居跡出土遺物 (第61図2)

2は酸化焙焼成の須恵器高台碗である。胎土に白針状物質を含む。浅黄橙色で、推定底径7.4cm、現存高4.3cmである。

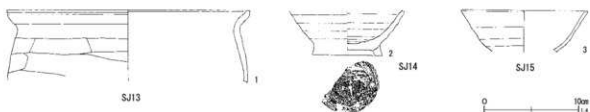
第15号住居跡 (第60図)

N-10グリッドで検出された。今回の調査で検出された東端の住居跡で、原市沼川に緩やかに傾斜する台地の肩部に位置している。

住居跡は2軒が重複した状態で検出された。第15A号住居跡は、長径3.67m×短径2.0mの長方形で、検出面からの深さは0.13mである。掘り方面に貼り床を施し、平坦な床面を形成していた。北壁隅で検



第60図 第15号住居跡



第61図 第13・14・15号住居跡出土遺物

出されたカマドは焚口部に焼土が堆積していたが、ソデや天井部は残存していない。

第15B号住居跡は第15A号に壊され、カマドも残存せず、掘り込みもほぼ同じ深さであったことから、全容が不明である。残存部位の南北壁は長さ2.53mである。東西に長く、北壁にカマドをもつ住居である

と考えられる。この住居跡も近世期の土域によって、壁や床面が破壊されていた。

第15号住居跡出土遺物 (第61図3)

3は第15A号住居跡から出土した、酸化焰焼成の須恵器碗である。精選された胎土で、浅黄橙色、口径11.2cm、現存高4.5cmである。

第16号住居跡 (第62図)

M-10グリッドで検出された住居跡で、原市沼川に緩やかに傾斜する台地の平坦に位置している。住居跡には掘り込みがなく、床面の硬化部分も検出できなかったことから、石囲炉と柱穴の配置状況から形状を推定した。

住居跡は長径6.4m×短径5.7m前後の隅丸長方形で、南西の入り口部寄りに石囲炉を有する、第10号住居跡に近似した形態と考えられる。

石囲炉の一部は、陥穴である第63号土壌の埋没土上に構築されていた。径0.8mの円形で、断面逆台形に掘り込まれている。ローム土によって壁の周囲を填圧するとともに炉石を固定していた。炉石には石皿の破片が再利用されていた。

住居跡に伴うと考えられる5基の柱穴配置は一定していないが、炉の両側と奥壁寄りで検出されたことから、3本柱の太木式的柱穴配置が想定される。各柱穴の径は、P1が0.6～0.65m、P2が0.45m、P3が

第17号住居跡 (第64・65図)

G-11グリッドで検出された縄文時代中期後半の住居跡である。この住居も近世期の土壌や樹木の根による擾乱が著しく、壁の立ち上がり不明瞭な箇所が多かった。

住居跡は長径5m×短径4.5mで、南北がやや長い隅丸長方形である。検出面からの深さは0.3mで、平坦な床面は炉の周辺が硬化しており、貼り床の範囲とほぼ一致している。

壁に沿って廻る周溝は、南壁中央と奥壁北東部で途切れており、南壁に入り口が存在したとみてよいであろう。周溝の幅は0.2m前後で深さは0.1m程度である。周溝内には細い柱穴が掘り込まれており、壁の崩落を防ぐための養生を支える杭跡と考えられる。

炉は床面中央のやや奥壁寄りに位置している地床炉で、土壌に破壊され詳細は不明である。

6基が検出された柱穴のうち、主柱穴はP1～P4

0.6m、P4が0.43～0.55m、P5が0.5～0.65m、深さは各々0.2m、0.13m、0.26m、0.1m、0.12mである。P1から出土した土器から、中期末葉と判断した。

第16号住居跡出土遺物

土器 (第63図1～5)

1・2はP1覆土から出土した破片である。1は両耳壺で、渦巻き文と長方形区画文の口縁部文様と考えられる。2は深鉢の頸部破片である。3～5は遺構検出時に出土したもので、4・5は同一個体である。堀ノ内式に比定され、住居との関連性は薄い。石器 (第63図6～10)

出土した石器はすべて炉石として再利用されたものである。すべて磨石で、9は研磨により、表面中央が溝状に湾曲し窪んでいる。8は板状礫を素材とし、剥落が激しいが2つの明確な窪みが観察できる。9を除き、何れも凹石としても利用されていた。石材は7が閃緑岩、他は凝灰片岩である。

の4基である。P5・P6は入り口部天井部の梁を支えた柱穴と考えられる。P1～P4の径は0.3m前後で、深さはP1=0.68m、P2=0.82m、P3=0.54m、P4=0.95mである。

擾乱を受けていたため遺物量は少なく(第65図)、器形復元できる資料は、南壁から東壁に沿った床面上から出土したに過ぎない。

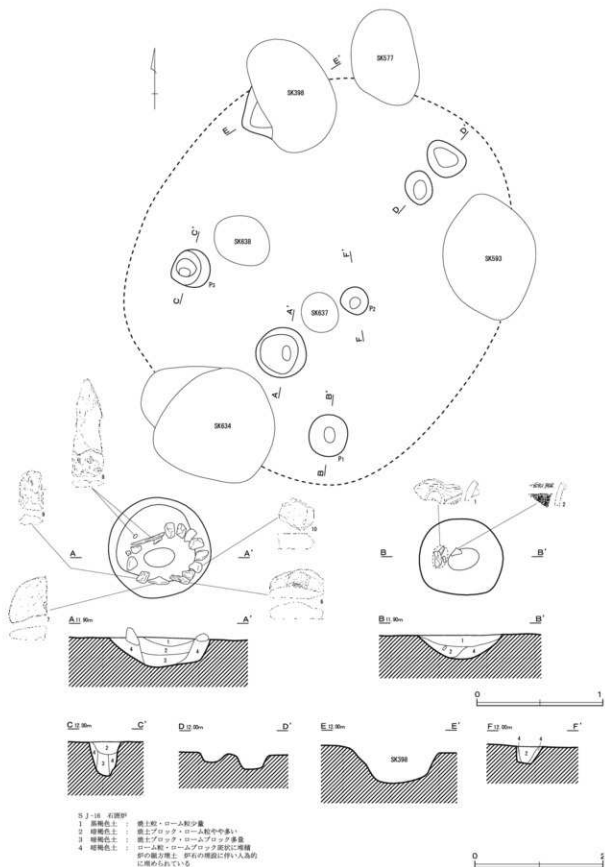
第17号住居跡出土遺物

土器 (第66・67図1～18)

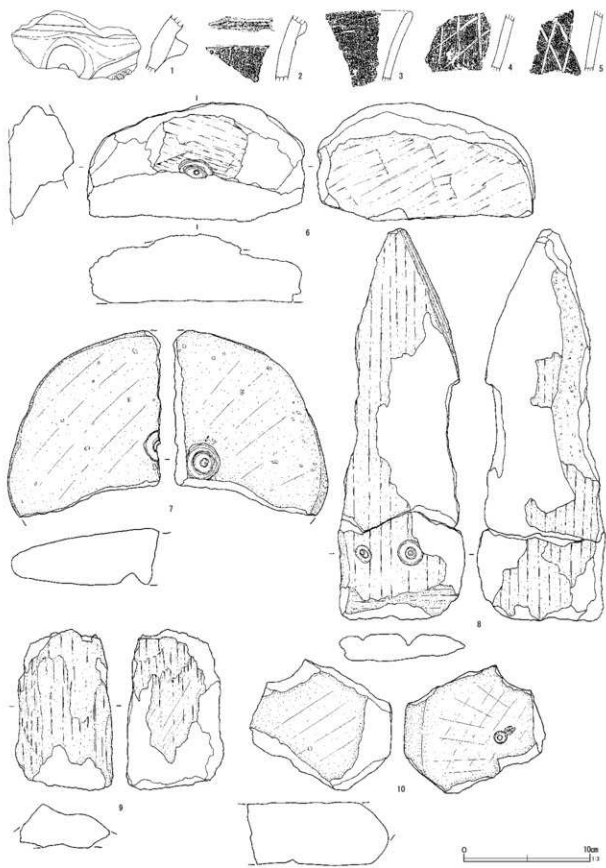
1は口縁が内屈する深鉢形土器である。口唇下に沈線が廻り、体部は押圧が施された隆帯が垂下している。管利式の要素が見られ、加管利E式の変形を受けた資料であろう。地文はLR、口径18cm、現存高17.6cmである。

2は縄文4単位の波状口縁鉢形土器である。無文でヘラナデ整形されている。口径26.2cm、現存高13.4cmである。

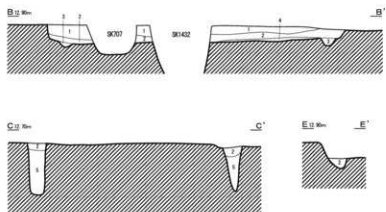
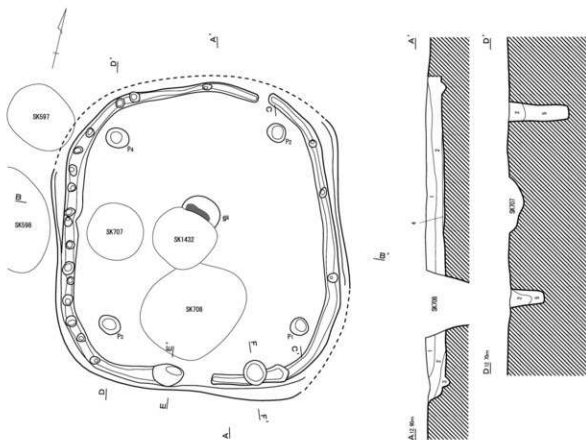
3は連弧文系土器で、文様はRL地文上に、半載



第62図 第16号住居跡



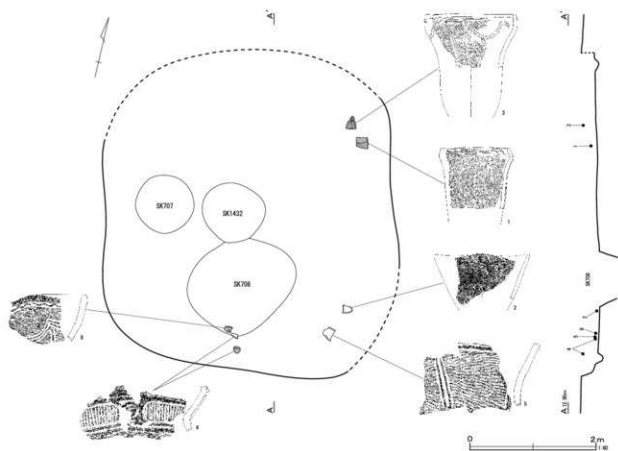
第63图 第16号住居跡出土遺物



- S. J. 17
- 1 砂褐色土 : ローム和赤土、ロームブロック少量・粘土和陶器・しまり漆
 - 2 砂褐色土 : ローム和赤土、粘土粒、灰化物少量・しまり漆
 - 3 砂褐色土 : ローム和赤土、粘土粒和灰化物・砂土
 - 4 褐色土 : ローム和赤土・ロームブロック少量・灰濁
 - 5 砂褐色土 : ローム和赤土・ロームブロック少量・しまり漆



第64図 第17号住居跡



第65図 第17号住居跡遺物出土状況

竹管内面により描かれた弧線に接して直線と蛇行の沈線が垂下する。竹管内面を強く施文したため、沈線間が磨り消されたような施文となっている。

4～7は口縁部文様帯をもつキャリパー形深鉢の破片である。4は口縁部が強く外反し、区画内に縦沈線が充填された曾利風の土器である。5は2条の隆帯による懸垂文である。7は2条の半截竹管による懸垂文で、沈線間は磨り消されない。

8～12は連弧文系土器である。口唇直下の平行沈線間に8は交互刺突が、9・10は単列の刺突が施されている。地文は9がR、12がLR、8・10・11が

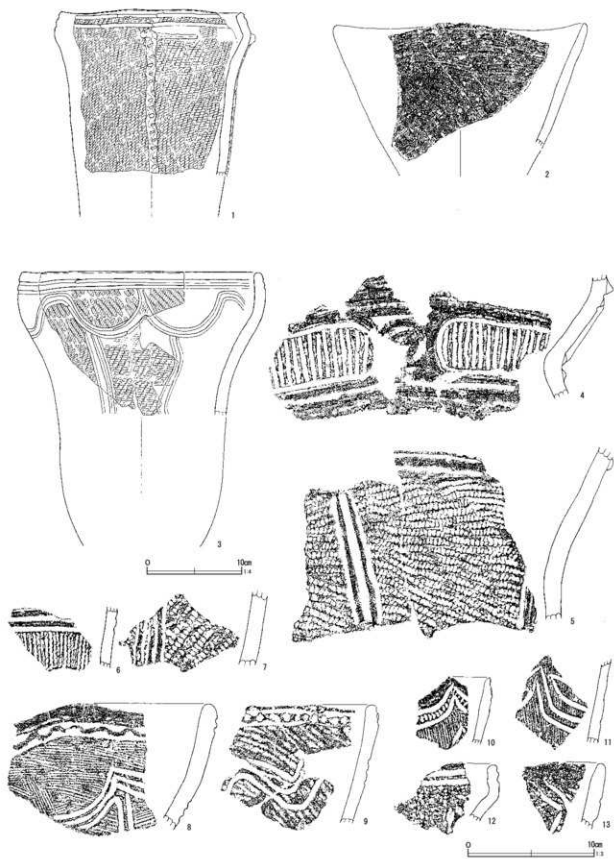
櫛歯状工具による条線で、10・11は同一個体である。

13は連弧文の変形と考えられる。14は条線地文の粗製の深鉢であろう。

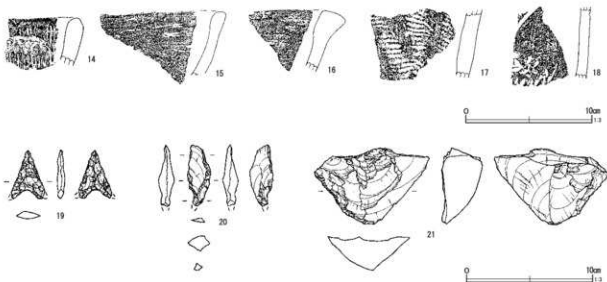
15・16は無文の鉢ないしは浅鉢型土器、17はL原体が斜位回転施文された後期的な土器で、混在と思われる。18は曾利風の印象を受ける破片である。

石器 (第67図19～21)

19は抉りのはっきりと入った凹基の石錐である。20は小型の石錐であるが、機能部を欠損している。21は剥片の左側縁部に、削器状の粗い剝離を施した二次加工を有する剥片である。



第66图 第17号住居跡出土遺物 (1)



第67図 第17号住居跡出土遺物(2)

第18号住居跡 (第68図)

F-6グリッドで検出された縄文時代後期の住居跡である。近世期の第13号溝や土壌によって、壁や床面が破壊されていたが、出土状況から、柄鏡形住居跡であったと考えられる。原市沼間に面して緩やかに傾斜する台地上に構築されていたため、東壁が消失しており、全容が把握したいが、主体部は径が6m前後の円形であったと想定される。検出面からの深さは、西壁側最深部で0.22mである。床面は平坦で、堅化面や柱穴等は検出できなかった。

床面のほぼ中央部に地床炉があり、その南西側には埋甕が検出された。地床炉は径が0.9m前後の楕円形に近く、床面からの深さは0.16mで、皿状に掘り込まれ、焼土や炭化物が堆積していた。

埋甕は径が0.35m～0.45mの楕円形である。上部が開き、下部はビット状に掘り込まれ、ローム土を充填した後に、底部を欠く称名寺式土器(第68図1)が埋設されるとともに、埋甕に接して石皿破片が設置されていた。埋甕は近世期の土壌によって口縁の一部が壊されていた。なお第13号溝の南側は、近世期に地山が削平されていたために、住居跡に伴う対ビットや張り出し部は検出できなかった。

第18号住居跡出土遺物

土器 (第69・70図1～6)

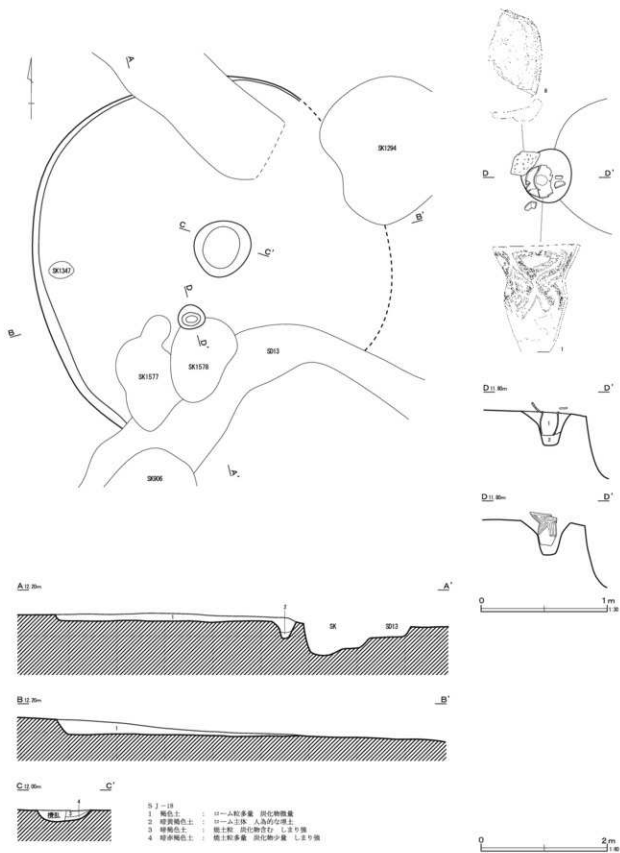
1は埋甕として埋設されていた土器である。体上半が直線的に開く称名寺式の深鉢形土器である。平縁で口唇上が平坦に面取りされている。文様は体上半の閉塞する三角形の平行沈線文間にJ字状のモチーフが描かれるが、ネガ・ポジの関係が不鮮明である。文様下端は閉塞し、底部にかけてヘラナデが施されている。口径22.8cm、現存高27.6cmである。

2～4は称名寺式の胴部破片を一括した。何れも沈線間に縄文が充填され、モチーフ間は磨り消されている。

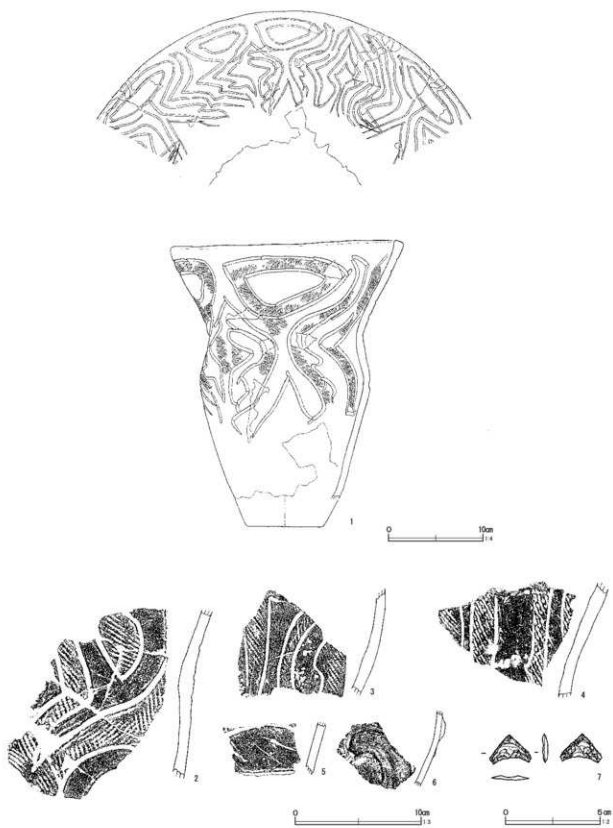
5は沈線のみで施文された土器で、体上半部破片であろう。6は瓢形土器で、2条の微隆起線によるJ字文を基本とする体下部破片である。

石器 (第69・70図7・8)

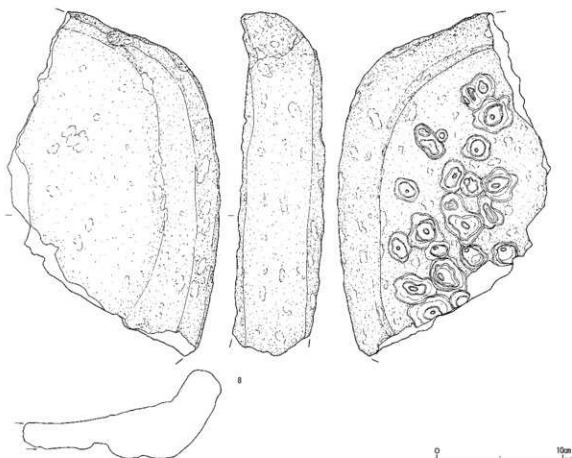
7は石鏃でやや寸詰まりで扁平な形状である。8は埋甕に接していた石皿で側縁部を丁寧に削りだした典型的な後期の石皿である。裏面には多数の窪みが認められる。



第68图 第18号住居跡



第69图 第18号住居跡出土遺物 (1)



第70図 第18号住居跡出土遺物(2)

第19号住居跡(第71図)

B-5グリッドで検出された。当該グリッドは台地の先端に近く、住居跡は北に開く小支谷に面して急激に立ち上がる、台地の肩部から平坦部に位置している。遺構検出時に、炭化物を含んだ暗赤褐色土の広がりが認められ、縄文早期から前期の破片が伴っていたことから、土質の差異を確認しつつ調査を進め、住居跡と判断した。

住居跡は長径4.7m×短径3.47mの隅丸長方形で、検出面からの深さは0.2mである。床面にはやや起伏が認められたが、貼り床は検出できなかった。炉は床面中央からやや奥壁寄り位置している。径は0.8m前後の円形で、壁は若干の傾斜を持って立ち上がり、床面からの深さは0.22mである。覆土下部には焼土層が堆積していた。

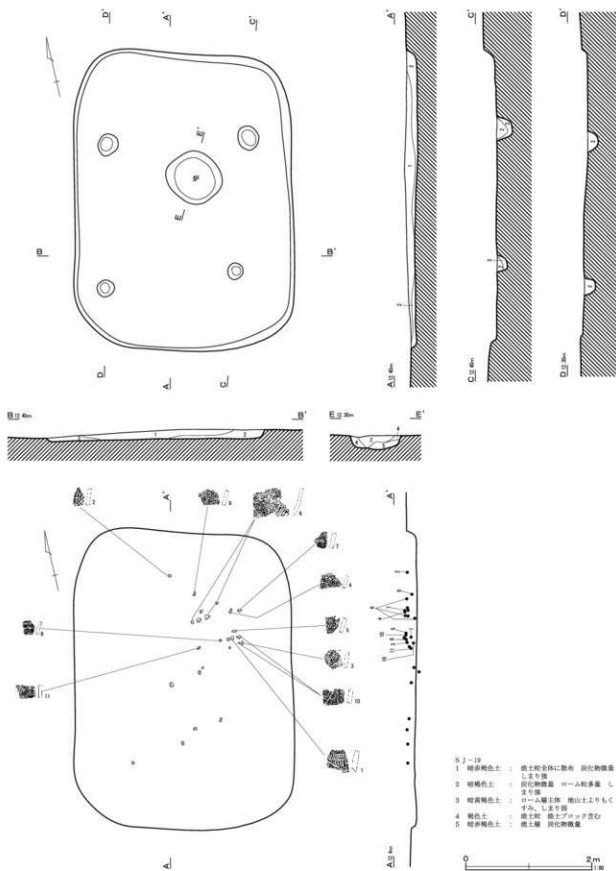
4本の柱穴は、壁からやや離れて位置し、径が0.2~0.3m程度で、深さはP2が0.25m、他は0.16m前

後と掘り込みが浅く、柱痕は確認できなかった。

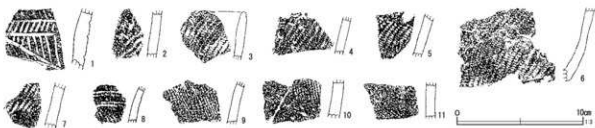
住居跡からの出土遺物は、炉の周辺に集中していた。出土遺物は早期沈線文系や条痕文系土器、羽状縄文系や諸磯式が含まれている。形態から前期中葉から後葉と推定されるが、不安定な出土状況で帰属時期は明確ではない。住居跡の周辺では早期前半~後半の遺物が出土していることや、早期の炉穴が検出されたことから、流れ込みによる混入の可能性もある。

第19号住居跡出土遺物(第72図1~11)

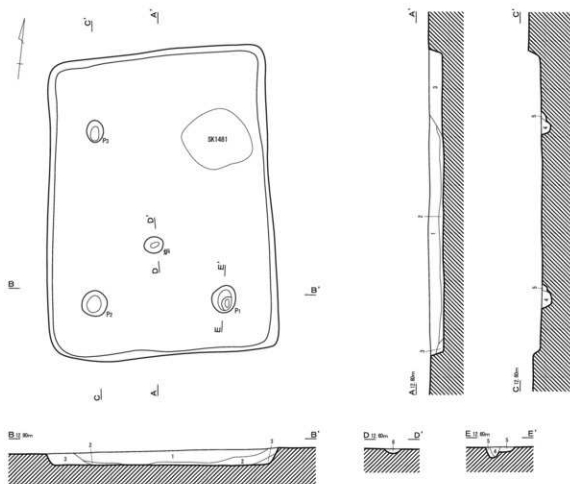
住居跡から出土した遺物は土器のみで、諸磯式を主に、早期土器が混在している。1は沈線文系、2は含繊維の絡条体圧痕文系土器である。3~7は0段3条の原体が用いられており、岡山式土器である。8~11は諸磯a式土器で、8には竹管文が施文されている。9~11は縄文施文の体部破片である。



第71図 第19号住居跡・遺物出土状況



第72図 第19号住居跡出土遺物



S J - 20

1 褐色陶土 : ローム状多量 灰化層・壁土貯蔵むしり残

2 灰褐色土 : 灰化層中やや多い 土器片

3 褐色陶土 : ローム主体 地上貯・灰化物微量

※本居跡から北東側の土層も掘上しているが、跡の存在がから、掘跡部へは掘上
思われる。第1層は赤みを帯びており、本層の紅がりが建機縁部のキーとなっている。

4 褐色陶土 : ローム状多量

5 褐色陶土 : ローム主体 しまり層

6 褐色陶土 : ローム状 ロームブロック多量 しまりや中強い

第73図 第20号住居跡

第20号住居跡 (第73・74図)

C-6・7グリッドで検出された。当該グリッドも調査区の西端部にあり、北に開く小支谷に面して急激に立ち上がる、台地の肩部から平坦部に位置している。第19号住居跡と同様の立地で、同住居の南側で検出された。遺構検出時の状況も酷似し、暗赤褐色土の広がりを基に調査を進めた結果、住居跡と判断した。

住居跡は、長径4.85m×短径3.55mの隅丸長方形で、検出面からの深さは0.2mである。規模や掘り込みの深さ、覆土の堆積状況、土質ともに第19号住居跡とほぼ一致している。

床面はほぼ平坦で、貼り床などは検出できなかった。床面中央から南壁寄りではがが検出された。規模は径が0.25m～0.3mの楕円形で、掘り込みは皿状で浅い。

近世期の第1481号土壌によって破壊されたため、

検出された柱穴は3本である。径はP1、P2が0.4m、P3が0.36m×0.24m、深さは各々0.17m、0.15m、0.14mと極めて浅い。

第74図に示すように、遺物は東壁寄りに集中していたが、まとまりに欠ける。第19号住居跡と同様に、形態は前期中葉から後葉と想定されるが、時期は決定し難い。

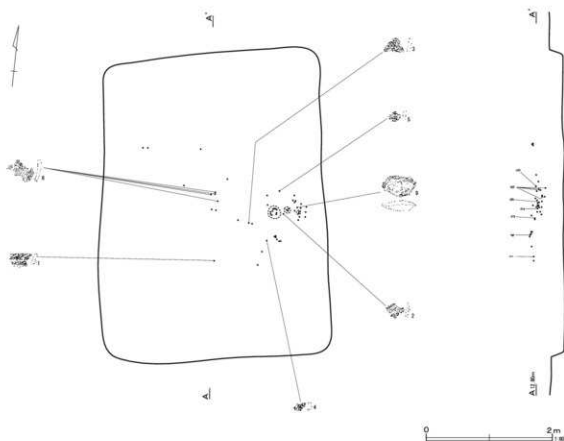
第20号住居跡出土遺物

土器 (第75図1～8)

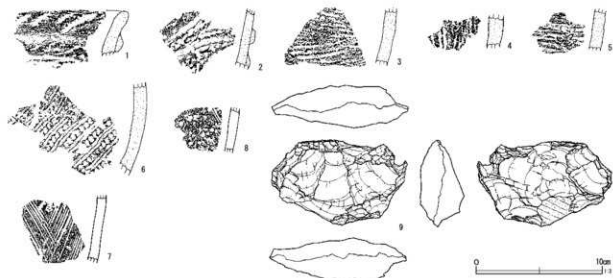
1は口唇部と口唇下の隆帯に結条体が押圧された破片で、2も同様の土器であろう。3～5は内外面に貝殻条痕が施文されている。6は直前段反摺りの原体が施文された関山式である。7・8は条線がX状に施文されており、前期末葉の土器であろう。

石器 (第75図9)

9は二次加工を有する剥片で、厚手のチャート素材とし下縁部に粗い剝面を施している。



第74図 第20号住居跡遺物出土状況



第75図 第20号住居跡出土遺物

第22号住居跡 (第76図)

D・E-3・4グリッドで検出された。平安時代の住居跡としては最も北に位置している。規模は長径5.18m×短径3.95mの長方形で、北東壁にカマドをもつ。検出面から貼り床面までの深さは0.2mで、掘り方面までは約0.27mである。

カマド西側から南西壁にかけて近世期の土壌が重複しており、壁や床面が破壊されていた。床面では2箇所の焼上の広がり確認できた。土層からは1軒と断定されたが、カマドの付け替えが行われたか否かを確認できなかった。

床面からはピットが検出されたが、この住居跡に伴うものとは考えがたい。

第24号住居跡 (第78・79図)

D・E-6・7グリッドで検出された縄文時代前期後半の住居跡である。江戸時代の第1号溝の掘削によって、壁や柱穴、炉などが失われており詳細を把握し難かったが、規模や柱穴の位置関係から、2軒の重複と判断した。調査時の所見では、第24A号住居跡の覆土が面的に安定していたことから、第24B号住居跡よりも新しく構築されたと判断した。な

第22号住居跡出土遺物 (第77図1～6)

1は酸化焙焼成の須恵器坏で、回転糸切底である。砂粒を多く含み、色調は橙・灰褐色。口径13.4cm、底径6cm、器高3.4cmである。

2はカマドから出上した高台碗である。細砂粒が多く、酸化焙焼成で浅黄橙色。底径6.2cm、現存高4.2cmである。

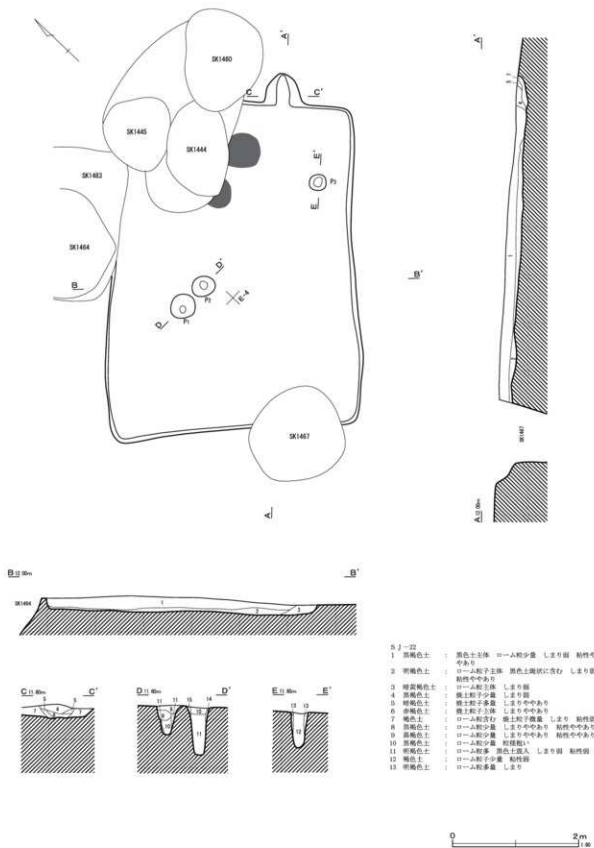
3はロクロ成形の土師器坏で、細砂粒が多く色調は浅黄橙色。口径13.2cm、現存高3.4cmである。

5は土師器コノ字甕で、体部はヘラズリされる。6も同様の甕で、同一個体の可能性が高い。体中位以下は斜位にヘラズリされる。

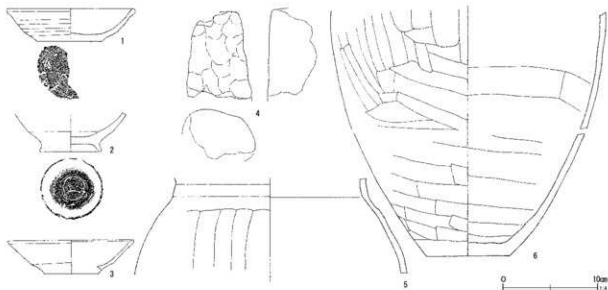
4は手捏ねの土製支脚である。

お、第14号溝は掘り込みが浅かったため、柱穴は残存していた。

第24A号住居跡は、柱穴P4・P5・P6とが有する住居跡である。柱穴は4本と考えられるが、1本は第1458号土壌の掘削によって失われている。住居跡の規模は、長径6.1m×短径4.0m前後の隅丸長方形と推定される。検出面からの深さは0.48mで、床面は平坦である。



第76図 第22号住居跡



第77図 第22号住居跡出土遺物

炉は床面の中央部に位置している。規模は1.1m～1.3mの楕円形で、床面からの深さは0.1mである。柱穴はP4が0.4～0.5m、P5・P6が0.4m前後、深さは各々0.48m、0.3m、0.26mである。P6では柱痕が確認できた。

第24B号住居跡の柱穴は、P1・P2・P3が該当する。本来は4本柱穴であるが、1本は第1号溝の掘削によって失われたものと推定される。柱穴の位置関係から、第24B号住居跡は、長径6m×短径4.2m前後の隅丸長方形と推定される。検出面からの深さは0.45mである。

柱穴の規模は、P1が0.4～0.45m、P2が0.5m、P3が0.2m、各々の深さは、0.3m、0.2m、0.33mである。

第79図に示した遺物の出土状況を見ると、第24B号住居跡に該当する第79図2～3は、第24A号住居跡出土土器に比較し、やや古手の段階に相当する。このことから、第24B号住居跡を諸磯a式古段階に、第24B号住居跡を諸磯a式新段階に位置づけて置きたい。

第24号住居跡出土遺物

土器（第80図1～16）

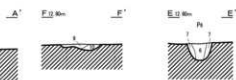
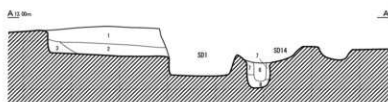
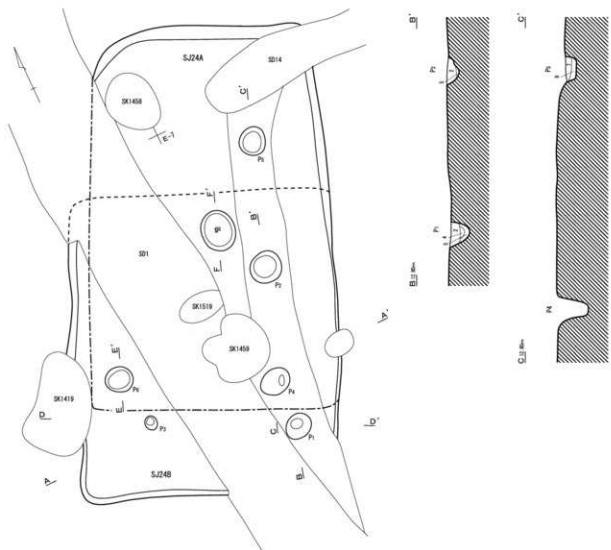
1は無文の口唇直下を廻る幅状文様帯に、鋸歯文が施文された土器である。文様帯の上下区画線は沈線施文後に連続押圧されている。体部地文は1段3条のRL横回転。口径16cm、現存高16cm。砂粒を多く含んだ赤褐色の土器である。

2は地文のみの破片から器形復元した。現存部の最大径19.6cm、現存高11.3cmである。

3以下には破片を一括した。3は多載竹管による沈線帯が重畳し、円形刺突が加えられた土器で、やや古手の様相をもつ。4は1と同種、5、7～9は磨り消し単位文の可能性のある破片で、8～9は浅鉢である。6は米字文系の土器である。10～16は縄文施文の破片を一括した。摺りの太さを異にし、附加条の如き効果をもつ原体もある。

石器（第80図17）

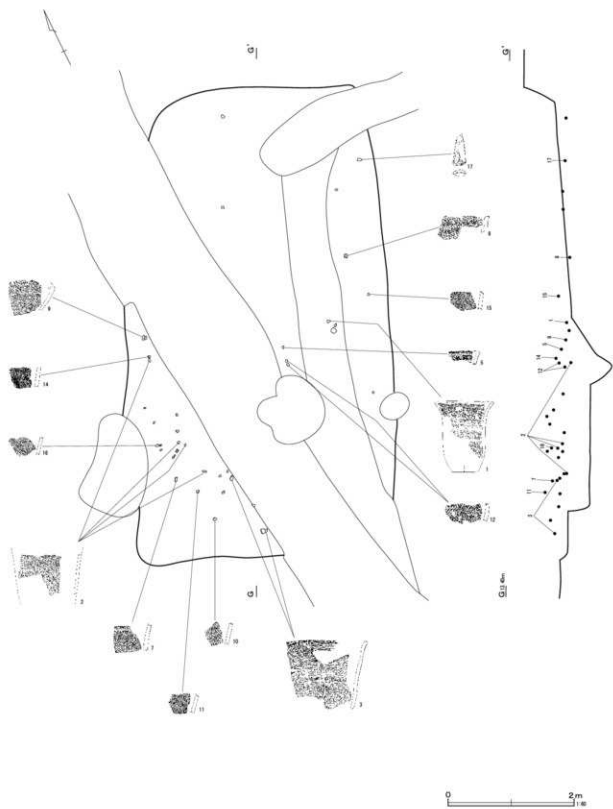
17は第24A号住居跡から出土した磨製石斧である。欠損後に刃部を再生し、最終的に叩石として利用している。



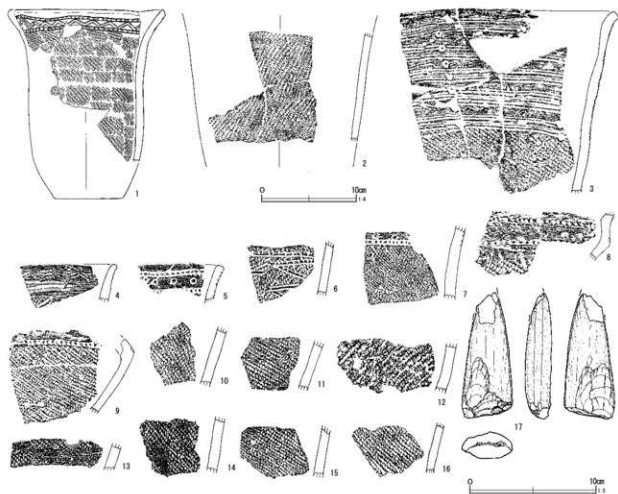
- 図 24
- 1 雑砂粘土 : ①→A粒多量 焼土粒少量
 - 2 雑砂粘土 : ①→A粒少量 焼土粒、灰化物微量
 - 3 雑砂粘土 : ①→A粒少量 焼土粒微量
 - 4 雑砂粘土 : ①→ムブロック主体 灰化物少量
 - 5 雑砂粘土 : ①→A粒多量 しまり部
 - 6 雑砂粘土 : ①→A粒少量 ムブロック主体 焼土粒、灰化物混入
 - 7 雑砂粘土 : ①→A粒少量
 - 8 雑砂粘土 : ①→ム主体 しまりあり
 - 9 雑砂粘土 : 焼土粒多量 ①→ムブロック・①→A粒混在
 - 10 雑砂粘土 : 焼土粒主体 ①→A粒、灰化物微量

0 2m

第78図 第24号住居跡



第79图 第24号住居跡遺物出土状況



第80図 第24号住居跡出土遺物

第25号住居跡 (第81・82図)

B-3・4グリッドで検出された縄文時代前期の住居跡である。台地の先端部に近く、調査区の最北部に位置する住居跡である。規模は長径5.0m×短径3.36mの隅丸長方形で、検出面からの深さは0.38m、現地表面から床面までは0.6mである。第25号住居跡の北半分は、地表面から人力により遺構検出作業を行った。その結果、第2層の中位から遺物が出土し始めたことから、住居の掘り込み面もおおよそ第2層中に存在したと考えられる。

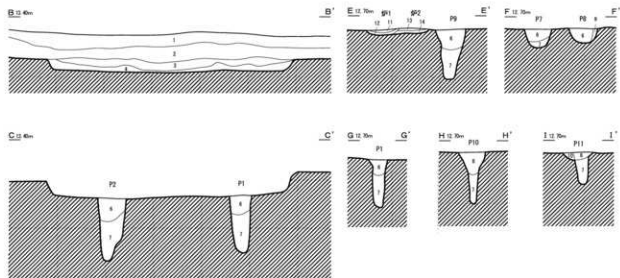
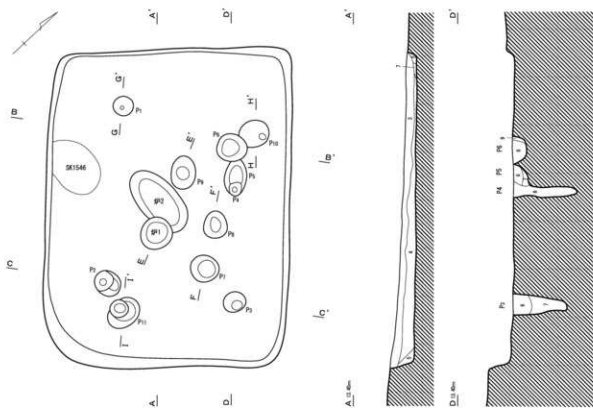
床面からは総数11本の柱穴が検出された。このうち深さが0.7m以上で、対応関係が確定できた柱穴はP1・P2・P3・P10である。P9はセンターピットであろう。このほかはP4を除くと0.2m～0.3m前後の浅いものが多く、全てを主柱穴とするには相互関係

が不明確である。遺構平面には重複関係が見られないことから、これら全てを建て替えや修復などに伴う柱穴とするには無理がある。

柱穴の規模は一様ではないが、P1=0.3m、P2=0.3m～0.4m、P3=0.4m、P4=0.2m、P5=0.3m×0.6m、P6=0.5m、P7=0.5m、P8=0.4m、P9=0.4m×0.53m、P10=0.5m、P11=0.4m×0.55m、深さは各々0.9m、1.0m、0.85m、1.0m、0.22m、0.22m、0.3m、0.22m、0.8m、0.8m、0.5mである。

床面中央から2基の枺が検出された。枺1は枺2を壊して造られており、規模は0.5mの円形で、深さが0.08mである。枺2は長径1.1m×短径0.65mの楕円形で、深さは0.08mである。

遺物は住居の中央部から南壁寄りに集中し、北壁寄りでは出土が疎らである。垂直分布では床面上の



5 J—25

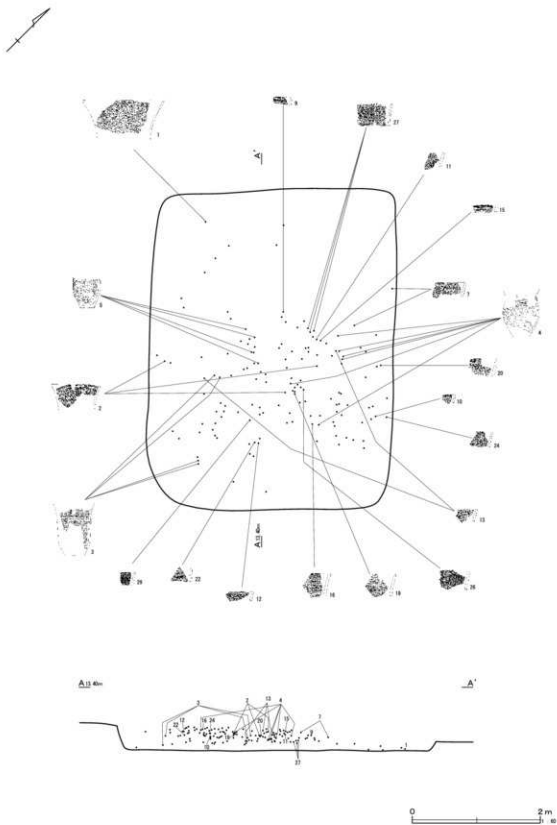
- 1 褐色土
- 2 埴輪土
- 3 埴輪土
- 4 褐色土
- 5 埴輪褐色土
- 6 褐色土
- 7 埴輪土
- 8 埴輪土

- 9 埴輪土
- 10 埴輪土
- 11 埴輪土
- 12 褐色土
- 13 褐色土
- 14 褐色土

- 15 埴輪土
- 16 埴輪土
- 17 埴輪土
- 18 埴輪土
- 19 埴輪土
- 20 埴輪土
- 21 埴輪土
- 22 埴輪土
- 23 埴輪土
- 24 埴輪土
- 25 埴輪土
- 26 埴輪土
- 27 埴輪土
- 28 埴輪土
- 29 埴輪土
- 30 埴輪土
- 31 埴輪土
- 32 埴輪土
- 33 埴輪土
- 34 埴輪土
- 35 埴輪土
- 36 埴輪土
- 37 埴輪土
- 38 埴輪土
- 39 埴輪土
- 40 埴輪土
- 41 埴輪土
- 42 埴輪土
- 43 埴輪土
- 44 埴輪土
- 45 埴輪土
- 46 埴輪土
- 47 埴輪土
- 48 埴輪土
- 49 埴輪土
- 50 埴輪土
- 51 埴輪土
- 52 埴輪土
- 53 埴輪土
- 54 埴輪土
- 55 埴輪土
- 56 埴輪土
- 57 埴輪土
- 58 埴輪土
- 59 埴輪土
- 60 埴輪土
- 61 埴輪土
- 62 埴輪土
- 63 埴輪土
- 64 埴輪土
- 65 埴輪土
- 66 埴輪土
- 67 埴輪土
- 68 埴輪土
- 69 埴輪土
- 70 埴輪土
- 71 埴輪土
- 72 埴輪土
- 73 埴輪土
- 74 埴輪土
- 75 埴輪土
- 76 埴輪土
- 77 埴輪土
- 78 埴輪土
- 79 埴輪土
- 80 埴輪土
- 81 埴輪土
- 82 埴輪土
- 83 埴輪土
- 84 埴輪土
- 85 埴輪土
- 86 埴輪土
- 87 埴輪土
- 88 埴輪土
- 89 埴輪土
- 90 埴輪土
- 91 埴輪土
- 92 埴輪土
- 93 埴輪土
- 94 埴輪土
- 95 埴輪土
- 96 埴輪土
- 97 埴輪土
- 98 埴輪土
- 99 埴輪土
- 100 埴輪土

0 2m

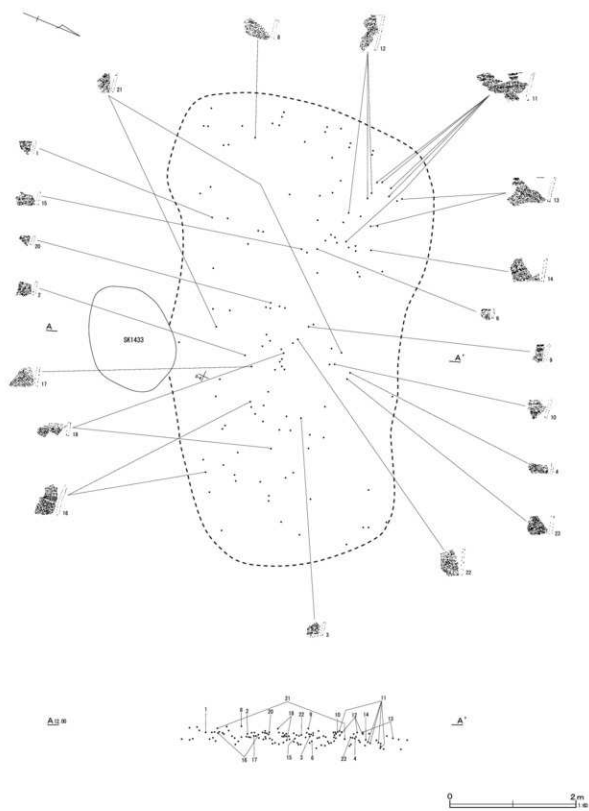
第81図 第25号住居跡



第82图 第25号住居跡遺物出土状況



第83图 第25号住居跡出土遺物



第84图 土器集中区出土状况

遺物が少なく、覆土第3層に集中している。このことから、住居跡の埋没が進んだ段階で、南側から廃棄されたものと考えられる。

第25号住居跡出土遺物

土器 (第85図1~30)

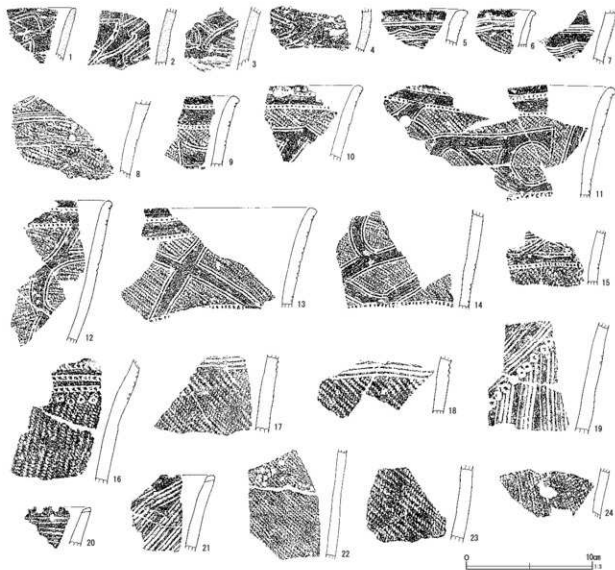
1は口縁が外反気味に開くコンパス文系の深鉢形土器である。地文上に平行沈線により横位多帯区画され、区画間に鋸歯文が施文されている。口径35cm、現存高12.8cm。

2は口縁が外反気味に開く深鉢形土器で、口唇は平坦に面取りされている。地文上に3条の竹管文が施文される。口径21.7cm、現存高12cm。

3は体下部から底部にかけてすぼまり、口縁が外反気味に開く諸磯a式に特徴的な深鉢形土器である。文様帯区画と文様は竹管文で描かれ、地文が磨り消されていることからやや新しい様相と見られる。最大径15.6cm、現存高16.6cm。

4は体部が張る深鉢形土器で、口頸部には無文地上に格子目状と推定される半截竹管文が施文されている。地文は撚りの太いRLである。体部最大径15cm、現存高16.4cm。

5は序運文施文の深鉢体下部で、文様の有無は不明である。1段3条の典型的な原体である。底径6.0cm、現存高11.3cm。



第85図 土器集中区出土遺物

6以下に破片を一括した。6は2と同様の、地文上に竹管文が施文された土器で、緩い波状口縁の土器である。

7～19はコンパス文系の破片である。施文手法にはバリエーションがあるが、口頸部の幅狭い横位多帯区画間に鋸歯状文が施文される点に共通性がある。

20は米字文の破片である。21～22は木の葉状入り

組みの単位文で、地が磨り消されている。

23～28には縄文のみの破片を一括した。29～30は無文で、口唇が屈曲し、直下に押玉が施された破片である。

石器 (第83遺31)

住居跡から出土した石器は1点のみである。31は基部に抉りを持つ黒曜石製の無茎石鏃である。

3. 遺物集中区と出土遺物

(1) 土器集中区と出土遺物

土器集中区 (第84遺)

C-3・4 グリッドで検出された。当該箇所は第25号住居跡の東側に位置し、原市沼川に面した緩やかな斜面部に位置している。遺構検出時に前期の破片が検出されていたことから、当初住居跡として調査を行っていた。しかし覆土の状況が不安定で、遺物も検出面直下に集中していたことや、柱穴・竇ともに検出できず、壁の立ち上がりも不明瞭であったことから、遺物集中区と判断した。

遺物の平面分布をみると分布の希薄な中間を挟んで、大きく2箇所に分けられる。また垂直分布からは薄いレンズ状の堆積が見られた。第25号住居跡の観察で明らかのように、遺構の形成が検出面上の第2層中にあるとすれば、この範囲に地形の鞍部や浅い土層が存在し、短期間に遺物が廃棄されたか、周辺部にある遺構などから流れ込んだものと推定される。出土土器には繊維を含む黒浜式と無繊維の諸磯a式があるが、前者は量的に僅かで、分布上でも偏在傾向はない。

土器集中区出土遺物 (第85遺)

1～4は繊維を含む黒浜式土器で、鋸歯文と格子

目文が描かれている。3点は同一個体である。

5～7はコンパス文系の土器で、半載竹管と多載竹管による施文の相違がある。

8は沈線上に円形刺突が施され、斜位の沈線も認められることから、米字文の土器であろう。

9～15は磨り消し単位文の土器である。三角形や蕨手状の単位文が配されるとともに、磨り消された地の部分が菱形となる文様構成となっている。緩い波状口縁の深鉢形土器で、文様は口頸部に限られるようである。爪形文は文様帯の区画線に限られ、文様は細い半載竹管によって描かれている。9～14は同一個体で、精選された胎土を用いた赤褐色の土器である。

16は爪形文列直下に円形刺突文が廻る土器で、9～15と同種の土器と思われる。

17～21は、胎土に雲母を含む硬質な土器で、多載竹管による区画線と充填文の土器であるが、文様構成の詳細は定かでない。20・21例のように、口唇上には棒状工具により押玉される。17・18はこれらの胴部破片であろう。22～24は縄文施文の胴部破片である。

(2) 石器集中区と出土遺物

石器集中区 (第86図)

D-8~10・E-8~10グリッドを中心として、包含層から石器が集中して検出され、石器集中区として認識した。調査時には、石器がまとめて出土する箇所を、集中区として複数箇所認識していたが、分析の結果、有為なまとまりとして捉えられたのは本地点のみであった。

集中区は、長軸16m×短軸12mと広い。周辺のグリッドにも集中区と属性を同じくする石器は分布するものの、非常にまばらになる。地形的には遺跡の乗る馬の背状の台地の肩部にあたり、西側はすぐに谷部への斜面となる。集中区内では特に地形的な傾斜は認められない。

周辺に竪穴住居跡などの遺構はない。後世の溝が、分布のほぼ中央を通り、一部削平された形になっているが、遺物の種類、および石材などの分布に極端な偏向が見られないことから、残された遺物の属性が偏りなくこの集中区の属性を表現しているとみてよいであろう。集中区内からは石器のほか小礫が数点と、点数は多くはないが、前期、諸磯a式の縄文土器も出土している。

平面分布は視覚的に見る限り、D-9・E-9の北半を中心とするものと、南半を中心とするものとの2つに大きく分離が可能である。それぞれは、長軸4.4m×短軸2.2m、長軸5.8m×短軸4.0mの密集分布域をもち、周囲には散漫に石器の分布が広がっている。先に述べた後世の溝による攪乱は、両密集分布域ともにかかり、一部を削平している。2つの平面分布上のまとまりごとの石器および石材の組成差は認められない。

垂直分布はほぼ平坦で、全体に標高12.492m~12.865mに、地形に沿うようにほぼ面的に分布しており、掘り込みや、集石を示す状況は見当たらない。

石礫が3点出土しているが、うち1点(第87図3)は出土位置がD-11グリッドと集中部よりやや外れるため、分布図上にはプロットされていない。他の

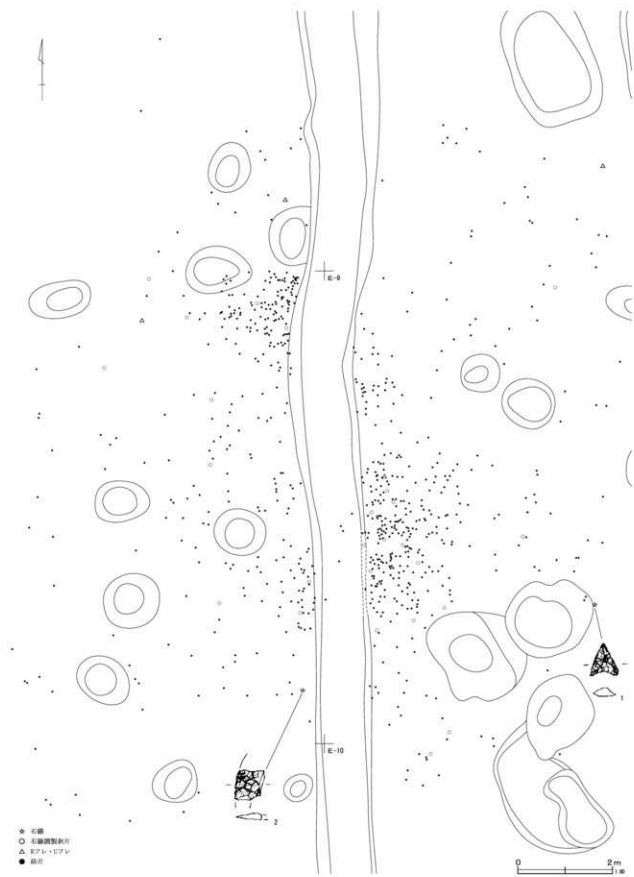
2点も、出土位置はいずれも集中部のはずれにある。二次加工を有する剥片(Rフレ)、微細な剥離痕を有する剥片(Uフレ)も比較的分布のはずれから出土している。それに対し、石礫の調整剥片と考えられる石器は、それぞれの分布の密集域から出土しており、この2つの集中部が石礫の製作、再調整に関するものであり、この場所に遺棄されたものである可能性が高いと考えられよう。

周囲に当石器集中区との有為な関係をみだせる竪穴住居跡はないが、共伴する土器からは、縄文時代前期の所産かと推定できる。明確な掘り込みはもとより、わずかなくぼみを示すようなレンズ状の堆積の状況も示されないことから、集落内の平場において、石礫の製作、再調整といった行動が複数行われた痕跡を示すものとも推定できようが、一括廃棄などの可能性も捨て去ることはできない。

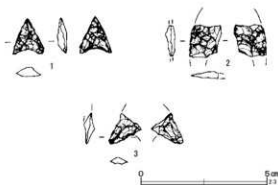
縄文時代前期の住居跡としては第5・24・25号住居跡があげられる。第25号住居跡は北北西に60mとやや離れるが、住居内からは、調整剥片と同様の透明な黒曜石を用いた石礫が1点出土している。第5号住居跡と第24号住居跡からは石礫は出土していないが、それぞれの住居跡は、集中区からちょうど南北に30mほど離れて位置している。2軒の竪穴住居跡のほぼ中間点に石器集中区が位置していることは集落内の活動の復元に興味深い示唆を与えてくれる。

石器集中区出土遺物 (第87図)

出土した石器は768点で、石礫3点、二次加工を有する剥片1点、微細な剥離痕を有する剥片6点が出土している。大型の剥片はなく、出土石器の95%は長軸いずれかが1cm以下の破片である。その中には石器裏面の剥離を打面部に取り込むようなものなど、打面の属性あるいは全体の形状から、石礫の調整剥片と推定できるものも認められる。それ以外の破片も、非常に小型ではあるが、点状、あるいは線



第86図 石器集中区出土状況



第87図 石器集中区出土遺物

状打面を有し、やや末端に向かって湾曲する薄手のものがほとんどであり、石鏃の製作の最終調整、あるいは再加工といった行動がこの場では行われていた可能性を示唆している。

二次加工を有する剥片、および、微細な加工痕を有する剥片は、小型の不定形剥片を素材としており、剥片の縁辺に不連続で不統一な剝離が施されているものである。いずれも、臨機的な道具として作成、使用されたものと考えられる。

石材は89%が黒曜石で、いずれも透明感の高いものであり、黒い縞が明確に入るものもある。そのほかにはチャートが8.7%、頁岩が1.4%のほか、ガラス質黒色安山岩、凝灰岩、片岩、砂岩などが合わせて1%程度含まれる。石材ごとの器種との結びつき

はなく、打面形状などの属性にも大きな違いはない。いずれも石鏃の調整に関連するものと考えてよいだろう。やや、黒曜石に小型のものが多い点は、もともとの石材のもつ属性の違いによるものと考えられる。

石鏃は、黒曜石裂が2点、頁岩裂が1点だが、石鏃の調整剥片と考えられるものには、黒曜石、チャート、頁岩を使用したものがあり、ここで製作あるいは再び加工された石鏃の一部は他所へ搬出されていることがわかる。

以下、図示した石器について個別に見ていく。

第87図1は透明な黒曜石製の石鏃でやや肉厚であるが、精緻につくりこまれている。石鏃としては小型な部類に入る。

2はやや黒い縞の入る黒曜石製の石鏃の破片で、頭部および脚部を欠損し、遺存している部分は少ない。想定できる形状はやや長脚で抉りの大きく入るものになると考えられ、比較的大型で薄手の石鏃が推定できる。

3は灰緑色に白い縞の入る頁岩製の石鏃の脚部片と考えられるが、全体形状は不明である。加工は粗雑であり、製作途上の欠損品の可能性もあるが、類似する石材はほかには見当たらない。

4. 炉穴

今回の調査で検出された縄文時代の炉穴は、総数15基である。多くは北に開く支谷に面して、急激に立ち上がる台地斜面部から肩部に集中している。遺物が出土した炉穴は皆無で時期を決めたいが、周辺部から早期条痕文系の土器が出土していたことから、ほぼ早期後半から終末期と考えてよいであろう。

第2号炉穴 (第88図)

B-5グリッドに位置する。長径0.86m×短径0.7mで深さ0.28mである。覆土には焼土や焼土ブロック、灰や炭化物を伴う土層が確認された。

第3号・4号炉穴 (第88図)

C-6グリッドに位置する。2基が重複しており、近世期の第1415号土壌に一部が破壊されていた。第3号炉穴は推定長径1.1m×短径0.84m、深さ0.35mである。第4号炉穴は第3号炉穴に破壊されていたが、長径1.0m×短径0.7m前後と推定される。覆土には焼土や焼土ブロックを含み、壁面に被熱硬化部分が観察された。

第5号炉穴 (第88図)

C-5グリッドに位置する。長径1.27m×短径0.70mの長楕円形で、深さ0.23mである。

第6号炉穴 (第88図)

B-6グリッドに位置する。長径1.12m×短径0.55mの長楕円形で、焚口部と煙道部が残存していたと思われる。覆土には焼土や焼土ブロックを含んでいる。

第7号炉穴 (第88図)

C-7グリッドに位置する。長径1.05m×短径0.48m、深さ0.08mである。台地斜面部にあり、壁や覆土が流出しているものと考えられる。

第8号炉穴 (第88図)

C-7グリッドに位置する。長径1.62m×短径0.94mの長楕円形で、焚口部と煙道部が残存していたものと判断した。深さ0.28mである。覆土には焼土や焼土ブロックを含んでいた。

第9号炉穴 (第88図)

C-7グリッドに位置する。径が0.6m前後の楕円形で、深さは0.24mである。覆土には焼土や焼土ブロックを含んでいた。

第10号・11号・13号炉穴 (第88図)

B・C-3・4グリッドに位置する。3基が重複しており、覆土から縄文時代と判断した第1520号土壌によって破壊されていた。前後関係は第11号→第13号・第10号→第1520号土壌の順である。第11号炉穴は、径が0.8m、深さ0.37m、第13号炉穴は、長径1.95m×短径0.9m前後、深さ0.4m、第10号炉穴は、推定長径1.35m前後×短径0.86mの長楕円形で、深さが0.48mである。またこれら炉穴を破壊した土壌は、長径1.2m×短径1.0m前後の楕円形である。各々の炉穴には、焚口部の被熱硬化部分が認められ、第10号炉穴には煙道部の被熱範囲も確認された。

第12号炉穴 (第88図)

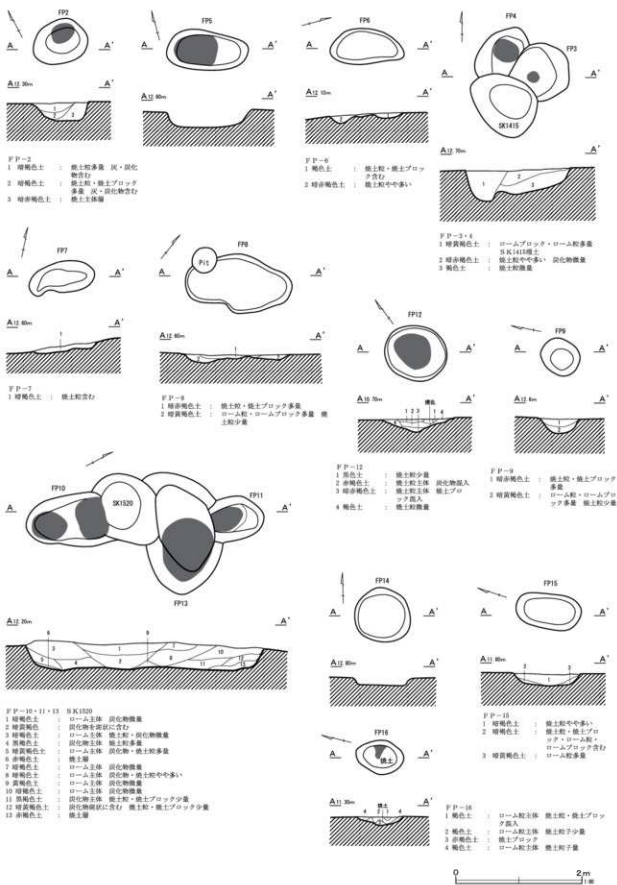
F-2グリッドに位置する。径が0.9m前後の円形で、焚口部と煙道部が残存していたものと判断した。深さ0.28mである。覆土には焼土や焼土ブロックを含んでいた。

第14号炉穴 (第88図)

C-3グリッドに位置する。径が0.86mの円形で、深さは0.11mである。

第15号炉穴 (第88図)

B-3グリッドに位置する。長径1.02m×短径



第88図 炉穴

0.53mの長楕円形で、深さが0.16mである。覆土には焼土や焼土ブロックを含んでいた。

第16号炉穴（第88図）

5. 土壌と出土遺物

(1) 縄文時代の土壌

諏訪坂貝塚第2次調査では膨大な数の土壌が発見されたが、ほとんどが近世期の所産であった。このなかで縄文時代に属する土壌は総数28基である。遺物が出土せず、覆土の土質から縄文時代と判別した土壌もある。

第41号土壌（第89・92図）

F・G-15グリッドに位置する。径は1.43m～1.58m、深さが0.44mで底面は隅丸方形である。土壌内からは縄文後期の土器片が出土した。

第92図1～7が、第41号土壌出土土器である。1は微隆起線文をもつ加曾利E系の口縁部破片で、波頂部に小突起を有する。2～6は縄文が縦回転施文された胴部破片である。

第193号土壌（第89・92図）

H-13グリッドに位置する。長径0.95m×短径0.68mの楕円形で、深さが0.49mである。土壌内からは縄文後期の土器片が出土した。

第92図8・9が、第193号土壌出土土器である。8は口唇端がくの字状に屈曲する称名寺式で、波状口縁である。9は縄文が充填された称名寺式の胴部破片である。

第200号土壌（第89・92図）

J-13グリッドに位置する。長径1.26m×短径1.25mの円形で、深さが0.43mである。土壌内からは縄文前期の土器片が出土した。第92図10・11は、いずれも繊維を含む関山式土器である。

B-3・4グリッドに位置する。長径0.74m×短径0.54mの長楕円形で、皿状の浅い掘り込みである。覆土には焼土や焼土ブロックを含んでいた。

第204号土壌（第89・92図）

I-13・14グリッドに位置する。近世期の土壌に一部が破壊されていたが、長径2.02m×短径1.02mの楕円形で、深さが0.59mである。覆土内から第92図12・13の堀ノ内式の無文土器が出土した。

第219号土壌（第89・92図）

K-12・13グリッドに位置する。長径0.93m×短径0.58mの楕円形で、深さが0.59mである。覆土内から第89図14・15の称名寺式土器が出土した。

第271号土壌（第89図）

H-14グリッドに位置する。径が0.7m～0.8m前後の楕円形で、深さが0.33mである。

第539号土壌（第89・92図）

G-14グリッドに位置し、第18号住居床面を壊して構築されていた。長径1.14m×短径0.83mの楕円形で、深さが0.75mである。覆土内には縄文後期の土器がまがもっていた。

第92図19～34が第539号土壌出土遺物である。19～27は沈線と縄文施文の称名寺式土器、28～33は沈線間に列点が充填される称名寺式土器である。第18号住居跡の土器組成よりも様相が新しい。34は土器蓋で、推定径7cm、4箇所に貫通孔をもつと考えられる。

第559号土壌（第89・92図）

M-11グリッドに位置し、近世期の土壌に一部が破壊されていた。覆土内から第92図16・17の安行式

土器が出土した。

第639号土墳 (第89・92図)

M-10グリッドに位置する。長径2.8m×短径0.86mの長方形で、深さが0.97mである。漏斗状に掘り込まれた陥穴と考えられる遺構である。埋没後に第16号住居跡の石囲炉が構築されていた。

第645号土墳 (第89図)

N・O-10グリッドに位置する。径が0.45m～0.53mで、楕円形の浅い土墳である。

第907号土墳 (第93・99図)

F・G-6グリッドに位置する近世期の土墳である。調査中に関山式土器がまとめて出土したことから、縄文期の土墳を破壊していた可能性がある。

第93図35～52が第907号土墳出土遺物である。35は盲孔をもつ小突起が付された土器で、形口注口に対比される別系統の土器であろう。無文で突起下に隆帯が廻る。36・37は口縁部文様帯の土器、38～48は縄文施文の破片で、38～40、43、45、47は0段多条、42は帯内羽状縄文による菱形施文例である。

49・50の底部は上げ底で、該期の典型例である。

51は石皿片で、形態から後期の所産とみられる。表面中央に敲打による潰れが観察できる。52は磨石。

第1045号土墳 (第89図)

J-12グリッドに位置する。長径2.17m×短径1.28m前後の楕円形で、深さは0.69mである。近世期の長方形土墳に一部が破壊されていた。

第1094号土墳 (第89図)

K-12・13グリッドに位置する。長径1.16m×短径0.96mの楕円形で、深さが0.26mである。

第1097号土墳 (第90図)

K-12グリッドに位置する。長径0.76m×短径

0.60mの楕円形で、浅い土墳である。

第1328号土墳 (第90・93図)

C-5グリッドに位置する。径が0.8m前後の円形で深さが0.15mである。土壇内から関山式土器(第93図53・54)が出土した。

第1401号土墳 (第90図)

K-12グリッドに位置する。長径1.18m×短径1.01mの楕円形で、深さが0.2mである。

第1416号土墳 (第90図)

B-5グリッドに位置する。長径1.53m×短径1.28mの隅丸長方形で、深さが0.3mである。

第1417号土墳 (第89図)

J-12グリッドに位置し、近世期の土壇に一部が破壊されていた。径が0.9m前後の楕円形と思われる。深さは0.45mである。

第1428号土墳 (第90図)

B-6グリッドに位置し、近世期の土壇に一部が破壊されていた。長径0.94m×短径0.84mの楕円形で、深さが0.52mの浅い土壇である。

第1433号土墳 (第90図)

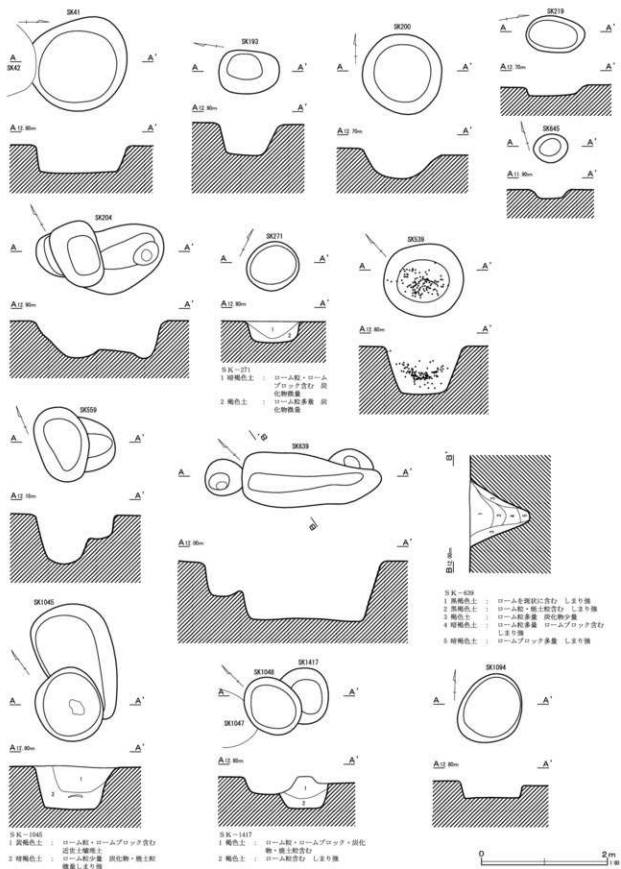
C-4グリッドに位置する。長径1.66m×短径1.32mの楕円形で、深さが0.3mである。

第1442号土墳 (第90図)

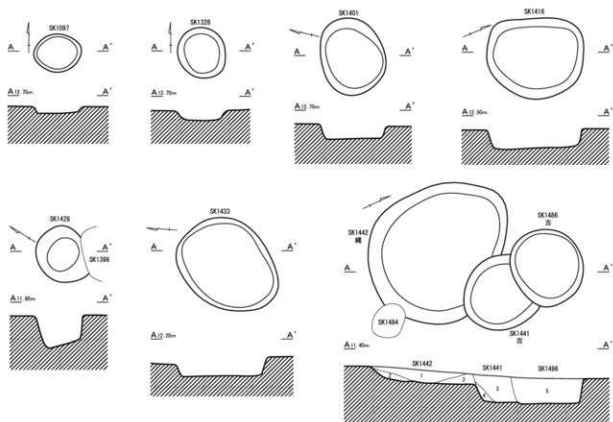
E-3グリッドに位置し、近世期の土壇に一部が破壊されていた。長径2.84m×短径1.94mの楕円形で、深さが0.19mである。

第1446・1472号土墳 (第90・93図)

E-3グリッドに位置し、何れも近世期の土壇に一部が破壊されていた。第1446号土壇は、長径が不

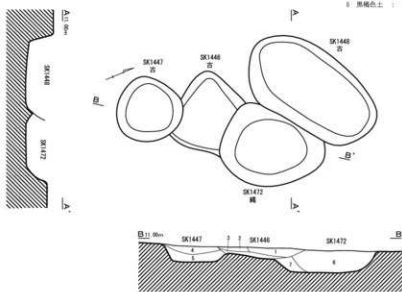


第89図 縄文土壌 (1)



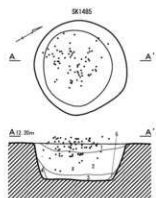
S K 1441 - 1442 - 1446

- 1 厚褐色土 : 口→ム主体 褐色土面に凸
- 2 厚褐色土 : 口→ム主体 しまりや中あり
- 3 厚褐色土 : 口→ム粒子少量 口→ムブツ少量
- 4 厚褐色土 : 口→ム粒子少量
- 5 厚褐色土 : 口→ム粒子少量付



S K 1447 - 1448 - 1472

- 1 厚褐色土 : 炭化物少量 口→ム粒少量
- 2 厚褐色土 : 炭化物少量
- 3 厚褐色土 : 口→ム主体層
- 4 厚褐色土 : 炭化物少量
- 5 厚褐色土 : 口→ム粒少量
- 6 褐色土 : 口→ム粒少量
- 7 厚褐色土 : 口→ム土層層

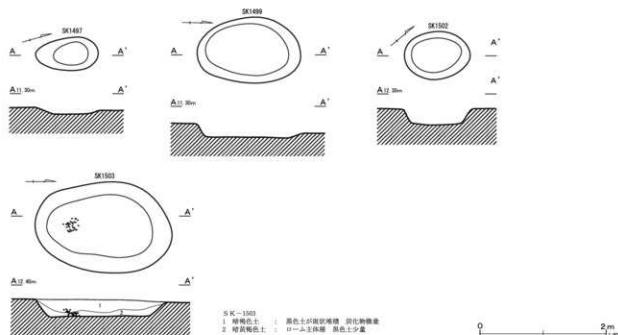


S K - 1485

- 1 厚褐色土 : 口→ム粒少量 炭土粒中
中多ク、炭化物少量
- 2 厚褐色土 : 口→ム粒少量 炭化物少量
- 3 厚褐色土 : 褐色土層中に凸付
- 4 厚褐色土 : 口→ム主体層

0 2m 10m

第90図 縄文土器 (2)



第91図 縄文土坑 (3)

明だが、短径1.12m、深さ0.17mの隅丸長方形と想定される。覆土から安行I式土器(第93図63)が出土した。第1472号土坑は、長径1.64m×短径1.24mの楕円形で、深さが0.35mである。

第1485号土坑 (第90・93図)

B-4グリッドに位置する。径が1.5m前後の円形で、深さが0.57mである。覆土内から縄文前期土器が出土した。第93図55・56は肋骨文、57・58は1段3条の原体が施文された胴部破片である。

第1497号土坑 (第91図)

D-2グリッドに位置する。長径0.98m×短径0.53mの浅い楕円形の土坑である。

第1499号土坑 (第91図)

D-2グリッドに位置する。長径1.63m×短径

1.03mの楕円形で、深さが0.18mである。

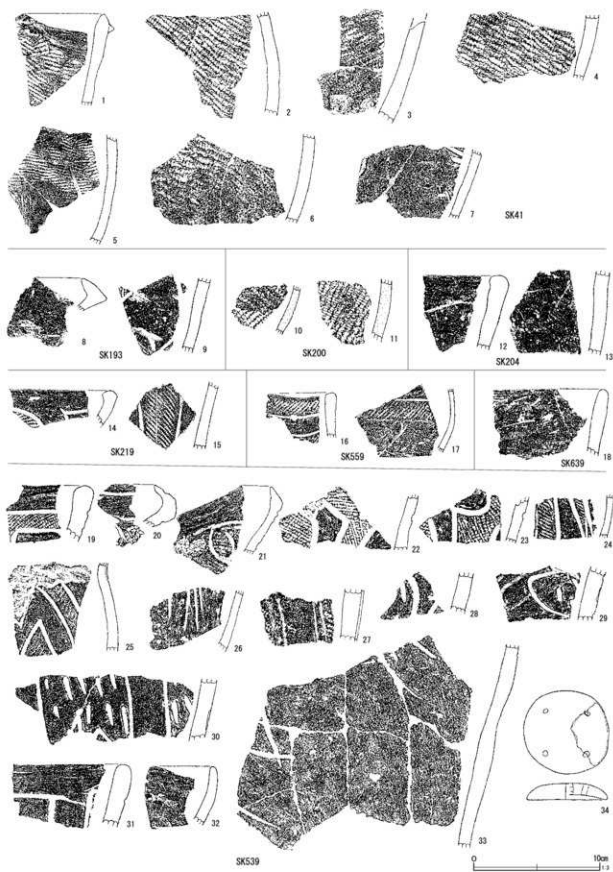
第1502号土坑 (第91図)

B-4グリッドに位置する。長径1.05m×短径0.73mの楕円形で、深さが0.25mである。

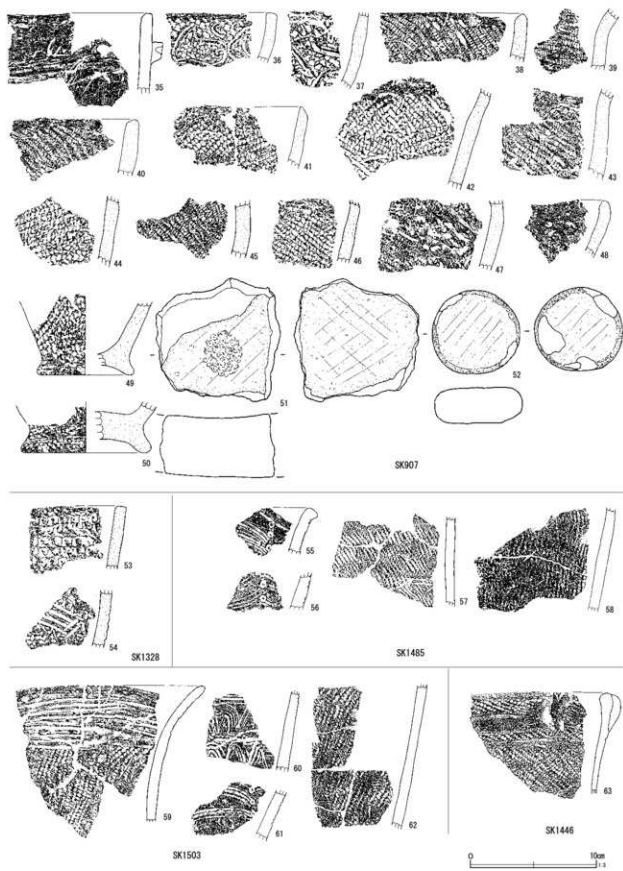
第1503号土坑 (第91・93図)

C-4グリッドに位置する。長径2.15m×短径1.42mの長楕円形で、深さが0.25mである。土坑南壁寄り、底面に接して土器が出土した。平面形態や出土位置から見て墓坑と考えられる。

第93図59～62が出土土器である。コンパス文系や肋骨文系土器を含み、諸磯a式の古い段階と考えられよう。



第92図 縄文土壙出土遺物 (1)



第93図 縄文土塊出土遺物 (2)

(2) 古代の土壌

諏訪坂貝塚第2次調査で発見された土壌のほとんどが近世期の所産であった。古代に属する土壌は総数32基である。遺物を伴うものが少なく、覆土の状況から時期決定した。

第5号土壌 (第94図)

E-16グリッドに位置し、近世期の土壌に破壊され詳細不明である。

第181号土壌 (第94図)

H-14グリッドに位置する。長径0.75m×短径0.52mの楕円形で、深さが0.2mである。

第194号土壌 (第94図)

H-13グリッドに位置する。長径0.86m×短径0.75mの楕円形で、深さが0.34mである。

第202号土壌 (第97・116図)

I-14グリッドに位置する。調査区南端で、一部が区域外に伸びる。長径1.15m、深さ0.47mである。第94図4は土壌から出土した内黒のロクロ成形土師器である。口径14.2cm、底径6cm、器高6cmである。

第299号土壌 (第94図)

G-12グリッドに位置する。長径1.43m×短径0.91mの楕円形で、深さが0.99mである。

第316号土壌 (第94図)

F・G-13・14グリッドに位置する。径が0.8m前後で深さが0.3mである。

第343号土壌 (第94図)

I-12グリッドに位置する。長径0.87m×短径0.65mの楕円形で、小ピットをもち、最深部で0.6mである。

第361号土壌 (第94図)

J-11グリッドに位置する。長径0.89m×短径0.79mの楕円形で、深さが0.25mである。

第377・378・379号土壌 (第94図)

H-12グリッドに位置する。時期不詳の火葬跡に壊されており、前後関係が不明である。第377号土壌は、長径2.33m×短径0.97m、深さ0.26mである。長方形で墓塚であろう。第379号土壌は、径が1.6m前後の円形で、深さ0.38m。第378号土壌は、火葬跡と第379号土壌に壊され、詳細不明である。

第408号土壌 (第94図)

M-9グリッドに位置する。長径1.03m×短径0.84mの楕円形で、壁は垂直に掘り込まれ、深さが0.52mである。

第532号土壌 (第95図)

F-13グリッドに位置する。長径が1.84m×短径1.38mの円形で、深さが1.39mである。覆土から近世の可能性もある。

第535号土壌 (第94図)

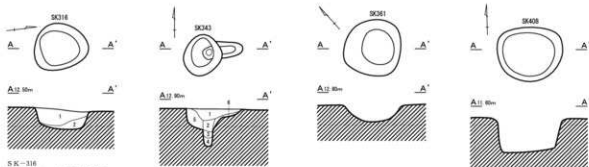
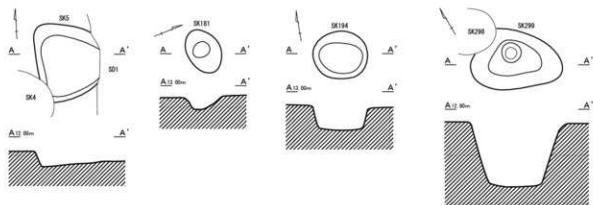
H-12グリッドに位置する。長径1.67m×短径0.69mの楕円形で、深さが0.13mである。

第560号土壌 (第95図)

N-10グリッドに位置する。長径1.14m×短径0.9mの不整形で、深さが0.45mである。

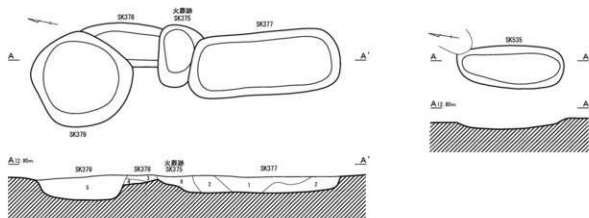
第590・623号土壌 (第95・97図)

N-10グリッドで、平安時代の第22号住居跡の床面を壊して構築されていた。第590号土壌は、長径1.41m×短径1.19mの楕円形で、深さが0.45mである。第623号土壌は、径が0.7m前後の円形と考えられる。深さは0.33mである。この土壌からは、酸化



5 K-318
 1 暗褐色土 : 土粒少量
 2 暗褐色土 : 土粒少量
 3 暗褐色土 : 土粒少量
 4 暗褐色土 : 土粒少量
 5 暗褐色土 : 土粒少量

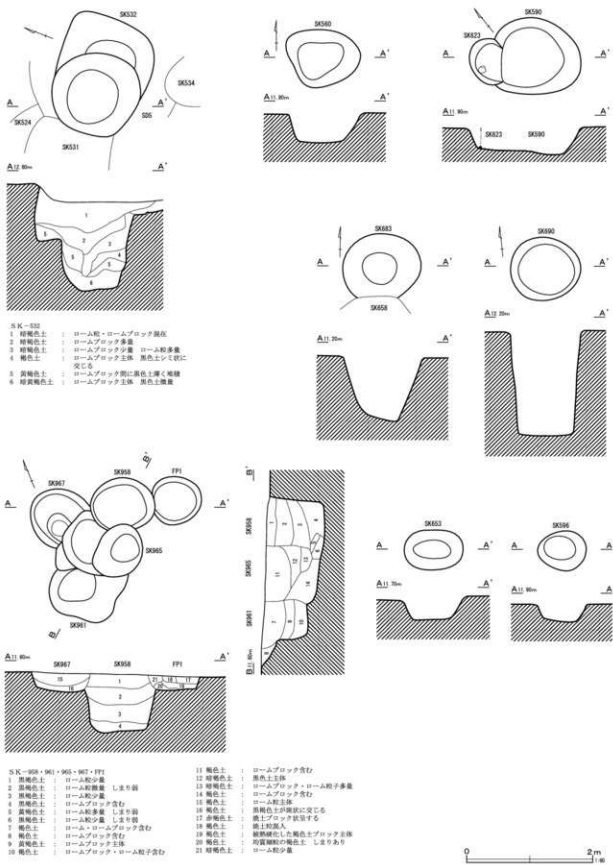
5 K-363
 1 暗褐色土 : 土粒少量
 2 暗褐色土 : 土粒少量
 3 暗褐色土 : 土粒少量
 4 暗褐色土 : 土粒少量
 5 暗褐色土 : 土粒少量



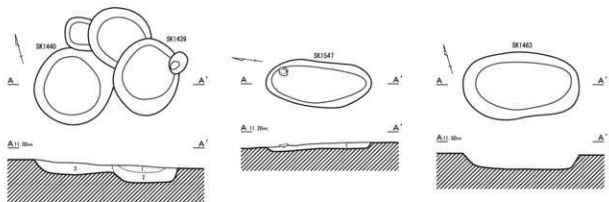
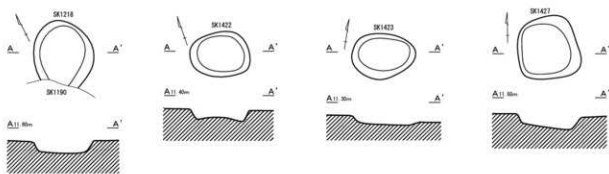
5 K-375-377・378・379
 1 暗褐色土 : 土粒少量
 2 暗褐色土 : 土粒少量
 3 暗褐色土 : 土粒少量
 4 暗褐色土 : 土粒少量
 5 暗褐色土 : 土粒少量
 6 暗褐色土 : 土粒少量



第94図 古代土坑 (1)

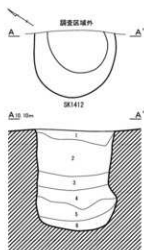


第95図 古代土壌 (2)



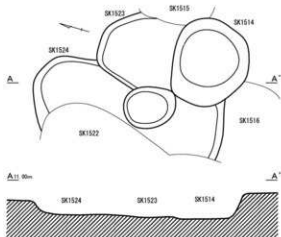
S K - 1439 + 1440

- 1 暗褐色土 : 砂→土粒少量
- 2 暗褐色土 : 砂→土粒微量
- 3 暗褐色土 : 砂→土粒少量 炭化跡微量

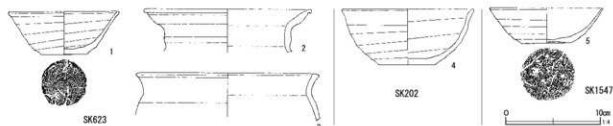


S K - 1412

- 1 暗褐色土 : 砂→土粒少量
- 2 暗褐色土 : 砂→土粒微量 土盛り・粘状物
- 3 暗褐色土 : 土盛りロ→土粒中多量① 砂→土粒少量混入 土盛り・粘状物
- 4 暗褐色土 : 砂→土粒中多量・ロ→土粒多量 土盛り・粘状物
- 5 暗褐色土 : 暗褐色土層
- 6 暗褐色土 : 暗褐色シルト質土層に属



第96図 古代土壇 (3)



第97図 古代土壙出土遺物

楕筒成で回転糸切り底の須恵器杯（第97図1）と甕が2個体（第97図2・3）が出土した。1は砂粒や小礫が多く粗雑な成形である。口径11.8cm、底径4.8cm、器高4.6cmである。

第596号土壙（第95図）

N-10グリッドに位置する。長径0.78m×短径0.63mの楕円形で、深さが0.24mである。

第653号土壙（第95図）

N-10グリッドに位置する。長径0.93m×短径0.63mの楕円形で、深さが0.28mである。

第683号土壙（第95図）

N-9グリッドに位置する。長径1.25m×短径1.1mの楕円形で、深さは0.98mである。近世の可能性もある。

第690号土壙（第95図）

H-9グリッドに位置する。長径1.11m×短径0.98mで、円柱状に掘り込まれている。深さは1.61mである。近世の可能性もある。

第958号土壙（第95図）

G-6グリッドに位置する。近世期の土壙に壊されているが、径が1m前後で円柱状に掘り込まれている。深さは0.91mである。

第1218号土壙（第96図）

H-7グリッドに位置する。近世期の土壙の一部

が破壊されているが、長径1.2m前後、短径0.93mの楕円形で掘り込みの浅い土壙である。

第1412号土壙（第96図）

H-4グリッド調査区東端にあり、調査区外にのびる。円柱状に掘り込まれ、深さが1.56mである。近世の所産とも考えられる。

第1422号土壙（第96図）

E-3・4グリッドに位置する。長径0.92m×短径0.71mの楕円形で、浅い土壙である。

第1423号土壙（第96図）

E-3・4グリッドに位置する。長径0.99m×短径0.72mの楕円形で、掘り込みが浅い土壙である。

第1427号土壙（第96図）

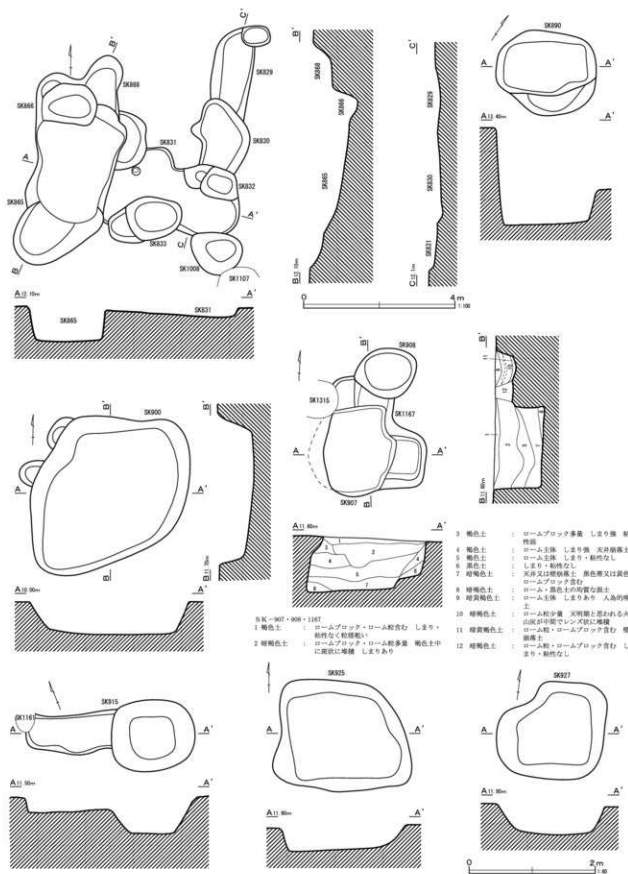
E-4グリッドに位置する。長径1.17m×短径0.97mで方形に近く、底面が傾斜し最深部で0.2mである。

第1439・1440号土壙（第96図）

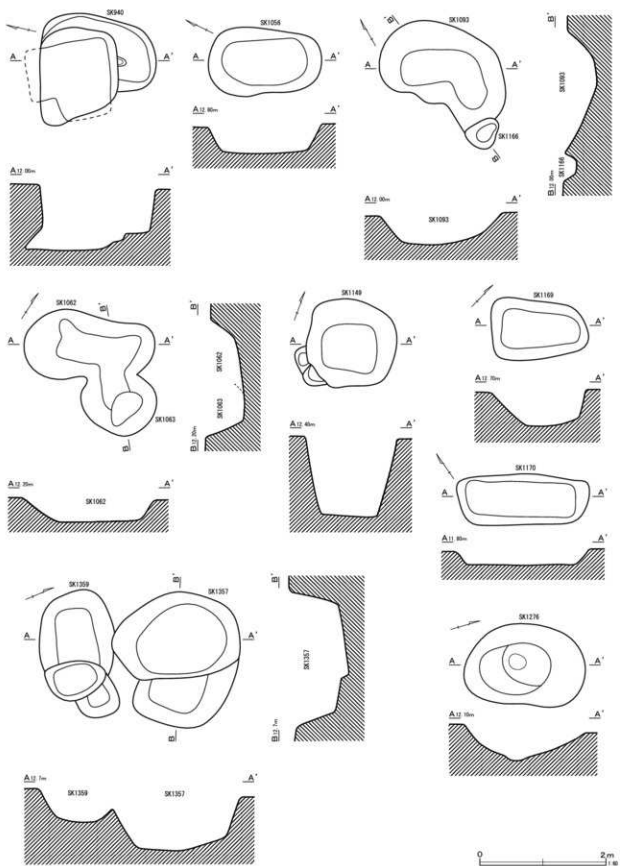
E・F-3グリッドに位置する。径が1m～1.3m前後の土壙が重複しており、深さは0.2m～0.3m前後である。

第1463号土壙（第96図）

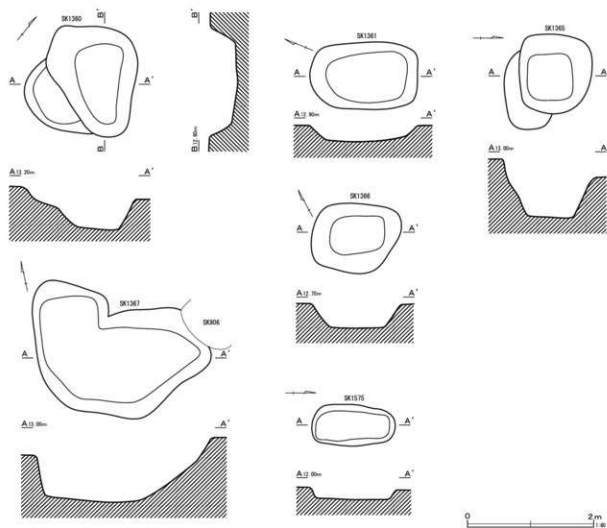
E-3グリッドに位置する。長径1.83m×短径1.03mの楕円形で、深さは1.18mである。覆土から近世の可能性もある。



第99図 近世土壌 (2)



第100図 近世土壇 (3)



第101図 近世土坑 (4)

第1523号土坑 (第96図)

E-2 グリッドに位置し、近世の土坑によって壊され、詳細は不明である。

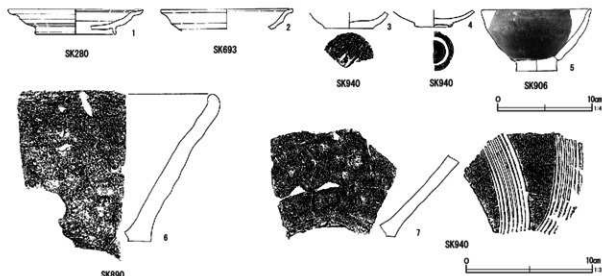
第1547号土坑 (第96・97図)

F-4 グリッドに位置する。長径1.67m×短径0.72mの長方形で、深さは0.08mと浅い。北東隅でロクロ成形の土師器坏 (第97図5) が出土しており、墓塚と考えられる。5は口径12.2cm、底径5.4cm、器高3.5cmである。

(3) 近世の土坑 (第98~102図)

第2次調査で検出された土坑は、総数1552基にのぼる。このうち、縄文時代と古代に属する59基を除いた1493基が近世に掘削された土坑と考えられる。これらの土坑全てを個別に記載することは不可能であり、代表的な土坑を掲載するに留め、他は第103図から第116図の全体図に掲載した。また形態や規模、深さ、覆土の状況などは表4にまとめた。

平面分布から見ると、土坑は第1号溝の区画内と第2号溝の西側に濃密に分布していた。第1号溝に接して、くの字状に屈曲する第5号溝と、第5号溝に接して南東に伸びる第9号溝の間には、一際濃密な分布が認められた。また、第1号溝のうちでも、北西-南東ラインに沿うように、方形あるいは長方



第102図 近世土壌出土遺物

形で垂直に掘り込まれた大型の土壌が検出された。このような土壌には、天井部が残っているものや、崩落した天井部の痕跡が確認できたものなどがあり、ムロとしての用途が推定された。これに対し第1号溝の西側では、土壌の分布は希薄であった。

土壌の形態には幾つかの種別が認められた。平面形態では、A：長方形、B：正方形、C：円形、D：楕円形、E：その他 に区分できる。

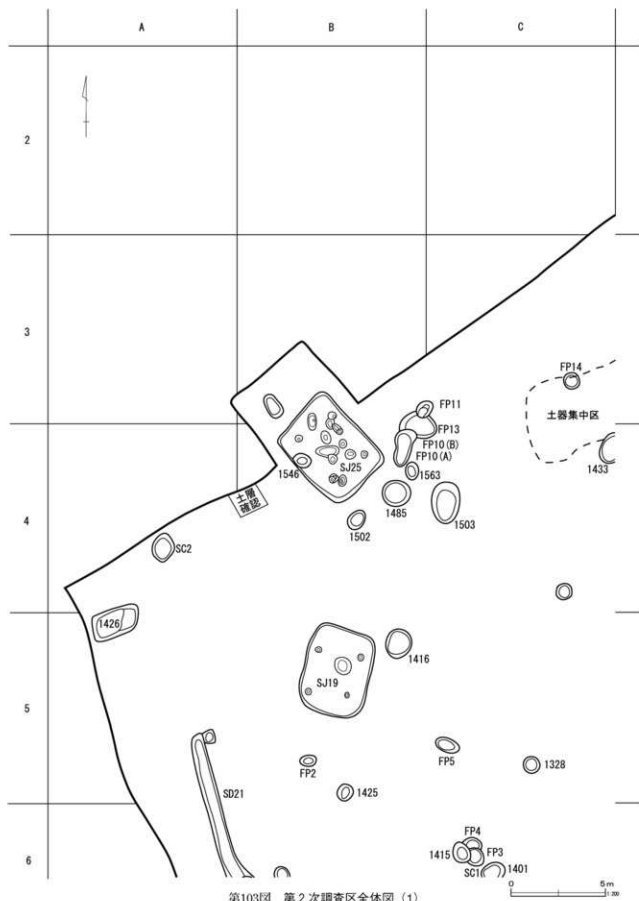
形態AやBには、壁が垂直で一際深く掘り込まれたものが存在した。これらの中には、天井部分が残存していたものや、覆土中に崩落した天井部の形跡が認められたものも存在したことから、ムロとして用いられたものと考えられる。第865号、第890号、第907号土壌（第99図）、第940号、第1149号、第1357号土壌（第100図）を掲載したが、このほかにも類型は多い。深さが1.3～1.5m前後のもの、2mを越えるものがある。

形態AやBで、掘り込みが浅い土壌は多数存在する。個別掲載した資料では、形態Aには第1056号、第1170号土壌（第100図）、第1361号、第1575号土壌

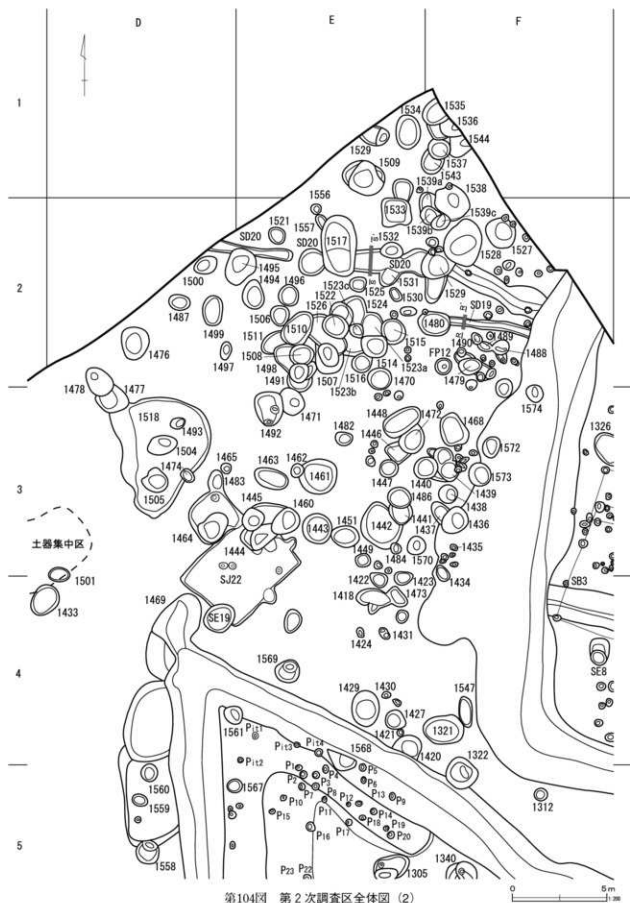
（第101図）などがあり、第906号土壌のように天目茶碗（第102図5）が出土した土壌もあるが、遺物が出土した土壌は本例のみである。

形態CやDの土壌が最も多い。このタイプは全面に分布しており、特に第2号溝の西側では激しく重複しながら濃密な分布を示していた。このタイプの土壌も、遺物が出土したものは極めて少ない。第280号、第693号土壌から志野皿が出土したに過ぎない。

形態の差異に係わらず、近世の所産と判断したほとんどの土壌は、覆土の成因が人為的な埋戻しによると考えられるものであった。遺物を伴う土壌が皆無といってよい状況は、近世期にこの地が居住空間として利用された状況を想定しがたいものになっている。溝の区画内にこのような土壌が多数存在したことは、溝が土地の境界として掘削されたことを暗示しているようである。また、第12号溝と第13号溝の間が水平に掘削されている状況は、この部分がかつて畑地として利用された形跡を物語るものであろうか。



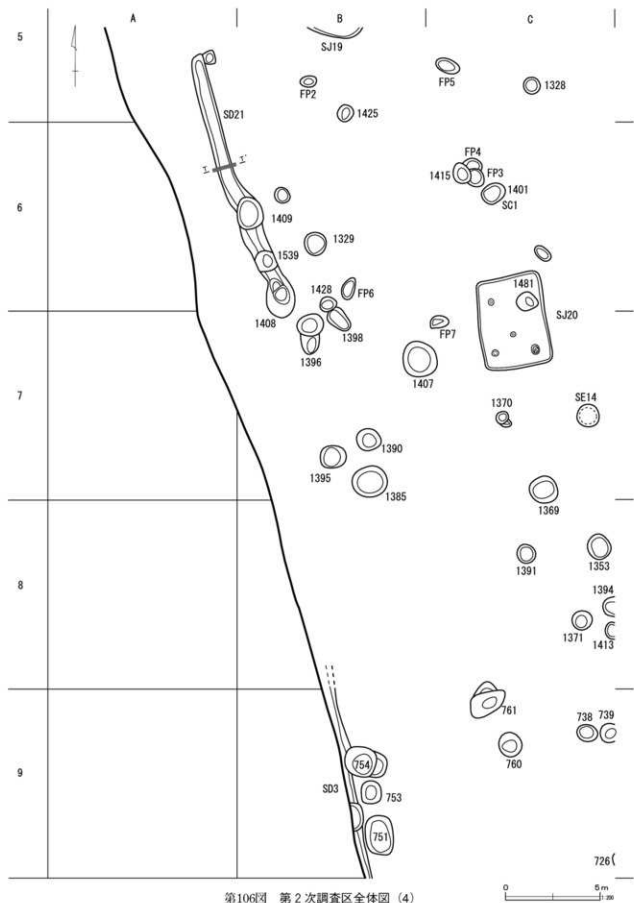
第103図 第2次調査区全体図(1)



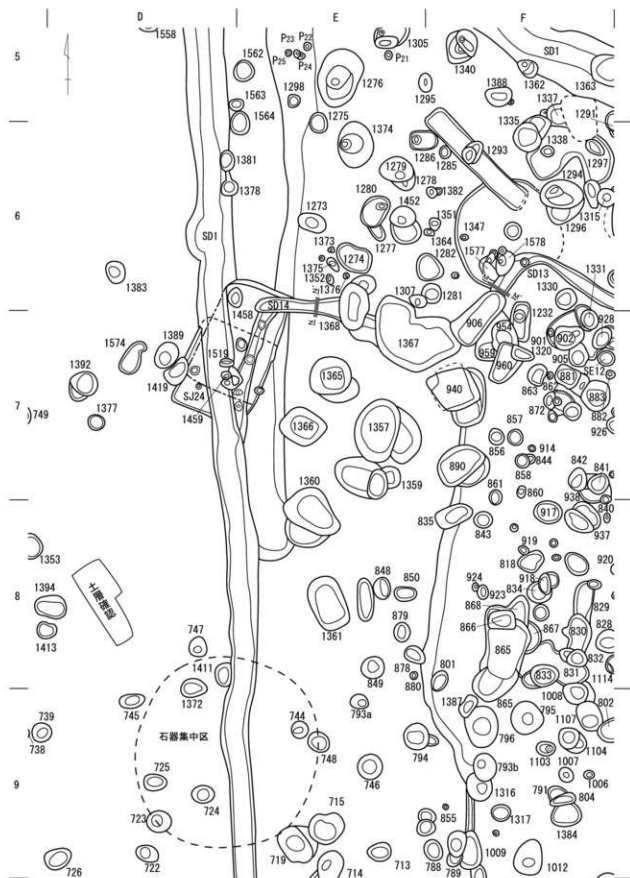
第104团 第2次調査区全体图(2)



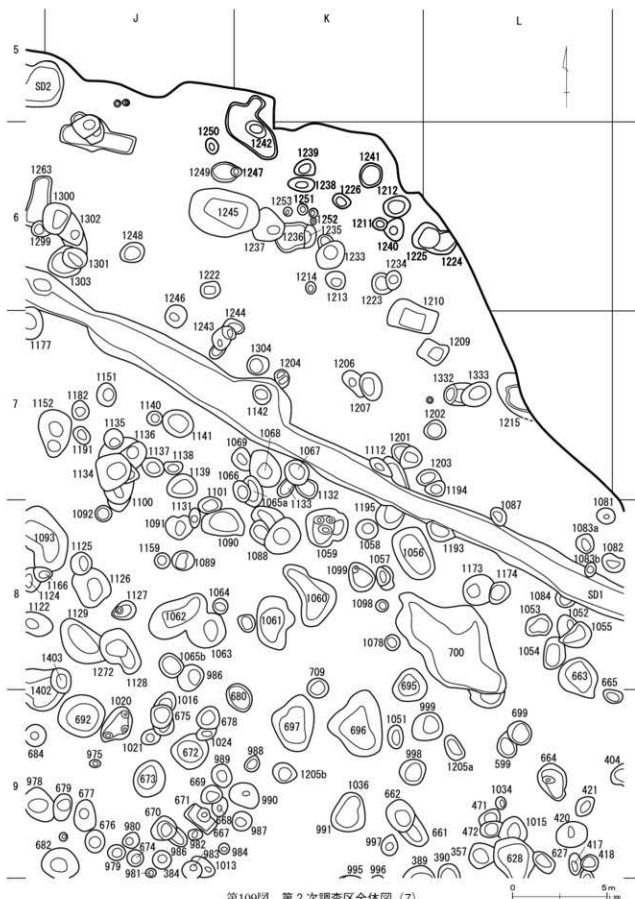
第105図 第2次調査区全体図 (3)



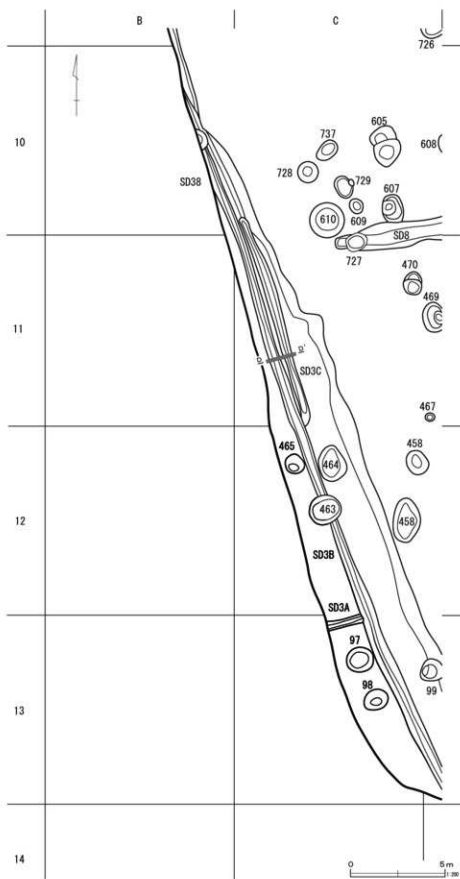
第106团 第2次調査区全体图 (4)



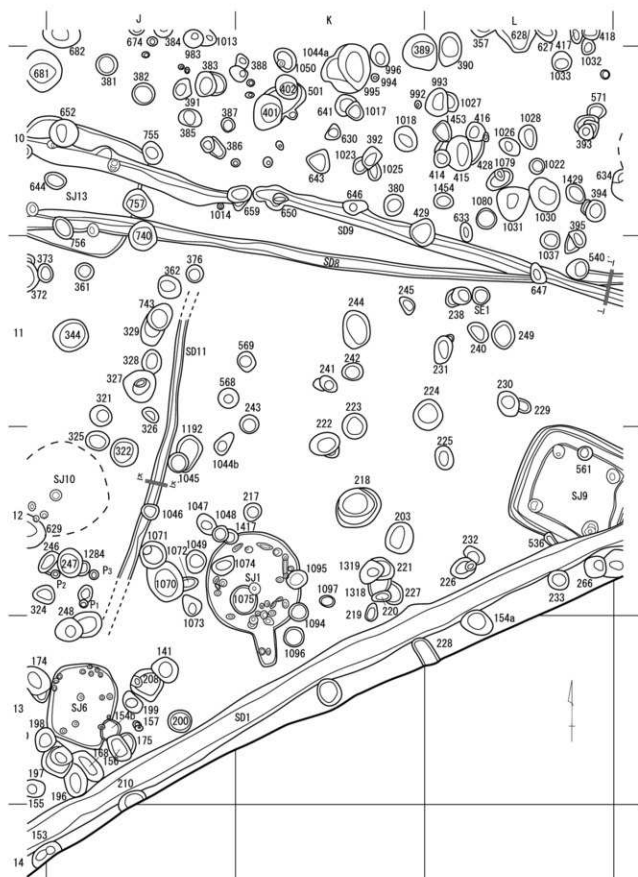
第107図 第2次調査区全体図(5)



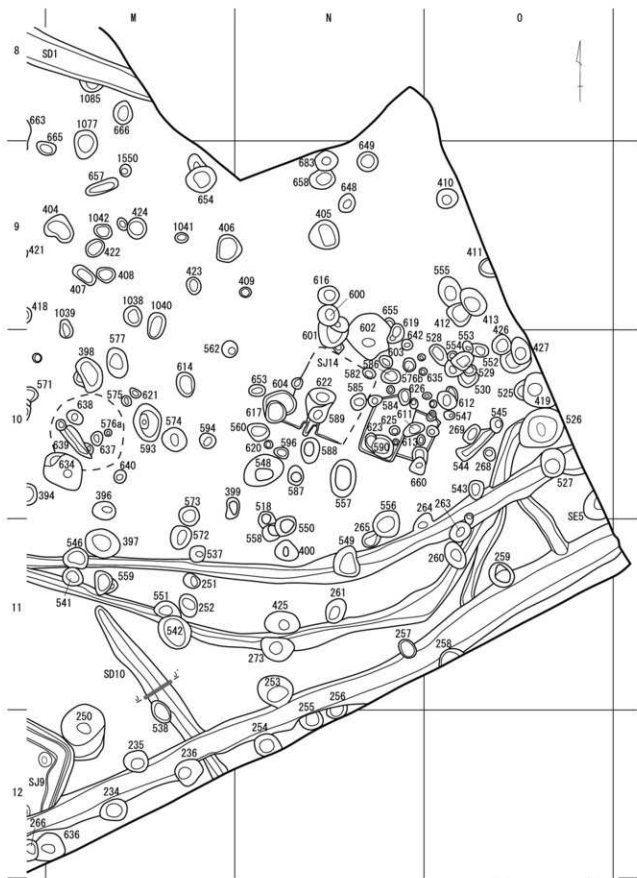
第109図 第2次調査区全体図(7)



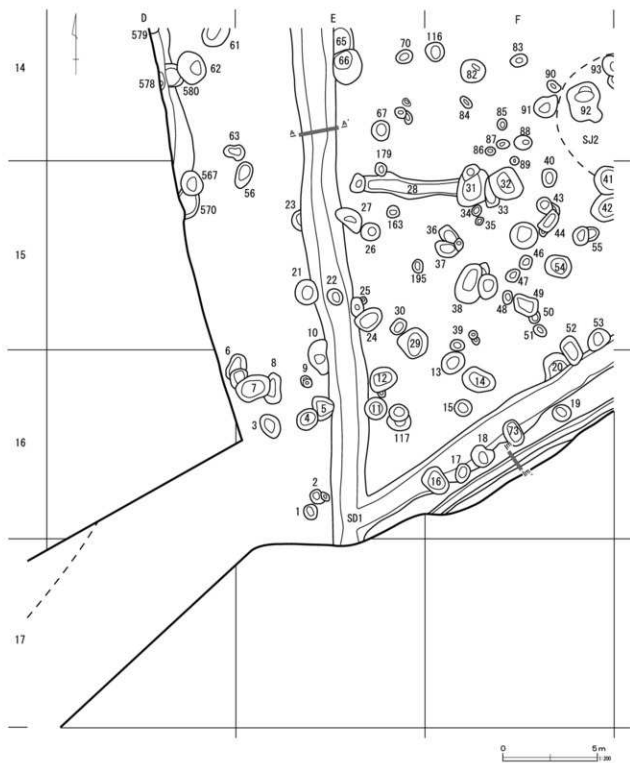
第110号 第2次調査区全体図 (B)



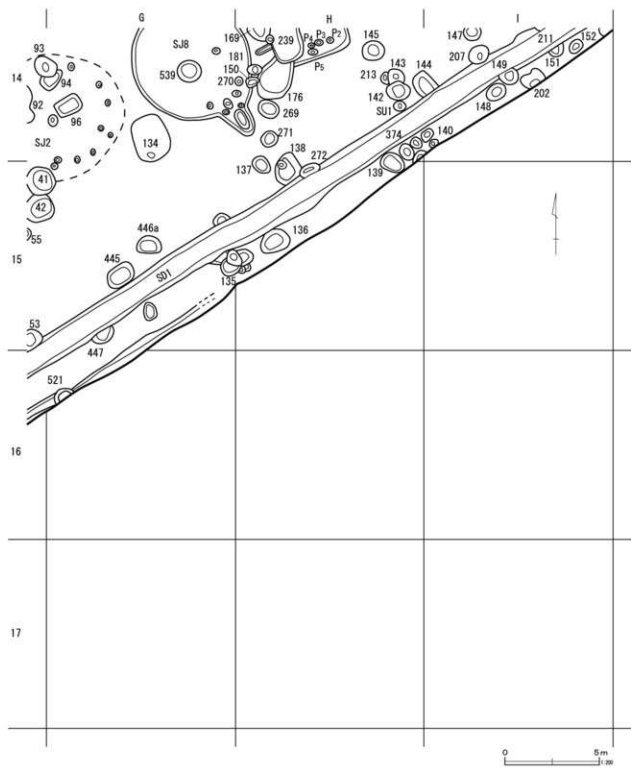
第113图 第2次調査区全体图 (11)



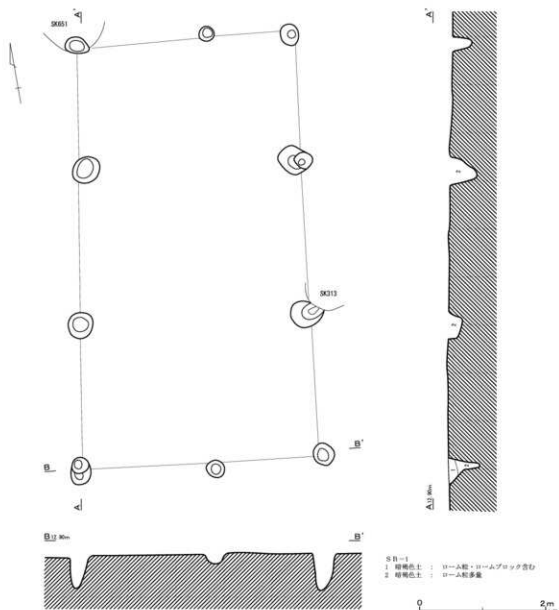
第114图 第2次調査区全体图(12)



第115图 第2次調査区全体图 (13)



第116图 第2次調査区全体图 (14)

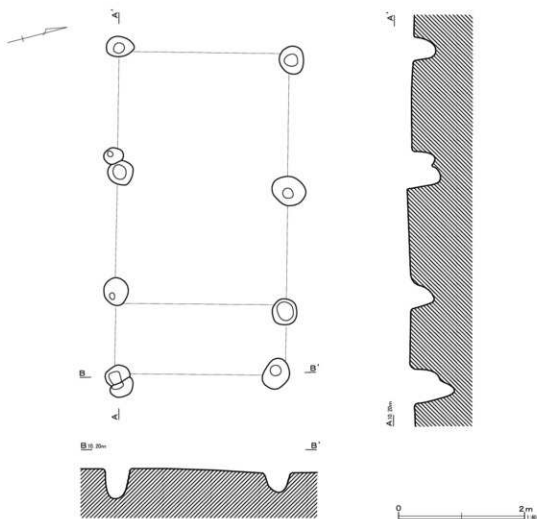


6. 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第117図)

H・I-11・12グリッドで検出された。平安時代のカマドをもつ第3号・第4号住居跡と、機能を異にした可能性が考えられる第9号・第13号住居跡の中間に位置している。建物跡は柱間が2間×3間の側柱で、柱間が長軸で2 mから2.4 m、短軸で1.8 mと2.1 m、柱穴の径が0.3 mから0.45 mの円形ないしは楕円形、深さは0.3 mから0.6 mと一定していない。

柱穴に柱痕は認められなかった。柱穴の一部に重複関係があることから、建て替えが行われた可能性がある。遺物が出土していないため時期は不明だが、覆土に住居跡と同様の黒色土を基本とした柱穴もあり、遺構間の関係からみて平安時代に比定されるものと考えられる。



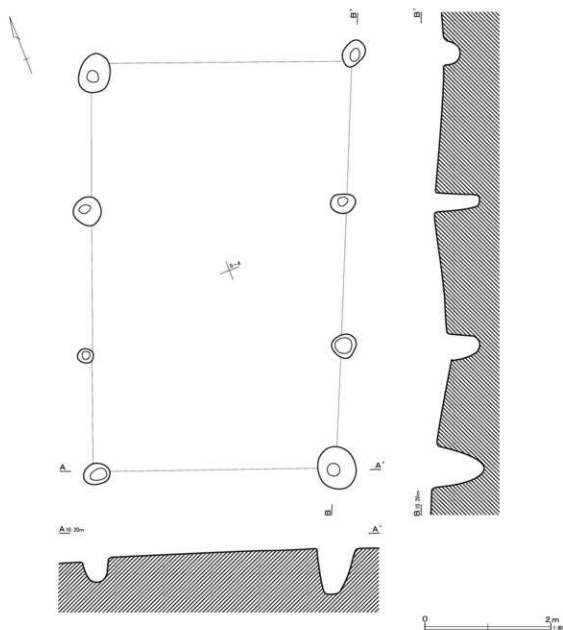
第118図 第2号掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡（第118図）

F・G-3・4グリッドで検出され、後述する第3号掘立柱建物跡と重複関係にある。当該地区は、江戸時代と考えられる第2号溝に囲まれ、平坦に削平されている。また第2号溝の区画内で直行する第15号・第16号溝と重複していることから、平安時代とするには無理があろう。

第2号掘立柱建物跡は、柱間が1間×2間の側柱

で、東に庇をもつ。柱間は長軸で1.9mから2.1m、短軸で2.7m、柱穴の径が0.25mから0.5mの円形ないしは楕円形、深さは0.3mから0.53mと一定していない。柱穴に柱痕は認められず、黒色土1層のみであった。柱穴の一部に重複関係があり、建て替えが行われた可能性がある。江戸時代の可能性がある。



第119図 第3号掘立柱建物跡

第3号掘立柱建物跡（第119図）

F・G-3・4グリッドで検出され、第2号掘立柱建物跡と主軸方位を異にして重複関係にあるが、前後関係を確認できなかった。

第3号掘立柱建物跡は、柱間が1間×3間の側柱である。柱間は長軸で2.0mから2.5m、短軸で4.0m、柱穴の径が0.2mから0.67mの円形ないしは楕円形、

深さが0.4mから0.8mと一定していない。柱穴に柱痕は認められず、覆土は第2号掘立柱建物跡と同様に、黒色土1層のみであった。遺物が出土していないために時期決定しがたいが、本例も江戸時代の可能性が高い。

7. 井戸跡

井戸跡は総数17基が検出された。平安時代の住居跡が存在することから、当該期の井戸も存在する可能性も否定できないが、遺物が出土したものがほとんどなかったため、時期決定がたい。

第1号井戸跡（第120図）

L-11グリッドに位置する。長径1m×短径0.93mの楕円形で、円柱状に掘り込まれ、深さは3.6mである。黒色土を主体にロームブロック交じりの土層が堆積していた。

第2号井戸跡（第120図）

E-12グリッドに位置する。径が0.9m前後の円形である。底面まで調査できなかったため、深さが不明であった。

第3号井戸跡（第120・124図）

I-12グリッドに位置する。長径1.07m×短径0.91mの楕円形である。円柱状で開口部が広がりが気味となる。深さは3.68mである。

第4号井戸跡（第120図）

I-12グリッドに位置する。径が2m前後の円形で、掘り込み下部から底面に向かってすぼまっている。覆土は黒色土とローム土が交互に堆積していた。深さは3.9mである。

第5号井戸跡（第120図）

O-10グリッドに位置し、調査区外に伸びている。径が1.5m前後で、底面がすぼまり気味に掘り込まれている。人為的に埋められたと考えられる。深さは3.5mである。

第6号井戸跡（第120図）

D-11グリッドに位置する。径が1m前後で、底面に向かってすぼまり気味となる。ローム主体の埋

土で、深さは2.6mである。

第7号井戸跡（第120図）

D-13グリッドに位置し、近世期の土層と重複していた。径が1.8m前後の円形と思われ、開口部が漏斗状に開く。深さは2.9mである。

第8号井戸跡（第121図）

F-4グリッドに位置する。径が0.9m前後の円形で、下部にすぼまり気味であるが、完掘には至らなかった。

第9号井戸跡（第121図）

G-4グリッドに位置する。開口部が大きく広がっているが、本来的な形態か否か不明である。本体は1辺が0.9mの角柱状に掘り込まれていたが、完掘するには至らなかった。

第10号井戸跡（第121図）

G-4グリッドに位置する。開口部は径が1.5m～1.6mで漏斗状に開く。本体は1辺が0.9m前後の角柱状に掘り込まれていた。深さは2mである。

第12号井戸跡（第121図）

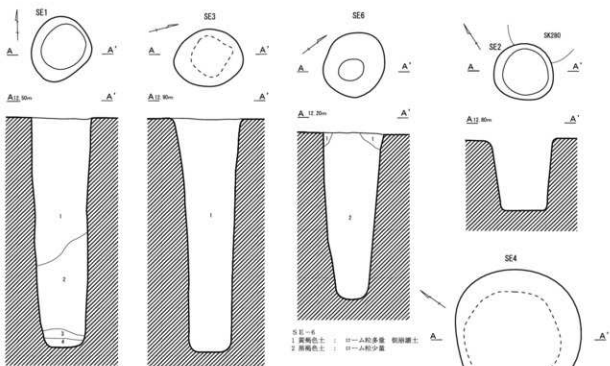
F-7グリッドに位置する。径が0.8m～0.9m前後で円柱状に掘り込まれ、底面付近ですぼまる。深さは2.3mである。

第13号井戸跡（第121図）

H-9グリッドに位置する。径が1m前後で円柱状に掘り込まれ、底面直上で屈曲している。曲げ物などが設置されていたのであろうか。深さは3.7mである。

第14号井戸跡（第121図）

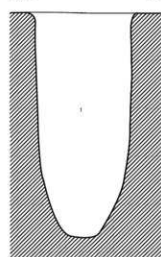
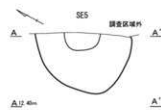
C-7グリッドに位置する。径が1.1m～1.25mで、



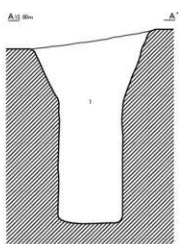
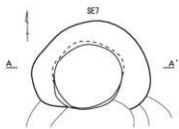
- SE-1
- 1 褐色土 : 黒色土主体 ローム状腐植層が多数の水平方向の塊層を呈し示れる
 - 2 赤褐色土 : 黒色土主体 ロームプロットがローム状腐植層を多く含む
 - 3 深褐色土 : 腐植を含む赤褐色土、黒色土、ローム土層を同様に約的層に層層
 - 4 深褐色土 : 黒色土主体、ロームプロット、ローム粒子含む

- SE-3
- 1 黒色土 : 黒色土主体 ロームプロットを含む 中央ではロームプロットを多く含む

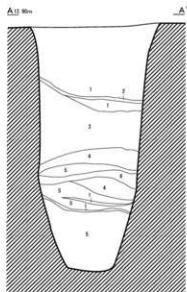
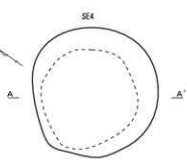
SE-6
 1 赤褐色土 : ローム状腐植 粘状土
 2 深褐色土 : ローム状少量



- SE-5
- 1 黒色土 : 全面に深褐色土を主体とする自然腐植土と思われる 深褐色土中に白色粘土のブロックや粒子を混入する



- SE-7
- 1 黒色土 : 混入物が多い



- SE-4
- 1 赤色土 : ロームプロット腐植
 - 2 白色粘土 (礫山の砂)
 - 3 深褐色土 : ロームプロットを多く含む
 - 4 深褐色土 : 黒色土、褐色土を同様に層層層層
 - 5 深褐色土 : 黒色土中にロームプロットや白色粘土ブロックを混入
 - 6 褐色土 : ローム腐植



第120図 井戸跡 (1)

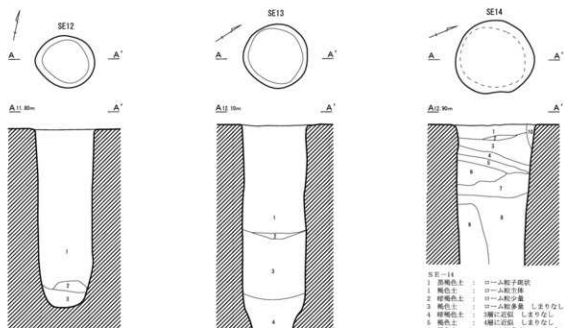
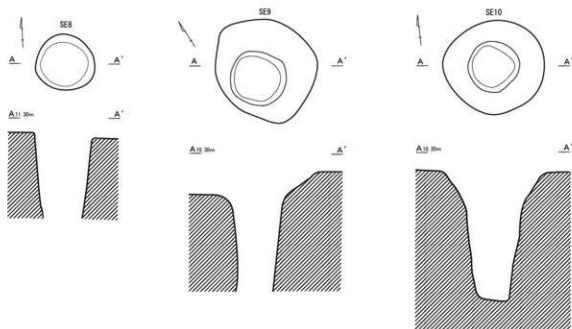


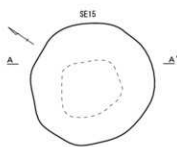
図 8-12
 1 赤褐色土 : 原色土主層 ロームコアロップ層
 底に埋蔵 下部に浅いローム
 層少
 2 暗黄褐色土 : 原色土・暗褐色ロームコアロップ
 ・暗黄褐色ロームコアロップ混在
 3 黒色土 : 腐植・均質な黒色土 しまり強

図 8-13
 1 褐色土 : ローム主層
 2 褐色土 : 腐植ローム主層
 3 黒色土 : 原色土主層 腐植ロームコアロップ層
 4 褐色土 : 原色土・暗褐色土の混在に埋蔵
 5 褐色土 : 腐植土 粘性強
 6 白灰色粘土 : 原色土の腐植に埋蔵

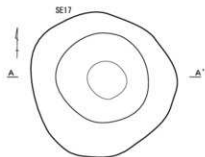
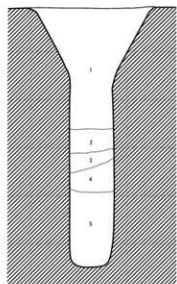
図 8-14
 1 赤褐色土 : ローム粒子混在
 2 褐色土 : ローム粒子混在
 3 暗褐色土 : ローム粒子混在
 4 褐色土 : ローム粒子混在 しまりなし
 5 暗褐色土 : 腐植に混在 しまりなし
 6 褐色土 : 腐植に混在 しまりなし
 7 褐色土 : ロームコアロップ少量
 8 褐色土 : ロームコアロップ少量
 9 褐色土 : ロームコアロップ多量(混入 しまりなし)
 10 暗褐色土 : ローム粒子主層層で地中に近い しまり
 中々



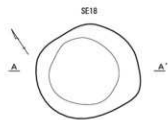
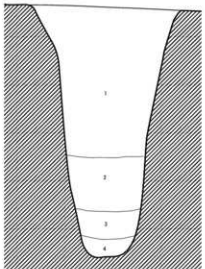
第121図 井戸跡 (2)



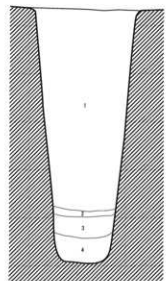
A 11 30m A'



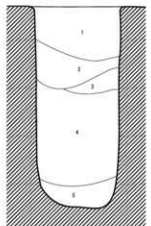
A 11 30m A'



A 11 30m A'



A 11 30m A'



SE15

- 1 黒褐色土 : ローム・黒色土で構成 硬土
- 2 黒色土 : 黒色土多量 ロームブロックが縦状に堆積
- 3 黒褐色土 : ロームブロック少量 黒色土混入
- 4 褐色土 : 腐土に共通
- 5 黒褐色土 : 腐土層に共通

SE17

- 1 黒褐色土 : 均質でしまりの強い層 褐色土・ロームを同量程度含む
- 2 黒褐色土 : ロームの堆積
- 3 黒褐色土 : 褐色土とロームの互層
- 4 黒色土 : 褐色土・白色粘土の互層 各層厚15~18cm 程度

SE18

- 1 黒褐色土 : 褐色土・ロームの混層
- 2 黒褐色土 : 均質のローム主体 褐色土混入
- 3 黒褐色土 : 褐色土少量
- 4 黒色土 : 白色粘土層が縦状に堆積 白色粘土層は鉄分含有率により赤褐色化した層がある

SE19

- 1 黒褐色土 : ローム粒・ロームブロック少量
- 2 黒褐色土 : ローム粒多量
- 3 黒褐色土 : ローム粒混在 しまり弱
- 4 褐色土 : ローム粒少量 中や軟性あり
- 5 褐色土 : ロームブロック・白色粘土小ブロック含む



第122図 井戸跡 (3)

円柱状に掘り込まれていた。覆土は黒色土とローム土が互層に堆積していた。湧水が激しく、完掘できなかった。

第15号井戸跡 (第122図)

I-12グリッドに位置する。開口部は径が1.9m前後で、漏斗状にひろく。開口部以下は径が0.7mで、円柱状に掘り込まれていた。覆土は黒色土とローム土が互層に堆積していた。深さ4mである。

第17号井戸跡 (第122図)

F・G-10グリッドに位置する。開口部は径が

2.3m前後の円形で、底部に向かってすぼまり気味に掘り込まれていた。深さは4mである。

第18号井戸跡 (第122図)

G-10グリッドに位置する。長径1.63m×短径1.48mの楕円形で、底面に向かってすぼまり気味に掘り込まれていた。深さは4mである。

第19号井戸跡 (第122図)

D・E-4グリッドに位置する。径が1.5m前後で円柱状に掘り込まれていた。深さは3.1mである。

8. 溝跡と出土遺物

第1号溝跡 (第123・124図)

諏訪坂貝塚第2次調査において検出された最大かつ最長の溝跡である。表土掘削以前にもその存在が確認されており、溝の周囲に高まりがあったことから、土塁を伴っている可能性も考えられた。

溝はE-12グリッドで緩く屈曲するが、D-4グリッドからE-16グリッドにかけて直線的に調査区外に伸びている。D-4グリッドからM-7グリッド間およびE-16グリッドからO-11グリッド間も若干の屈曲部が認められるが、調査区内を地形に沿って直線的に掘削されている。総延長は350mである。

開口部の幅溝は1.8mから3mと一定していないが、北西から南東に伸びる部位が比較的広く、南西から北東に伸びる部位は幅が狭い傾向がある。溝底面の幅は0.9mから1.0mと比較的一定しており、一貫して断面が逆台形に掘り込まれている。

覆土は自然堆積で、溝の中位からは天明の浅間起原と考えられる火山灰が検出されたが、堆積後に溝の改修などは行われなかったようである。

当初土塁と考えられた溝周囲の高まりは、調査の結果溝を掘削した際に堆積した土で、土塁ではないことが判明した。

溝からは瓦 (第124図2) が出土したのみである。

第2号溝跡 (第123図)

第1号溝の北西-南東ラインに平行して掘削された溝である。F-4・5グリッドで直角に曲がり、I・J-5グリッドで調査区境界に接し、直角に曲がるようである。直線部分の長さは40mで、方形に区画された溝の可能性がある。溝幅は南北側で4m、東西側で2mである。溝の中位に段を持って掘り込まれ、底面の幅は0.6m~0.7m、深さは0.7m前後である。第2号溝からは火山灰は検出されなかった。

第3号溝跡 (第123図)

台地の西斜面で、調査区の境界に沿って検出された。台地の斜面を掘削して成形した平坦部に掘られた溝で、C-12グリッドから北側には、埋め戻された旧溝が検出された。第1次調査で検出された第1号掘跡は、この溝に連なっていた可能性がある。幅0.6m、深さ0.3mである。

第4号溝跡 (第123図)

調査区南端で第1号溝と平行した溝跡で、第1号溝から派生したと考えられる。幅0.7m、深さ0.2m

前後の浅い溝である。

第5号溝跡 (第123図)

E-13グリッドで第1号溝から派生し、F・G-13グリッドでクランク状に屈曲し、第5号・第12号住居跡を壊しつつ北東方向に伸びる溝である。H-10グリッドで取束するとともに、平安時代の遺物が出土した第9号溝を壊している。断面は逆台形で、溝幅は1.1m前後で深さは0.4mである。

第6号溝跡 (第123図)

D-10・11グリッドで第8号溝に接し、くの字状に屈曲する第1号溝に破壊されたものと考えられる。幅0.7m~1.0mで、深さが0.2m程度の浅い溝である。

第7号溝跡 (第123図)

H-12グリッドからI-9グリッドにかけて、第5号溝に並走し、第8号溝、第9号溝を壊して掘削されていた。幅1.0m~1.3mで、深さが0.4m前後の浅い溝である。

第8号溝跡 (第123図)

C-11グリッドからN-11グリッドまで直線的に伸び、屈曲して調査区外に至る溝である。第1号、第5号、第7号溝に壊され、L-11グリッドで交差する第9号溝を壊している。幅1.0m前後、深さが0.2m~0.3mである。

第9号溝跡 (第123図)

調査区南側をクランク状に屈曲しつつ伸び、第5号溝と接して取束する。幅0.7m前後で深さ0.1m程度の浅い溝である。覆土からは須恵器環(第124図1)が出土しており、唯一古代の可能性のある溝跡である。

第10号溝跡 (第123図)

M-9・10グリッドに位置し、第1号溝と重複し

ていた。幅1.0m前後、深さが0.4mである。

第11号溝跡 (第123図)

J-11~13グリッドに位置し、第7号溝と方位を同じくする。幅0.7m、深さが0.25m程度の浅い溝である。

第12号溝跡 (第123図)

F-9グリッドから11グリッドまで直線にのびる溝で、第8号溝と交差する。溝の北端から第13号溝にかけては、地山平坦に掘削されていた。幅0.25m、深さが0.1m程度の浅い溝である。

第13号溝跡 (第123図)

F-7グリッドからG-7グリッドにかけて、くの字状に屈曲し、第18号住居跡の張り出し部を破壊していた溝である。第12号溝との間は、地山が掘削されており、第13号溝とは一連の遺構と思われる。幅0.5m~0.8mで、深さが0.2m程度の浅い溝である。

第14号溝跡 (第123図)

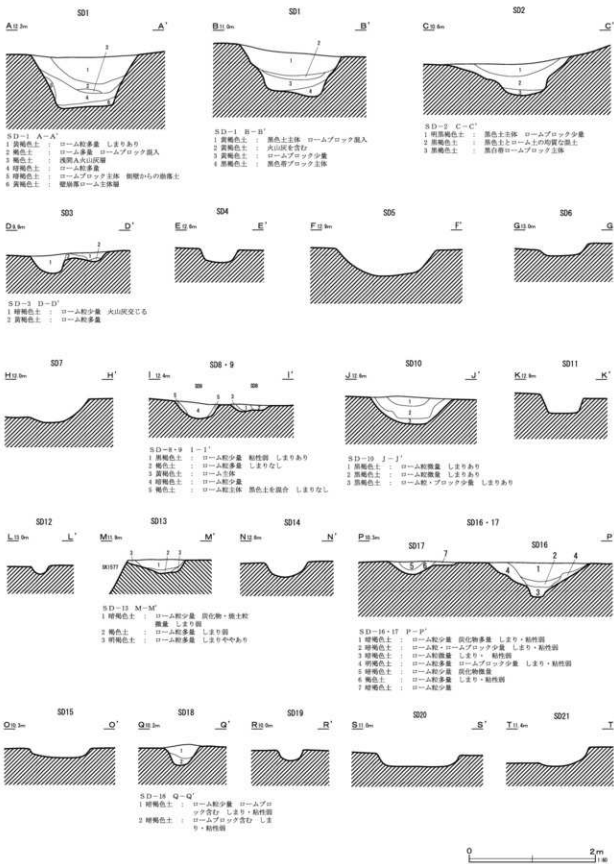
F-6・7グリッドに位置し、土壌によって破壊されていたため詳細が把握できなかった。幅0.8m、深さが0.3m前後である。

第15号溝跡 (第123図)

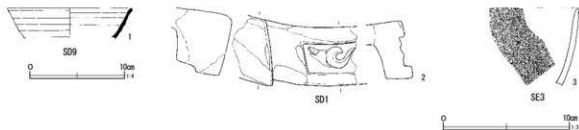
G-3・4グリッドに位置し、第2号溝に接している。第16号溝とともに、第2号溝内を区画していたものと考えられる。幅1.0m、深さが0.2m前後の浅い溝である。

第16号溝跡 (第123図)

F~H-4グリッドに位置する。第2号溝に接し、第15号溝とともに、第2号溝内を区画していた溝である。薬研掘で、開口部の幅が約2.0m、底面の幅0.6m、深さが0.4mである。



第123図 溝跡



第124図 溝跡・井戸跡出土遺物（古代・近世）

第17号溝跡（第123図）

G・H-4グリッドに位置し、第18号溝に接するとともに、第16号溝に併走する小溝である。幅0.7m、深さが0.2mである。

第18号溝跡（第123図）

H-4グリッドに位置し、第16号溝に接して、くの字に屈曲する。調査区外に伸びている。第16号溝とともに、第2号溝内を区画していたものと考えられる。幅0.6m、深さが0.3mである。

第19号溝跡（第123図）

F-2グリッドに位置する。第2号溝に接した小

溝で、幅0.3m、深さが0.1m前後の浅い溝である。

第20号溝跡（第123図）

D～F-2グリッドに位置し、第2号溝に接して調査区外に伸びる。いる。第16号溝とともに、第2号溝内を区画していたものと考えられる。幅1.3m、深さが0.3m前後の溝である。

第21号溝跡（第123図）

A・B-5・6グリッドに位置する。斜面側の立ち上がり不鮮明だが、幅0.8m、深さが0.3m前後と思われる。

9. 遺構外出土遺物

(1) 縄文時代

土器

第I群土器（第125図1・2）

燃糸文系土器を本群とした。1は外反する口唇下に指頭押圧が施されている。2は口唇部が斜位、体部が縦位施文されている。

第II群土器（第125図3）

条痕文系土器を本群とした。台地先端部付近で検出されたが穴と分布が重なるが、出土量は少ない。

第III群土器

1類（第125図4～7）

間山式土器を本群とした。4は波状口縁で、口唇

上に貼付文をもつ資料である。5～7は縄文施文の土器で、5、7は未端環付縄による施文、6はコンパス文の施文例であろう。

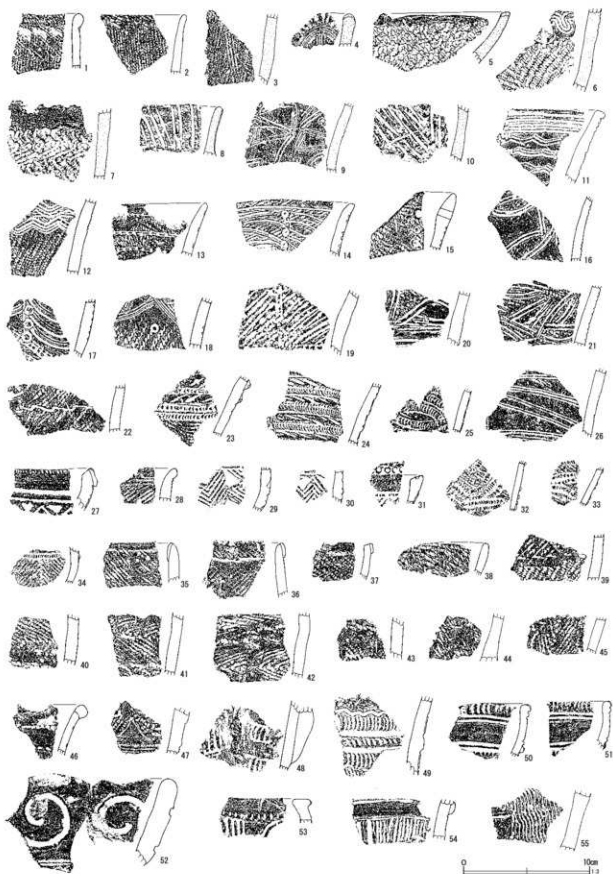
2類（第125図8～10）

含繊維の黒浜式である。8は口唇部に縦位沈線が施文された大型菱形文系土器に相当しよう。9・10は縦区画を意図した文様構成を持つことから、黒浜式中葉から後葉に比定されよう。

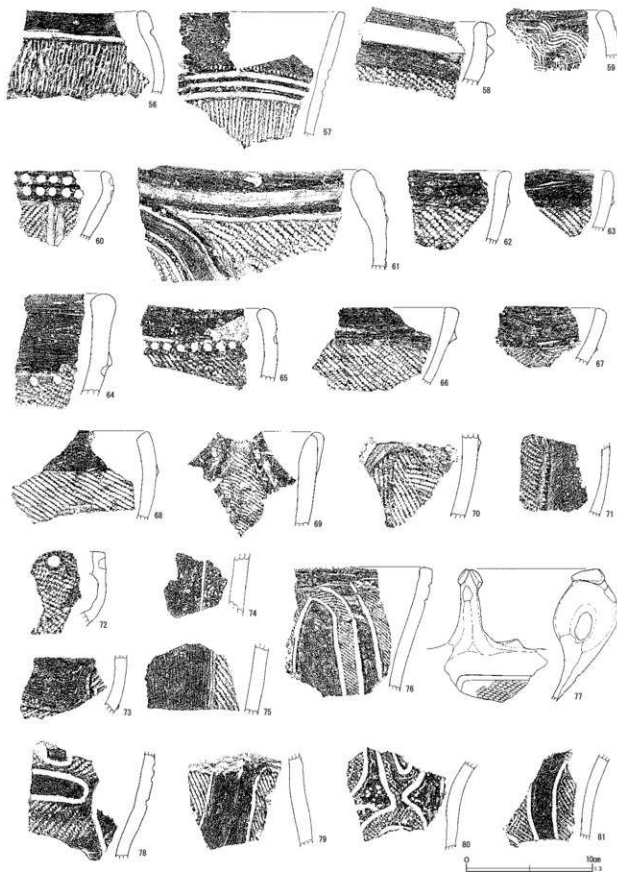
第IV群土器

1類（第125図11～22）

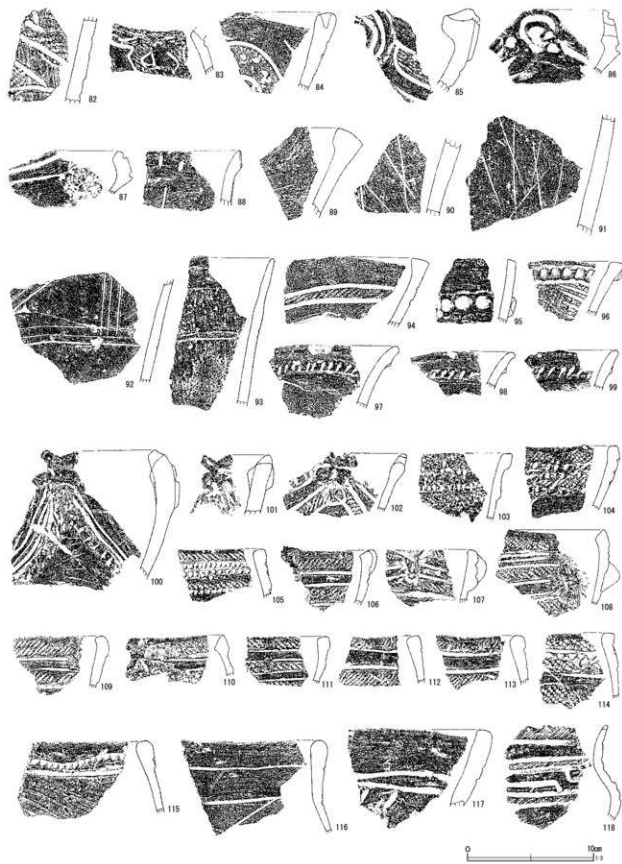
諸磯a式土器を本類とした。11～13はコンパス文



第125図 グリッド出土土器 (1)



第126図 グリッド出土土器 (2)



第127図 グリッド出土土器 (3)

系、14、17・18は肋骨文系の土器である。19も肋骨文系であるが、縦横区画線に竹管文が用いられ、単方向に沈線文が施文される。無繊維であるがやや古手の土器であろう。15は波頂部から円形竹管文が垂下する土器で、文様帯区画を持たない土器か。

20・21は木の葉状入り組み文が施文され、11～19よりも時期的に新しい土器と思われる。22は結節施文の破片である。

2類 (第125図23～26)

諸磯b式土器を本類とした。23・24は、爪形文と斜線の刻みが施された浮線文が交互に施文される土器で、2単位大波状口縁深鉢形土器に特徴的である。

25は爪形文による木の葉状入り組み文の施文例、26は沈線文施文の浮島式的土器と思われる。

第V群土器

前期終末の土器を本群とした。時期的に3期に区分されるが、第2次調査では1類は出土しなかった。

2類 (第125図27～30)

印刻を伴う土器である。半截竹管による横位鋸歯文間に印刻を施し、陰影のアクセントをつけた土器である。小破片のため、文様帯の詳細は不明である。

3類 (第125図31～34)

結節浮線文の土器群である。31は口唇上に刺突を伴う円形貼付文をもち、体部が結節浮線文、32～34は、縄文地上に結節浮線文が施文された土器群である。

4類 (第125図35～45)

縄文地文の土器を一括した。口唇内面や外面が肥厚したものが多くようである。地文は横回転に加えて、縦回転施文の土器が存在する。

第VI群土器 (第125図46～53)

中期前半の土器を本群とした。猪沢式から勝坂終末期の破片を含んでいる。46は猪沢式あるいは阿玉台lb式に相当しよう。47は隆帯上に縄文施文された大木の色彩をもつ土器である。

48～50はキャタピラ文が施文された勝坂式中葉の破片である。50・51は同一個体で、隆帯上に刻みが施された土器である。52・53は勝坂式終末期と思われる。53は滝久保タイプであろうか。

第VII群土器 (第125・126図54～75)

中期後半から後期初頭の土器を本群とした。資料は2類加曾利E式である。

54～57は加曾利E式前半期の土器で、第17号住居跡と同時期の破片類である。58～75は加曾利E式後半期の土器群である。60は逆U字状のモチーフが垂下する土器で、やや古相を示す。61～73は隆起線の土器で、61、70、71は抱球文の土器と思われるが、70はより新しい時期の所産と考えられる。69は双頭状の波頂部で、称名寺式と時期的に並行する土器であろう。74・75は沈線による幅広い磨り消し懸垂文の土器である。

第VIII群土器

後期初頭から前葉の土器群である。

1類 (第126・127図76～85)

称名寺式土器を本類とした。76～83は曲線的な沈線モチーフ内に縄文が重点施文され、地に磨り消しが施された土器である。84は沈線間に列点が充填された土器である。85は対弧状の細取の口唇突起をもつ関沢類と考えられる。

2類 (第127図86～92)

堀之内式土器を本類とした。86～88は前半期の土器で、称名寺式的モチーフを伴っている。89～92は後半期の沈線文が施文された土器である。

第Ⅹ群土器

後期後半から末葉の土器群である。

1類 (第127図93～99)

堀之内Ⅱ式から加曾利B式の精製土器、および粗製の組線文系土器を含む資料群である。

2類 (第127図100・101)

曾谷式土器を本類とした。波頂部に突起を持つ大波状口縁の深鉢形土器で、100は器面に雷状の沈線文が施文されている。

石器

尖頭器 (第128図1・2)

1・2は木の葉形の尖頭器である。1は緑灰色のチャート製で、粗い剥離で仕上げられ、やや幅広である。石質のためか、剥離痕の端部は蝶番状を呈している。2はガラス質黒色安山岩製で、風化が激しく観察が困難ではあるが、やや細身で薄く、丁寧な剥離で仕上げられていることがわかる。両者とも、先端部に小さな桶状の衝撃剥離が観察できる。

石鎌 (第128図3～8)

6は三角形で基部が弧状に成形された大型、肉厚なつくりであるが、それ以外は基部に抉りをもつ有脚の石鎌である。7は抉りが深く長脚の形態を作り出している。4を除き、剥離が細かく丁寧である。

石錐 (第128図9・10)

9は剥片の一端を粗く剥離し、形状を整えた粗いつくりで、未成品の可能性もある。10は右半部を欠損しているが、剥片の端部に連続する加工を施し、小さな先鋭部を作りだしている。

二次加工を有する剥片 (第128図11・13・15・16)

11は赤色のチャートの剥片を素材とし、左側縁に角度の高い連続する剥離を施している。13は薄手の剥片を素材とし、端部に連続する剥離を施している。

3類 (第127図102～115)

後期安行式土器を本類とした。波状口縁と平縁があり、口唇上や帯縄文間に突起が付されている。

第Ⅹ群土器 (第127図116～118)

晩期の土器群である。116・117は沈線間に列点が施文された土器である。118は小波状突起を持つ壺形土器で、体部の狭い横帯内に、クランク状の沈線文が施文されている。

15は表面を礫面で覆われた剥片を素材とし、表面下端にやや粗い剥離を連続して施している。16も表面の一部に礫面を残した剥片を素材としており、表裏から剥離を施している。いずれも削器状の機能を有するものと考えられる。

礫器 (第128図12)

やや扁平の緑色岩の円礫に粗い大きな剥離を施した後、裏面の右側縁から端部に不連続な剥離を施し刃部を作出している。刃部にはやや潰れが認められ、叩き切るような機能を有していた可能性が考えられる。

楔形石器 (第128図14)

薄手の剥片の上下にやや細かい不連続な剥離が施されている。D字形の断面形状からも楔形石器としての機能が推定できよう。

石剣 (第129図17)

砂岩製の石剣の頭部の破片である。残存状況が非常に悪いため全体形状などは不明だが、縦横に数条の溝を有し、精緻なつくりのものであったと推定できる。

打製石斧 (第129図18・20～27)

18は小型の打製石斧、20・21は短冊形の打製石斧

である。20は剥片を素材とする、21は表面を礫面で覆われた剥片を素材とし、周辺から求心状にめぐる粗い剥離で形状を整えている。刃部のつくりだしはあまく、未製品の可能性もある。22は矩形の剥片を素材としたヘラ状の石斧である。23～25は撚形で、いずれも柄り部の明確なつくりに対して、刃部のつくりが粗い。26は刃部を、27は上半部を欠損するため全体形状が不明である。

磨製石斧（第129図19・28）

19は小型であるが、研磨は精緻で、しっかりとした面取りがなされている。28も研磨が良好であるが、頭部のみ残存している。

石核（第130図29・30）

29はガラス質黒色安山岩の円礫を素材とした石核である。30はチャートの分割礫を素材とし、一端から剥片を剥離している石核である。いずれも、剥離された剥片は不定形である。

甲石（第130図31～33）

いずれも礫の端部に敲打による潰れや、剥離が観

察できる。31・33は全体が研磨されている。

石皿（第130図36）

縁辺部を縁取り状に高く整形した石皿片で、裏面には窪みが観察できる。形状から縄文時代後期の所産と考えられる。

凹石（第130図34・37）

37は板状の緑色片岩を用いた凹石で、表裏両面からの使用により一部、窪み部分が貫通している。39は砂岩製で、原石の窪みを利用している。

砥石（第130図35・38・40・41）

35・38は砂岩製の細長い板状礫の中央部に溝状の研磨部の残る有孔砥石である。いずれも表裏ともにしっかりとした溝が観察できる。38は下端部に敲打による潰れも観察でき、叩石としても使用されたことがわかる。

40・41はそれぞれ細粒の砂岩、泥岩製で、全面がよく研磨され、面取りがなされている。すじ状の鋭利な擦痕が観察でき、縄文時代よりも新しい時代に帰属するものと考えられる。

（2）近世

陶磁器（第131図1～3）

1は削り出し高台の徳利で、器面前面に茶褐色の釉がかけられている。2は常滑産の大甕ないしは壺、3は焙烙鍋である。

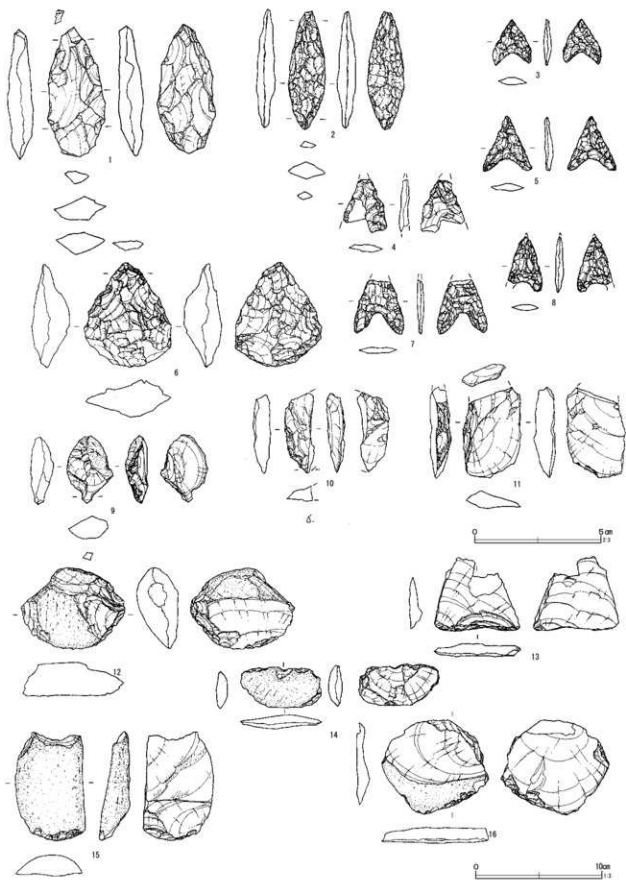
土鍾（第131図4～11）

心棒に粘土を巻きつけて製作したと考えられる。

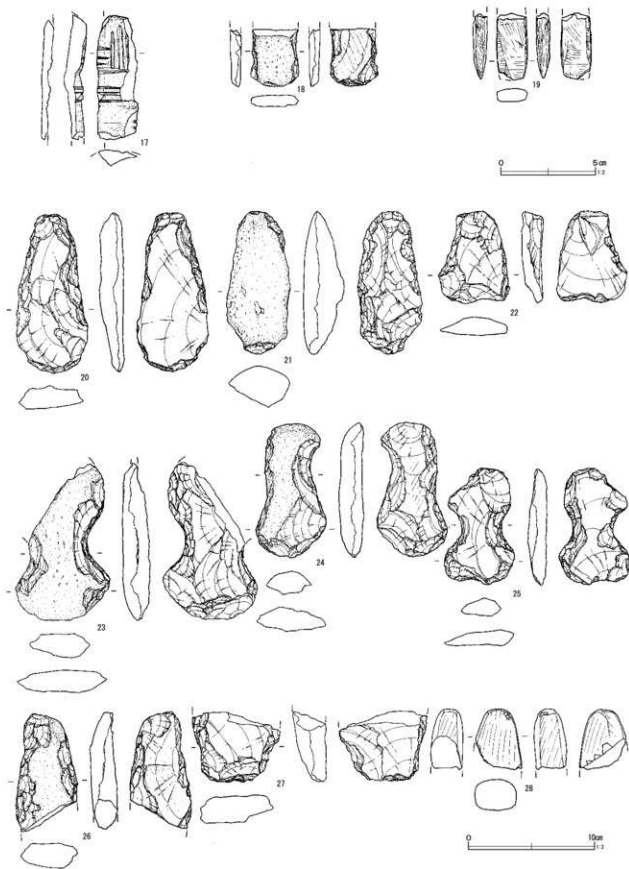
胎土は浅黄橙色で砂粒をほとんど含まない。

銭（第131図12～17）

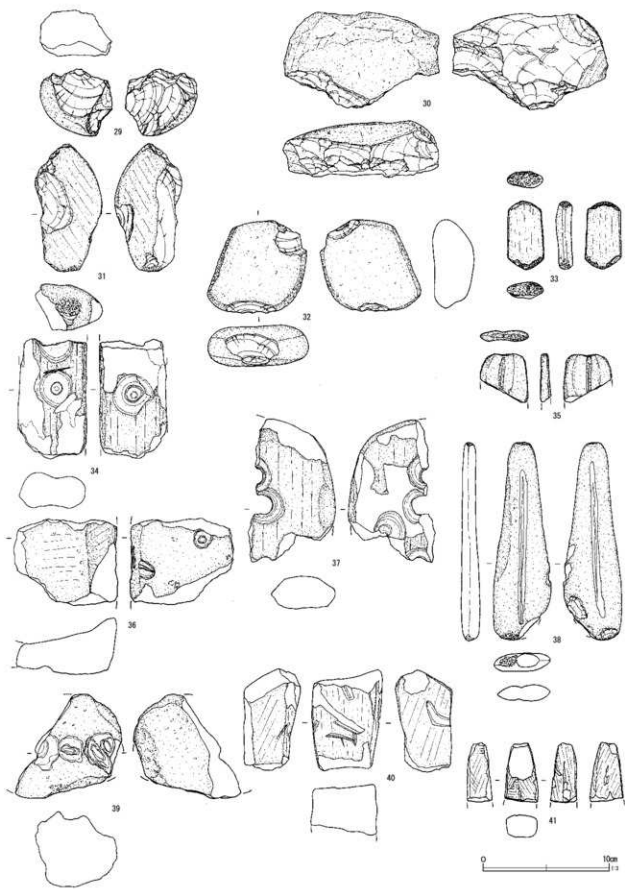
12は「開元通寶」で、径2.5cm。欠損部に文字が存在したようである。13は「洪武通寶」で、径2.2cm。14～17は「寛永通寶」で、14～16は径が2.8cm、17は径が2.3cmである。



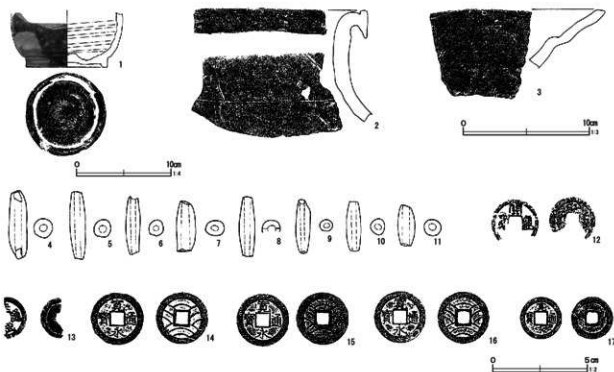
第128図 グリッド出土石器 (1)



第129回 グリッド出土石器 (2)



第130図 グリッド出土石器 (3)



第131図 グリッド出土遺物(古代・近世)

第3表 第2次調査出土石器属性表
旧石器時代

遺構	No.	器種	石材	長(m)	幅(m)	厚(m)	重量(g)	欠損	備考	図版番号
遺構外	133	スクレイパー	Ag	54.0	42.0	22.0	29.6			2004-1
遺構外		スクレイパー	Ob	29.0	31.0	11.0	11.4			2004-2
遺構外		剥片	Ag	54.5	49.5	16.0	41.3			2004-3
遺構外		Rフレ	GAn	49.0	33.0	23.0	46.6			2004-4

縄文時代

遺構	No.	器種	石材	長(m)	幅(m)	厚(m)	重量(g)	欠損	備考	図版番号
SJ-1		石鏃	Ch	19.0	13.5	4.0	1.4	*	破損後再加工/未製品	2004-42
SJ-1		石鏃	Ob	25.0	17.0	3.0	0.8	*		2004-43
SJ-1	33	打製石斧	GSch	62.0	33.0	13.0	28.9			2004-44
SJ-1	1	凹石	GSch	82.0	74.0	36.0	240.6	*		2004-45
SJ-1	6	凹石	GSch	57.0	65.5	23.0	101.2	*		2004-46
SJ-2	1	凹石	GSch	67.0	94.0	22.0	183.7	*		2704-8
SJ-5	16	打製石斧	GSch	101.0	29.0	7.0	38.0			3704-47
SJ-6		磨石	Dio	121.0	101.0	73.0	1055.6	*	未製品/石器	3904-14
SJ-6		打製石斧	Sa	69.0	47.0	19.0	82.1	*		3904-15
SJ-7	13	石皿	Ga	121.0	188.0	66.0	1748.3	*		4404-64
SJ-7		石皿	Ch	19.0	15.0	3.0	0.6	*		4504-65
SJ-7		石鏃	Ch	32.5	25.0	8.0	6.4	*		4504-66
SJ-7		Rフレ	Ch	50.5	29.5	17.0	22.0	*		4504-67
SJ-7		石皿・凹石	Dio	92.0	114.0	52.0	538.9	*		4504-68
SJ-7		打製石斧	Sch	65.0	52.0	12.0	40.4	*		4504-69
SJ-7	11	石皿・凹石	CAn	131.0	149.5	88.0	1844.2	*		4504-70
SJ-7		石皿	CAn	63.0	43.0	49.0	429.6	*		4504-71
SJ-7	12	石皿・凹石	CAn	125.0	139.0	61.0	970.6	*	4504-72	
SJ-8	20	叩石	Sa	119.5	36.0	23.5	141.3	*	4904-28	
SJ-8	27	石棒	An	159.0	85.5	87.0	1267.2	*	4904-29	
SJ-8	3	石皿・凹石	Dio	65.0	121.5	55.0	429.4	*	4904-30	
SJ-8		磨石	CAn	59.0	75.0	28.0	144.2	*	4904-31	
SJ-8	24	凹石	GSch	98.0	124.0	26.0	514.5	*	4904-32	

遺構	No.	器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	欠損	備考	図版番号
SJ-8	6	石皿・凹石	GSch	129.5	92.0	65.0	782.9	*		50図-33
SJ-8	19	石皿・凹石	CAn	106.0	105.0	61.5	530.7	*	脚付	50図-34
SJ-8	17	石皿・凹石	CAn	217.0	153.5	77.0	1865.5	*		50図-35
SJ-16	6	磨石・凹石	Sch	93.0	172.5	54.0	941.7	*		63図-7
SJ-16	5	石皿・凹石	Dio	145.5	121.5	45.0	1015.3	*		63図-7
SJ-16	16	凹石	GSch	310.0	100.5	23.0	909.9	*		63図-8
SJ-16	4	磨石	GSch	126.0	78.0	37.0	454.7	*		63図-9
SJ-16	8	石皿・凹石	Sa	101.5	112.5	54.0	759.7	*		63図-10
SJ-17		石鏡	Ob	19.0	13.3	3.0	0.5	*		67図-19
SJ-17		石鏡	Ob	24.0	9.5	5.5	0.9	*		67図-20
SJ-17		Rフレ	Ob	30.0	46.0	16.0	12.9	*	P-1	67図-21
SJ-18	4	石鏡	Ch	12.0	16.5	2.0	0.3	*		69図-7
SJ-18	7	石皿・凹石	CAn	270.0	168.0	73.0	1971.9	*		70図-8
SJ-20	10	Rフレ(楔)	Qu	34.0	54.0	17.0	27.7	*		75図-9
SJ-24	24	磨製石斧	GSch	98.5	40.0	21.0	109.3	*		80図-17
SJ-25	144	石鏡	Ob	16.5	13.0	4.0	0.5	*		83図-31
石器集中1		石鏡	Ob	14.0	13.0	4.0	0.4	*		87図-1
石器集中1		石鏡	Ob	13.0	13.0	3.0	0.6	*		87図-2
石器集中1		石鏡	Sh	12.5	12.0	2.8	0.3	*		87図-3
SK-907		石皿	Dio	97.0	99.0	53.0	830.5	*		93図-51
SK-907		磨石	Dio	65.5	70.0	28.0	209.1	*		93図-52
遺構外		尖頭器	Ch	52.0	23.0	10.5	11.4	*		128図-1
遺構外		尖頭器	GAn	47.0	14.5	7.0	4.3	*		128図-2
遺構外		石鏡	Ob	18.0	15.5	3.0	0.6	*		128図-3
遺構外		石鏡	Ob	21.0	17.0	4.0	1.0	*		128図-4
遺構外		石鏡	GAn	21.2	20.0	3.5	0.9	*		128図-5
遺構外		石鏡	Ch	41.0	34.5	15.0	16.5	*		128図-6
遺構外		石鏡	Ob	21.5	20.0	3.0	1.0	*		128図-7
遺構外		石鏡	Ch	22.0	14.0	3.5	0.7	*		128図-8
遺構外		石鏡	Ob	27.0	18.5	9.0	3.6	*		128図-9
遺構外		石鏡	Ch	31.0	11.5	7.0	2.6	*		128図-10
遺構外		Rフレ	Ch(Red)	35.5	23.2	8.0	6.4	*		128図-11
遺構外		礎器	Gr	64.0	82.0	32.0	195.2	*		128図-12
遺構外		Rフレ	Sa	58.0	68.0	10.0	33.4	*		128図-13
遺構外		礎器	Sa	85.5	55.5	24.0	121.7	*		128図-15
遺構外		楔形石器	Sa	32.5	64.5	10.5	232.0	*		128図-14
遺構外		削器	Sa	73.5	85.0	13.0	72.4	*		128図-16
遺構外		石剣	Sa	65.5	18.3	9.0	16.4	*		129図-17
遺構外		打製石斧	Sa	30.0	25.0	6.0	7.9	*		129図-18
遺構外		磨製石斧	Gr	35.0	16.0	7.0	7.4	*		129図-19
遺構外		打製石斧	An	125.0	56.0	19.0	153.2	*		129図-20
遺構外		打製石斧	An	112.0	51.5	32.0	173.0	*		129図-21
遺構外		打製石斧	Sa	72.0	56.0	17.0	73.8	*		129図-22
遺構外		打製石斧	Sa	123.0	74.5	21.0	185.6	*		129図-23
遺構外		打製石斧	Sa	105.5	55.5	20.0	127.9	*		129図-24
遺構外		打製石斧	An	91.0	56.0	15.0	76.0	*		129図-25
遺構外		打製石斧	Sa	92.0	47.0	21.0	109.4	*	頭部のみ	129図-26
遺構外	16	打製石斧	An	54.5	69.5	26.0	106.1	*	刃部のみ	129図-27
遺構外		磨製石斧	Gr	47.5	36.0	26.0	59.0	*		129図-28
遺構外		石核	GAn	52.5	57.0	36.0	112.4	*		130図-29
遺構外	38	石核	Ch	75.5	123.5	42.0	443.1	*		130図-30
遺構外		磨石・凹石	Sa	100.0	53.0	36.0	201.3	*		130図-31
遺構外		叩石	An	72.0	79.0	32.0	267.3	*		130図-32
遺構外		敲石	Sa	53.0	28.2	13.0	27.4	*		130図-33
遺構外		凹石	GSch	94.0	54.5	32.0	268.8	*		130図-34
遺構外	10	磨石	Sa	38.0	32.5	8.0	10.5	*	被熱/有溝	130図-35
遺構外		石皿・凹石	CAn	68.0	82.0	46.0	250.2	*		130図-36
遺構外		凹石	GSch	112.0	69.0	28.0	257.3	*		130図-37
遺構外		磨石	Sa	155.5	46.0	15.0	91.6	*	有溝	130図-38
遺構外		凹石	CAn	81.0	84.0	66.0	384.1	*		130図-39
遺構外		磨石	Sa	80.0	56.0	44.0	251.8	*		130図-40
遺構外		磨石	Mu	46.5	26.0	20.0	29.3	*		130図-41

第4表 第2次調査土壌一覧表

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	圃土	形態	番号	グリッド	径(長×短)	深さ	圃土	形態
1	E-16	0.78×0.77	0.46	A	C	67	E-14	1.06×0.94	0.59	A	B
2	E-16	0.76×(0.69)	0.22	A	-	68	E-14	0.58×0.44	0.23	A	D
3	E-16	1.26×1.02	0.47	A	D	69	E-14	0.54×0.32	0.06	A	D
4	E-16	1.12×1.07	0.39	A	C	70	E-14	0.80×0.62	0.29	A	E
5	E-16	1.17×(1.03)	0.21	B	-	71	E-14	1.38×1.10	0.62	A	B
6	D-E-16	(1.52)×0.94	0.3	A	-	72	E-14	0.65×0.62	0.71	A	E
7	D-E-16	1.98×1.42	0.46	A	D	73	F-16	1.38×1.01	0.32	A?	A
8	E-16	1.61×(0.61)	0.48	A	-	74	F-13-14	0.57×0.42	0.21	A	D
9	E-16	0.60×0.38	0.13	A	D	75	F-13-14	1.10×0.96	0.2	A	C
10	E-15-16	1.68×(1.22)	0.87	A	-	76	F-13-14	1.78×1.62	0.91	A	A
11	E-16	1.23×1.18	0.71	A	C	77	F-14	0.76×0.65	0.1	A	D
12	E-16	1.58×1.10	0.52	A	D	78	F-14	1.08×0.96	0.38	A	E
13	F-15-16	1.26×1.10	0.36	A	D	79	F-14	1.30×1.08	0.75	A	D
14	F-16	1.87×1.32	0.74	A	E	80	F-14	0.58×0.40	0.15	A	D
15	F-16	0.92×0.86	0.16	A	C	81	F-14	0.31×(0.25)	0.07	A	E
16	E-F-16	1.43×1.13	0.48	A	E	82	F-14	1.40×1.22	0.42	A	C
17	F-16	0.98×0.88	0.06	A	D	83	F-14	0.93×0.68	0.23	A	E
18	F-16	1.20×1.18	0.33	A	E	84	F-14	0.68×0.45	0.12	A	D
19	F-16	1.06×1.06	0.57	A	C	85	F-14	0.44×0.44	0.14	A	C
20	F-15-16	1.62×(1.24)	0.44	A?	-	86	F-14	0.50×0.48	0.18	A	C
21	E-15	1.33×1.23	0.99	A	C	87	F-14	0.60×0.40	0.14	A	E
22	E-15	1.01×0.80	0.28	A	D	88	F-14	1.00×0.83	0.41	A	D
23	E-15	0.95×0.50	0.35	A	-	89	F-14-15	0.48×0.44	0.17	A	C
24	E-15	1.43×1.02	0.52	A	D	90	F-14	0.78×0.60	0.16	A	D
25	E-15	0.98×0.62	0.59	A	-	91	F-14	1.40×1.20	0.68	A	E
26	E-15	1.12×0.89	0.33	A	D	92	F-14	2.06×1.60	0.78	A	E
27	E-15	(1.44)×(0.99)	1.01	A	-	93	F-G-14	1.35×0.96	0.59	A	A
28	E-F-15	(4.94)×1.02	0.21	A	-	94	F-G-14	1.32×0.83	0.18	A	A
29	E-15-16 F-15	1.52×1.49	0.67	A	D	95	D-13-14	1.46×1.20	0.57	A	D
30	E-15	0.84×0.70	0.26	A	D	96	G-14	1.46×1.02	0.24	A	A
31	F-15	(1.48)×(1.40)	0.44	A	-	97	C-13	1.42×1.20	0.49	A	D
32	F-15	1.72×1.52	0.71	A	A	98	C-13	1.36×1.00	0.45	A	D
33	F-15	1.46×0.83	0.25	?	-	99	C-D-13	1.22×1.09	0.38	A	E
34	F-15	0.60×0.39	0.16	A	A	100	D-13	1.82×1.42	0.8	A	D
35	F-15	0.43×0.32	0.14	A?	D	101	D-13	0.60×0.44	0.11	A	D
36	F-15	(1.09)×0.82	0.3	A	-	102	D-13	1.47×(0.82)	0.66	A	-
37	F-15	1.24×0.85	0.51	A	D	103	D-12-13	0.86×0.69	0.23	A	D
38	F-15	2.04×(1.20)	0.62	A	D	104	D-13	3.77×2.28	1.44	A	E
39	F-15	0.71×0.55	0.1	A	D	105	D-13	1.60×1.03	1.03	A	D
40	F-15	0.96×0.70	0.44	A	D	106	E-13	2.58×1.92	0.65	A	E
41	F-G-15	(1.58)×1.43	0.44	C	E	107	E-13	1.02×0.92	0.3	A	E
42	F-G-15	1.52×(0.40)	0.68	A	D	108	E-13	0.64×(0.60)	0.23	A	-
43	F-15	0.87×0.83	0.48	A	-	109	E-13	1.40×1.23	0.51	A	D
44	F-15	1.22×0.68	0.43	A	A	110	E-13	1.38×(0.91)	0.82	A	-
45	F-15	1.40×1.33	1.01	A	A	111	E-13	0.84×0.72	0.42	A	-
46	F-15	0.71×0.56	0.1	A	D	112	E-13	1.22×0.79	0.87	A	A
47	F-15	0.88×0.70	0.17	A	D	113	E-F-13	1.89×1.71	0.39	A	C
48	F-15	0.74×0.52	0.29	A	A	114	E-13	1.35×1.09	0.89	A	D
49	F-15	1.23×0.98	0.26	A	A	115	E-13	1.35×0.93	0.47	A	D
50	F-15	0.63×(0.48)	0.11	A	-	116	E-F-14	1.06×0.95	0.79	A	E
51	F-15	0.76×0.52	0.22	A	D	117	E-16	1.44×1.16	0.79	A	E
52	F-15-16	1.46×0.98	0.7	A?	A	118	D-13	1.80×1.76	0.57	A	E
53	F-15	1.30×(0.88)	0.54	A?	A	119	E-F-13	1.16×0.88	0.5	A	-
54	F-15	1.43×1.12	0.5	A	D	120	F-13	1.26×1.15	0.74	A	E
55	F-15	1.03×0.78	0.28	A	D	121	E-F-13	2.11×1.32	0.99	A?	D
56	D-E-15	1.34×0.82	0.16	A	C	122	F-13	0.83×0.77	0.81	A	C
57	D-13-14	1.60×1.50	1.17	A	C	123	F-13	0.84×0.75	0.16	A	-
58	D-14	0.69×0.69	1.06	A	C	124	F-13	1.03×0.80	0.63	A	D
59	D-14	0.89×0.78	0.23	A	D	125	F-13	1.16×0.75	0.74	A	D
60	D-E-13-14	2.32×2.28	1.26	A	D	126	F-13	0.96×0.62	0.39	A	-
61	D-14	1.96×1.40	0.78	A	E	127	F-13	1.20×0.96	0.52	A	E
62	D-14	1.72×1.54	1.3	A	D	128	F-13	1.36×1.33	0.88	A	B
63	D-E-14	1.08×0.74	0.41	A	E	129	F-13	1.16×0.93	1.01	A	D
64	E-13-14	1.52×1.36	1.14	-	C	130	F-13	1.42×1.18	0.4	A	E
65	E-14	3.30×(1.46)	0.63	-	E	131	F-13	1.08×1.00	-	A	B
66	E-14	1.06×0.98	0.75	-	B	132	G-14	2.26×1.16	0.41	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
133	G-13-14	1.86×1.23	0.77	A	D
134	G-14	2.31×1.84	0.7	A	A
135	G-H-15	1.22×0.96	0.77	A	-
136	H-15	1.69×(1.23)	0.61	A	D
137	H-14-15	0.97×0.80	0.11	A	D
138	H-14-15	1.50×(1.28)	0.36	A	-
139	H-14-15	1.43×0.79	0.87	A	D
140	H-14-15	0.86×(0.46)	0.32	A	-
141	J-13	1.28×1.26	0.77	-	C
142	H-14	1.14×0.96	0.66	A	D
143	H-14	0.88×0.86	0.4	A	-
144	H-114	(1.23)×1.06	0.77	A	A
145	H-14	1.18×1.02	0.41	A	C
146	G-14	1.22×1.02	0.74	A	B
147	I-14	0.93×0.88	0.39	A	C
148	I-14	10.4×0.88	0.24	A	D
149	I-14	1.06×(0.65)	0.23	A	C7
150	H-14	0.48×0.36	0.21	A	E
151	I-14	0.69×0.58	1.12	A	-
152	I-14	0.76×0.58	0.2	A	D
153	I-J-14	1.69×(0.60)	0.57	A	-
154a	L-12-13	1.36×1.30	0.45	A	D
154b	J-13	1.16×0.96	0.22	-	E
155	I-13	1.18×0.92	0.59	A	D
156	J-13	1.40×0.99	0.34	A	A
157	J-13	0.56×0.38	0.34	A	E
158	I-13	1.75×1.50	0.4	A	E
159	I-13	1.03×0.58	0.28	A	D
160	I-13	0.56×0.52	0.2	A	C
161	I-12	1.05×0.88	1.02	A	E
162	I-13	0.88×0.76	0.34	A	C
163	E-15	0.57×0.51	0.57	A	D
164	I-13	0.92×0.72	0.38	A	D
165	H-I-13	2.06×1.88	0.51	A	D
166	I-13	(0.56)×0.22	0.19	A	-
167	I-13	1.16×1.10	0.37	A	C
168	I-13	1.85×(0.90)	0.54	A	D
169	H-14	1.54×1.20	0.86	A	D
170	I-13	0.56×0.30	0.14	A	D
171	I-13	0.94×0.41	0.24	A	A
172	-	-	-	-	-
173	G-H-13	1.06×0.96	0.91	A	D
174	I-13	1.95×1.48	0.77	A	E
175	J-13	1.21×(0.56)	0.28	A	-
176	H-14	2.08×1.74	0.86	A	D
177	H-13	0.66×0.56	0.15	A	-
178	H-13	1.75×1.02	0.17	A	D
179	E-15	0.77×0.60	1.0	A	E
180	G-H-14	0.56×0.49	0.28	B?	C
181	H-14	0.75×0.52	0.2	B	D
182	H-13	1.50×1.20	0.4	A	D
183	G-H-13	1.48×0.78	0.51	A	D
184	G-13	0.95×0.88	0.39	A	C
185	G-13-14	1.88×(1.04)	0.67	A	-
186	G-13	2.40×1.74	0.62	A	E
187	G-13	1.29×1.03	0.76	A	A
188	G-13	1.88×0.84	0.15	A	E
189	G-13	1.39×1.18	0.42	A	C
190	H-13	0.46×0.40	0.18	A	B
191	H-13	0.60×0.58	0.21	A	B
192	H-13	1.33×0.98	0.45	A	D
193	H-13	0.95×0.68	0.49	C	D
194	H-13	0.86×0.75	0.34	B	D
195	E-15	0.65×0.43	0.29	A	D
196	J-13	(1.54)×1.21	0.55	A	-
197	I-J-13	(1.82)×1.51	0.73	A	-
198	I-J-13	1.20×1.05	1.11	A	C
199	J-13	1.16×0.87	0.86	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
200	J-13	1.26×1.25	0.43	C	C
201	I-13	1.31×1.06	0.5	A	D
202	I-14	1.15×(0.62)	0.47	B	-
203	K-12	1.76×1.43	0.55	A	D
204	I-13-14	2.02×1.02	0.59	C	D
205	H-13-14	1.27×(0.95)	0.31	A	-
206	I-14	1.12×(0.88)	0.33	A	-
207	I-14	1.00×(0.82)	0.42	A	-
208	J-13	1.61×1.42	0.61	A	-
209	-	-	-	-	-
210	J-13	1.48×(0.63)	0.65	A	-
211	I-14	1.02×(0.68)	0.6	A	-
212	G-13	1.10×0.92	0.19	A	E
213	H-14	0.60×(0.42)	0.24	A	-
214	I-12	1.17×1.05	0.39	A	D
215	I-12	1.28×1.27	0.99	A	B
216	I-13	1.26×0.90	0.49	A	D
217	K-12	0.86×0.82	0.45	A	B
218	K-12	2.41×2.05	0.91	A	E
219	K-12-13	0.93×0.58	0.59	C	D
220	K-12	1.05×0.63	0.27	A	D
221	K-12	(1.20)×(0.51)	-	A	-
222	K-12	1.55×1.24	0.66	A	E
223	K-11-12	1.26×1.21	0.49	A	C
224	K-L-11	1.74×1.57	0.62	A	D
225	L-12	1.22×1.00	0.29	A	D
226	L-12	1.27×0.94	0.42	A	D
227	K-12	1.02×(0.95)	0.22	A	-
228	K-L-13	(1.42)×0.88	0.4	A	-
229	L-11	(0.62)×0.73	0.08	A	-
230	L-11	1.40×1.13	0.63	A	D
231	L-11	1.55×0.95	0.5	A	D
232	L-12	0.98×(0.68)	0.24	A	-
233	L-12	1.04×1.04	0.64	A	E
234	M-12	1.42×1.20	0.62	A	E
235	M-12	1.24×1.12	0.87	A	E
236	M-12	1.52×1.34	0.86	A	E
237	J-12	(0.86)×0.73	0.26	A	D
238	L-11	1.21×0.93	0.58	A	E
239	H-14	0.32×0.27	0.07	A	C
240	L-11	1.15×0.96	0.56	A	D
241	K-11	1.32×0.83	0.55	A	E
242	K-11	1.03×0.94	0.22	A	D
243	K-11-12	0.92×0.90	0.22	A	C
244	K-11	2.12×1.39	0.41	A	A
245	K-11	0.95×0.72	0.3	A	D
246	I-J-12	1.28×0.92	0.44	A	D
247	J-12	1.60×1.33	0.61	A	E
248	J-12-13	2.40×1.08	0.58	A	E
249	L-11	1.53×1.23	0.36	A	D
250	M-11-12	2.98×2.14	1.41	A	E
251	M-11	0.92×0.75	0.29	A	D
252	M-11	1.30×0.88	0.62	A	D
253	N-11	1.86×1.68	0.86	A	D
254	N-12	1.15×(1.13)	0.38	A	-
255	N-11-12	1.06×(0.84)	0.43	A	-
256	N-11-12	1.14×0.80	0.37	A	-
257	N-11	1.08×0.83	1.24	A	D
258	O-11	(1.30)×(0.60)	0.22	A	-
259	O-11	1.44×1.18	0.54	A	D
260	O-11	1.73×1.12	0.91	A	D
261	N-11	1.28×1.09	0.3	A	A
262	N-11	1.08×0.59	0.2	A	D
263	O-11	1.13×0.92	0.3	A	D
264	N-O-10-11	1.12×0.70	0.28	A	E
265	N-11	(0.86)×0.85	0.19	A	-
266	L-12	1.22×1.20	0.65	A	C
267	O-10	1.07×0.70	0.28	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
268	O-10	0.78×0.64	0.18	A	D
269	H-14	1.22×1.05	0.13	A	C
270	H-14	0.28×0.28	0.14	A	B
271	H-14	0.86×0.78	0.33	C	D
272	H-15	1.12×(0.42)	0.53	A	-
273	N-11	1.64×1.27	1.02	A	E
274	E-12	1.03×0.76	0.53	A	D
275	E-13	1.01×0.99	0.83	A	C
276	E-12	1.20×1.05	0.36	A	D
277	E-12	1.04×0.96	0.25	A	C
278	E-12	2.23×1.89	0.5	A	E
279	E-12	1.14×1.03	0.73	A	E
280	E-12	1.30×1.00	0.52	A	(D)
281	E-F-12	1.64×(0.96)	0.89	A	-
282	E-12	(1.67)×(1.47)	1.26	A	-
283	E-F-12-13	1.12×0.88	0.65	A	-
284	F-12	1.66×1.10	1.19	A	A
285	F-12	2.32×1.00	0.93	A	D
286	F-12-13	1.17×1.00	0.55	A	E
287	F-12-13	1.82×1.62	0.43	A	D
288	I-13	2.04×1.36	0.7	A	D
289	I-13	1.94×1.27	0.45	A	E
290	F-12	0.44×0.42	0.32	A	C
291	F-12-13	0.84×0.78	0.69	A	C
292	F-12	2.94×1.62	1.11	A	E
293	F-12	1.18×0.88	0.71	A	D
294	F-12	2.14×0.96	0.62	A	E
295	G-12	1.88×1.20	0.75	A	E
296	G-13	0.94×0.82	0.28	A	C
297	G-12-13	1.82×1.62	0.49	A	E
298	G-12	1.05×0.72	0.25	A	D
299	G-12	1.43×0.91	0.99	B	D
300	G-12	0.89×0.83	0.31	BP	B
301	G-12	0.79×(0.48)	0.22	A	-
302	G-12	2.06×1.63	0.96	A	D
303	G-12	2.22×1.09	0.85	A	C
304	G-12	1.04×1.00	0.64	A	B
305	G-12	2.10×(1.22)	0.16	A	-
306	G-13	1.40×1.22	0.96	A	E
307	H-12	1.14×1.14	0.35	A	C
308	H-13	(1.34)×1.18	0.38	A	-
309	H-12	1.44×1.02	0.48	A	D
310	H-12	0.64×(0.50)	0.17	A	-
311	H-12	2.04×1.44	0.77	A	E
312	H-12	1.10×1.03	0.69	A	D
313	I-12	1.43×0.85	0.67	A	E
314	I-12	1.04×0.96	0.3	A	C
315	F-12	1.23×0.64	0.53	A	-
316	F-G-13-14	0.85×0.73	0.3	B	C
317	I-12	1.30×1.07	0.32	A	C
318	I-12	2.16×1.58	0.65	A	E
319	I-12	0.88×0.86	0.49	A	C
320	I-11	0.86×0.78	0.81	A	D
321	J-11	1.16×1.08	0.38	A	C
322	J-12	1.58×1.30	0.61	A	D
323	H-12	1.12×0.87	0.5	A	D
324	I-J-12	1.14×1.04	0.3	A	D
325	J-12	1.15×1.10	0.74	A	B
326	J-11	0.86×0.61	0.31	A	D
327	J-11	1.82×1.60	1.5	A	E
328	J-11	(1.25)×0.95	0.4	A	(E)
329	J-11	(0.89)×1.14	0.2	A	-
330	H-I-11-12	1.42×1.28	1.0	A	D
331	I-11-12	1.56×1.28	0.55	A	E
332	I-11-12	1.54×1.48	0.97	A	C
333	F-13	(0.84)×0.99	0.6	A	(D)
334	I-12	1.34×0.97	0.8	A	D
336	G-12	0.97×0.92	0.61	BP	C

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
337	G-11	1.18×0.88	0.64	A	A
338	H-11	1.42×1.11	0.33	A	D
339	H-11	2.10×1.53	0.69	A	E
340	H-11	1.22×1.12	0.14	A	D
341	H-I-11	0.94×0.74	0.23	A	D
343	I-12	0.87×0.65	0.6	B	D
344	J-11	1.75×1.68	0.8	BP	D
345	G-12	2.14×1.18	0.7	A	E
346	G-12	1.12×0.50	0.52	A	E
347	G-12	1.02×0.70	0.42	A	D
348	G-11-12	1.45×1.17	0.88	A	E
349	G-11	1.54×1.42	0.79	A	E
350	G-12	1.05×0.86	0.41	A	D
351	I-11	1.33×1.27	0.48	A	E
352	I-11	1.18×0.82	0.28	A	(D)
353	I-11	1.30×1.17	0.59	A	D
354	I-11	1.34×0.99	0.52	A	D
355	I-11	1.12×0.74	0.65	A	D
356	H-11	1.12×0.73	0.23	A	D
357	L-9	(1.26)×1.19	0.75	A	D
358a	G-11	0.61×0.43	0.25	A	D
358b	H-11	1.30×1.19	0.58	-	C
359	H-11	0.91×(0.83)	0.33	A	E
360	H-11-12	1.08×1.02	0.63	A	D
361	J-11	0.89×0.79	0.25	B	C
362	J-11	1.24×1.14	0.51	A	C
363	J-11	1.41×1.28	0.61	A	D
364	G-11	1.22×0.84	0.95	A	D
365	G-11	1.19×(0.66)	0.69	A	-
366	G-11	1.61×1.42	0.8	A	E
367	G-11	0.88×(0.87)	0.67	A	(B)
368	F-12	1.38×0.98	0.74	A	A
369	F-11-12	1.01×0.62	0.69	A	A
370	F-11	2.10×1.40	0.86	A	E
371	H-11	2.37×(0.34)	0.3	A	(A)
372	H-11	1.60×(1.52)	0.8	A	(C)
373	I-J-11	0.97×0.71	0.64	A	(D)
374	H-14	0.90×0.52	0.24	A	E
375	H-12	0.97×(0.60)	0.22	A	(D)
376	J-11	0.86×0.75	0.31	A	C
377	H-12	2.33×0.97	0.26	A	A
378	H-12	-×0.67	0.12	B	-
379	H-12	1.60×1.50	0.38	B	C
380	K-10	1.14×0.98	0.27	A	C
381	J-10	1.10×0.99	0.37	A	C
382	J-10	1.25×1.14	0.36	A	C
383	J-10	1.61×1.25	1.03	A	D
384	J-9	1.07×0.98	0.43	A	D
385	J-10	1.22×0.90	0.47	A	D
386	J-10	1.42×0.77	0.33	A	D
387	J-10	0.81×0.70	0.24	A	D
388	J-K-10	1.38×0.83	0.39	A	E
389	K-L-9-10	1.78×1.74	0.91	A	-
390	L-9-10	1.56×1.14	0.42	A	D
391	J-10	1.23×0.96	0.41	A	D
392	K-10	1.20×0.86	0.65	A	D
393	L-10	0.89×0.89	1.15	A	C
394	L-10	1.21×1.03	0.84	A	D
395	L-10-11	1.28×1.08	0.46	A	E
396	M-10	1.29×1.12	0.43	A	C
397	M-11-12	1.69×1.59	0.67	A	E
398	M-10	1.86×1.52	0.56	A	C
399	M-N-10	1.17×0.79	0.24	A	E
400	N-11	1.28×1.14	0.29	A	E
401	K-10	1.94×1.68	1.0	A	D
402	K-10	1.38×1.13	0.14	A	D
403	-	-	-	-	-
404	L-M-9	1.54×1.07	0.46	A	E

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
405	N-9	1.58×1.50	0.44	A	C
406	M-N-9	1.48×1.21	0.49	A	D
407	M-9	1.22×0.74	0.59	A	A
408	M-9	1.03×0.84	0.52	B	D
409	N-9	0.55×0.50	0.18	A	D
410	O-9	1.12×1.08	0.34	A	C
411	O-9	1.13×(1.70)	0.47	A	-
412	O-9	(0.90)×1.00	0.71	A	-
413	O-9	1.80×1.26	0.94	A	D
414	L-10	0.90×0.89	0.49	A	C
415	L-10	1.87×(1.19)	0.72	A	D
416	L-10	0.96×0.90	0.46	A	D
417	L-9	1.06×0.61	0.3	A	D
418	L-9	1.02×0.82	0.34	A	D
419	O-10	(1.90)×(1.42)	0.68	A	D
420	L-9	1.62×1.46	0.7	A	D
421	M-9	0.64×0.63	0.23	A	C
422	M-9	1.10×0.90	0.25	A	D
423	H-11	0.96×0.67	0.25	A	D
424	M-9	1.01×1.06	0.34	A	D
425	N-11	1.82×1.28	0.85	A	D
426	O-10	1.15×0.98	0.41	A	C
427	O-10	2.00×(1.39)	0.57	A	E
428	L-10	(1.18)×(0.78)	0.49	A	E
429	K-L-10	1.29×1.10	0.29	A	D
430	G-13	1.36×(1.04)	0.32	A	E
431	G-12-13	1.75×1.66	1.29	A	D
432	H-11-12	1.28×1.12	0.61	A	E
433	H-11	1.50×1.08	0.89	A	D
434	H-11	(0.94)×0.80	0.33	A	-
435	H-11	1.46×0.96	0.65	A	D
436	H-11	(1.78)×1.42	0.24	A	-
437	H-11	0.84×0.70	0.16	A	D
438	H-11	1.29×1.49	0.39	A	-
439	H-10	1.61×1.59	0.32	A	E
440	G-12	-×(0.63)	0.28	A	-
441	G-12	-×(0.76)	0.35	A	-
442	G-H-12	-×(0.84)	0.36	A	-
443	H-12	1.60×1.54	0.63	A	B
444	G-13	1.44×1.16	0.77	A	E
445	G-15	1.46×1.08	0.68	A	A
446a	G-15	1.24×0.90	0.46	A	D
446b	H-19	0.31×0.30	0.19	-	C
447	G-15	1.34×(0.62)	0.48	A	-
448	H-110	1.47×1.15	0.28	A	E
449	H-110	1.08×0.98	0.59	A	E
450	E-12	0.86×0.83	0.21	A	C
451	E-12	1.45×0.95	0.63	A	A
452	E-12	(1.36)×1.26	0.36	A	-
453	E-12	1.22×1.18	0.93	A	E
454	D-11-12	1.47×1.39	1.09	A	-
455	D-12	1.70×1.58	1.24	A	D
456	D-12	1.21×1.04	0.92	A	D
457	C-D-12	1.76×1.60	0.94	A	D
458	C-12	2.24×1.56	1.02	A	E
459	D-12	1.82×1.06	0.89	A	D
460	D-12	1.72×1.29	1.21	A	D
461	D-12	(1.52)×-	-	A	-
462	D-12	2.22×2.22	1.25	A	D
463	C-12	1.66×1.51	0.59	A	D
464	C-12	1.92×1.54	0.59	A	E
465	C-12	1.08×1.01	0.48	A	C
466	D-11	1.36×0.90	0.66	A	D
467	D-11	1.58×1.20	1.05	A	-
468	D-11	1.08×0.90	0.28	A	D
469	C-D-11	1.47×1.21	0.48	A	D
470	C-11	1.18×0.92	0.36	A	D
471	L-9	1.10×(0.58)	0.53	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
472	L-9	1.22×0.86	0.6	A	D
473	E-11	1.34×1.30	0.76	A	D
474	E-11	1.22×0.97	0.55	A	D
475	E-11	1.16×0.69	0.42	A	A
476	F-11	2.16×1.29	0.42	A	E
477	F-11	1.88×1.74	0.27	A	-
478	E-11	1.18×1.05	0.85	A	E
479	E-11	1.84×1.48	0.74	A	E
480	E-11	0.80×0.57	0.23	A	D
481	E-F-11	1.26×0.81	0.6	A	E
482	E-F-11	1.24×1.10	0.25	A	D
483	E-11	0.96×0.88	0.42	A	C
484	E-11	2.68×1.69	-	A	E
485	E-11	0.87×0.83	0.71	A	D
486	E-10	1.06×0.85	0.43	A	D
487	E-10-11	2.25×1.67	1.29	A	D
488	E-10	1.16×0.91	0.61	A	D
489	E-F-10	1.22×0.80	0.45	A	D
490	E-11	1.40×(1.14)	1.05	A	-
491	E-11	0.52×0.49	0.21	A	C
492	E-F-11	0.85×0.63	0.38	A	A
493	F-11	0.92×0.70	0.6	A	D
494	F-11	1.05×0.78	0.87	A	D
495	F-11	1.68×1.68	1.06	A	E
496	F-10	1.82×0.95	0.69	A	E
497	F-10	1.58×0.80	0.59	A	A
498	F-10	0.58×0.53	0.19	A	D
499	F-11-12	1.72×1.12	0.44	A	D
500	F-12	2.28×1.90	1.2	A	D
501	K-10	(1.30)×1.96	0.31	A	-
502	F-12	(1.04)×(0.92)	0.86	A	-
503	F-11	1.53×1.20	0.8	A	D
504	F-11	0.58×0.54	0.39	A	B
505	F-11	0.76×0.56	0.28	A	D
506	F-11	1.66×1.31	0.28	A	D
507	F-11	1.32×1.08	0.73	A	E
508	F-11	1.32×0.74	0.56	A	D
509	F-11	1.02×0.95	0.52	A	C
510	F-10-11	1.04×0.76	0.7	A	D
511	F-10	0.78×0.71	0.44	A	D
512	F-10	1.03×0.74	0.32	A	D
513	F-10	1.29×1.02	0.22	A	D
514	E-10	0.55×0.44	0.23	A	D
515	F-10	0.85×0.68	0.49	A	D
516	E-F-10	1.05×0.99	0.35	A	C
517	H-10-11	0.67×(0.56)	0.37	A	-
518	N-10-11	0.98×(0.60)	0.44	A	-
519	I-10	1.24×1.02	0.7	A	D
520	F-10	1.76×-	0.49	A	E
521	G-16	1.16×(0.79)	0.35	A	-
522	G-13	1.02×0.83	0.56	A	A
523	F-13	1.14×0.60	0.12	A	-
524	F-13	0.76×0.36	0.9	A	-
525	O-10	(0.54)×(0.47)	0.25	A	-
526	O-10	(2.82)×1.60	1.09	A	D
527	O-10	1.56×1.22	0.95	A	D
528	O-10	1.20×0.86	0.4	A	D
529	O-10	1.73×0.95	0.62	A	D
530	O-10	(0.94)×0.96	0.24	A	-
531	F-13	1.34×1.34	1.43	A	-
532	F-13	1.84×1.38	1.39	B	C
533	F-13	1.38×0.80	0.51	B	D
534	F-13	1.01×0.82	0.38	A	D
535	H-12	1.67×0.69	0.13	B?	D
536	L-12	(0.86)×0.52	0.39	A	-
537	M-11	0.88×0.82	0.45	A	E
538	M-11-12	1.40×(1.00)	0.35	A	-
539	G-14	1.14×0.83	0.75	C	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
540	L-11	1.12×1.08	0.18	A	C
541	M-11	1.12×0.92	0.59	A	D
542	M-11	1.86×1.62	1.0	A	D
543	O-10	1.05×0.73	0.25	A	D
544	O-10	1.19×0.55	0.37	A	A
545	O-10	0.85×0.84	0.35	A	D
546	M-11	1.22×1.09	0.76	A	E
547	O-10	0.60×0.54	0.29	A	C
548	N-10	2.19×1.41	0.67	A	D
549	N-11	1.54×1.27	0.5	A	E
550	N-10-11	1.10×0.96	0.74	A	B
551	M-11	1.44×0.92	0.98	A	E
552	O-10	1.08×(0.76)	0.3	A	D
553	O-10	(0.60)×0.57	0.36	A	D
554	O-10	0.55×(0.40)	0.37	A	C
555	O-9	(1.53)×1.21	0.58	A	D
556	N-10-11	1.45×1.13	0.74	A	D
557	N-10	1.99×1.34	0.36	A	D
558	N-11	1.02×(0.77)	0.51	A	-
559	M-11	1.24×1.18	0.78	C	E
560	N-10	1.14×0.90	0.45	B	E
561	L-12	0.80×0.80	0.2	C?	C
562	M-10	0.89×0.79	0.34	A	C
563	D-13	1.44×1.00	0.54	A	D
564	D-13	1.33×(0.69)	1.04	A	-
565	D-13	1.58×1.46	0.97	A	E
566	E-13	1.39×0.88	0.83	A	-
567	D-15	1.26×1.08	0.79	A	D
568	J-11	1.06×1.02	0.61	A	C
569	J-K-11	1.08×0.89	0.45	A	D
570	D-15	1.44×-	0.64	A	-
571	L-10	0.94×(0.61)	0.29	A	D
572	M-11	1.38×1.08	0.58	A	D
573	M-10-11	1.11×1.07	0.38	A	D
574	M-10	1.33×1.21	0.52	A	D
575	M-10	0.56×0.46	0.14	A	D
576a	M-10	0.45×0.41	0.17	A	C
576b	N-10	0.70×0.60	0.15	-	C
577	M-10	0.14×0.10	0.39	-	D
578	D-14	1.70×(0.36)	0.81	-	-
579	D-14	0.86×(0.50)	0.51	-	-
580	D-14	1.42×(0.70)	0.47	A	-
581	-	-	-	-	-
582	N-10	0.72×0.55	0.18	A	D
583	O-10	0.40×0.39	0.22	-	C
584	N-10	0.76×0.54	0.3	A	E
585	N-10	0.94×0.79	0.32	A	D
586	N-10	1.03×0.87	0.25	A	D
587	N-10	1.07×0.79	0.26	-	D
588	N-10	1.25×0.97	0.23	A	D
589	N-10	1.23×(1.07)	0.54	A	E
590	N-10	1.41×1.19	0.45	B	D
591	G-11	0.34×0.31	0.14	A	C
592	F-G-11	1.12×1.09	0.95	A	E
593	M-10	2.01×1.21	0.3	-	D
594	M-10	0.99×0.71	0.23	A	A
595	F-11	0.57×0.49	0.1	A	D
596	N-10	0.78×0.63	0.24	B	D
597	G-11	1.08×0.87	0.59	A	D
598	G-11	1.75×1.68	1.36	A	E
599	L-9	1.21×0.90	0.51	A	D
600	N-9	1.20×1.06	0.87	A	D
601	N-9-10	1.69×1.53	0.47	A	D
602	N-9-10	2.23×2.19	0.46	A	D
603	N-10	0.78×0.59	0.23	A	D
604	N-10	1.68×(0.51)	0.25	A	D
605	C-10	2.10×1.46	1.89	A	E
606	D-10	1.10×0.97	0.59	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
607	C-10	(1.53)×1.23	0.72	A	D
608	D-10	1.99×1.07	0.37	A	C
609	C-10	0.80×0.65	0.37	A	D
610	C-10	1.81×1.74	0.8	A	C
611	N-10	1.10×0.79	0.46	B?	E
612	O-10	1.20×1.05	0.74	A	E
613	N-10	0.51×0.40	0.18	A	D
614	M-10	1.28×0.76	0.39	A	E
615	N-O-10	0.51×0.50	0.28	B?	C
616	N-9	1.16×1.02	0.77	A	C
617	N-10	1.19×1.01	0.76	A	D
618	N-O-10	0.64×0.60	0.18	A	C
619	N-9-10	1.02×0.64	0.42	A	D
620	N-10	0.46×0.42	0.27	A	C
621	M-10	0.72×0.50	0.24	B	D
622	N-10	1.46×(0.72)	0.61	A	D
623	N-10	0.73×(0.50)	0.33	B	D
624	N-10	0.46×0.43	0.71	A	C
625	N-10	1.02×0.65	0.1	A	D
626	N-10	0.46×0.43	0.86	A	C
627	L-9	0.72×0.51	0.99	B	D
628	L-9-10	1.46×(0.73)	1.12	A	D
629	L-12	2.07×1.78	0.73	A	D
630	K-10	0.90×0.72	0.31	-	D
631	H-11	0.66×0.64	0.29	-	C
632	H-11	0.72×0.54	0.25	-	D
633	L-10-11	0.96×0.70	0.22	A	D
634	M-10	2.30×1.91	1.23	A	E
635	N-10	0.48×0.43	0.19	B	D
636	L-M-12	(1.50)×(1.39)	0.95	A	-
637	M-10	0.68×0.57	0.2	-	D
638	M-10	0.97×0.89	0.25	A	C
639	M-10	2.80×0.86	0.97	C	A
640	M-10	0.69×0.63	0.31	A	C
641	K-10	1.07×(0.70)	0.44	C	D
642	N-10	0.61×0.52	0.15	C?	D
643	K-10	1.25×1.19	0.41	A	A
644	I-J-10	1.21×0.94	0.3	A	D
645	N-O-10	0.53×0.45	0.15	C	D
646	K-10	1.26×0.85	0.53	A	D
647	L-11	1.20×0.79	0.41	A	E
648	N-9	1.04×0.80	0.3	A	D
649	N-9	1.21×1.15	0.38	A	C
650	K-10	0.86×0.54	0.18	A	E
651	H-11	1.44×1.12	0.39	-	D
652	J-10	1.80×1.45	0.65	A	E
653	N-10	0.93×0.63	0.28	B	D
654	M-9	1.52×1.40	0.79	A	D
655	N-9	-	-	-	-
656	I-10	1.53×1.46	0.88	A	B
657	M-9	1.72×0.64	0.44	A	D
658	N-9	1.35×(0.91)	0.75	A	D
659	J-K-10	1.11×1.03	0.46	A	D
660	N-10	1.27×0.79	0.94	-	D
661	K-9	(1.02)×1.27	0.8	A	D
662	K-9	2.72×1.45	1.05	A	A
663	L-8-9	2.30×1.88	0.71	A	E
664	L-9	2.08×1.39	0.67	A	E
665	L-M-9	0.99×0.60	0.25	-	D
666	M-8	1.21×0.97	0.24	-	D
667	J-9	0.87×(0.58)	0.56	A	B
668	J-9	1.02×0.68	0.74	-	D
669	J-9	1.10×0.99	0.78	-	D
670	J-9	1.06×0.94	0.19	A	E
671	J-9	0.95×(0.58)	0.39	-	B
672	J-9	1.76×(1.68)	1.25	A	D
673	J-9	2.03×1.71	1.1	A	D
674	J-9	0.89×0.80	0.48	A	E

番号	グランド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
675	J9	1.65×1.18	0.77	-	D
676	J9	1.17×1.00	0.19	A	D
677	J9	1.64×1.12	0.47	-	D
678	J9	(1.16)×1.13	0.98	-	D
679	J9	1.50×1.04	0.81	-	D
680	J-K8-9	(1.58)×1.23	1.55	-	D
681	1-9 1-J-10	2.33×2.01	1.04	-	D
682	1-J9	1.98×1.63	0.93	-	D
683	N-9	1.25×1.10	0.98	B	C
684	I9	1.15×1.08	0.29	A	C
685	I9	1.55×1.34	0.37	-	C
686	I-10	1.47×1.04	0.67	-	A
687	-	-	-	-	-
688	I9-10	1.45×1.40	0.58	-	E
689	G-11	0.52×0.38	0.22	B?	D
690	H-9	1.11×0.98	1.61	B	C
691	H-10	1.30×0.92	0.42	A	E
692	J9	2.27×(2.26)	0.85	A	C
693	L-10	1.65×1.27	0.96	A	A
694	I-10	1.21×1.17	0.56	A	C
695	K-L8-9	1.80×1.50	0.97	A	E
696	K-9	3.33×2.54	0.81	A	E
697	K-9	2.83×1.96	1.0	A	D
698	I9	1.36×1.14	0.67	A	D
699	L-9	1.27×1.26	0.42	A	C
700	K8 L8-9	4.63×2.35	0.97	-	E
701	I9-10	1.05×0.91	0.57	A	D
702	I9	2.13×1.25	0.43	A	D
703	I9	1.38×1.16	0.82	A	D
704	G-H-9	1.06×1.04	0.4	A	C
706	G-11	0.98×(0.75)	0.24	A	-
707	G-11	0.97×0.96	0.4	A	E
708	G-11	1.64×1.28	0.41	A	C
709	K8-9	1.63×0.98	0.5	A	C
710	D-13	2.06×1.71	1.11	-	E
711	E-F-10	1.08×0.95	1.13	A	D
712	E-10	0.76×0.58	0.26	-	D
713	E-9	1.31×0.90	0.53	-	D
714	E-9-10	1.97×1.35	0.9	A	E
715	E-9	1.84×1.62	0.87	A	E
716	E-10	1.69×1.03	0.75	A	E
717	E-10	2.88×1.61	0.2	A	A
718	D-10	1.00×0.92	0.72	A	C
719	E-9	2.02×(1.77)	0.94	A	E
720	D-10	0.59×0.54	0.6	A	D
721	D-10	0.95×0.87	0.71	-	D
722	D-9	1.20×0.95	0.75	-	D
723	D-9	1.17×1.15	1.0	A	C
724	D-9	1.08×0.96	0.67	-	C
725	D-9	1.14×0.87	1.0	A	D
726	C-D-9	1.48×0.97	1.45	-	A
727	C-10-11	1.69×1.02	0.38	-	D
728	C-10	1.07×0.92	0.33	A	C
729	C-10	1.15×1.04	0.6	A	E
730	E-11	1.12×(0.78)	0.5	A	-
731	D-E-11	1.70×1.42	0.68	A	E
732	D-11	1.00×0.94	0.53	A	B
733	D-10-11	1.98×1.23	1.0	A	E
734	E-11	1.17×0.72	0.37	A	E
735	E-11	0.88×(0.63)	0.62	A	-
736	E-11	1.01×(0.62)	0.5	A	-
737	C-10	1.35×0.92	0.67	-	D
738	C-9	1.23×0.89	0.61	-	D
739	C-D-9	1.05×1.04	1.17	A	C
740	J-10	1.49×1.47	0.62	A	D
741	H-12-13	1.43×1.24	0.75	A	D
742	H-12	1.04×1.00	0.22	A	C
743	J-11	1.41×1.28	0.63	A	D

番号	グランド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
744	E-9	0.81×0.75	0.48	A	B
745	D-9	1.35×0.76	1.15	A	D
746	E-9	1.29×1.17	0.78	A	D
747	D-8	1.12×0.83	0.56	A	D
748	E-9	1.16×1.05	0.55	A	D
750	H-14	1.28×1.20	0.12	A	C
751	B-9	2.04×1.45	0.57	A	A
752	I-11	1.08×(0.99)	0.42	A	-
753	B-9	1.21×0.98	0.42	A	A
754	B-9	2.20×1.55	0.86	A	E
755	J-10	1.23×1.02	0.56	A	C
756	J-10	1.29×0.89	0.36	A	D
757	J-10	1.66×1.40	0.71	A	D
758	I-10	1.57×1.18	0.75	A	E
759	-	-	-	-	-
760	C-9	1.23×1.17	0.47	A	C
761	C-9	1.83×1.58	1.14	-	E
762	G-10	(1.13)×0.98	0.35	-	E
763	G-10	1.54×1.12	0.55	-	E
764	G-10	2.73×(1.53)	0.41	-	D
765	F10-11 G-10	1.50×1.01	0.7	-	D
766	G-10	1.42×0.97	0.53	-	E
767	G-10	1.34×1.15	0.41	A	D
768	G-10	1.49×1.28	0.06	-	D
769	F-10	1.76×1.27	0.52	A	D
770	F-10	1.23×1.09	0.62	-	C
771	G-10	1.62×1.28	0.53	-	D
772	G-9-10	0.93×0.74	0.37	-	D
773	G-9-10	1.35×1.28	0.68	-	D
774	E-F-10-11	1.53×0.93	0.38	A	D
775	H-10-11	1.81×0.82	0.27	A	E
776	G-10	1.49×1.29	0.58	A	A
777	F-10-11	1.38×0.91	0.62	A	E
778	G-10	0.92×0.66	0.48	A	D
779	G-10	2.33×1.45	0.77	A	E
780	G-10	1.17×1.07	0.59	A	A
781	H-10	1.28×(1.19)	0.36	A	D
782	H-10	0.93×0.64	0.58	A	D
783	H-10	1.31×1.18	0.35	A	D
784	G-10	1.41×(1.27)	0.53	A	D
785	H-10	1.40×1.15	0.8	A	D
786	G-10	0.90×(0.87)	0.39	A	C
788	E-F-9	1.22×1.03	0.36	A	D
789	E-9	1.92×0.86	0.88	A	E
790	F-10	1.02×0.77	0.57	A	D
791	F-9	-×1.01	0.42	A	E
792	G-10	1.78×1.13	0.8	A	D
793a	E-9	0.96×0.71	0.35	-	D
793b	F-9	1.48×1.20	0.54	A	D
794	E-F-9	1.20×1.21	0.81	A	C
795	F-9	1.64×1.53	0.84	A	B
796	F-9	2.02×1.67	0.88	A	D
797	G-10	1.22×0.93	0.34	A	D
798	I-10	1.17×0.80	0.89	A	D
799	I-10	1.04×(0.92)	0.73	A	B
800	H-110	1.07×0.89	0.51	A	D
801	F8-9	1.10×0.79	0.15	A	D
802	F-G-9	1.38×1.21	0.34	A	A
803	G-9	1.01×0.96	0.43	-	B
804	F-9	1.32×0.57	0.65	A	D
805	G-9	1.36×1.07	0.74	-	D
806	G-9	1.32×0.98	0.6	-	D
807	G-9	0.71×0.52	0.21	-	D
808	G-9	1.88×1.83	0.76	A	C
809	G-8-9	1.13×1.08	0.61	A	B
810	G-9	1.40×1.24	0.6	-	D
811	G-9	1.72×1.17	0.2	A	D
812	G-H-9	1.56×1.11	0.61	A	E

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
813	G-9	1.43×1.23	0.91	A	A
814	G-9	1.48×1.04	0.37	-	E
815	G-9	1.27×1.23	0.83	A	C
816	H-8-9	(0.72)×0.13	0.54	A	D
817	H-9	1.32×1.31	0.75	A	E
818	F-8	1.47×1.00	0.27	A	E
819	G-8	1.06×0.48	0.2	A	D
820	D-E-11	0.99×0.95	0.47	-	C
821	D-11	0.47×0.39	0.48	A	C
822	H-8-9	4.37×3.10	1.1	A	D
823	G-8	2.80×1.85	1.18	A	E
824	G-8	1.02×0.80	0.4	A	D
825	G-8	1.57×0.54	0.33	-	D
826	G-8	1.03×0.89	0.27	A	D
827	G-8	1.10×1.02	0.57	A	D
828	F-G-8	1.40×1.18	0.52	A	C
829	F-8	(2.08)×1.04	0.16	-	D
830	F-8	(1.28)×1.18	0.28	-	-
831	F-8	(3.49)×1.60	0.24	-	E
832	F-8	1.42×0.78	0.43	-	E
833	F-8	1.97×1.11	0.44	-	E
834	F-8	1.28×(0.60)	0.4	-	D
835	F-8	2.00×1.14	0.72	-	D
836	H-10	(1.06)×0.90	0.51	-	D
837	G-8	1.54×1.14	0.92	A	D
838	G-8	(1.48)×0.80	0.65	A	D
839	G-8	0.93×0.77	0.31	-	C
840	F-7-8	0.53×0.50	0.26	A	C
841	F-7	1.26×1.04	0.29	A	D
842	F-7	1.22×0.95	0.4	A	D
843	F-8	1.05×0.89	0.27	-	D
844	F-7	(0.39)×0.56	0.12	-	C
845	-	-	-	-	-
846	G-8	(1.10)×0.60	0.52	-	-
847	G-7	2.31×1.07	0.33	A	-
848	E-8	1.20×1.02	0.96	A	D
849	E-8	1.27×1.25	0.96	-	C
850	E-8	1.20×0.83	0.46	-	D
851	G-7	1.09×0.99	0.25	A	C
852	G-7	0.74×0.66	0.21	A	C
853	G-7	0.97×0.74	0.51	A	D
854	G-7	0.45×0.41	0.15	A	C
855	E-F-9	1.49×0.88	0.69	A	E
856	F-7	0.80×0.74	0.13	A	C
857	F-7	0.85×0.71	0.2	A	D
858	F-7	0.76×0.74	0.24	A	C
859	G-8-9	(1.23)×1.12	0.29	A	E
860	F-7	0.43×0.41	0.18	A	-
861	F-7-8	0.78×0.58	0.17	A	D
862	F-7	0.40×0.39	0.31	A	C
863	F-7	1.15×0.92	0.53	A	D
864	G-7	0.75×0.65	0.48	A	C
865	F-8-9	4.57×2.10	0.91	A	E
866	F-8	1.44×1.04	1.17	A	E
867	F-8	1.50×(0.57)	0.24	A	-
868	F-8	-×0.94	0.48	-	E
869	G-7	2.87×0.95	0.17	A	D
870	G-7	1.16×0.97	0.76	A	E
871	G-7	0.67×0.65	0.12	A	C
872	F-7	2.00×1.68	0.22	A	E
873	G-7	0.36×0.35	0.29	A	C
874	G-8-9	0.54×0.47	0.2	A	C
876	G-7	1.19×0.75	0.32	A	D
877	H-8	2.39×1.68	0.85	A	D
878	E-8	1.25×0.71	0.45	A	D
879	E-8	0.98×0.88	0.33	A	D
880	E-8	0.39×0.35	0.21	A	C
881	F-7	1.32×1.15	0.33	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
882	F-7	0.56×0.37	0.15	A	D
883	F-7	1.54×1.48	0.95	A	D
884	-	-	-	-	-
885	H-9	1.35×1.14	0.47	A	C
886	H-9	(5.43)×1.13	0.25	A	E
887	H-8	-×0.71	0.17	A	-
888	H-8	0.74×0.66	0.26	A	D
889	H-8	0.87×0.50	0.43	A	D
890	F-7	2.63×2.18	2.45	A	D
891	-	-	-	-	-
892	H-7	0.77×0.75	0.51	A	A
893	H-7	0.76×0.56	0.4	A	A
894	I-7	1.61×1.37	1.06	A	C
895	-	-	-	-	-
896	-	-	-	-	-
897	H-G-8	(4.38)×1.94	0.93	A	D
898	G-8	2.34×1.70	1.06	A	D
899	G-8	(1.50)×1.02	0.28	A	D
900	G-7	4.15×3.86	0.87	A	D
901	F-7	(2.00)×1.70	0.66	A	D
902	F-7	1.53×1.27	0.57	A	E
902	F-7	1.53×1.27	0.57	A	E
904	-	-	-	-	-
905	F-7	(1.10)×1.24	0.20	A or C	D
906	F-6-7	3.26×1.59	0.97	A	A
907	F-G-6	2.32×2.30	1.43	C?中世	B
908	G-6	1.54×1.33	0.4	A	D
909	G-8	(1.20)×1.50	0.54	A	C
910	F-G-6	0.82×0.51	0.23	A	D
911	F-G-6	1.48×0.94	0.37	A	D
912	G-7	(0.60)×0.51	0.21	A	C
913	G-7	1.34×1.24	0.65	A	C
914	F-7	0.40×0.38	0.07	A	C
915	G-6-7	4.42×1.07	0.99	A	B
916	-	-	-	-	-
917	F-8	1.40×1.18	0.18	A	C
918	F-8	1.06×0.61	0.38	A	D
919	F-8	(0.48)×4.20	0.18	A	D
920	F-G-8	0.87×0.64	0.17	A	C
921	G-7	0.72×0.66	0.17	A	C
922	G-8	0.90×0.58	0.25	A	D
923	F-8	0.81×0.53	0.13	A	D
924	F-8	0.40×0.25	0.18	A	D
925	H-17-8	3.25×2.94	0.61	A	E
926	F-G-7	1.43×1.18	0.52	A	D
927	H-8	2.81×2.56	0.75	A	E
928	F-7	1.36×0.91	0.32	A	E
929	H-9	1.67×1.19	0.78	A	D
930	H-8	1.21×1.13	0.63	A	D
931	-	-	-	-	-
932	G-7-8	1.91×0.70	0.61	A	D
933	H-19	(0.87)×(0.52)	0.16	A	E
934	H-G-7	1.49×0.89	0.33	A	E
935	G-7	0.80×0.69	0.23	A	C
936	G-7	0.63×0.47	0.24	A	D
937	F-8	1.77×(1.22)	0.34	A	E
938	F-7-8	-×-	-	A	-
939	G-7	1.01×0.74	0.2	A	D
940	F-7	(3.43)×2.82	1.69	A	E
941	F-G-9-10	2.06×1.65	0.37	A	C
942	H-9	1.54×1.41	0.52	A	C
943	H-9	0.72×0.68	0.33	A	C
944	H-9	1.19×1.11	0.73	A	C
945	H-9	0.38×0.37	0.17	A	C
946	-	-	-	-	-
947	H-9	1.03×0.93	0.64	A	E
948	H-9	1.84×0.73	0.66	A	D
949	H-9	1.12×0.93	0.67	A	C

番号	グリップ	径(長×短)	深さ	覆土	形態
950	H-9	1.14×1.09	0.51	A	E
951	H-9	0.50×0.43	0.18	A	C
952	H-8-9	0.93×0.78	0.54	A	C
953	H-1-9	0.65×0.47	0.17	A	D
954	F-7	1.52×1.10	0.48	A	-
955	H-9	1.04×0.87	0.49	A	C
956	H-9	1.26×0.74	0.21	A	D
957	G-9	2.01×1.11	0.32	A	D
958	G-6	1.03×(0.80)	0.91	B	C
959	F-7	(0.96)×1.45	0.28	A	E
960	F-7	2.28×1.20	1.0	A	A
961	G-6	-×1.06	0.7	A	B
962	H-9	0.59×0.42	0.5	A	D
963	H-9	0.41×(0.31)	0.3	A	D
964	H-9-10	2.73×2.58	0.8	A	E
965	G-6	1.23×0.72	0.59	A	D
966	H-9	1.25×0.86	0.56	A	D
967	G-6	-×0.90	0.28	A	D
968	G-7	0.93×0.66	0.52	A	D
969	I-9	1.09×0.96	0.58	A	C
970	I-9	0.85×0.83	0.56	A	C
971	I-9	1.32×1.30	1.23	A	C
972	I-9	1.18×1.01	1.28	A	C
973	I-9	-×1.56	0.38	A	-
974	I-9	2.56×2.51	1.3	A	E
975	J-9	0.52×0.42	0.13	A	D
976	I-9	1.36×0.95	0.41	A	D
977	I-9	1.04×0.95	0.45	A	C
978	I-9	1.96×1.49	0.95	A	D
979	J-9	0.80×0.79	0.23	A	C
980	J-9	0.90×0.78	0.39	A	E
981	J-9	0.46×0.45	0.11	A	B
982	J-9	0.83×0.62	0.34	A	D
983	J-9	1.08×0.99	0.31	A	D
984	J-9	0.53×0.50	0.15	A	D
985	J-9	1.97×1.28	0.54	A	E
986	J-8	1.40×1.25	0.46	A	D
987	J-K-9	1.01×1.01	0.27	A	C
988	K-9	0.93×0.72	0.56	A	D
989	J-9	1.18×1.02	0.49	A	D
990	J-K-9	1.67×1.21	0.49	A	D
991	K-9	1.82×(1.29)	0.57	A	D
992	K-10	0.50×0.34	0.16	A	D
993	K-L-10	1.56×0.99	0.94	A	D
994	K-10	0.50×0.50	0.18	A	C
995	K-9-10	2.51×1.78	1.25	A	D
996	K-9-10	1.20×0.89	0.36	A	D
997	K-9	1.02×0.87	0.61	A	D
998	K-9	1.48×1.30	0.28	A	D
999	K-L-9	1.67×1.64	1.02	A	D
1000	G-10	1.70×-	0.29	A	E
1001	G-10	-×1.30	0.32	A	E
1002	G-10	0.77×0.48	0.2	A	D
1003	G-10	-×0.91	0.21	A	E
1004	G-9	1.25×1.03	0.39	A	D
1005	G-9	0.44×0.43	0.27	A	C
1006	F-9	0.57×0.43	0.22	A	D
1007	F-9	0.80×0.55	0.3	A	D
1008	F-8-9	1.28×1.02	0.46	A	D
1009	F-9	1.98×-	0.33	A	E
1010	H-1-9	1.26×0.95	0.74	A	A
1011	F-10	0.59×0.58	0.26	A	C
1012	F-9	1.99×1.50	1.16	A	D
1013	J-9	(0.72)×0.94	0.42	A	-
1014	J-10	1.18×0.92	0.52	A	D
1015	L-9	(1.18)×1.33	0.55	A	E
1016	J-9	1.48×(0.64)	0.37	A	-
1017	K-10	0.97×0.84	0.2	A	D

番号	グリップ	径(長×短)	深さ	覆土	形態
1018	K-10	1.36×1.33	0.6	A	C
1019	J-9	2.02×1.36	0.77	A	E
1020	J-9	0.55×0.38	0.52	A	D
1021	J-9	1.05×0.79	0.29	A	(D)
1022	L-10	0.80×(0.45)	0.29	A	D
1023	K-10	0.80×(0.50)	0.3	A	(D)
1024	J-9	1.07×0.60	0.16	A	D
1025	K-10	(0.75)×0.66	0.27	A	(D)
1026	L-10	1.21×0.87	0.55	-	D
1027	L-10	0.98×0.66	0.22	-	D
1028	L-10	1.38×0.89	0.37	-	D
1029	L-10	1.20×0.93	1.04	-	D
1030	L-10	1.95×1.53	0.52	-	E
1031	L-10	1.96×1.56	0.8	-	D
1032	L-9	(0.67)×0.57	0.12	-	D
1033	L-10	1.14×0.98	0.11	-	D
1034	L-9	0.70×0.56	0.28	-	D
1035	G-9	1.19×-	0.54	-	E
1036	K-9	(0.98)×0.81	0.58	-	D
1037	L-10-11	1.01×0.95	0.33	-	D
1038	M-9	1.09×0.94	0.32	-	D
1039	M-9-10	0.89×0.63	0.16	-	D
1040	M-9-10	1.32×0.92	0.2	-	D
1041	M-9	0.67×0.64	0.16	-	B
1042	M-9	0.96×0.88	0.46	-	D
1043	-	-	-	-	-
1044a	K-10	(0.85)×2.22	0.54	-	-
1044b	J-12	1.26×0.78	0.32	-	E
1045	J-12	2.17×1.28	0.69	C	C
1046	J-12	0.94×0.86	0.41	A	D
1047	J-12	(1.20)×0.90	0.44	-	E
1048	J-12	1.00×0.85	0.17	A	D
1049	J-12	1.26×1.10	0.68	-	D
1050	K-9-10	1.30×1.02	0.31	-	E
1051	K-9	1.13×0.75	0.23	-	D
1052	L-8	1.04×0.92	0.43	-	-
1053	L-8	1.43×1.00	0.52	-	E
1054	L-8	1.67×1.07	0.46	A	D
1055	L-8	1.81×1.37	0.73	-	E
1056	K-L-8	2.95×1.68	0.71	A	A
1057	K-8	1.28×0.87	0.46	-	E
1058	K-8	1.02×0.98	0.5	-	C
1059	K-8	2.20×2.05	0.67	A	E
1060	K-8	3.31×1.18	0.5	A	E
1061	J-K-8	(2.68)×(2.50)	0.52	A	E
1062	J-8	3.45×1.63	0.82	A	E
1063	J-8	-×1.63	0.99	A	E
1064	J-8	0.88×0.82	0.35	-	C
1065a	K-7-8	1.58×(0.65)	0.42	-	E
1065b	J-K-8	1.35×1.20	0.71	-	D
1066	J-K-7-8	1.10×0.87	0.63	-	D
1067	K-7	1.27×1.26	0.87	-	C
1068	K-7	2.02×1.56	0.55	-	D
1069	J-K-7	1.32×1.06	0.64	-	D
1070	I-12	(2.04)×1.66	0.75	A	D
1071	J-12	1.35×1.34	0.3	-	C
1072	J-12	(0.87)×0.75	0.32	A	D
1073	J-12	1.26×0.94	0.41	-	E
1074	J-12	1.23×0.83	0.49	A	E
1075	J-12	1.54×1.38	0.18	A	C
1076	-	-	-	-	-
1077	M-8-9	1.46×1.23	0.38	A	D
1078	K-8	0.90×0.78	0.25	-	D
1079	L-10	1.48×1.43	0.33	-	D
1080	L-10	1.10×(0.64)	0.56	-	D
1081	L-8	1.02×0.90	0.31	-	D
1082	L-M-8	1.17×0.90	0.71	-	E
1083	L-8	1.04×0.87	0.5	-	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
1083	L-8	0.75×0.57	0.2	A	D
1084	L-8	0.96×0.55	0.43	A	D
1085	M-8	1.32×(0.49)	0.46	A	-
1086	L-8	- × -	-	A	-
1087	L-8	(0.96)×0.70	0.24	A	D
1088	K-8	2.91×1.87	0.82	A	D
1089	J-8	1.15×1.12	0.27	-	C
1090	J-K-8	2.09×1.47	0.32	A	D
1091	J-8	(1.35)×1.20	0.48	A	E
1092	J-8	0.80×0.80	0.3	-	C
1093	I-J-8	3.50×2.06	0.68	A	E
1094	K-12-13	1.16×0.96	0.26	C	D
1095	K-12	1.17×0.99	0.68	A	D
1096	K-13	1.02×0.95	0.95	A	C
1097	K-12	0.76×0.60	0.1	C	D
1098	K-8	0.58×0.56	0.4	A	C
1099	K-8	1.44×1.34	0.42	A	D
1100	J-8	(1.30)×1.34	0.47	A	E
1101	J-8	1.24×0.80	0.31	A	D
1102	G-9	1.62×(0.98)	0.48	-	E
1103	F-9	1.03×0.73	0.27	-	D
1104	F-9	1.57×1.11	0.66	-	E
1105	G-9	- × -	0.65	-	E
1106	G-9	1.63×1.26	0.49	-	E
1107	F-9	1.63×1.27	0.38	-	D
1108	G-9	0.73×0.45	0.31	-	E
1109	G-H-9	0.92×0.90	0.43	-	C
1110	H-9	0.57×0.56	0.17	-	D
1111	H-19	1.08×0.85	0.63	-	D
1112	K-7	1.72×0.94	0.55	-	E
1113	H-8	(0.45)×0.72	0.25	-	D
1114	F-G-8	1.22×0.96	0.57	-	C
1115	G-8	1.35×0.90	0.24	-	D
1116	H-8	0.78×0.76	0.29	-	C
1117	H-8	1.53×1.48	0.7	-	D
1118	H-8	1.32×0.95	0.61	-	D
1119	H-8-9	1.57×1.27	0.54	-	D
1120	I-8	1.08×0.94	0.49	-	D
1121	H-10	0.57×0.57	0.57	-	D
1122	I-8	1.73×1.13	0.67	-	D
1123	J-8	(0.32)×(0.22)	0.21	-	D
1124	I-8	1.24×1.05	0.44	-	D
1125	J-8	1.25×1.08	0.18	-	D
1126	J-8	(1.72)×1.74	0.67	-	E
1127	J-8	1.28×0.95	0.3	-	D
1128	J-8	2.42×1.07	0.74	A	E
1129	J-8	2.93×1.95	1.46	-	E
1130	H-8	1.48×1.22	0.23	-	D
1131	J-8	1.03×0.52	0.33	-	D
1132	K-7	(0.92)×0.85	0.22	-	E
1133	K-7	(0.83)×0.79	0.17	-	E
1134	J-7	2.23×2.03	1.0	-	E
1135	J-7	1.05×0.93	0.62	-	D
1136	J-7	2.36×(1.08)	0.8	-	E
1137	J-7	1.16×0.89	0.32	-	D
1138	J-7	0.93×0.65	0.34	-	D
1139	J-7	1.55×1.30	0.51	-	D
1140	J-7	0.78×0.73	0.24	-	C
1141	J-7	1.65×1.46	0.25	-	D
1142	K-7	1.09×0.96	0.2	-	C
1143	I-7	1.34×1.06	0.98	-	D
1144	I-7	1.48×1.12	0.43	-	D
1145	I-7	1.93×1.57	1.0	-	C
1146	I-7	1.22×1.03	0.94	-	E
1147	I-6-7	1.78×1.25	0.57	-	E
1148	I-7	(1.43)×1.37	0.47	-	E
1149	H-6	2.66×2.27	2.06	-	B
1150	G-7	2.16×1.74	1.13	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
1151	J-7	1.18×1.74	0.31	A	C
1152	I-J-6	2.50×1.43	0.83	A	E
1153	H-6	1.44×0.90	0.4	A	D
1154	H-7	1.48×1.08	0.15	A	D
1155	H-7	1.64×1.41	0.39	A	D
1156	H-7	1.20×1.20	0.27	A	C
1157	H-7	1.30×0.90	0.37	A	C
1158	H-6-7	0.85×0.84	0.35	A	C
1159	J-8	0.80×0.77	0.28	A	C
1160	I-8	2.04×1.55	0.55	A	E
1161	G-6	0.97×0.52	0.48	A	D
1162	I-8	(0.68)×1.07	0.19	A	D
1163	I-8	1.56×1.30	0.57	A	D
1164	I-8	1.12×0.90	0.29	A	D
1165	H-8	1.34×1.08	0.72	A	D
1166	I-J-8	0.81×0.65	0.36	A	E
1167	G-6	1.68×1.39	0.58	A	D
1168	I-7	1.13×0.51	0.61	A	E
1169	I-7	2.50×1.53	0.89	A	A
1170	I-7	3.44×1.31	0.39	A	A
1171	H-7	1.75×1.59	0.41	A	E
1172	H-7	1.75×1.39	0.9	A	C
1173	L-8	1.77×(1.45)	1.11	A	D
1174	L-8	1.28×(0.90)	0.57	A	-
1175	I-7	1.82×1.47	0.89	A	E
1176	I-7	0.74×0.66	0.22	A	C
1177	I-7	1.80×1.57	0.83	A	C
1178	I-6-7	(1.67)×1.62	0.41	A	E
1179	I-6	0.76×0.70	0.22	-	D
1180	I-6	1.08×0.97	0.26	A	D
1181	I-6-7	1.30×1.09	0.45	A	C
1182	J-7	1.08×0.95	0.36	A	C
1183	I-7	- × -	0.43	-	D
1184	I-8	1.23×0.99	0.47	-	D
1185	I-8	2.17×1.81	0.81	-	D
1186	I-8	- × 0.85	0.38	-	E
1187	G-8	1.06×0.99	0.36	A	C
1188	G-7	1.67×1.05	0.26	A	D
1189	G-7	1.69×0.60	0.33	A	E
1190	G-H-7	1.52×(0.97)	0.9	-	E
1191	J-7	1.01×0.73	0.54	A	D
1192	J-12	(1.04)×1.12	0.44	A	-
1193	L-8	1.51×(0.90)	0.77	A	D
1194	L-7	1.05×0.87	0.39	A	E
1195	K-8	(1.23)×1.42	0.5	-	D
1196	I-6	1.22×(0.72)	0.27	A	D
1197	I-J-6	1.58×1.37	1.03	A	D
1198	I-6	2.63×(2.42)	0.61	A	(D)
1199	H-6	1.16×1.01	0.36	-	D
1200	H-6	1.23×1.00	0.25	A	D
1201	K-I-7	1.70×1.17	0.29	-	E
1202	L-7	1.08×0.95	0.39	A	C
1203	K-I-7	1.30×0.73	0.32	A	C
1204	K-7	0.84×0.75	0.47	A	C
1205a	L-9	1.42×0.72	0.68	A	D
1205b	K-9	1.29×0.96	0.67	-	D
1206	K-7	(1.32)×0.85	0.51	A	E
1207	K-7	1.40×(1.00)	0.55	A	D
1208	G-6	0.95×0.86	0.62	A	D
1209	L-7	1.37×1.12	0.9	A	E
1210	K-6-7	2.60×1.41	1.43	A	A
1211	K-6	(0.68)×0.67	0.23	A	D
1212	K-6	1.42×1.19	0.63	A?	D
1213	K-6	1.07×0.88	0.33	A	D
1214	K-6	0.59×0.50	0.21	A	C
1215	L-7	-	-	A	-
1216	H-6	1.40×0.98	0.23	A	A
1217	H-6	1.12×0.78	0.27	A	D

番号	グランド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
1218	H-7	(1.12)×0.93	0.18	B	D
1219	H-8	(1.22)×0.61	0.21	A	E
1220	17-H-18	1.32×0.70	0.31	A	E
1221	H-6	0.61×0.58	0.18	A	C
1222	J-6	1.01×0.84	0.66	A	D
1223	K-6	1.17×(0.76)	0.44	A	D
1224	L-6	(0.95)×1.24	-	A	-
1225	K-L-6	(1.32)×1.40	-	A	C
1226	K-6	0.89×0.69	0.28	A	D
1227	H-7	0.86×0.64	0.36	A	C
1228	H-6	(1.04)×1.03	0.51	-	C
1229	H-6	2.84×1.48	1.01	A	D
1230	H-6	(1.45)×0.92	0.19	A	(D)
1231	G-H-6	1.42×0.84	0.39	A	D
1232	F-6-7	(1.91)×1.02	0.66	A	(A)
1233	K-6	1.66×1.39	0.59	A	D
1234	K-6	0.96×0.71	0.26	A	D
1235	K-6	1.14×(0.79)	0.15	A	D
1236	K-6	(1.10)×1.50	0.65	A	E
1237	K-6	1.79×(1.37)	0.75	A	D
1238	K-6	1.38×0.68	0.57	-	D
1239	K-6	1.17×0.94	0.29	-	D
1240	K-6	1.08×0.99	0.62	A	D
1241	K-6	1.32×1.08	0.23	-	D
1242	J-K-5-6	4.01×1.78	0.74	A	E
1243	J-7	(1.23)×0.90	0.45	-	E
1244	J-K-7	1.03×0.82	0.47	-	E
1245	J-K-6	3.88×2.42	1.59	A	D
1246	J-7	1.20×1.14	1.03	A	C
1247	K-6	0.60×0.56	0.45	A	C
1248	J-6	1.21×1.04	0.47	A	C
1249	J-K-6	(1.03)×1.04	0.19	A	D
1250	J-6	0.81×0.64	0.63	A?	D
1251	K-6	0.53×0.46	0.21	A	D
1252	K-6	0.42×0.42	0.36	A? B?	D
1253	K-6	0.49×0.38	0.11	A	D
1254	H-8	(0.93)×0.71	0.36	A	D
1255	H-8	1.68×1.56	0.91	A	D
1256	H-6	1.28×0.98	0.5	A	D
1257	J-5-6	0.76×(0.24)	0.41	A	-
1258	J-5-6	1.41×1.01	1.13	A	D
1259	G-6	1.23×0.91	0.34	A?	D
1260	I-6	1.45×0.63	0.15	A	D
1261	I-6	1.11×1.03	0.25	A	C
1262	I-6	1.02×0.68	0.2	A	C
1263	I-J-6	2.56×(0.96)	0.26	A	A
1264	H-6	0.75×0.52	0.2	A?	D
1265	I-6	1.43×1.06	0.46	A	D
1266	I-6	1.52×1.24	0.49	A	D
1267	H-5	1.03×0.71	0.21	A	D
1268	G-6	(2.00)×1.36	1.3	A	E
1269	G-6	1.37×1.20	0.61	A	C
1270	I-6	1.19×0.87	0.54	A	E
1271	H-6	1.29×(0.74)	0.32	A	D
1272	J-8	2.42×1.51	1.19	A	E
1273	E-6	1.56×1.03	0.65	A	D
1274	E-6	1.94×1.84	0.51	A	E
1275	E-5-6	0.99×0.94	0.25	A	B
1276	E-5	3.17×2.13	0.85	A	D
1277	E-6	(0.80)×0.64	0.23	A	(D)
1278	E-6	0.59×(1.26)	0.66	A	-
1279	E-6	1.82×1.34	0.84	A	E
1280	E-6	1.69×1.32	0.18	A	D
1281	E-F-6	1.12×1.09	0.56	A	C
1282	E-F-6	1.49×1.34	0.25	A	C
1283	H-5	1.13×0.84	0.57	A	D
1284	I-12	0.78×0.53	0.42	A	-
1285	F-6	0.65×0.64	0.25	A	C

番号	グランド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
1286	E-F-5-6	1.07×0.96	0.27	A	A
1287	H-5	1.18×0.57	0.32	A	D
1288	G-5	1.21×1.02	0.61	A	B
1289	H-7	1.08×0.91	0.26	A	C
1290	F-G-6	(0.31)×0.76	0.26	A	-
1291	F-G-5-6	1.31×1.08	0.71	A	C
1292	G-6	1.67×1.12	0.24	A	D
1293	F-6	1.28×0.86	0.48	A	D
1294	F-6	2.29×2.17	0.99	A	E
1295	E-F-5	1.00×0.73	0.45	A	D
1296	F-6	1.50×0.88	0.71	A	A
1297	F-6	0.96×0.66	0.45	A	D
1298	E-5	0.70×0.62	0.32	A	C
1299	J-6	(0.72)×0.81	0.46	A	D
1300	J-6	1.56×1.32	0.79	A	E
1301	J-6	1.31×0.97	0.26	A	D
1302	J-6	1.28×1.21	0.4	A	E
1303	J-6	1.56×(0.84)	0.21	A	D
1304	K-7	1.10×1.00	0.13	A	D
1305	E-5	2.04×1.30	0.56	A	E
1306	G-6	(2.31)×2.19	0.65	A	E
1307	E-6	0.98×0.78	0.54	A	D
1308	I-6	2.56×0.68	0.29	-	A
1309	I-6	2.07×0.53	0.11	-	A
1310	G-6	1.34×0.92	0.41	A	D
1311	H-6	1.41×1.19	0.72	A	E
1312	F-5	0.70×0.66	0.18	A	C
1313	G-6	(0.84)×0.95	0.27	A	D
1314	G-6	1.20×0.59	0.24	A	A
1315	E-6	0.92×1.00	0.84	A	C
1316	F-9	1.68×1.30	0.7	A	E
1317	F-9	0.99×0.92	0.36	A	C
1318	K-12	1.13×(0.56)	0.38	A	-
1319	K-12	1.20×1.06	0.13	A	A
1320	F-7	1.20×0.64	1.45	A	D
1321	E-F-4	2.05×(1.36)	0.25	A	D
1322	F-4-5	1.69×1.63	0.96	A	C
1323	G-5	1.77×1.55	0.54	A	E
1324	G-5	1.49×1.08	0.36	A	D
1325	H-5	1.16×1.07	0.36	A	C
1326	F-G-3-4	1.71×1.47	0.13	A	A
1328	C-5	0.80×0.76	0.15	C	C
1329	B-6	1.20×1.14	0.65	A	D
1330	F-6	1.16×1.02	0.24	A	D
1331	F-6-7	1.54×1.07	0.35	A	E
1332	L-7	1.15×0.72	0.4	A	D
1333	L-7	1.62×1.20	0.66	A	D
1334	G-7	-	-	A	-
1335	F-5-6	2.17×1.47	0.7	A	E
1336	F-7	1.73×1.19	0.91	A	E
1337	F-5-6	-×1.25	0.31	-	E
1338	F-6	0.60×0.56	0.14	A	C
1339	H-7	1.22×1.11	1.01	-	E
1340	F-5	1.76×1.56	0.88	A	C
1341	G-3	1.89×1.51	0.18	A	D
1342	G-3	1.27×1.14	0.23	A	C
1343	G-3	1.16×0.72	0.12	A	C
1344	G-3	2.38×1.08	0.39	A	E
1346	G-9	1.39×0.89	0.25	A	D
1347	F-6	0.36×0.26	0.31	A	D
1348	D-7	1.06×(0.54)	0.24	A	-
1349	G-10	0.58×0.56	0.13	A	B
1350	G-10	0.45×0.34	0.13	A	D
1351	F-6	0.64×0.58	0.26	A	D
1352	E-6	0.46×0.34	0.13	A	D
1353	C-8	1.47×1.23	0.96	A	C
1354	G-5-6	1.44×0.95	0.72	A	D
1355	G-5	1.45×1.38	0.88	A	B

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
1356	G-10	0.33×0.49	0.14	A	D
1357	E-7	3.54×3.37	1.46	A	E
1358	G-6	0.78×0.58	0.68	A	D
1359	E-7	3.30×1.89	0.83	A	E
1360	E-7-8	2.86×2.84	0.89	A	E
1361	E-8	2.82×1.76	0.43	A	A
1362	F-5	1.06×0.82	0.79	A	D
1363	F-G-5	1.66×1.54	0.6	A	B
1364	F-6	0.58×0.46	0.17	A	D
1365	E-7	2.28×2.12	1.33	A	E
1366	E-7	4.28×1.79	0.61	A	A
1367	E-6-7 F-7	4.57×2.70	1.47	A	E
1368	E-6-7	2.56×1.70	1.73	A	E
1369	C-7	1.61×1.46	0.63	A	C
1370	C-7	0.94×0.66	0.47	A	E
1371	C-8	1.06×1.05	0.72	A	C
1372	D-8-9	1.37×1.18	0.31	A	D
1373	E-6	0.37×0.32	0.12	A	C
1374	E-6	2.47×1.90	0.93	A	D
1375	E-6	0.86×0.39	0.39	A	D
1376	E-6	0.29×0.27	0.1	A	C
1377	D-7	0.87×0.75	0.15	A	C
1378	D-E-6	0.86×0.85	0.78	A	C
1379	G-5	1.39×	0.3	A	C
1380	G-5	2.93×2.74	0.52	A	D
1381	D-6	1.08×(0.70)	0.55	A	D
1382	F-6	0.79×0.44	0.16	A?	E
1383	D-6	1.23×0.99	0.53	-	D
1384	F-9	1.63×(1.16)	0.44	-	D
1385	B-7	1.90×1.62	0.74	A	D
1386	G-H-5	1.13×1.11	0.76	A	E
1387	F-9	1.15×0.54	0.22	A	E
1388	F-5	1.36×1.07	0.66	-	E
1389	D-7	1.05×1.50	1.48	A	D
1390	B-7	1.30×1.15	0.48	-	D
1391	C-8	1.06×1.04	0.46	A	C
1392	D-7	1.65×1.34	0.28	A	E
1393	H-7	1.03×0.84	0.18	A	C
1394	C-D-8	1.72×1.15	1.75	A	D
1395	B-7	1.40×1.28	0.79	-	D
1396	B-7	(1.03)×0.94	0.33	A	D
1397	I-8	1.31×0.99	0.61	A	E
1398	B-6-7	(1.26)×0.79	0.32	-	D
1399	H-7	1.72×1.20	0.99	A	D
1400	H-7	0.81×0.62	0.3	A	C
1401	C-6	1.18×1.01	0.22	C	D
1402	I-J-8-9	(2.15)×2.14	0.55	A	E
1403	J-8-9	1.58×1.15	0.9	A	E
1404	H-5	1.15×0.75	0.53	A	D
1405	H-7	0.98×0.84	0.44	A	E
1406	-	-	-	-	-
1407	B-C-7	2.01×1.80	0.49	A	C
1408	B-6-7	1.38×0.74	0.43	A	D
1409	B-6	1.82×1.33	0.96	A	D
1410	-	-	-	-	-
1411	D-8	1.27×0.96	0.52	A	D
1412	H-4	1.30×(1.05)	1.56	B	C
1413	C-D-8	1.00×0.85	0.82	A	D
1415	C-6	1.04×0.96	0.77	A	D
1416	B-5	1.53×1.28	0.3	C	E
1417	J-12	0.89×(0.76)	0.45	C	(D)
1418	E-4	(1.79)×1.33	0.43	B?	E
1419	D-7	1.62×0.92	0.57	A	E
1420	E-4	1.44×(1.19)	0.65	A	E
1421	E-4	0.42×0.36	0.29	B?	C
1422	E-3-4	0.92×0.71	0.17	B	D
1423	E-3-4	0.99×0.72	0.09	B	D
1424	E-4	0.43×0.31	0.32	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形地
1425	B-5	0.81×0.76	0.44	A	C
1426	A-5	2.59×1.64	0.21	A	E
1427	E-4	1.17×0.97	0.2	B	B
1428	B-6	0.94×0.84	0.52	C	D
1429	E-4	1.92×1.38	0.93	A	D
1430	E-4	0.40×0.27	0.21	B?	D
1431	E-4	0.66×0.49	0.27	A	D
1432	G-11	0.96×0.90	0.56	A	C
1433	C-4	1.66×1.32	0.3	C	D
1434	F-3-4	0.98×0.46	0.16	A	D
1435	F-3	0.56×0.33	0.18	A	E
1436	F-3	1.40×1.23	0.72	A	B
1437	F-3	(0.73)×0.93	0.14	A	D
1438	F-3	1.03×0.90	0.71	A	C
1439	F-3	1.23×1.03	0.27	B	C
1440	E-F-3	1.34×1.18	0.17	B	C
1441	E-3	(1.42)×1.16	0.42	B?	D
1442	E-3	2.48×1.94	0.19	C	D
1443	E-3	1.60×1.54	0.3	A	C
1444	E-3	1.50×0.94	0.59	A	D
1445	E-3	1.07×1.01	0.67	A	C
1446	E-3	-×1.12	0.17	C	E
1447	E-3	1.04×0.98	0.25	B?	C
1448	E-3	2.27×1.17	0.31	B?	D
1449	E-3	0.78×0.70	0.16	-	C
1450	-	-	-	-	-
1451	E-3	1.59×1.24	0.13	A	D
1452	E-6	2.06×1.50	0.37	-	D
1453	L-10	1.10×0.88	0.47	-	D
1454	L-10	0.95×0.78	0.21	-	D
1455	F-12	0.96×0.68	0.24	-	D
1456	F-12-13	1.10×0.54	0.29	-	D
1457	N-10	0.33×0.30	0.53	-	C
1458	E-6	0.97×0.78	0.11	-	D
1459	D-7	0.55×(0.41)	0.2	-	D
1460	E-3	1.61×1.18	1.04	A	E
1461	E-3	2.01×1.82	1.33	A	D
1462	E-3	0.72×0.63	0.79	-	D
1463	E-3	1.83×1.03	0.18	A	D
1464	D-3	2.38×2.32	1.29	A	E
1465	D-3	0.60×0.55	0.22	A	C
1466	-	-	-	-	-
1467	-	-	-	-	-
1468	F-3	1.68×1.27	0.43	B?	A
1469	D-4	2.85×2.42	0.8	-	E
1470	E-2-3	1.22×1.15	0.27	A	C
1471	E-3	1.44×1.20	0.78	A	D
1472	E-3	1.64×1.24	0.35	C	D
1473	E-4	1.18×(0.82)	0.22	A	D
1474	D-3	0.81×0.66	0.13	A	D
1475	-	-	-	-	-
1476	D-2	1.78×1.16	0.86	A	D
1477	D-3	(1.18)×1.46	0.38	A	D
1478	D-2-3	(1.51)×1.23	1.02	A	-
1479	F-2	1.39×1.09	0.4	A	D
1480	E-F-2	1.70×1.28	0.28	-	E
1481	C-6	1.08×0.96	0.56	A	C
1482	E-3	0.89×0.78	0.32	A	D
1483	D-3	(1.11)×0.79	0.24	A	D
1484	E-3	0.59×0.50	0.18	A	D
1485	B-4	1.50×1.47	0.57	C	C
1486	E-3	1.22×1.11	0.4	B?	C
1487	D-2	1.16×0.82	0.23	A	D
1488	F-2	1.28×(0.81)	0.36	A	E
1489	F-2	(0.82)×0.52	0.17	A	E
1490	F-2	(0.69)×0.49	0.15	A	D
1491	E-2	1.13×0.9	0.49	A	D
1492	E-3	1.75×1.41	0.64	A	D
1493	D-3	0.74×0.63	0.25	A	D

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
1494	E-2	1.48×1.08	0.96	A	D
1495	D-E-2	1.92×1.46	0.82	A	D
1496	E-2	1.17×0.99	0.21	A	D
1497	D-2	0.98×0.53	0.05	C	D
1498	E-2	(1.22)×(0.52)	0.38	A	D
1499	D-2	1.63×1.03	0.18	C	D
1500	D-2	1.29×0.92	0.39	A	D
1501	D3-4	1.17×0.79	0.54	A	D
1502	B-4	1.05×0.73	0.25	C	D
1503	C-4	2.15×1.42	0.53	C	D
1504	D-3	1.61×1.07	1.17	A	D
1505	D-3	1.18×1.02	0.29	A	E
1506	E-2	1.08×1.01	0.18	A	C
1507	E-2	(1.60)×1.58	1.39	A	-
1508	E-2	1.26×(1.02)	0.39	A	C
1509	E-1	2.20×1.77	1.19	A	D
1510	E-2	2.05×1.28	0.36	A	D
1511	E-2	(1.36)×1.21	0.26	-	-
1512	-	-	-	-	-
1513	-	-	-	-	-
1514	E-2	1.37×1.16	0.25	A	C
1515	E-2	1.28×1.18	0.39	A	C
1516	E-2	1.19×1.00	1.26	A	D
1517	E-2	3.20×1.85	1.26	A	D
1518	D-3	6.02×4.88	0.15	A	E
1519	D-7	0.75×0.40	0.32	A	D
1520	-	-	-	-	-
1521	E-2	0.98×0.84	0.14	A	C
1522	E-2	1.84×1.34	0.23	-	E
1523	E-2	-X-	0.32	B	-
1524	E-2	3.12×-	0.38	-	E
1525	E-2	0.82×0.73	0.28	A	C
1526	E-2	(2.30)×(0.68)	-	A	(D)
1527	F-2	1.51×1.52	1.15	A	C
1528	F-2	2.55×1.95	1.09	A	D
1529	E-F-2	(1.15)×0.93	0.42	A	D
1530	E-2	0.80×0.57	0.24	A	E
1531	E-2	(0.92)×1.00	0.24	A	D
1532	E-2	1.10×0.86	0.39	A	D
1533	E-2	1.53×1.47	0.67	A	E
1534	E-1	1.75×1.26	0.39	A	D
1535	E-F-1	(1.11)×1.31	1.29	A	-
1536	F-1	(0.83)×(1.12)	0.16	A	-
1537	F-1	1.26×1.12	0.35	A	C
1538	F-2	1.91×1.57	0.98	A	D
1539a	F-1-2	0.88×(0.71)	0.64	-	-
1539b	F-1-2	0.90×0.69	0.75	-	-
1539c	F-1-2	1.12×0.87	0.62	-	C
1540	-	-	-	-	-
1541	-	-	-	-	-
1542	F-1,2	-X-	-	-	-
1543	E-F-1	1.21×(0.70)	0.12	-	-
1544	F-1	(1.22)×(0.98)	0.47	A	-
1545	-	-	-	-	-
1546	B-4	0.96×0.68	0.28	A	D
1547	F-4	1.67×0.72	0.08	B	A
1548	-	-	-	-	-
1549	F-10	1.44×1.38	0.84	A	C
1550	L-9	1.14×0.88	0.62	A	D
1551	I-10	2.02×1.44	0.1	A	E
1552	H-10	0.53×0.48	0.12	A	C
1553	B-4	0.86×0.69	0.29	A	D
1554	C-4	1.07×0.77	0.38	A	D
1555	C-4	1.03×0.97	0.38	A	D
1556	E-2	0.50×0.49	0.08	A	C
1557	E-2	0.70×0.57	0.16	A	D
1558	D-5	1.35×1.16	0.69	-	C
1559	D-5	0.72×0.61	0.47	-	C

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
1560	D-5	0.90×0.81	0.62	-	C
1561	E-4	1.15×0.93	0.56	-	D
1562	D-E-5	1.11×0.96	0.12	-	D
1563	D-E-5	0.80×0.70	0.15	-	C
1564	D-E-5 E-6	0.96×0.77	0.18	-	D
1565	E-5	0.78×0.76	0.18	-	C
1566	E-6	1.11×0.68	0.27	-	D
1567	E-5	0.84×0.76	0.29	-	C
1568	E-4-5	1.59×(0.85)	0.23	-	E
1569	E-4	1.30×1.24	0.63	-	D
1570	E-3	0.96×0.94	0.34	-	C
1571	F-3	0.96×0.84	0.36	-	D
1572	F-3	1.12×0.85	0.38	-	D
1573	F-3	1.21×1.18	0.79	-	C
1574	D-7	1.90×0.97	0.25	A	E
1575	I-8	2.20×1.11	0.28	-	A
1576	I-8	3.20×1.28	0.48	-	A
1577	F-6	1.49×0.29	0.56	-	D
1578	F-6	1.56×1.02	0.39	-	D

1次調査 土壌

番号	グリッド	径(長×短)	深さ	覆土	形態
1	D-22	1.57×1.30	0.3	A	D
2	D-21	1.36×1.30	0.27	A	C
3	D-21	0.76×0.55	0.27	A	D
4	D-20-21	2.20×1.86	0.76	A	D
5	D-21	1.16×1.04	0.41	A	C
6	D-20	0.59×0.49	0.54	A	D
7	C-D-21	1.92×1.88	0.64	A	E
8	C-20	0.97×0.85	0.37	A	C
9	C-20	1.77×1.30	0.61	A	D
10	C-20	1.04×0.92	0.22	A	C
11	C-20	1.96×1.48	0.35	A	D
12	C-20	1.38×1.34	0.32	A	C
13	C-20	1.19×0.87	0.55	A	D

VI 調査のまとめ

1. 旧石器時代

今回、第1次調査では細石刃を主体とする石器群が、第2次調査では厚手の掻器を主体とする石器群がそれぞれ検出された。

第1次調査では、漸移層からソフトローム層上部にかけて、原位置で面的な広がりをもって石器が出土している。その内容も、細石刃核、石核の調整剥片、細石刃といった細石刃製作に関わる各種が揃う。大宮台地ではこれまで細石刃の出土は多くはなく、またそのほとんどが細石刃核や細石刃の単独出土である。近隣では、北西約500mに位置する十二番耕地遺跡から黒曜石製の細石刃核が出土しているが、やはり単独出土である（青木ほか 1985）。今回検出された資料は、出土点数こそ少ないが、大宮台地の東縁に位置する宮代町の逆井遺跡（金ほか 1997）に続く、良好なものであると評価してもよいだろう。

これまで大宮台地で検出された細石刃核はその殆どが「野岳・休場型」の範疇に含まれる。今回出土した細石刃核も核柱形を呈する。本遺跡では、石核素材など、細石刃核の準備・整形に関する資料群は検出されていない。しかし、石核の一部にはいずれも礫面を残しており、県内の横田遺跡で検出された接合資料（田中ほか 1995）などを参照すれば、小型の角礫がそれから分割された剥片を素材としていと考えられよう。また、細石刃核B-2-40（第8図1）の観察および検出された調整剥片から、細石刃の剥離は石核体部側面への連続する剥離により核を作出し、その核を切り取るようにして開始されていることがわかる。作業面および打面の再生は頻繁に行われており、打面の更新は側面からの加撃により、打面を輪切りにするように行われ、細石刃作出の前にはさらに精緻な打面調整が施されている。これは、「砂川型刃器技法」に等しく、従前の石刃生産技術を踏襲しているかのようである。これに對しもう1点の細石刃核B-3-7（第8図3）

では、事前の核の作出は省略されており、小型礫の自然面の核を切り取るように細石刃の作出作業を開始している。両者の作業面長はそれぞれ、約32.9mm、22.4～23.6mmを測る。作業面に残されている細石刃の剥離痕のうち計測可能なものはそれぞれ、長さ15.3～21.1mm、幅2.4～7.3mm、長さ21.2～21.7mm、幅7.1～8.3mmを測る。一方出土した細石刃は4点で、3点が頭部あるいは末端部を欠損している。残存長は11.5～23.5mm、幅は6.0～9.0mmを測り、両者に大きな格差は認められない。

当該期の石器製作に関しては、細石刃の製作体系（構成1）、一般的剥片剥離手法に基づく石器製作体系（構成2）、礫器状石核による剥片剥離体系（構成3）が抽出されており（田村 1989）、それらと石材消費や廃棄パターンを組み合わせた視点による分析も行われている（仲田 2002）。本遺跡では、構成1と構成2が検出できるが、それぞれ、異なる母岩、石材に取徴する。つまり、構成1に関しては黒曜石の中でも透明感の強い夾雑物をあまり含まないOb-4～7を使用しており、構成2に関しては、漆黒でやや茶色味の強い夾雑物を多く含む黒曜石Ob-1～3とガラス質黒色安山岩、黒色頁岩、ホルンフェルスを使用している。このようなあり方は他の遺跡でも認められる。すなわち、「野岳・休場型」の細石刃核を有する石器群においては、構成1とその他では異なる石材、母岩が選択される傾向があり、細石刃の製作体系と他の製作体系では石器製作の工程上の連動性を認めることが困難なことが知られている（野口 2003）。本遺跡では構成1を含む母岩Ob-5には構成2も含まれるが、顕著ではない。石核B-2-29（第8図4）などから、幾分厚めの剥片を素材とした両極剥離が行われたことがわかるが、作業面から計測できる作出された剥片の大きさは長さ23.7mm、幅8.6mm強の縦長剥片と考えら

れ、形態や大きさに細石刃との類似点を見出すこともできる。また、黒曜石とそれ以外の石材を用いた資料では、後者が前者に比して大きい。黒曜石の母岩ごとの大きさの違いはあまり認められない。すなわち、構成2とされる黒曜石資料は、一般的な剥片剥離手法を用いて小型の不定形剥片を作り簡便な二次加工を施すものが多いのである。それに対し、削器などの加工具は、黒色頁岩製のB-2-23(第12図42)などのように黒曜石以外の石材を用い大型の製品での搬入がなされている。

遺跡内での行動に関しては、構成1、構成2ともに大きな差異はみだせない。両者とも遺跡内に残されているのは、剥片あるいは分割礫を素材とした石核、剥片、二次加工を施された利器であり、接合資料の少なさは、遺跡内では積極的な剥片剥離作業が行われていなかったことを示す。ただし、小型の叩石も出土しており、また構成1に関しては、各種調整剥片も存在することから、石核の修復とある程度の石器製作は行われていたことは予想できよう。また、出土している石器のうち約65%には腹面あるいは折れ面と比較し、古いパティナや擦痕などの残る荒れた面を背面に観察することができる。石核の比較的長期にわたる携帯から起こる現象とも捉えることができるかもしれない。作業面調整剥片B-2-20(第9図7)やB-2-15(第9図20)は作業面長が23.19mmと細石刃核B-2-40(第8図1)に比して短く、対応しない。これは、本遺跡内には遺棄されなかった細石刃核の存在を示している。B-2-40に関しては作業面長は十分な長さを守っているが、最後に行われた細石刃の剥離が大きく石核を取り込んでしまったため、作業面の修復が困難となり廃棄されたものと考えられる。このように、当遺跡では、搬入した細石刃核を用い、その修復と細石刃の補填が行われ、一部は遺棄、一部は搬出されたことがわかる。

大宮台地での細石刃石器群のこれまでの出土状況を見る限り、細石刃核の製作が遺跡内で行われている痕跡はない。原石の獲得や石核の整形といった段階が不明な理由が、単純に資料の未検出によるものなのか、あるいは遺跡の連鎖が台地内でとどまることなく広域にわたるためなのかは今の段階では明確にし得ない。相模野台地の細石刃石器群を通時的に分析した仲田大人は、同台地における細石刃石器群の存続期間の中で、石材採取のネットワークの変化が生じた可能性を示唆しており(仲田 2003)、当遺跡の石器群がどういったネットワークに組み込まれるものであったか興味深い。資料的制限はまだまだあるものの、今後当該地域においてもそういった視点を持ちながら、資料の収集と検討を行う必要があるだろう。

第2次調査で出土した搔器を主体とする石器群に関しては、ローム層からの出土ではないものの、厚手の剥片を素材とすることや、円弧状の刃部をもつこと、側縁部などの二次加工に粗い鋸歯状の剥離を用いることから「V～IV下層段階」に編年上位置づけられる。当該期の石器群は、大宮台地では多数検出されている。本遺跡の北方約1kmに位置する伊奈氏屋敷跡遺跡(水村 1984)からもナイフ形石器や角錐状石器を含む、石器製作の痕跡を残す石器群が礫群を伴って出土している。本遺跡では、製品およびその素材となる剥片の単独出土という状況であり、近隣の当該期の遺跡との連鎖の中でその性格付けを行う必要があろう。

このように、本遺跡においては旧石器時代の異なる2時期にわたる生活の痕跡が認められた。いずれも、本遺跡のみでは完結しない活動の痕跡を示しており、今後、周辺および、台地内外での資料を組み込んだ分析を重ねることにより、旧石器時代の人々の行動や社会の復元に近づくことが可能となろう。

2. 縄文時代

諸磯 a 式土器について

諏訪坂貝塚の調査では、関山式から称名寺式期の住居跡が検出された。このうち第5号・24号・25号住居跡と、第25号住居跡に隣接する土器集中区からは、諸磯 a 式期の土器群が出土しており、綾瀬川や元荒川流域における黒浜式から諸磯 b 式期への土器変遷を語る上で貴重な資料を提供したといえる。ここでは各遺構出土土器の特徴を概説し、併せて周辺遺跡出土資料との対比を通して、当該期の土器様相を把握することとする。

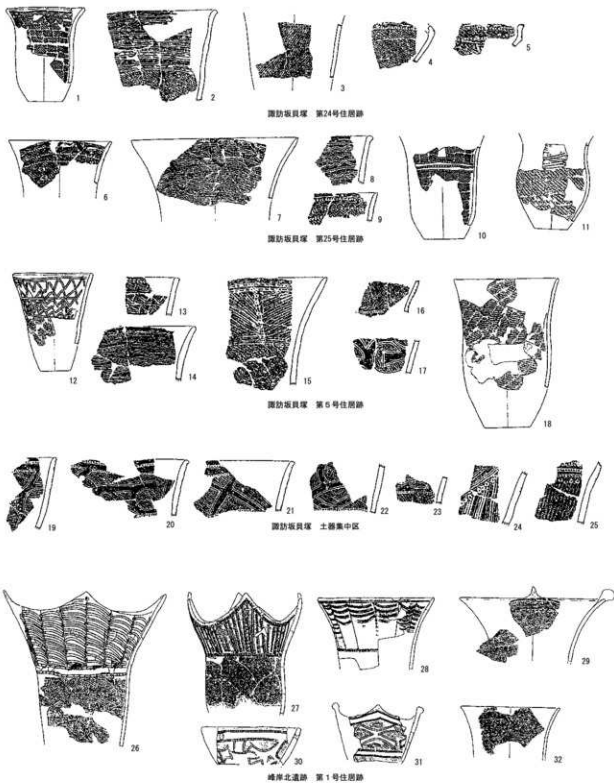
第132図に諏訪坂貝塚出土遺構出土土器の一部を掲載した。各遺構の出土資料は必ずしも豊富ではないが、特徴ある土器が組成の一角を占めている。10は第25号住居跡から出土した磨り消しを伴う土器である。頭部上端から口縁部にかけて欠損しているため、文様構成に不明な点が残るが、文様帯が三条の竹管文で区画され、米字或いは十字状の磨り消し単位文が描かれる土器と考えられる。この種の文様構成が磨り消しを伴う米字文系の土器に系統を持つことは明らかであるが、基本構図となっていた縦区画線が失われ、従来の磨り消し部位のみが単位文様化している状況は、例えば17の第5号住居跡から出土した木の葉状入り組み単位文の成立が、縦区画線に規制された木の葉文から縦区画線を排除し、併せて米字文系の伝統である磨り消しを加えることによって単位文化したように、両系は器面の縦区画を文様描出の基本から排除し、充填文様を主文様化することに強い共通性がある。共に磨り消し手法を基本とした単位文となるが、米字文系が主文様間を磨り消す伝統を保持するのに対し、木の葉文は主文様間に縄文を残し、地を磨り消すという逆の関係で成り立っている。第132図10と17および土器集中区出土の19～22はこのような関係を示すものと考えられる。土器集中区出土の4点は同一個体と考えられるが、21例に見るように、米字文系と木の葉文系が混在したような文様構成になっている点からも、両者が密

接に係わっていたことが明らかであろう。このようにみると、磨り消し単位文の土器に関しては、縄を用いて鋸歯文を描く黒浜式終末期の土器と、それを工具に置き換えた米字文系土器が相同的関係を有すると共に、米字文系土器が早い段階で単位文化していることがわかる。米字文系における縦区画線は本来が縄による菱形施文の変換点を強調することに起源があり、器面の縦分割を本来の目的としていないことから単位文化が促進されたものといえる。

それでは、これらの土器に伴う他の資料はどのような土器なのであろうか。第25号住居跡では、7～8の頸部に平行線と小波状文が多段に描かれる土器、平行線が竹管に置き換えられた9の例などがある。第5号住居跡からは、第25号住居跡と同様の平行線と鋸歯文が多段化する13～14の資料がある。12は頸部に2帯が重畳し、各帯に鋸歯文が多段に描かれる例であるが、頸部文様帯の重畳は米字文系にもしばしば認められ、幅広い文様施文部位に口縁部文様が施文された例なのであろう。

このような土器がある一方で縦区画の土器群も姿を消してしまうわけではなく、第5号住居跡の16例のように、13と類似した文様で縦区画を有する土器や、15の肋骨文系土器も伴っている。大宮（現さいたま市）峰岸北遺跡（田中ほか 1998）第1号住居跡は、この時期の様相を示す良好な資料であろう。この住居跡からは、30、31の磨り消し単位文が施文された浅鉢や深鉢形土器が出土しており、30は諏訪坂貝塚土器集中区出土土器と、31は諏訪坂貝塚第25号住居跡出土土器との関係性が窺える。一方では26、28の肋骨文系土器が出土していることから、諸磯 a 式でも古い段階の承襲を有しつつ、幅広い口縁部文様帯が見られない等の差異を伴う新しい時期の組成に傾斜した様相を示している。29は平行線と鋸歯文が多段化した土器で、諏訪坂貝塚住居跡からも出土例がある。

元荒川流域では、黒浜式期の遺跡が密度濃く分布



第132図 縄文前期土器と周辺の資料

している。隣接する蓮田市では、元荒川左岸に宿上遺跡、宿上遺跡、天神前遺跡(田中 1991、田中小宮 2005)などがあり、特に黒浜式中葉から終末期の集落として著名である。これらに比較すると綾瀬川流域では遺跡の密度が薄く傾向が窺える。黒浜式から諸磯a式への土器変遷には、一系統的に変遷を追えない部分があり、繊維土器と無繊維土器の共存や米字文系土器の出現にみられるように、大別2

第10号住居跡出土土器について

諏訪坂貝塚で出土した中期の住居跡は、第17号と第10号住居跡の2軒である。このうち第17号住居跡は、連弧文系土器や口頸部に幅広い無文部をもつキャリバー形の土器、胴部に2本隆帯の懸垂文を持つ土器が伴っていることから、原市沼川を挟んで対岸に位置する大山遺跡第6次(金子 1982)第3号住居跡出土土器に平行する、加曾利EⅡ式の新しい段階の資料と見てよいであろう。

第10号住居跡は推定3本柱穴の住居跡で、埋甕炉に4単位深鉢形土器の口縁部と鉢形土器を組み合わせており、埋甕には小形の深鉢形土器が埋設されていた。住居の形態から見て中期終末と見てよいが、口縁部に幅広い文様帯を持つ深鉢形土器は特異で、この土器の位置付けが、特に関東東部地域の当該期の様相を把握するための資料となりえるだろう。ここでは、周辺遺跡の資料を参考に、第10号住居跡出土土器について検討してみた。

第10号住居跡及び周辺遺跡の関連資料を第133図に掲載した。10～12が諏訪坂貝塚第10号住居跡出土土器で、10・12が炉に埋設されていた土器である。10は内湾し幅広い口縁部文様帯をもつ土器で、4単位の波状口縁である。口縁部文様帯が隆帯で区画され、波頂下に「の」の字状隆帯文、胴部が磨り消し懸垂文で、器形の括れが強い簡素な土器である。

12は口唇が角頭状に面取りされた有段の鉢形土器で、全面が赤彩されていたらしい。11の埋甕は口縁部が欠損しているために詳細が不明だが、文様帯・

極の差異が顕現し、次第に共通の土器へと収斂していく過程にあるといえる。諏訪坂貝塚出土土器は、黒浜式的な襷の規制が崩壊すると共に、米字文系の変容を受けた諸磯a式でも新しい時期の土器群といえる。肋片文系土器はこの時期まで存続し、以降は磨り消し単位の図形を基本とし、更に浮線の採用などにより新たな文様構成に変化する。

文様とも隆帯によって描かれている。

同図1～5は、春日部市竹之下遺跡(中野 1998)1号住居跡出土土器である。1～2は、直立気味で比較的幅広い口縁部文様帯をもつキャリバー形土器で、棒状区画文や区画文から伸びる渦巻き文が隆帯主導で描かれた土器である。3は2条の竹管文に接した懸垂文のみの土器、4は磨り消し連弧文、7は有段の鉢形土器である。これらの土器群は、地理的に近い伊奈町戸崎前遺跡(金子 1997)第272号土壇や第15号住居跡からもまともに出て出上っており、比較的安定した組成を示しているといえる。この時期には、逆U字状で下端開放の単位文的磨り消し文も出現している。

諏訪坂貝塚の南西に位置する秩父山遺跡第4次調査(小宮山 2004)で検出された第2号住居跡出土土器は、口縁部文様帯をもち、胴部が磨り消し懸垂文キャリバー形土器と、口唇に幅広い無文部をもつ壺形土器が出土している。キャリバー形土器はいずれも口縁部が直立気味で、文様帯が隆帯で区画されることは無論、口縁部文様要素である渦巻き文が簡素化されていないことや、端部が角状に連結した胴部懸垂文が描かれるなど、伊奈町志久遺跡(笹森 1976)第10号住居跡や戸崎前遺跡第15号住居跡出土土器ともよく似た形態を示している。

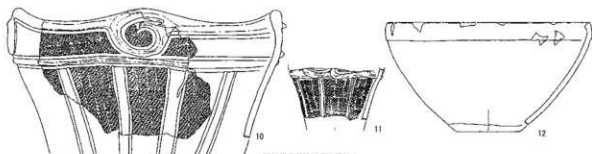
秩父山遺跡に平行する土器群として下総台地から大宮台地東部に目を転じると、口縁部文様の類似性や胴部懸垂文の在り方などから、草刈遺跡(高田



竹之下遺跡1号住居跡



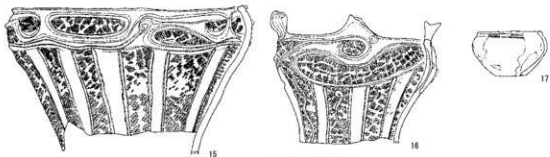
基谷遺跡第2次第1号住居跡



腰取坂貝塚第10号住居跡



混合中遺跡第7号住居跡



竹之下遺跡第8号住居跡

第133図 縄文中期末葉の土器群

1986) 第186号土壇や土宇遺跡(新井 1979) 第35号住居跡、浅間東遺跡1次(梅原 1985) 第1号住居跡出土土器が近接関係を示す資料と考えられる。概してこれらの地域のキャリパー形土器は、口縁部文様帯幅が狭い傾向があり、10の諏訪坂貝塚第10号住居跡出土土器も、このような地域性を背景とした資料とみてよいであろう。

同図6～9は上尾市東谷遺跡第2次(小宮山 2003) 第1号住居跡出土土器で、6は埋甕、7、9は竪に埋設されていた土器である。口縁部文様帯をもつ6～8各個体は文様が異なっており、口縁部文様が沈線主導によって描かれることに比例し、隆帯区画が消失傾向にあるものと、区画が明瞭なものに区分されるようである。7に観られる区画隆帯が消失し、クラック状に文様構成された土器は、竹之下遺跡1号住居跡に後続する段階であることは、日高市宿東遺跡の5期から6期への変遷観とも矛盾しない。同様に6の4単位の突起をもつ土器では、文様が下方に伸張し、より沈線主導の傾向が強く、口縁部の隆帯区画を持たない場合が多い。口縁部文様帯系にありながらも、沈線主導のモチーフによって吉井城山類や玉抱文などの胴上半部に近似した印象を意図しているともみられる。宿東遺跡D区第15号土壇からは、6に近似した土器とともに、吉井城山類が出土しており、6期に下る組み合わせとみてよいであろう。6期は口縁部文様帯系の土器と共に、吉井城山類や玉抱文などが組み合わさる段階で、10の諏訪坂貝塚出土土器の口縁部文様が、この時期の両耳壺に多用される文様構成と隆帯に酷似している。8の逆U字状磨り消しの土器は、伊奈町北遺跡(金子 1987) 25号住居跡出土土器に酷似する。この住居では、他に胴部架懸文や吉井城山類が伴っていることを指摘しておきたい。

柄鏡形住居跡と竪穴外空間について

諏訪坂貝塚からは、第1号、第7号、第8号の3軒の柄鏡形住居跡が検出された。近世の溝などに破

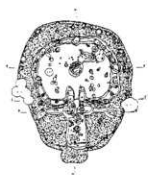
同図13～14の久喜市道合中遺跡(君島 2000) 第7号住居跡出土土器は、竪に埋設されていた土器で、諏訪坂貝塚第10号住居跡埋甕伊と同様の組み合わせから成り、この段階でも口縁部文様帯の隆帯区画が存在していることを示している。

15～16は竹之下遺跡(中野 1998) 8号住居跡出土土器である。10は口縁部文様帯系の土器で、棒状区画文から伸びた渦巻き文が交互に配置される文様配置をとる。基本形から大きく崩れてはいるが、加曾利E式の伝統的な文様構成を遵守している。一方、16は15と基本図形を同じくしながらも、描出された土器の印象を大きく異にしており、東谷遺跡6の例に連なる様相を示す資料といえる。

宿東遺跡第6期の土器群は、区画隆帯を消失した沈線主体の口縁部文様帯系の土器と共に、吉井城山類や胴部架懸文が伴う。関東東部地域では吉井城山類や胴部架懸文土器は出土例が極めて少なく、依然として隆帯により区画や文様描出を行う口縁部文様帯系を主体とする土器組成なのであろう。この様な状況が、口縁部文様帯系の根強い伝統として残されている可能性が高いように思われる。東谷・諏訪坂例と道合中・竹之下第8号住居跡例は、一見すると極めて近接した資料であるが、口縁部文様帯の形態や描出に相違がある。これらが系統差か時間差かを見極める必要があろう。

この時期は柄鏡形住居跡の出現期にあたるが、関東東部地域ではこの種の住居の出現は遅れるようである。住居形態と土器の系統性の強弱が連動している部分が存在するようである。いずれにしても磨り消し懸文が定着し吉井城山類の出現に至る過程には、地域性も含めて検討すべき課題が山積しており、今後改めて詳細な検討を行って行きたい。

壊されており、詳細が不明確ながら、第18号住居跡も柄鏡形住居であった可能性が高い。いずれの住居



王子ノ台遺跡 J-11号住居跡



塚田遺跡 S1-05

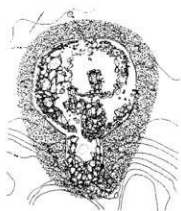


敷石下面

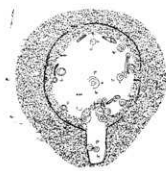


敷石面

飯塚山遺跡 第2号住居跡



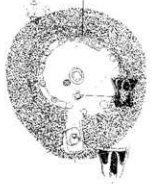
碓ノ下遺跡 第30・31号住居跡



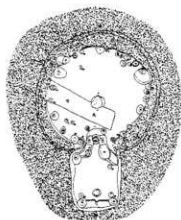
羅訪坂貝塚 第1号住居跡



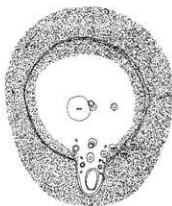
土器列



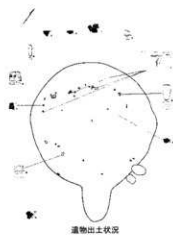
羅父山遺跡第3次 第4号住居跡



下加遺跡 第53号住居跡



羅訪坂貝塚 第6号住居跡



遺物出土状況

第134図 柄鏡型住居跡と空間利用

跡も称名寺式土器を伴うが、出土土器から、第1号・第7号・第18号住居跡が称名寺式中葉に、第8号住居跡が称名寺式後葉に位置付けられる。

第1号住居跡では住居主体部の壁からやや離れて、壁に平行するように柱穴が廻っていた。第7号、第8号住居跡は、主体部と前方に対ビットが検出されただけで、柱穴は確認できなかった。いずれの住居跡からも、遺物は壁際では出土せず、壁から離れた位置で出土していた。第1号住居跡は、遺物検出時に、壁の内側にローム質土が帯状に広がっており、この分布範囲と柱穴の位置がほぼ一致していた。またこの住居の周辺には地山の盛り上がりが見出されたことから、主体部から離れた位置に周堤が存在した可能性が考えられた。

第7号、第8号住居跡では、主体部の壁から離れた土器片や石器片が列状に出土した箇所が認められた。この出土範囲が第1号住居跡の柱穴の位置と比率的に符合することから、このように遺物を配置するあり方は、壁の内側が人為的に埋め戻されていた可能性を示すものと推定した。このようにみると、柄鏡形住居跡の竪穴空間は、完掘状態の主体部よりもかなり狭いこととなり、生活空間を確保する意味ではなはだ不都合となる。また、かつて寄居町樋ノ下遺跡(細田 1994)で、第30・31号住居跡の周囲に、張り出し部を含むように柱穴が廻る事例を報告したことがある。このような例は報告例が増えており、必ずしも特異な事例とはいえないであろう。本来の生活空間は、竪穴外に広がっていた可能性を考慮しなければならないと考える。

第134図は、諏訪坂貝塚を含め、住居の規模別に竪穴外から主体部にかけて網掛けしたものである。上段が小規模住居、中段が平均的な規模、下段が大型と考えられる住居跡である。

王子ノ台遺跡J-11号住居跡(秋田ほか 1991)は主体部と主体部外に二重の掘り込みがあり、外側は張り出し部を含めるように掘り込まれている。主体部壁際に掘り込まれた柱穴は周溝と一体化してお

り、秋父山遺跡第3次第4号住居跡と酷似した構造といえる。

塚田遺跡(安藤 1996)SI-05号住居跡は、掘り込みの周囲に柱穴が廻っている。主体部と張り出し部の形状が王子ノ台例に近似し、王子ノ台例から外側の掘り込み面を削除したような形状である。主体部や掘り込み面外側を巡る柱穴の範囲も同様の規模である。坂東山遺跡第2号住居跡(鈴木 1996)は柄鏡形敷石住居跡である。主体部の規模が王子ノ台や塚田例とほぼ一致し、壁際に周溝と一体化した柱穴が廻っている。この住居跡は主体部周辺に柱穴は検出されていないが、前2例と比較し、掘り込み面周囲に利用可能空間を復元した。以上の3例は、王子ノ台例における内側掘り込み面と、塚田例、坂東山例の主体部の面積が10~12㎡程度で、外側を廻る柱穴部分までの面積は31~35㎡程度となる。

中段の樋ノ下遺跡第30・31号住居跡、諏訪坂貝塚第1号住居跡、秋父山遺跡第3次第4号住居跡例は、主体部の面積が15~17㎡で、上段の住居跡例よりもやや規模が大きな住居跡である。樋ノ下例は、主体部と張り出し部周囲に柱穴が廻っており、配置関係は王子ノ台例や塚田例と一致する。樋ノ下例は2軒の重複で、外側の規模の大きい敷石住居が古く、称名寺式中葉段階で、内側の小形の敷石住居跡が新しいが、時期は不詳であった。小形の住居は上段の特に坂東山例と規模を同じくしている。敷石住居では、壁内側に扁平な川原石を縁石として廻らす例がしばしば認められる。坂東山例でも縁石は敷石下部の柱穴に沿って廻っていることから、秋父山例で検出された土器列は敷石住居の縁石と同様の効果を得るために、構築当初から配置された可能性が高いものと考えられる。このようにみると、主体部の周溝と一体化した柱穴は、敷石住居では柱を立て縁石を廻らせた後に埋められていた可能性が高いのではないだろうか。中段の住居では、樋ノ下例を参考にすると、主体部周辺の面積は40~44㎡前後となる。

下段の下加遺跡(山形 1992)第53号住居跡、諏

訪坂貝塚第8号住居跡は柄鏡形住居跡でも規模の大きな部類と考えられ、主体部の面積は20~23㎡前後となる。諏訪坂貝塚第8号住居跡では、出土状況に見るように壁から0.2~0.3㎡前後内側に、土器片や石皿破片を壁に沿って並べたような状況が確認できた。土層観察の結果では、掘り込み面から遺物出土位置までが、人為的に埋め戻されたような状況が確認されている。主体部の規模と掘り込み面から遺物出土位置までの規模は下加遺跡例とほぼ一致しており、この関係は諏訪坂貝塚第1号住居跡や秩父山遺跡例とも形態を同じくすることも明らかであろう。従って諏訪坂貝塚第8号住居跡例では、主体部掘り込み面と遺物出土位置の間に、柱穴が存在した可能性が高いといえる。恐らく埋土内に立てられ、床の検出面まで掘り込まれていなかったであろう。柱穴を安定させる為の方策を考えねばならないだろう。上・中段の例と同様に掘り込み面の外側に利用可能な空間が存在したと仮定すると、これらの住居の利用可能な面積は70㎡前後で、小形住居の約2倍の面積となる。

これらの住居跡の主体部の壁に接近して掘り込まれた柱穴には、径が小さく浅いものと径が大きく深いものがあることから、後者は支柱穴の機能があったことは明らかである。隅丸長方形から円形に平面形態が変化する際に、壁際の周溝と一体化すると共に、壁の崩落を防ぐための機能を併せ持っていた可能性が高いといえる。柱間は1m~1.5m前後で、この部分から竪穴外に出入りすることも充分可能であろう。張り出し部と主体部の接続部にある対ピッ

トよりも窄ろ間隔が広いという。また、竪穴外を廻る柱穴配置は、王子ノ台例の主体部外面の掘り込み例に見ると、出入口施設としての張り出し部をも取り込むような形で楕円形や卵形に配置されている。概してこの部分の柱穴は浅いものが多いことから、葺き下ろしの屋根に接した直立する壁の存在を想定できるのではなからうか。このようにみれば、最も小形の住居においても掘り込み面を伴う主体部の外側に、主体部と同規模の利用可能空間が出現することになる。

中期後半期になると、住居の掘り込みが極めて浅く、通常遺構検出面では柱穴のみが検出される例が多いが、同時に遺構検出面よりも上面から遺物が出土する状況に遭遇する。このことから、住居床面が遺構検出面まで掘り込まれていない例が多いことは明らかである。しかし、中期前半から中葉にかけての住居に比較すると、壁の掘り込みそのものが極めて浅い住居が多いことは事実であろう。このことから、地面に屋根を葺き下ろすテント状の構造よりも、放射状に伸びる屋根材を竪穴の壁際のに近い構造で支え、竪穴外を廻る壁に接する壁立ちに近い構造を考えたほうが合理的であるが、簡素化された構造とは言い切れない。なお、諏訪坂貝塚第1号住居跡の調査で可能性を指摘した周堤の存在に関しては、明確な事例を追加するに至っていない。竪穴外を廻る柱穴が見当たらない場合、周堤が存在し、周堤に屋根を葺き下ろした構造であったか否かは、調査方法も含めて更なる検討が必要である。

参考文献

- 青木美代子ほか 1985 「三番耕地・十八番耕地・十二番耕地・神山」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第43集
秋田かな子ほか 1991 「東海大学校地内遺跡調査報告」2 東海大学校地内遺跡調査委員会・同調査団
新井和之 1979 「土宇」日本文化財研究所
安藤文一 1996 「丹沢山麓の縄文集落と柄鏡形(敷石)住居跡」『敷石住居の謎に迫る』資料集 神奈川県立埋蔵文化財センター 財団法人 神奈川県考古学財団

- 梅原秀人ほか 1985 『松伏町浅間東遺跡』 埼玉県松伏町教育委員会
- 金子直行 1982 『大山』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第17集
- 金子直行 1987 『北・八幡・相野谷』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第66集
- 金子直行 1997 『戸崎前遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第187集
- 金 正培ほか 1997 『逆井・山崎山遺跡』 宮代町文化財調査報告書 第6集
- 君島勝秀 2000 『道合中／光明寺』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第235集
- 小宮山克己 1997 『秩父山遺跡—第3次調査—』 上尾市遺跡調査会報告書 第18集
- 小宮山克己 2003 『東谷遺跡—第2次調査—』 上尾市遺跡調査会報告書 第26集
- 小宮山克己 2004 『秩父山遺跡—第4次調査—』 上尾市遺跡調査会報告書 第29集
- 笹森健一 1976 『志久遺跡』 埼玉県遺跡調査会報告書 第31集
- 鈴木秀雄 1996 『坂東山／坂東山西／後B』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第166集
- 高田 博 1986 『草刈遺跡（B区）』 千原台ニュータウンⅢ 住宅・都市整備公団 千葉県文化財センター
- 田中和之 1991 『天神前遺跡』 蓮田市文化財調査報告書 第17集
- 田中和之ほか 1998 『峰岸北遺跡』 大宮市遺跡調査会報告 第59集
- 田中和之 小宮雪晴 2005 『宿浦遺跡・宿上遺跡・天神前遺跡・宿下遺跡』 蓮田市文化財調査報告書 第40集
- 田中英司ほか 1995 『横田遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第163集
- 田村 隆 1989 『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』 千葉県文化財センター調査報告書 第152集
- 仲田大人 2002 『黒曜石の供給形態と移動領域』 『埼玉考古』 37 埼玉考古学会
- 仲田大人 2003 『細石刃石器群の技術とその背景：素描』 『シンポジウム日本の細石刃文化Ⅱ』 ハッ岳旧石器研究グループ
- 野口 淳 2003 『細石刃石器群の遺跡形成過程』 『シンポジウム日本の細石刃文化Ⅱ』 ハッ岳旧石器研究グループ
- 中野達也 1998 『竹之下遺跡』 春日部市遺跡調査会報告書 第6集
- 細田 勝 1994 『樋ノ下遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第135集
- 細田 勝ほか 2002 『浅間東遺跡Ⅱ』 松伏町教育委員会 町内東部遺跡群発掘調査報告書 第4集
- 水村孝行 1984 『赤羽・伊奈氏屋敷跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第31集
- 山形洋一 1992 『下加遺跡』 大宮市遺跡調査会報告 第35集
- 渡辺清志 1998 『宿東遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第197集